

清武町埋蔵文化財調査報告書 第18集

YAMADA

# 山田第1遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2006

清武町教育委員会

清武町埋蔵文化財調査報告書 第18集

YAMADA

# 山田第1遺跡

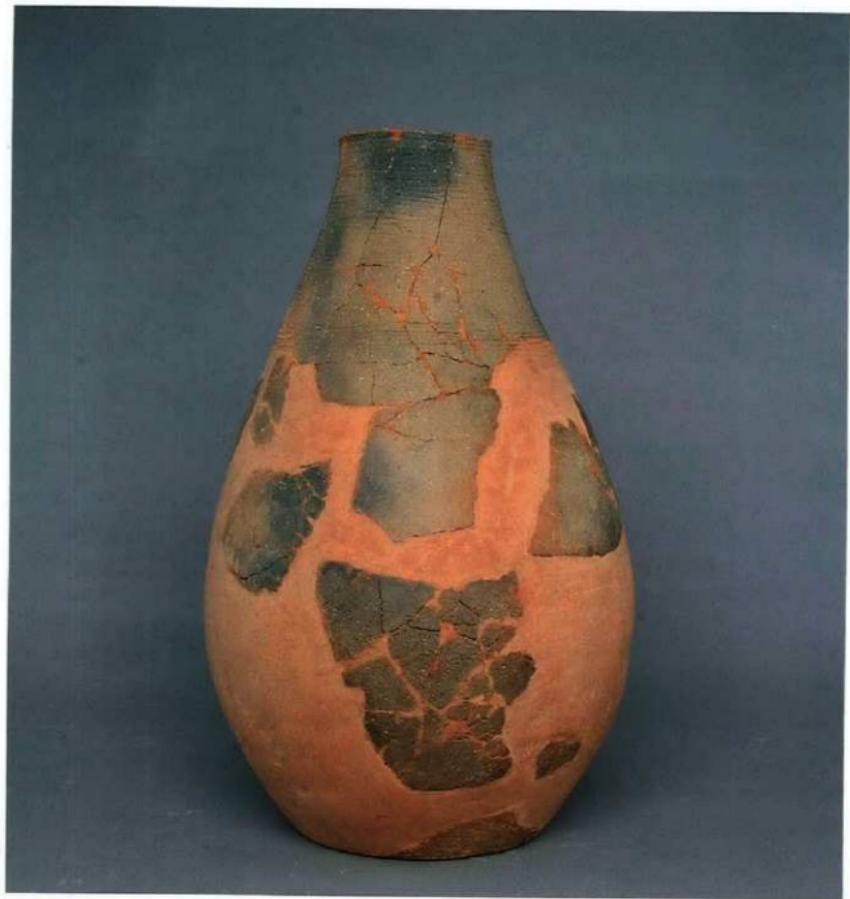
県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2006

清武町教育委員会



卷頭カラー① 山田第1遺跡遠景（西から）



巻頭カラー② SC-12出土土器

## 序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成11年度事業区で実施した山田第1遺跡の発掘調査報告書です。

山田第1遺跡では、旧石器時代の様々な用途に応じた石器や、縄文時代早期の蒸し焼き料理施設である集石遺構、また、古墳時代初頭の竪穴式住居跡など幅広い時期にわたる数多くの資料が確認されました。なかでも縄文時代早期の文化層から発見された耳飾りについては、今から8000年も前の時代を生きた人々の豊かな精神性を物語るとしても貴重な資料だと言えるでしょう。

今後、これら先人の残した貴重な郷土の文化遺産を、生きた教材として豊かな心を育む教育の場で活用することにより、21世紀を担う子供たちへ着実に継承するとともに、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような生涯学習の機会を積極的に設け、古の人々の息吹、想い、願いを多くの方々に感じていただけるよう努めていきたいと思います。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

清武町教育委員会  
教育長 水元 三千夫

## 例　　言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成11年度に実施された山田第1遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査における測量・実測については、井田篤・松原一哉及び実測補助員が行った。

実測補助員：

柳田裕三、 (50音順)

3. 遺物・図面の整理及び報告書作成業務については、一部を平成11年度に清武町文化財管理事務所で実施し、残りを平成17年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した。

平成11年度

担当　当：井田、松原

整理作業員： 柳田裕三、 (50音順)

平成17年度

担当　当：井田、秋成雅博、若杉知和、今村結記

整理作業員：

(50音順)

4. 本書で使用した写真については、調査に関するものは井田・松原が撮影し、報告書掲載遺物については井田・秋成・若杉・今村が撮影した。又、空中写真については（株）スカイサーべイに委託した。
5. 放射性炭素年代測定及び樹種同定については、（株）古環境研究所に委託した。分析結果については、本書P180からP186に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正<sup>14</sup>C年代である。
6. 石器実測については一部を（株）ティケイトレードに委託し、また石器実測図のトレースについては一部をアイシン精機株式会社新規事業企画室に委託した。なおこれらの委託業務の監修については秋成が行った。
7. 本書で使用した土層及び土器等の色調については、「新版　標準土色帖（1997年後期版）」の土色に準拠した。
8. 本書では、磁北と座標北の2種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみG・Nと表示している。）又、標高については海拔絶対高である。
9. 本書に使用した記号は次のとおりである。  
S I : 集石遺構 S C : 土坑（炉穴も含む） S A : 壴穴式住居跡
10. 本書の執筆と編集については井田・秋成・今村が担当し、文責については本文目次に記している。
11. 出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

# 目 次

<b>第Ⅰ章 はじめに</b>	(文責 井田)
<b>第1節 調査に至る経緯と調査組織</b> .....	1
1. 調査に至る経緯 .....	1
2. 調査組織 .....	1
<b>第2節 遺跡の環境</b> .....	1
1. 地理的環境 .....	1
2. 歴史的環境 .....	2
3. 周辺遺跡 .....	2
<b>第3節 調査の経過と方法</b> .....	2
1. 調査の経過 .....	2
2. 調査の方法 .....	5
<b>第4節 基本土層</b> .....	6
<b>第Ⅱ章 旧石器時代についての調査</b>	(文責 秋成)
<b>第1節 ナイフ形石器文化後半期の調査</b> .....	7
概要・A区の調査・G区の調査 .....	7
<b>第2節 細石器文化期の遺物について</b> .....	17
小結 .....	19
<b>第Ⅲ章 縄文時代早期についての調査</b>	(文責 井田)
<b>第1節 磁の出土状況及び遺構の検出状況</b> .....	26
1. 磁の出土状況 .....	26
2. 遺構の検出状況 .....	26
<b>第2節 遺構</b> .....	29
1. 集石遺構 .....	29
2. 炉穴 .....	52
3. 土坑 .....	53
4. 遺構内遺物 .....	(文責 井田 秋成) 57
<b>第3節 包含層出土遺物</b> .....	64
1. 土器 .....	(文責 井田) 64
2. 土製品 .....	105
3. 石器 .....	(文責 秋成) 107
<b>第Ⅳ章 弥生・古墳時代についての調査</b>	(文責 今村)
<b>第1節 壹穴住居跡</b> .....	159
<b>第2節 土坑</b> .....	166
<b>第Ⅴ章 まとめ</b>	
縄文時代早期の石器について .....	(文責 秋成) 175
当台地上における縄文時代早期の集石遺構使用時期について .....	(文責 井田) 178
弥生・古墳時代の遺構群について .....	(文責 今村) 179
把手付甕について .....	(文責 今村) 179
山田第1遺跡における自然科学分析 .....	180~186
<b>調査抄録</b> .....	187

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図 (S=1/25000)	第29図	SI-39実測図 ..... 33 (S=1/30)
第2図	遺跡周辺地形図 ..... 3・4 (S=1/2000)	第30図	SI-8実測図 ..... 34 (S=1/30)
第3図	調査区域図 ..... 5 (S=1/2000)	第31図	SI-21実測図 ..... 34 (S=1/30)
第4図	基本土層図 ..... 6 (S=1/30)	第32図	SI-28実測図 ..... 34 (S=1/30)
第5図	A区ナイフ形石器文化期遺物分布図【石材別】 ..... 8 (S=1/120)	第33図	SI-45実測図 ..... 34 (S=1/30)
第6図	A区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図 ..... 9 (S=2/3)	第34図	SI-62実測図 ..... 35 (S=1/30)
第7図	G区ナイフ形石器文化期遺物分布図【石材別】 ..... 10 (S=1/120)	第35図	SI-68実測図 ..... 35 (S=1/30)
第8図	G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図① ..... 11 (S=2/3, 1/2)	第36図	SI-31実測図 ..... 35 (S=1/30)
第9図	G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図② ..... 12 (S=2/3)	第37図	SI-19実測図 ..... 35 (S=1/30)
第10図	G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図③ ..... 13 (S=2/3)	第38図	SI-61実測図 ..... 41 (S=1/30)
第11図	G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図④ ..... 14 (S=2/3)	第39図	SI-36実測図 ..... 41 (S=1/30)
第12図	G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑤ ..... 15 (S=2/3)	第40図	SI-49実測図 ..... 42 (S=1/30)
第13図	G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑥ ..... 16 (S=2/3)	第41図	SI-70実測図 ..... 42 (S=1/30)
第14図	G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑦ ..... 17 (S=2/3)	第42図	SI-60実測図 ..... 42 (S=1/30)
第15図	細石器文化期遺物分布図 ..... 18 (S=1/1200)	第43図	SI-63実測図 ..... 42 (S=1/30)
第16図	細石器文化期遺物実測図 ..... 19 (S=2/3)	第44図	SI-67実測図 ..... 43 (S=1/30)
第17図	縄文時代早期遺構配置図及びコンタ図 ..... 27 (S=1/1200)	第45図	SI-66実測図 ..... 43 (S=1/30)
第18図	集石遺構配置図及び砾分布図 ..... 28 (S=1/600)	第46図	SI-13実測図 ..... 43 (S=1/30)
第19図	SI-65実測図 ..... 29 (S=1/30)	第47図	SI-18実測図 ..... 43 (S=1/30)
第20図	SI-73実測図 ..... 29 (S=1/30)	第48図	SI-56実測図 ..... 43 (S=1/30)
第21図	SI-43実測図 ..... 30 (S=1/30)	第49図	SI-50実測図 ..... 44 (S=1/30)
第22図	SI-71実測図 ..... 30 (S=1/30)	第50図	SI-54実測図 ..... 44 (S=1/30)
第23図	SI-58実測図 ..... 30 (S=1/30)	第51図	SI-7実測図 ..... 44 (S=1/30)
第24図	SI-44実測図 ..... 31 (S=1/30)	第52図	SI-55実測図 ..... 44 (S=1/30)
第25図	SI-59実測図 ..... 31 (S=1/30)	第53図	SI-34実測図 ..... 44 (S=1/30)
第26図	SI-74実測図 ..... 31 (S=1/30)	第54図	SI-15実測図 ..... 44 (S=1/30)
第27図	SI-76実測図 ..... 31 (S=1/30)	第55図	SI-52実測図 ..... 45 (S=1/30)
第28図	SI-57実測図 ..... 33 (S=1/30)	第56図	SI-35実測図 ..... 45 (S=1/30)

第57図	SI-40実測図 (S=1/30)	45	第87図	SI-22実測図 (S=1/30)	49
第58図	SI-37実測図 (S=1/30)	45	第88図	SI-78実測図 (S=1/30)	49
第59図	SI-24実測図 (S=1/30)	45	第89図	SI-5実測図 (S=1/30)	50
第60図	SI-51実測図 (S=1/30)	45	第90図	SI-1実測図 (S=1/30)	50
第61図	SI-23実測図 (S=1/30)	46	第91図	SI-2実測図 (S=1/30)	50
第62図	SI-27実測図 (S=1/30)	46	第92図	SI-4実測図 (S=1/30)	50
第63図	SI-33実測図 (S=1/30)	46	第93図	SC-11実測図 (S=1/30)	52
第64図	SI-30実測図 (S=1/30)	46	第94図	SC-14実測図 (S=1/30)	52
第65図	SI-41実測図 (S=1/30)	46	第95図	SC-13実測図 (S=1/30)	52
第66図	SI-32実測図 (S=1/30)	46	第96図	SC-12実測図 (S=1/30)	53
第67図	SI-47実測図 (S=1/30)	46	第97図	SC-3実測図 (S=1/30)	53
第68図	SI-77実測図 (S=1/30)	47	第98図	SC-4実測図 (S=1/30)	53
第69図	SI-17実測図 (S=1/30)	47	第99図	SC-2実測図 (S=1/30)	54
第70図	SI-14実測図 (S=1/30)	47	第100図	SC-6実測図 (S=1/30)	54
第71図	SI-3実測図 (S=1/30)	47	第101図	遺構内遺物実測図① (S=1/3)	58
第72図	SI-16実測図 (S=1/30)	47	第102図	遺構内遺物実測図② (S=1/3)	59
第73図	SI-42実測図 (S=1/30)	47	第103図	遺構内遺物実測図③ (S=1/3)	60
第74図	SI-25実測図 (S=1/30)	47	第104図	遺構内遺物実測図④ (S=2/3)	62
第75図	SI-38実測図 (S=1/30)	47	第105図	縄文時代早期遺物包含層出土土器（I類）分布図 (S=1/1200)	66
第76図	SI-75実測図 (S=1/30)	47	第106図	I類土器実測図① (S=1/3)	67
第77図	SI-6実測図 (S=1/30)	48	第107図	I類土器実測図② (S=1/3)	68
第78図	SI-20実測図 (S=1/30)	48	第108図	縄文時代早期遺物包含層出土土器（II類）分布図 (S=1/1200)	71
第79図	SI-29実測図 (S=1/30)	48	第109図	II類土器実測図① (S=1/3)	72
第80図	SI-26実測図 (S=1/30)	48	第110図	II類土器実測図② (S=1/3)	73
第81図	SI-12実測図 (S=1/30)	48	第111図	II類土器実測図③ (S=1/3)	74
第82図	SI-11実測図 (S=1/30)	48	第112図	II類土器実測図④ (S=1/3)	75
第83図	SI-53実測図 (S=1/30)	48	第113図	III類土器実測図① (S=1/3)	77
第84図	SI-69実測図 (S=1/30)	49	第114図	III類土器実測図② (S=1/3)	78
第85図	SI-48実測図 (S=1/30)	49	第115図	縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅲ類）分布図 (S=1/1200)	79
第86図	SI-72実測図 (S=1/30)	49	第116図	縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅳ類）分布図 (S=1/1200)	82

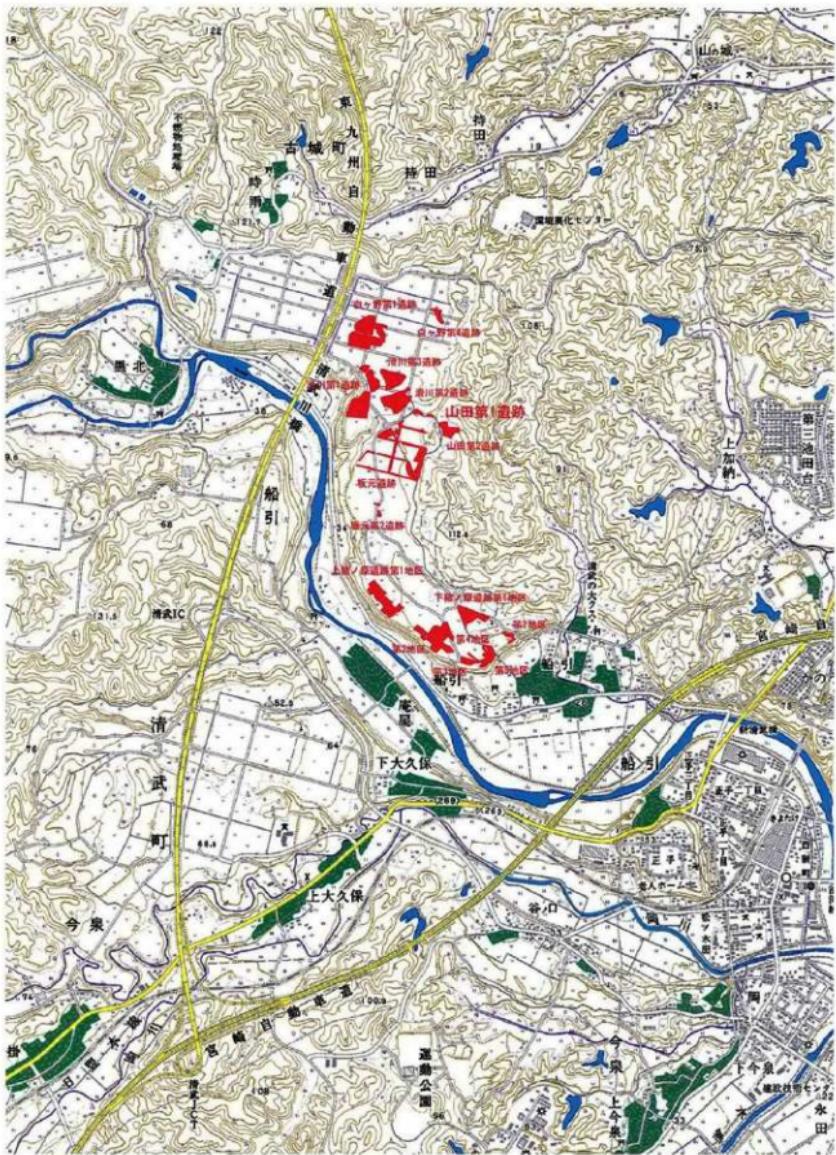
第117図	IV類土器実測図① (S=1/3)	83	第146図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図① (S=2/3)	125
第118図	IV類土器実測図② (S=1/3)	84	第147図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図② (S=2/3)	126
第119図	IV類土器実測図③ (S=1/3)	85	第148図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図③ (S=2/3)	127
第120図	IV類土器実測図④ (S=1/3)	86	第149図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図④ (S=2/3, 1/2)	128
第121図	IV類土器実測図⑤ (S=1/3)	87	第150図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑤ (S=1/2)	129
第122図	IV類土器実測図⑥ (S=1/3)	88	第151図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑥ (S=1/2)	130
第123図	IV類土器実測図⑦ (S=1/3)	89	第152図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑦ (S=1/2, 1/4)	131
第124図	IV類土器実測図⑧ (S=1/3)	90	第153図	A区竪穴式住居群配置図 ..... (S=1/300)	159
第125図	IV類土器実測図⑨ (S=1/3)	91	第154図	SA-1実測図及びSA-1出土遺物実測図 ..... (S=1/60, S=1/3)	160
第126図	IV類土器実測図⑩ (S=1/3)	92	第155図	SA-2実測図 ..... (S=1/60)	161
第127図	IV類土器実測図⑪ (S=1/3)	93	第156図	SA-2出土遺物実測図 ..... (S=1/3, 1/4)	162
第128図	IV類土器実測図⑫ (S=1/3)	94	第157図	SA-3実測図及びSA-3出土遺物実測図 ..... (S=1/60, S=1/3, 2/3)	163
第129図	V類土器実測図 (S=1/3)	101	第158図	SA-5実測図及びSA-5出土遺物実測図 ..... (S=1/60, S=1/3)	164
第130図	縄文時代早期遺物包含層出土土器(V類)分布図 (S=1/1200)	102	第159図	SA-6実測図及びSA-6出土遺物実測図 ..... (S=1/60, S=1/3)	165
第131図	VI類土器実測図 (S=1/3)	104	第160図	SC-10実測図 ..... (S=1/30)	166
第132図	縄文時代早期遺物包含層出土土器品分布図及び実測図 (S=1/1200, S=1/3)	106	第161図	SC-10出土遺物実測図① ..... (S=1/3)	167
第133図	縄文時代早期遺物包含層 磐石・磨石分布図 (S=1/1200)	110	第162図	SC-10出土遺物実測図② ..... (S=1/3)	168
第134図	縄文時代早期遺物包含層 石鏃・槍先形尖頭器・ 尖頭状石器【器種別】分布図 ..... (S=1/900)	111 - 112	第163図	縄文時代早期中葉の土器と石鏃 ..... (S=1/1200)	176
第135図	縄文時代早期遺物包含層 石鏃・槍先形尖頭器・ 尖頭状石器【石材別】分布図 ..... (S=1/900)	113 - 114	第164図	縄文時代早期後葉の土器と石鏃 ..... (S=1/1200)	177
第136図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図① (S=2/3)	115			
第137図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図② (S=2/3)	116			
第138図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図③ (S=2/3)	117			
第139図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図④ (S=2/3)	118			
第140図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑤ (S=2/3)	119			
第141図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑥ (S=2/3)	120			
第142図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑦ (S=2/3)	121			
第143図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑧ (S=2/3)	122			
第144図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑨ (S=2/3)	123			
第145図	縄文時代早期遺物包含層 出土石器実測図⑩ (S=2/3)	124			

## 表 目 次

第1表	山田第1遺跡出土旧石器計測分類表	20~21
第2表	集石遺構観察表	50~51
第3表	遺構内出土遺物一覽表	57
第4表	遺構内出土上器観察表	63~64
第5表	遺構内出土石器計測分類表	64
第6表	I類土器観察表	69
第7表	II類土器観察表	75~76
第8表	III類土器観察表	78
第9表	IV類土器観察表	95~100
第10表	V類土器観察表	101
第11表	VI類土器観察表	103
第12表	土製品観察表	105
第13表	包含層出土石器計測分類表	132~138
第14表	弥生土器・上解剖観察表	168~169
第15表	古墳時代遺構内出土石器計測分類表	169
第16表	集石遣使使用時期予想図	178 (坂元遺跡・山田第1遺跡)

## 図 版 目 次

巻頭カラー①	山田第1遺跡遠景（西から）	図版34	遺構内出土石器（裏面）……………	62
巻頭カラー②	SC-12出土土器	図版35	縄文時代早期遺物包含層出土土器①	139
図版1	基本土層（南から）……………	6	縄文時代早期遺物包含層出土土器②	140
図版2	A・G区出土石器及び細石器	22	縄文時代早期遺物包含層出土土器③	141
図版3	G区出土接合資料……………	23	縄文時代早期遺物包含層出土土器④	142
図版4	G区出土旧石器（流紋岩・砂岩・頁岩）	24	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤	143
図版5	G区出土旧石器（ホルンフェルス）	25	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥	144
図版6	集石遺構検出状況①（南から）	26	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦	145
図版7	集石遺構検出状況②（南西から）	26	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧	146
図版8	SI-65（東から）……………	32	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨	147
図版9	SI-73断面（西から）	32	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩	148
図版10	SI-28（東から）……………	37	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑪	149
図版11	SI-28底石（北から）	37	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫	150
図版12	SI-8（南から）……………	37	縄文時代早期遺物包含層出土土製品	151
図版13	SI-8断面（西から）	37	縄文時代早期遺物包含層出土石器①	152
図版14	SI-57（東から）……………	37	縄文時代早期遺物包含層出土石器②	153
図版15	SI-45（東から）……………	37	縄文時代早期遺物包含層出土石器③	154
図版16	SI-39（東から）……………	37	縄文時代早期遺物包含層出土石器④	155
図版17	SI-21（北から）……………	37	縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤	156
図版18	SI-18（西から）……………	55	縄文時代早期遺物包含層出土石器⑥	157
図版19	SI-7（西から）……………	55	縄文時代早期遺物包含層出土石器⑦	158
図版20	SI-15（南から）……………	55	A区竪穴式住居跡群（南西から）	170
図版21	SI-30（東から）……………	55	A区竪穴式住居跡群（東から）	170
図版22	SI-36（北東から）	55	SA-1完掘状況（西から）	171
図版23	SI-49（南から）……………	55	SA-2・6検出状況（南から）	171
図版24	SI-2（西から）……………	55	SA-2完掘状況（南から）	171
図版25	SI-4（北から）……………	55	SA-3完掘状況（西から）	171
図版26	SC-13（南から）……………	56	SA-5完掘状況（東から）	171
図版27	SC-11（東から）……………	56	SA-6完掘状況（南から）	171
図版28	SC-14（南から）……………	56	SC-10遺物出土状況（南から）	171
図版29	SC-12（東から）……………	56	SC-10完掘状況（南から）	171
図版30	SC-2（北から）……………	56	SA-1・SA-2・SA-3・SA-5出土遺物	172
図版31	SC-4（東から）……………	56	SA-5・SA-6・SC-10出土遺物	173
図版32	遺構内出土土器	61	SA-2出土遺物	174
図版33	遺構内出土石器（表面）	62	SC-10出土遺物	174



第1図 遺跡位置図 ( $S=1/25,000$ )

0 0.5 1.0km

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯と調査組織

### 1. 調査に至る経緯

平成7年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に山田第1遺跡の一部が含まれることが明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会等関係各局で協議したところ、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は、平成11年4月28日～平成12年3月30日と平成12年7月10日～平成12年8月4日で、調査面積は約7,700m<sup>2</sup>である。

### 2. 調査組織

調査主体 清武町教育委員会

調査 (平成11年度)	事務局	整理作業 (平成17年度)	事務局
教育長 湯地 敏郎	教育長 (~H17.10)	神川 孝志	
教育次長 清 俊郎	(H17.10~)	水元 三千夫	
社会教育課長 谷口 純一	教育次長	古城 員久	
〃 文化係長 川越 健	生涯学習課長	落合 兼雄	
〃 主任 伊東 但	〃 補佐	長友 真一	
	〃 係長	伊東 但	
調査員		調査員	
社会教育課主事 井田 篤		生涯学習課主任 井田 篤	
社会教育課嘱託 松原 一哉		生涯学習課主事 秋成 雅博	
		生涯学習課嘱託 若杉 知和	
		生涯学習課嘱託 今村 結記	

## 第2節 遺跡の環境

### 1. 地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられ、その上位には台地が発達している。

山田第1遺跡は、町内西方の標高約80m～85mの台地上に位置している。この台地は、大淀

川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであったと考えられる。

## 2. 歴史的環境

山田第1遺跡は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてである。建久八（1197）年鎌倉幕府が各國の現地役人に命じて作成させた「建久の図田帳」には、「船曳五十町、右宮崎郡内 弁済使法印、不知實名、」とあることから、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった莊園がこの地に存在したことが明らかである。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通して飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続いている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稻作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作祈祷神楽であるが、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

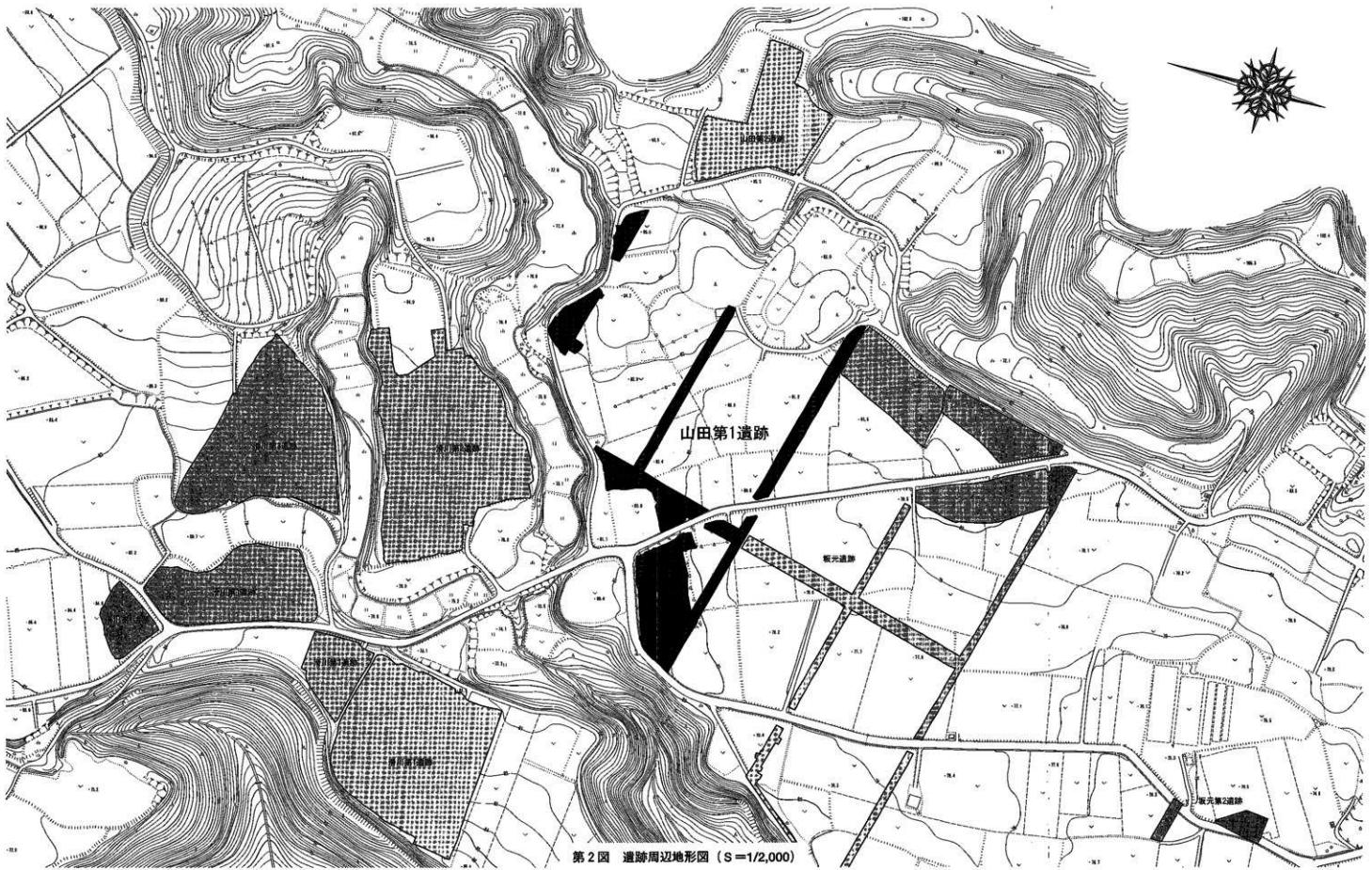
## 3. 周辺遺跡

山田第1遺跡が立地する台地上では、平成3年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次いでいる。それに伴い発掘調査が実施された遺跡は20遺跡を数え（平成17年度現在）、旧石器から近世まで貴重な資料が多数確認されている。特に、台地上という地形からか、狩獵・採集を主な生業としていた縄文時代早期の遺構・遺物がすべての遺跡で確認されている。

# 第3節 調査の経過と方法

## 1. 調査の経過

調査は工事の進捗状況に合わせ、A・B区⇒C・D区⇒E・F区⇒G区⇒H区の順で実施した。各区においては、重機による表土剥ぎ取り後まず耕作による削平状況を確認した。その後、縄文時代早期以降の時期の文化層を調査し、終了後アカホヤ火山灰層を重機により剥ぎ取った。アカホヤ火山灰除去後は、アカホヤ降下軽石直下での等高線の確認作業を行い、縄文時代早期の旧地形復元を試みた。その後、縄文時代早期・草創期の文化層を掘り下げ遺物の取上げ作業を行ったが、その途中で集石遺構が検出されたため集石遺構の記録作業も併せて行った。次に縄文時代早期及び草創期の遺構の検出作業を霧島・小林火山灰層上面で行ったところ、炉穴・土坑が検出さ



第2図 遺跡周辺地形図 (S=1/2,000)

れたため両遺構の記録作業を行った。旧石器時代の文化層については、A・B区はトレンチでの確認調査、G区では旧石器時代の文化層が表土剥ぎ取り時に既に露出していた範囲のみでの調査に止まる結果となった。

## 2. 調査の方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

基準杭等の設定：前年度のデータを参考にし、光波測量器を用いて調査員が実施した。

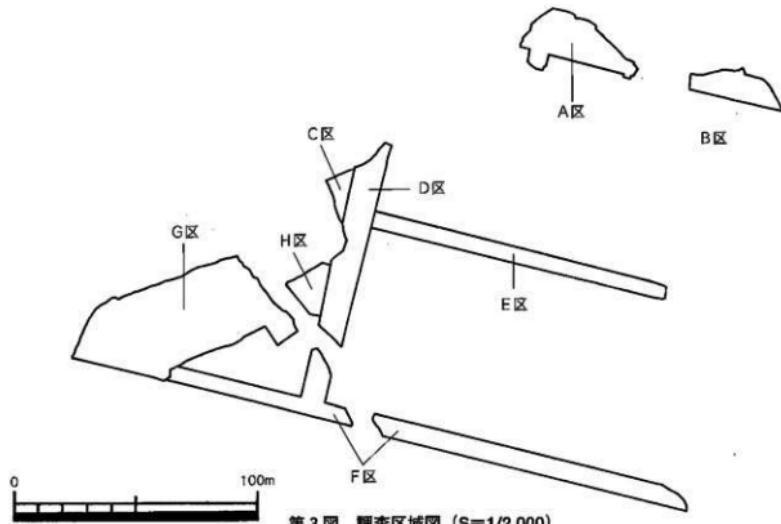
検出面での精査：アカホヤ火山灰層上面において縄文時代前期以降の遺構検出作業を行い、次に小林軽石火山灰層上面で縄文時代早期・草創期の遺構検出作業を行なった。ただし集石遺構については、遺物包含層の掘り下げ作業の最中に検出している。

遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

遺構実測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCADを利用してデジタルデータとして管理した。

写真撮影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。

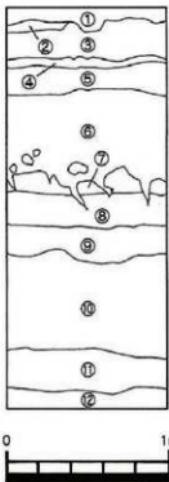


第3図 調査区域図 (S=1/2,000)



図版1 基本土層（南から）

- ① 槌作土
- ② 2次アカホヤ層
- ③ 鬼界アカホヤ火山灰層  
7.5YR5/6 (暗褐色)
- ④ アカホヤ降下輕石層
- ⑤ 黒褐色シルト質ローム層  
10YR3/2 (黒褐色) : やや硬質
- ⑥ 褐色シルト質ローム層  
10YR4/4 (褐色)
- ⑦ 露島・小林火山灰風化層  
2.5Y3/2 (黒褐色)  
: クラックに⑨層が入り込む
- ⑧ 露島・小林火山灰層  
2.5Y4/2 (明灰黃色) : かなり硬質
- ⑨ 褐色シルト質ローム層  
10YR4/3 (にぶい黄色)  
: ⑩の小ブロックをわずかに含む
- ⑩ 褐色シルト質ローム層  
10YR4/6 (褐色) : 軟質
- ⑪ 褐色シルト質ローム層  
2.5Y4/4 (オリーブ褐色)  
: ⑫がわずかに混じり込む
- ⑫ シラス



第4図 基本土層図 (S=1/30)

#### 第4節 基本土層

- ② 2次アカホヤ層：極わずかではあるが弥生時代及び古墳時代の遺物が出土した。
- ③ 鬼界アカホヤ火山灰層：縄文時代前期以降の遺構検出面。
- ⑤ 黒褐色シルト質ローム：縄文時代早期の遺物包含層（遺物及び焼碟が多数出土）。又、当層上位から中位にかけて、集石遺構が検出された。
- ⑥ 褐色シルト質ローム：縄文時代早期の遺物包含層（遺物及び焼碟が極めて多数出土）。又、当層上位から中位にかけて、集石遺構・炉穴・土坑が検出された。
- ⑦ 露島・小林火山灰層：縄文時代早期及び草創期の遺構最終検出面。
- ⑨ ~ ⑪：旧石器時代の遺物包含層。

A区からH区までほぼ同様の堆積状況であったが、F区のやや谷地形になっている範囲においては耕作土の下位に黒色シルト質ローム層が確認された。これは隣接する坂元遺跡の谷部でも確認された堆積状況である。

尚、本報告書で使用されている層位については、第4図 基本土層図参照。

## 第II章 旧石器時代の調査

### 第1節 ナイフ形石器文化後半期の調査

#### 概要

山田第一遺跡ではA区とG区にトレンチを設定して旧石器時代の遺物包含層と考えられる9～12層の掘り下げをおこなった。その結果、両区のトレンチにから一箇所ずつナイフ形石器文化期の遺物の集中箇所を検出することができた。今回の調査は残念ながらトレンチ調査であり、本遺跡におけるナイフ形石器文化期の様相をすべて把握することはできなかつた。

また本遺跡ではナイフ形石器文化期の遺物のほかに細石器文化期の遺物も確認されている。しかし、これらは縄文早期の遺物包含層である6層からナイフ形石器文化期の遺物包含層である9層にかけて出土しており、また調査区西側に散在するという状況であった。

#### A区の調査

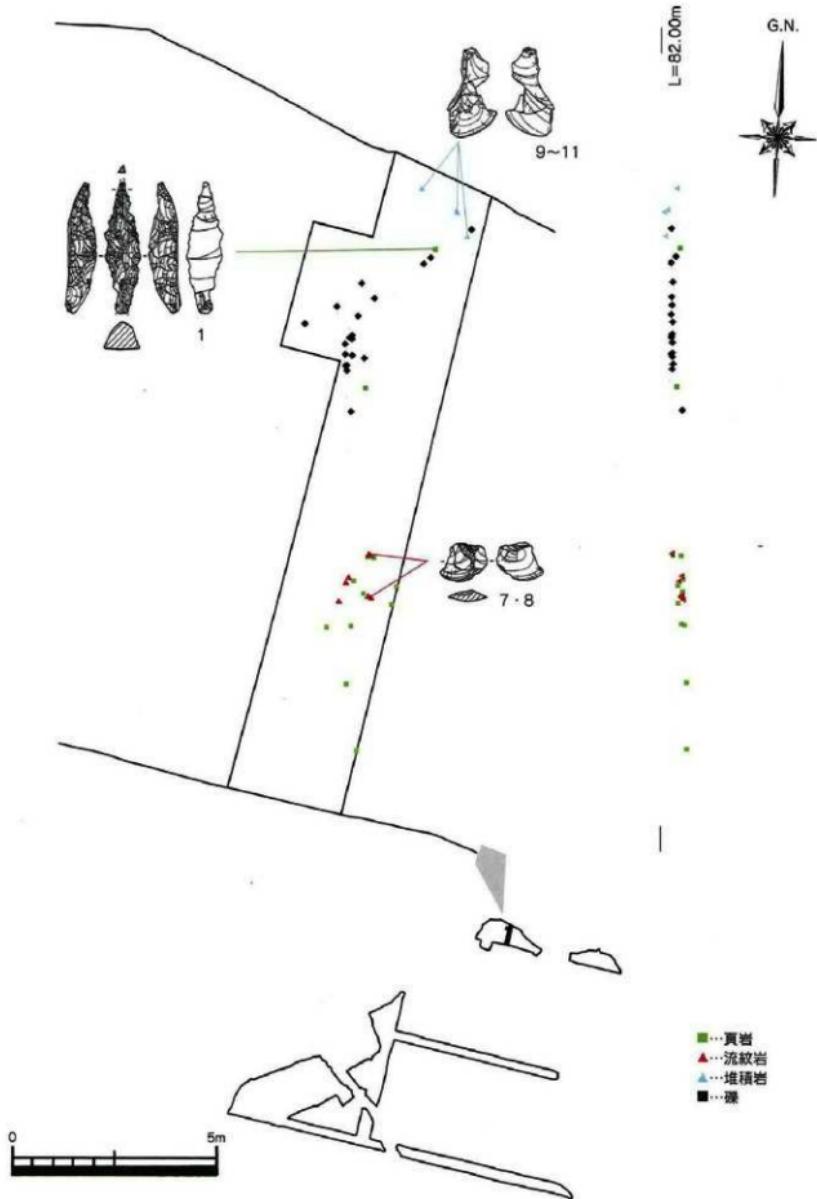
A区の中央付近に2.7m×16mの長方形のトレンチを設定して掘り下げをおこなったところ10～11層中より、角錐状石器1点、剥片・碎片21点（うち接合資料2組）が出土した。またトレンチの北東側で礫の密集が確認されたため、一部トレンチを拡張してその検出を行つた。その結果16点の礫の密集がほぼ同一レベルで検出され、礫群の存在を伺うことができた。またA区における石器と礫群との出土レベルはほとんど同じであり、これらの一括性は高いと考えられる。

1は角錐状石器である。縦長剥片を素材とし両端部を欠損しているが、打面部を先端と考えると、基部の主要剥離面側には平坦剥離を施していたと考えられる。また稜上調整も確認される。2はスクレイバーである。寸詰まり剥片を素材とする。背面左側縁に両面からの刃部調整が行われている。3は2次加工ある剥片である。下端部に2次加工が確認される。4～11は剥片である。4～6は頁岩製で自然面をもつ。7・8は剥片二点の接合資料である。9～11は剥片3点の接合資料である。

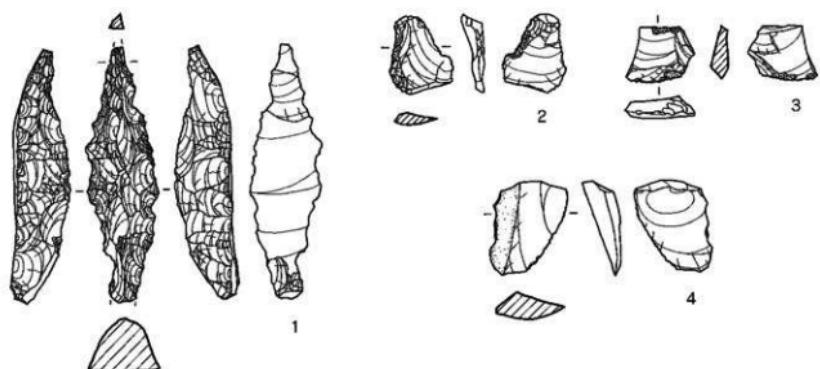
#### G区の調査

G区は凸形の約124m<sup>2</sup>のトレンチを設定し、掘り下げをおこなったところ9～10層中より、ナイフ形石器1点、剥片・碎片106点（うち接合資料18組）、石核11点、敲石3点、礫26点が出土した。本調査区より出土したホルンフェルスと考えられる黄褐色を呈する石材の資料（51～83）は、非常に特徴的である。石器と礫の出土レベルはほぼ同一であり、一括性は高いと考えられる。

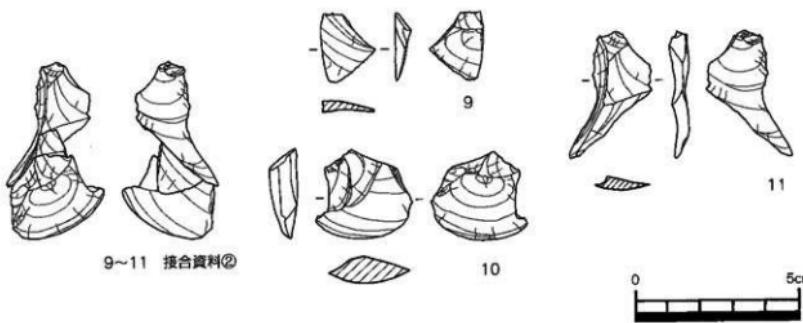
12はナイフ形石器である。流紋岩製の小型で細身の斜め剥ぎ剥片を使用し、片縁と基部に刃潰し加工を施す。13・14は流紋岩製の細身の斜め剥ぎ剥片である。15は砂岩製の剥片である。16～18は砂岩製の敲石である。いずれも細長の礫の端部に使用痕が著しく観察される。19～



第5図 A区ナイフ形石器文化期遺物分布図（石材別）(S=1/120)



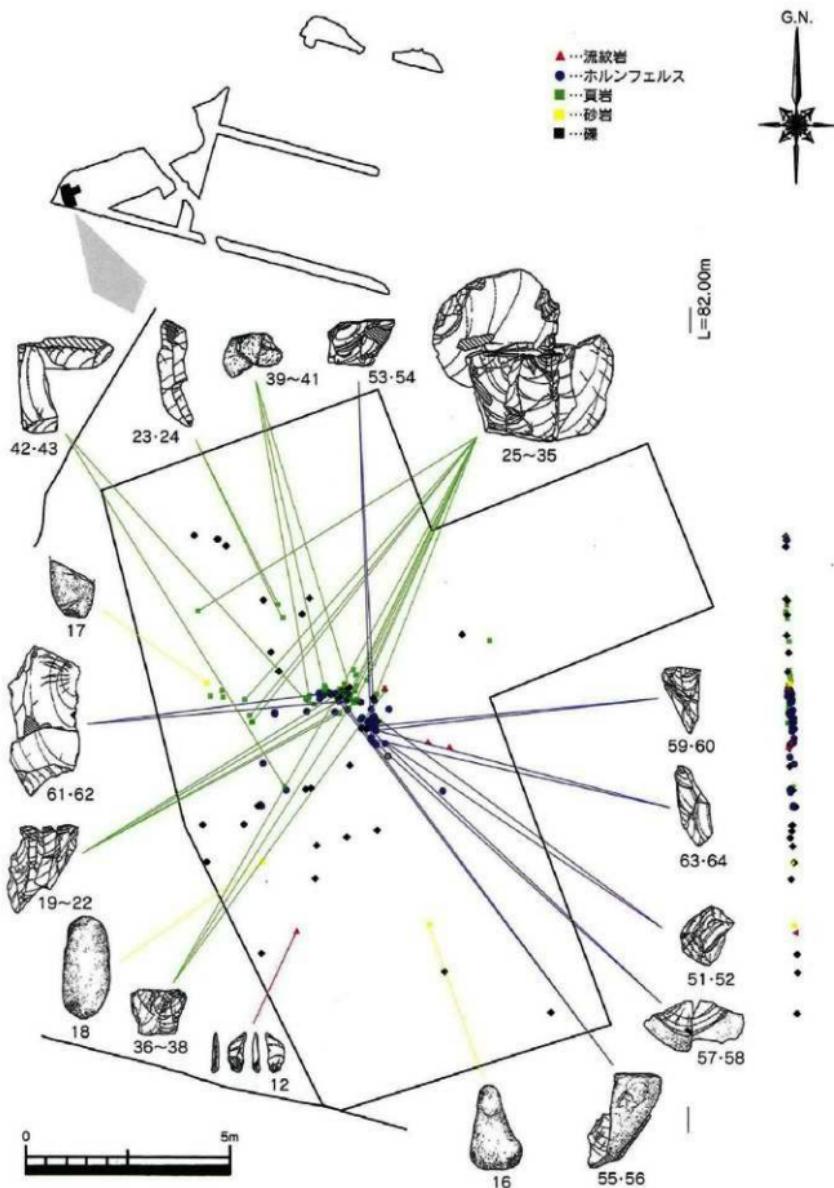
7・8 接合資料①



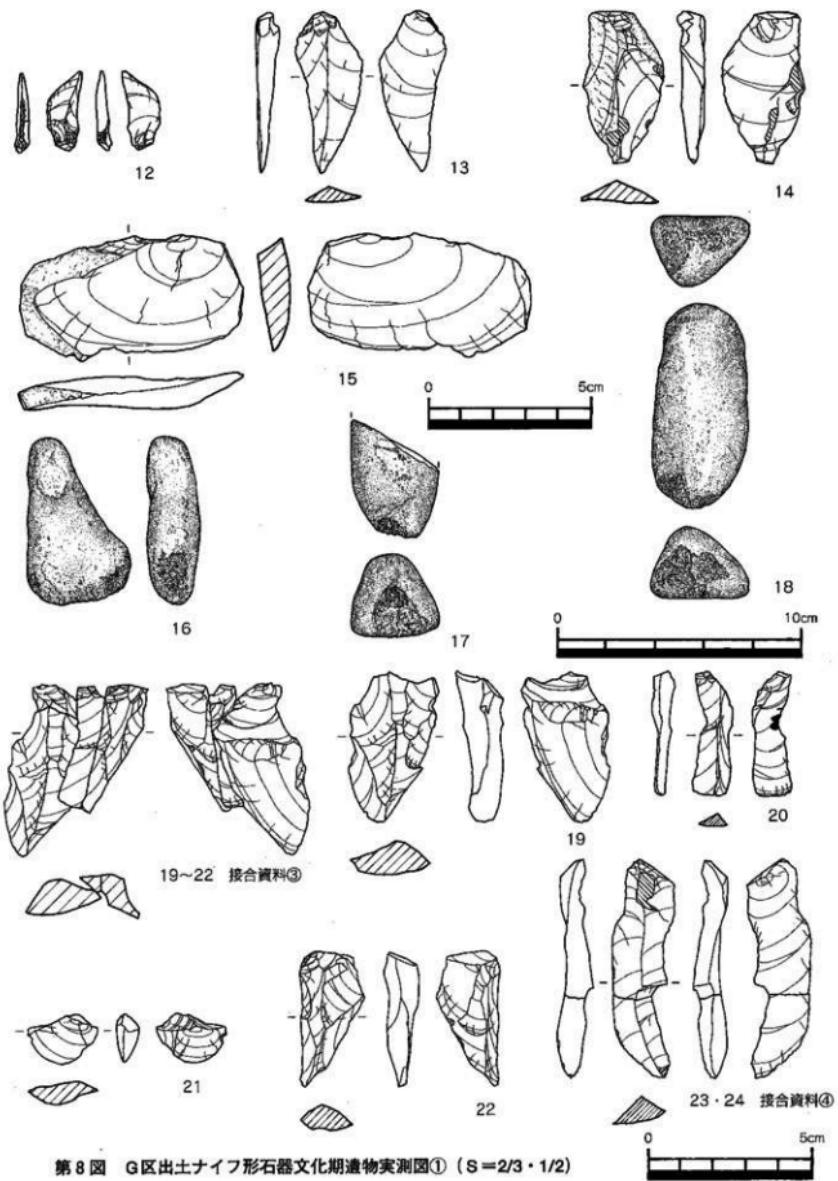
9～11 接合資料②



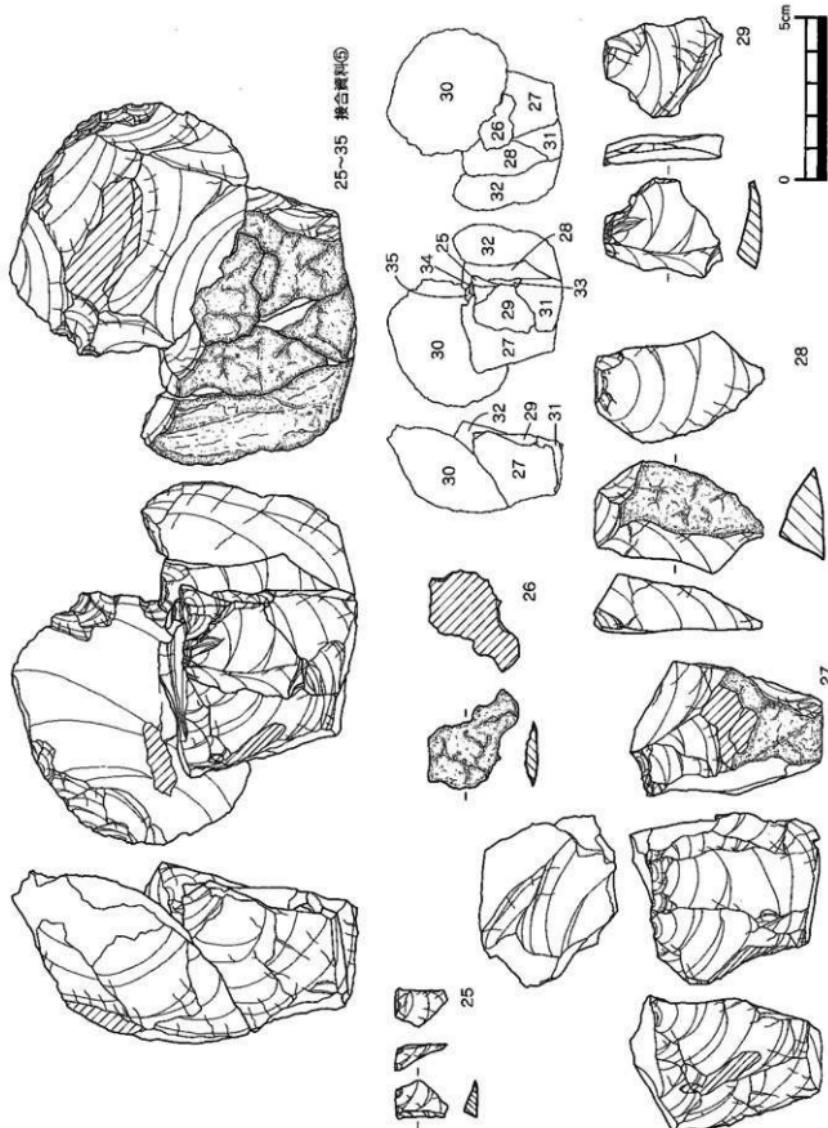
第6図 A区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図 (S=2/3)



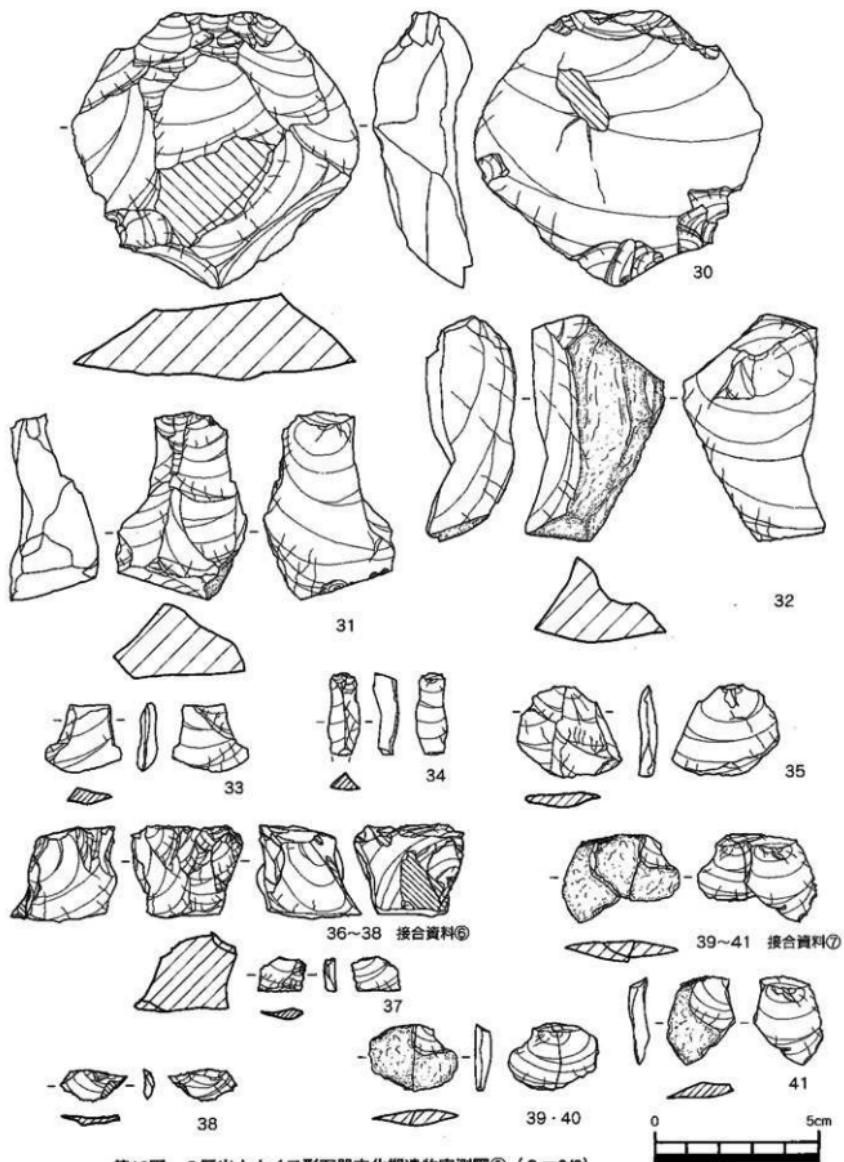
第7図 G区ナイフ形石器文化期遺物分布図（石材別）（S=1/120）



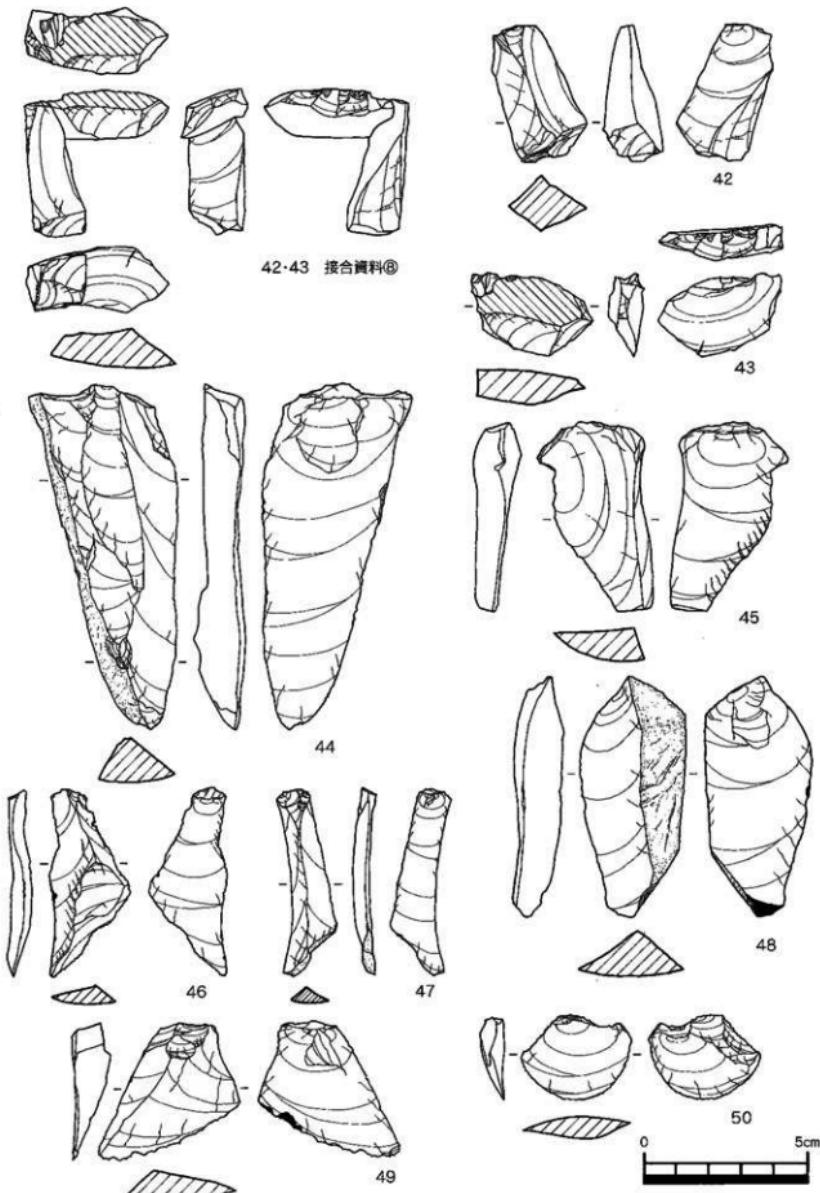
第8図 G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図① (S=2/3・1/2)



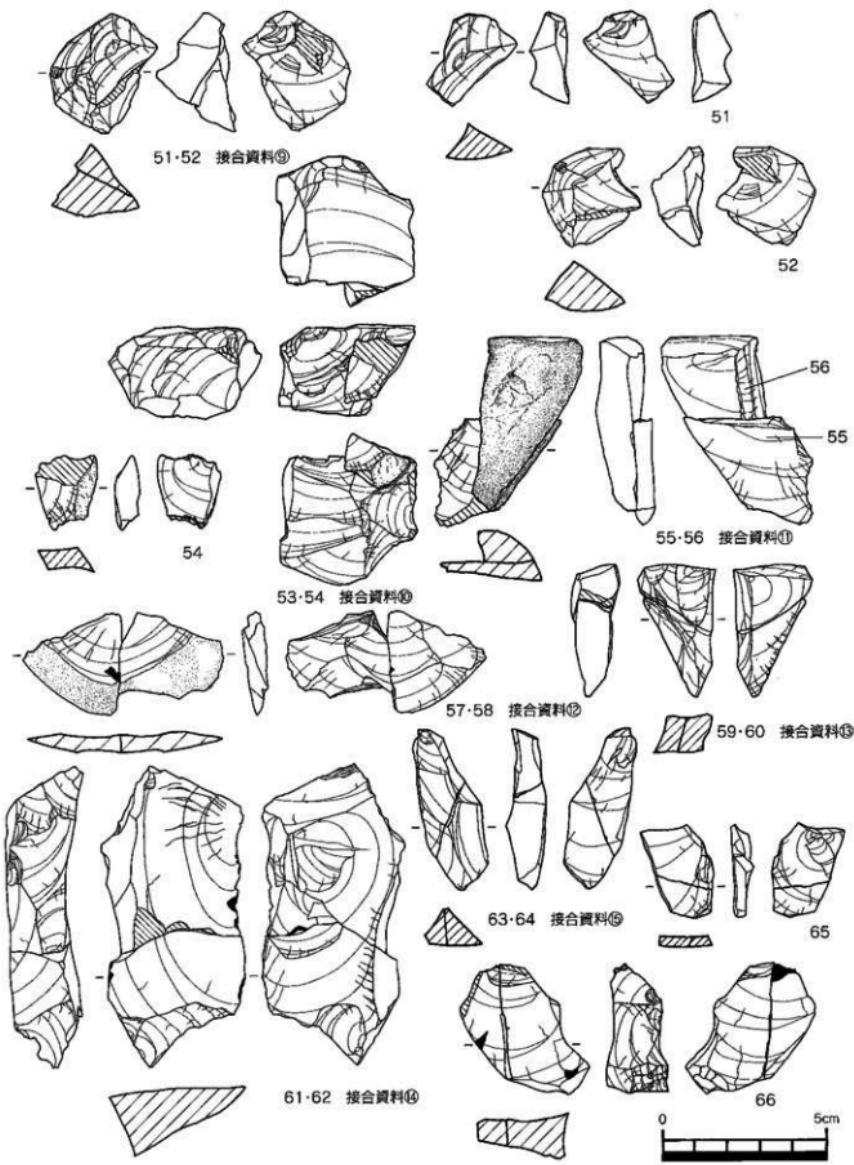
第9図 G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図② (S=2/3)



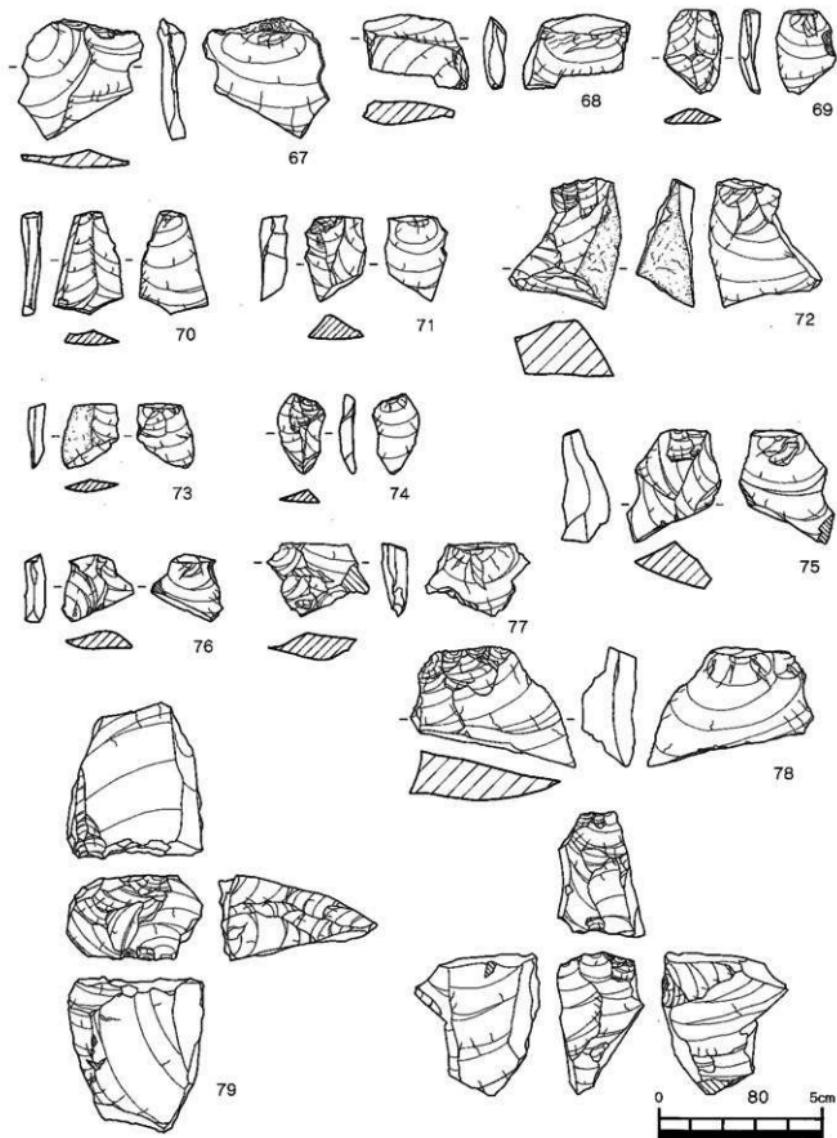
第10図 G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図③ (S=2/3)



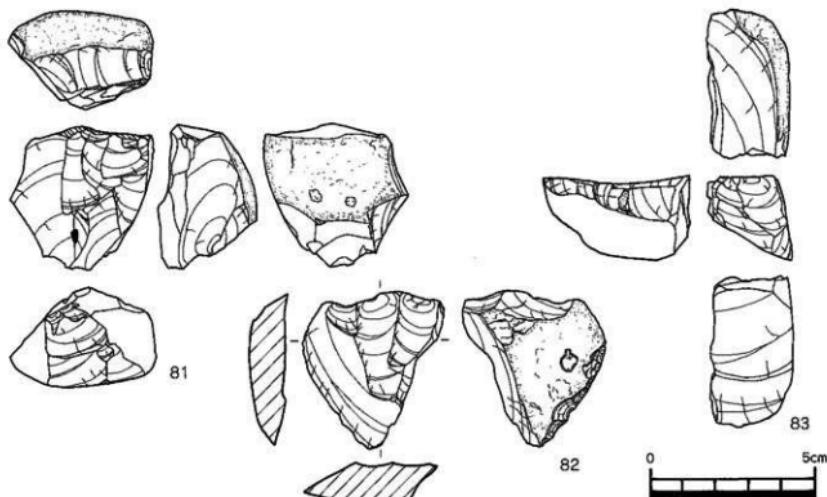
第11図 G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図④ (S=2/3)



第12図 G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑤ (S=2/3)



第13図 G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑥ (S=2/3)



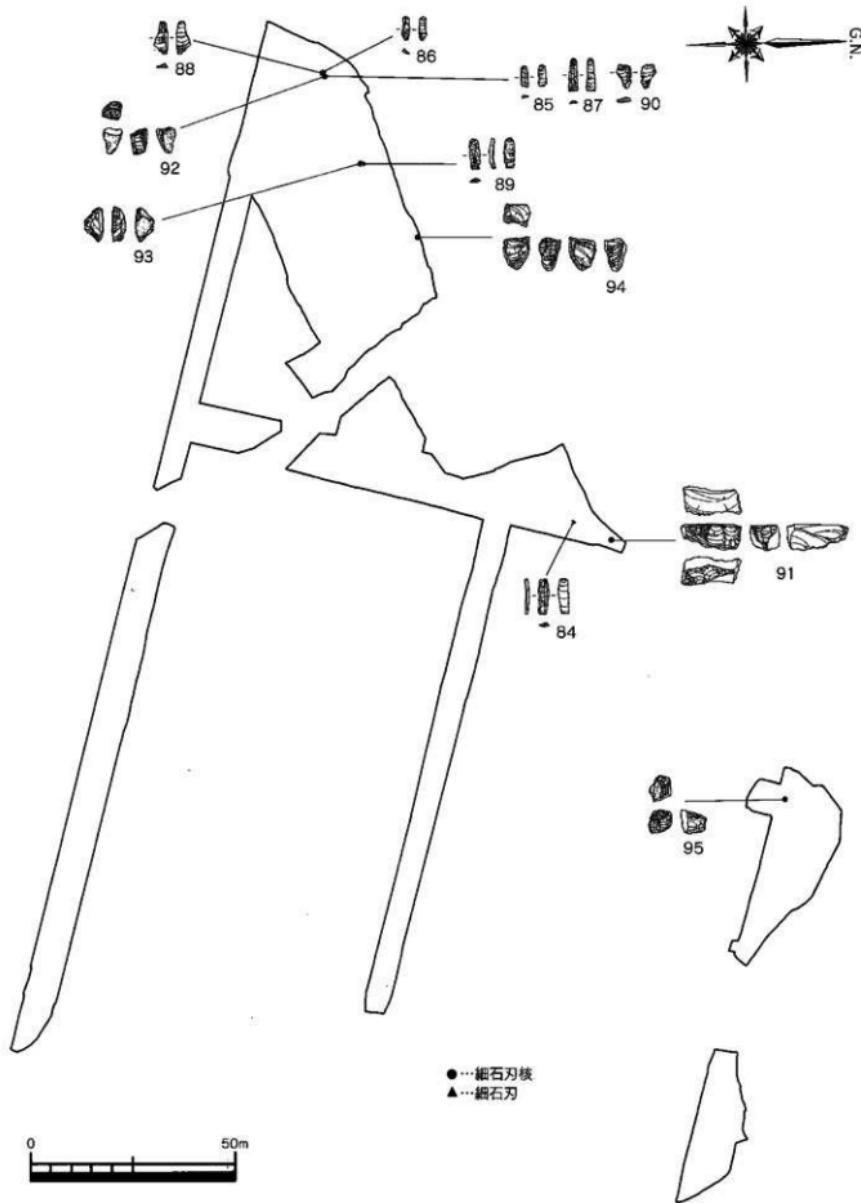
第14図 G区出土ナイフ形石器文化期遺物実測図⑦ (S=2/3)

50は頁岩製の石器である。19~22は不定形な剥片4点の接合資料である。25~35は石核1点と剥片10点の接合資料である。自然面を除去し、打面を作り出し、一方向より不定形な縦長剥片を作出している。36~38は石核1点と剥片2点の接合資料である。39~41と42・43は剥片2点の接合資料である。44~49は不定形な縦長剥片である。50は打面再生剥片である。51~82は前述した黄褐色を呈するホルンフェルス製の石器群である。頁岩製の石器群に比べると縦裂け現象による割れが非常に多く見られ、完存する剥片は少ない。また石核については作業面を転回しながら剥片を作出するものが多いという特徴が見られる。

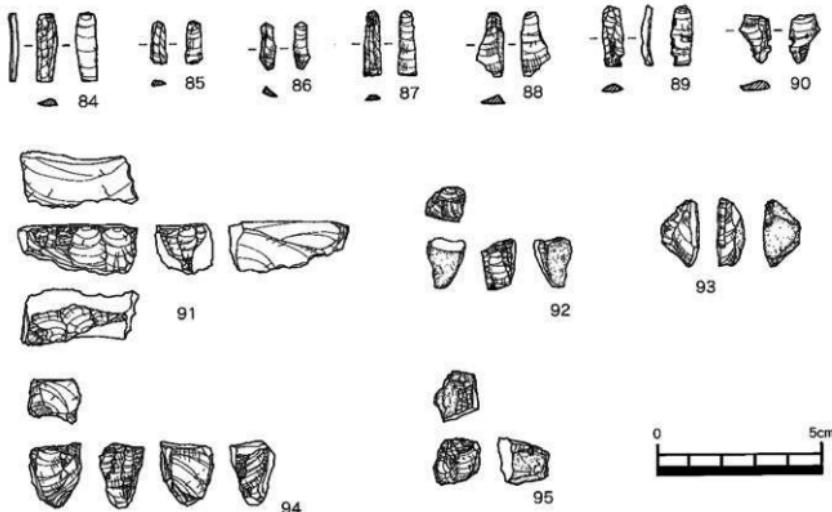
## 第2節 細石器文化期の遺物について

細石器文化期の遺物は前述のとおり、基本土層の6層~9層にかけて出土しており、層位によって細石器文化期の文化層を抽出することはできなかった。近年、宮崎平野部の遺跡においては縄文早期の遺物包含層中に細石器文化期の遺物が混入する場合があることが明らかになっており、本遺跡も同じ様相を呈していたことが判明した。この節にて報告を行う遺物の他にも細石器文化期の遺物が混入していた可能性は考えられるが、多量に出土する縄文早期の遺物の中から細石器文化期の遺物を明確に区別することは困難であり、明らかに細石器文化期の遺物と判断できる細石刃5点、細石刃核5点を報告する。

一応、これらの出土状況については調査区の西側に分布が偏る状況がうかがえる。また流紋岩製のものと黒曜石製のものが確認されており、石材ごとに分布が明確に分かれている。84~90



第15図 細石器文化期遺物分布図 (S=1/1,200)



第16図 細石器文化期遺物実測図 (S=2/3)

は細石刃である。流紋岩と桑ノ木津留産黒曜石を使用するものとが見られる。91～95は細石刃核である。91は流紋岩製で剥片を素材とするもので、打面調整をおこなわず細石刃を剥離しており、片縁と下縁には調整が施されている。作業面は一面にのみ見られる。92～94は黒曜石製で複数の産地のものが見られる。小蝶または分割蝶を素材とし、打面調整や側縁調整をおこなわず細石刃を剥離している。作業面は一面だけのものと複数のものとがある。

### 第3節 小結

本遺跡ではA区とG区にてナイフ形石器文化期の遺物が出土した。両区ともトレンチ調査であり、詳細な検討を行うことは難しい。しかし遺物の出土状況や出土層位を検討すると、A区では10～11層、G区では9層～10層にて遺物が出土し、また垂直分布から各区の遺物の一括性は高いと考えられるので、本遺跡では2時期のナイフ形石器文化期の資料が存在したと考えられる。

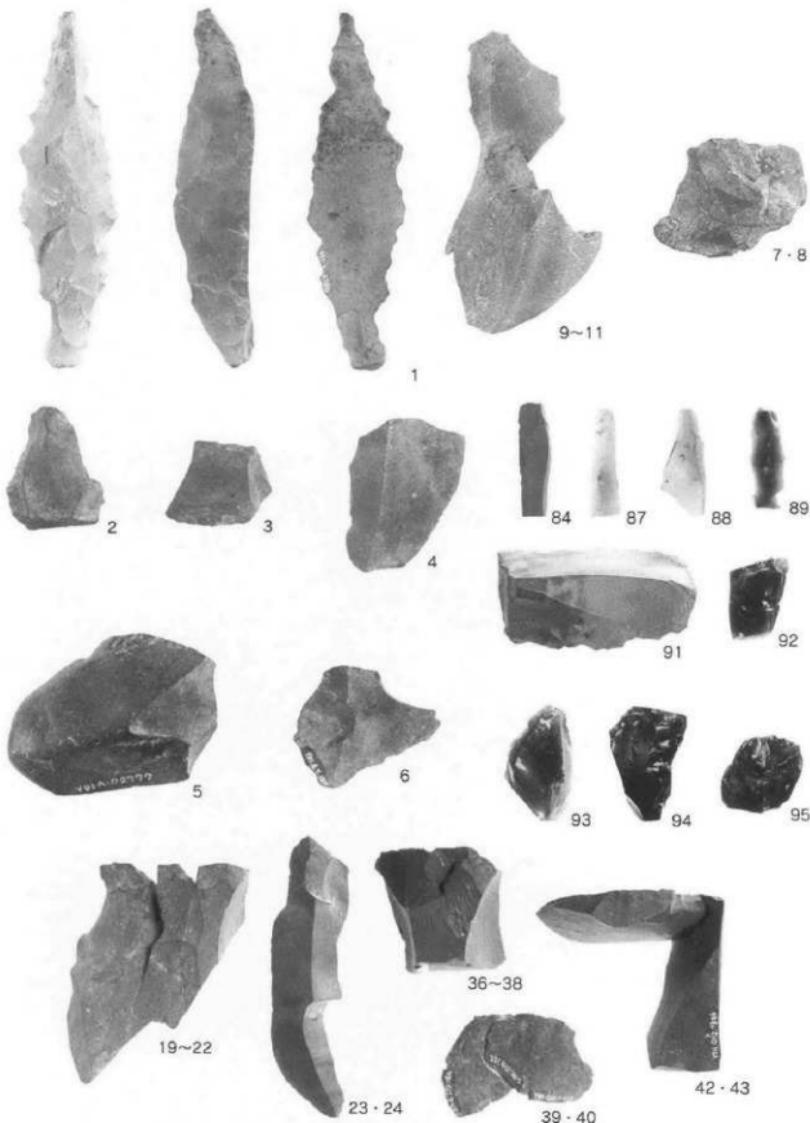
A区の資料は同台地上に立地する坂元遺跡の石器群とほぼ同じ層から出土しており、時期的に近いものと考えられる。G区の資料は出土層位からA区の資料より後出するものと考えられよう。また本遺跡の細石器文化期の遺物については、近年の宮崎平野部の調査と同じ出土状況が確認された。このような状況はこれから宮崎平野部の縄文早期の調査及び整理作業における課題のひとつであり、今後は縄文早期の包含層の中には細石器文化期の遺物が混在している可能性があるということを念頭において調査をすめていく必要があるだろう。

第1表 山田第一遺跡出土旧石器計測分類表

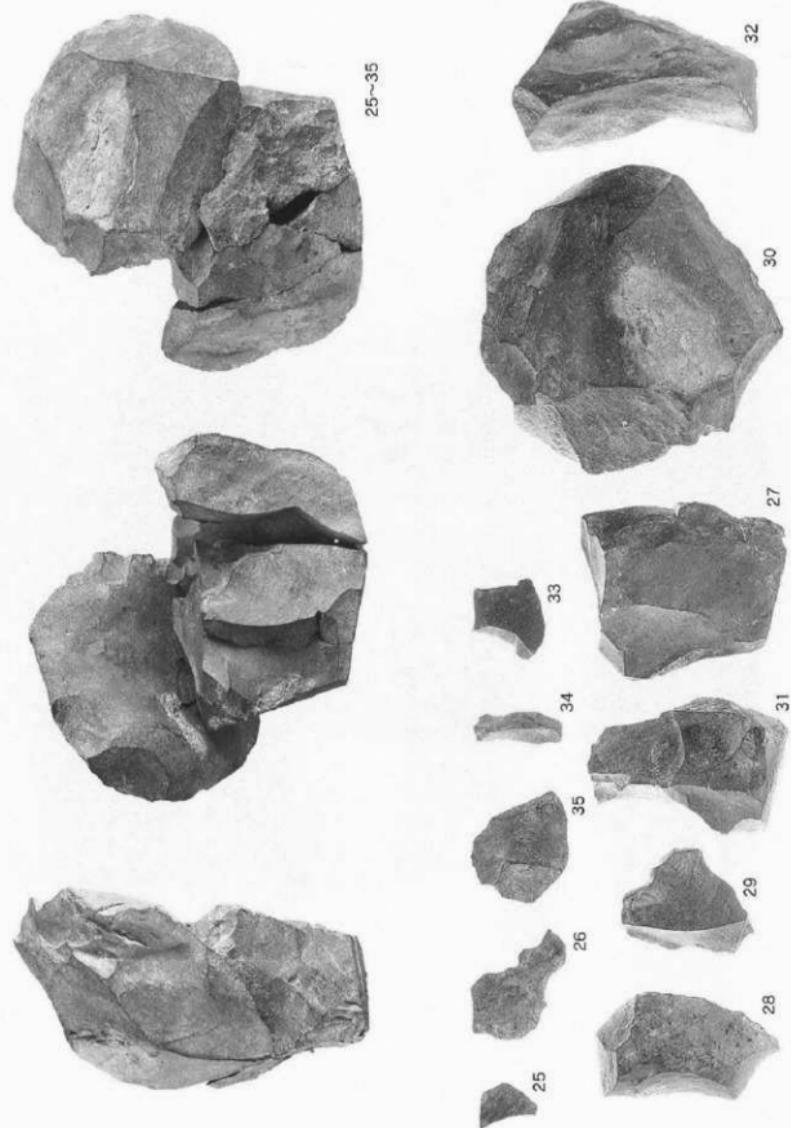
遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
1	276	角錐状石器	A	10~11	頁岩	(7.9)	2.2	1.9	22.5	基盤、先端部欠する。付着物有
2	408	スクレイバー	A	10~11	頁岩	2.95	2	0.7	2.1	
3	401	2次加工ある剥片	A	10~11	頁岩	1.75	2.1	0.7	2.4	
4	400	剥片	A	10~11	頁岩	2.9	2.45	0.85	5.2	
5	402	剥片	A	10~11	頁岩	3.65	4	1.35	16.3	
6	404	剥片	A	10~11	頁岩	2.5	3	0.5	2.3	
7	781	剥片	A	10~11	流紋岩	1.8	1.4	0.45	0.6	接合資料①
8	780	剥片	A	10~11	流紋岩	2.1	2.85	0.7	2.5	接合資料①
9	810	剥片	A	10~11	緑色珪質岩	2.15	1.7	0.5	1.2	接合資料②
10	808	剥片	A	10~11	緑色珪質岩	3.95	2.6	0.6	2.6	接合資料②
11	809	剥片	A	10~11	緑色珪質岩	2.75	3	0.9	6	接合資料②
12	764	ナイフ形石器	G12	9~10	流紋岩	2.4	1.2	0.4	0.8	
13	409	剥片	G12	9~10	流紋岩	4.95	2.1	0.7	3.1	
14	420	剥片	G12	9~10	流紋岩	4.7	2.5	0.7	7.4	
15	419	剥片	G12	9~10	砂岩	3.9	6.9	1.1	29	
16	675	敲石	G12	9~10	砂岩	6.95	4.25	2.2	80.1	
17	700	敲石	G12	9~10	砂岩	4.9	3.6	3.4	57.4	
18	674	敲石	G12	9~10	砂岩	8.4	4	2.9	122.4	
19	788	剥片	G12	9~10	頁岩	4.65	2.8	1.45	13.9	接合資料③
20	787	剥片	G12	9~10	頁岩	3.9	1.2	0.7	1.7	接合資料③
21	786	剥片	G12	9~10	頁岩	1.5	2.15	0.7	1.5	接合資料③
22	785	剥片	G12	9~10	頁岩	4.15	2	1.1	5.7	接合資料③
23-24	699	剥片	G12	9~10	頁岩	6.75	1.9	1.1	6.7	接合資料④
25	900	剥片	G12	9~10	頁岩	1.65	1.2	0.8	0.7	接合資料⑤
26	901	剥片	G12	9~10	頁岩	2.9	3.1	0.4	2.5	接合資料⑤
27	902	石核	G12	9~10	頁岩	5.8	5.3	4.3	131.8	接合資料⑤
28	903	剥片	G12	9~10	頁岩	5.2	3.5	1.8	24.5	接合資料⑤
29	904	剥片	G12	9~10	頁岩	3.65	3.1	0.95	7.4	接合資料⑤
30	905	剥片	G12	9~10	頁岩	8.5	8.8	3.1	192.7	接合資料⑤
31	906	剥片	G12	9~10	頁岩	5.8	4.1	2.7	46.6	接合資料⑤
32	907	剥片	G12	9~10	頁岩	6.95	4.3	2.8	59.8	接合資料⑤
33	908	剥片	G12	9~10	頁岩	2.1	2.3	0.6	1.8	接合資料⑤
34	909	剥片	G12	9~10	頁岩	2.5	1	0.75	1.3	接合資料⑤
35	910	剥片	G12	9~10	頁岩	2.8	3.3	0.45	4.5	接合資料⑤
36	892	石核	G12	9~10	頁岩	2.9	3.35	3.25	29	接合資料⑥
37	893	剥片	G12	9~10	頁岩	1.05	1.5	0.4	0.5	接合資料⑥
38	891	剥片	G12	9~10	頁岩	0.95	2.1	0.3	0.4	接合資料⑥
39-40	793	剥片	G12	9~10	頁岩	2.05	2.8	0.5	2.3	接合資料⑦
41	794	剥片	G12	9~10	頁岩	2.7	2.1	0.6	2.4	接合資料⑦
42	889	剥片	G12	9~10	頁岩	4.2	2.9	1.9	13.5	接合資料⑧
43	888	剥片	G12	9~10	頁岩	2.55	3.75	1.1	8.9	接合資料⑧
44	556	剥片	G12	9~10	頁岩	10.7	4.6	1.5	62.9	
45	410	剥片	G12	9~10	頁岩	5.8	3.6	1.5	21.1	
46	412	剥片	G12	9~10	頁岩	5.8	2.5	0.75	6	

( ) 内の数値は残存値を示す

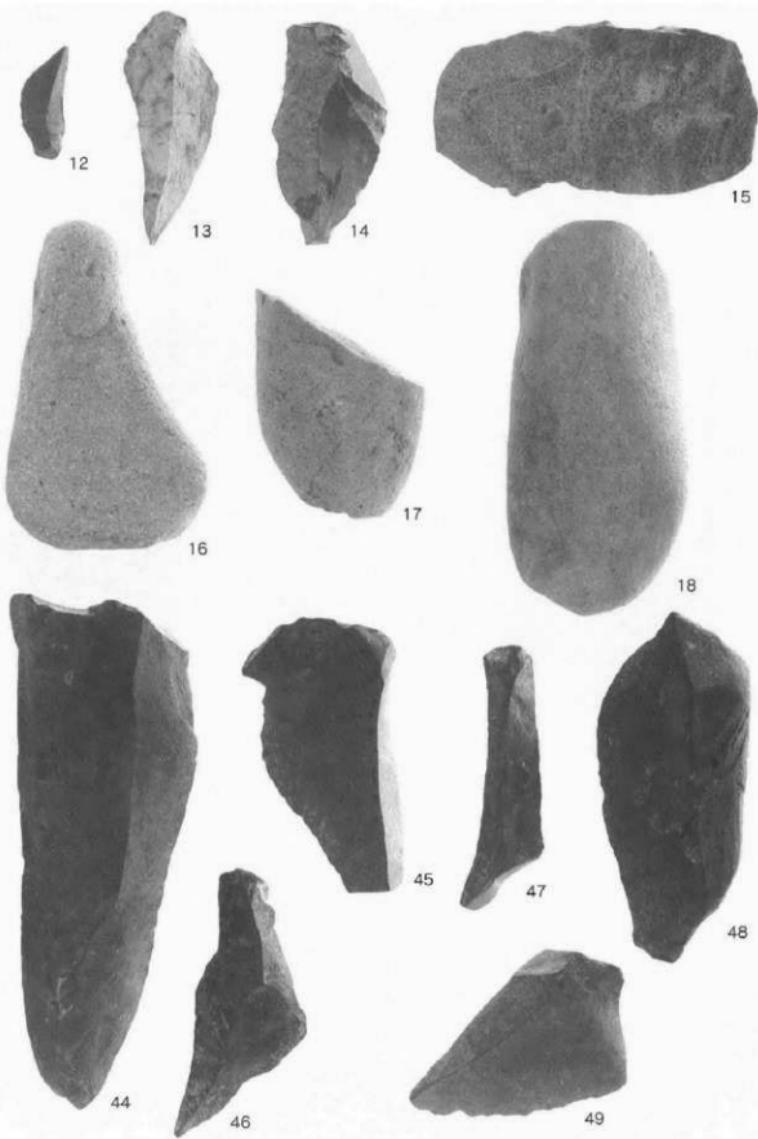
遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
47	399	剥片	G12	9~10	頁岩	5.8	1.9	0.7	3.7	
48	403	剥片	G12	9~10	頁岩	7.5	3.3	1.5	31.4	
49	407	剥片	G12	9~10	頁岩	4.2	4.4	1.2	13.2	
50	411	剥片	G12	9~10	頁岩	2.6	3.5	0.8	5.2	
51	897	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.85	2.8	1.2	3.3	接合資料⑨
52	896	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	3.05	3.05	1.55	6.7	接合資料⑨
53	813	石核	G12	9~10	ホルンフェルス	4.25	4.2	2.85	43.3	接合資料⑩
54	812	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.3	1.95	0.75	1.9	接合資料⑪
55	895	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	3.35	3.95	0.9	5.8	接合資料⑫
56	894	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	5.35	3.45	1.5	22.1	接合資料⑬
57-58	783	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	3.15	6.2	0.8	8.1	接合資料⑭
59-60	802	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	4.1	2.4	1.5	8.2	接合資料⑮
61-62	803	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	9.3	4.5	2.35	61.4	接合資料⑯
63-64	804	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	4.95	2.3	1.25	6.5	接合資料⑰
65	805	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.95	2.25	0.75	2.5	
66	806	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	4	4.1	1.9	15.3	
67	550	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	3.8	3.85	0.85	5.2	
68	587	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.3	3.3	0.75	3.2	
69	547	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.6	1.8	0.6	1.7	
70	558	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	3.2	2.1	0.6	2.2	
71	584	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.7	1.9	0.75	2.8	
72	549	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	4	3.4	1.8	14.3	
73	548	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2	1.8	0.5	1.1	
74	557	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.45	1.45	0.5	0.8	
75	582	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	3.5	2.9	1.45	6.5	
76	583	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.1	2.25	0.65	1.8	
77	586	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	2.25	3.2	0.8	3.4	
78	585	剥片	G12	9~10	ホルンフェルス	3.8	5.1	1.65	15.5	
79	795	石核	G12	9~10	ホルンフェルス	4.85	4.2	2.65	37.1	
80	779	石核	G12	9~10	ホルンフェルス	4.4	3.85	2.7	27.8	
81	789	石核	G12	9~10	ホルンフェルス	4.5	4.5	3.1	48.7	
82	760	石核	G12	9~10	ホルンフェルス	4.9	4.4	1.2	19.1	
83	796	石核	G12	9~10	ホルンフェルス	2.6	2.55	4.6	26.2	
84	672	細石刃	D2	VII	流紋岩	2.1	0.65	0.25	0.1	下端部折断
85	9	細石刃	G12	9~10	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	0.55	0.2	0.1	
86	6	細石刃	G12	9~10	黒曜石(桑ノ木津留)	1.45	0.5	0.35	0.1	
87	7	細石刃	G12	9~10	黒曜石(桑ノ木津留)	2	0.6	0.2	0.1	
88	5	細石刃	G12	9~10	黒曜石(桑ノ木津留)	2	0.9	0.3	0.1	
89	701	細石刃	G7	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.85	0.65	0.35	0.1	
90	8	細石刃	G7	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1	0.3	0.1	
91	815	細石刃核	D1	VII	流紋岩	1.6	1.75	3.65	11.5	
92	10	細石刃核	G12	9~10	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	1.1	1.2	1.7	
93	778	細石刃核	G7	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	0.8	1.1	1.9	
94	766	細石刃核	G6	VII	黒曜石(腰傍?)	2	1.4	1.6	4.4	
95	799	細石刃核	A	VII	黒曜石(?)	1.45	1.4	1.6	3.2	



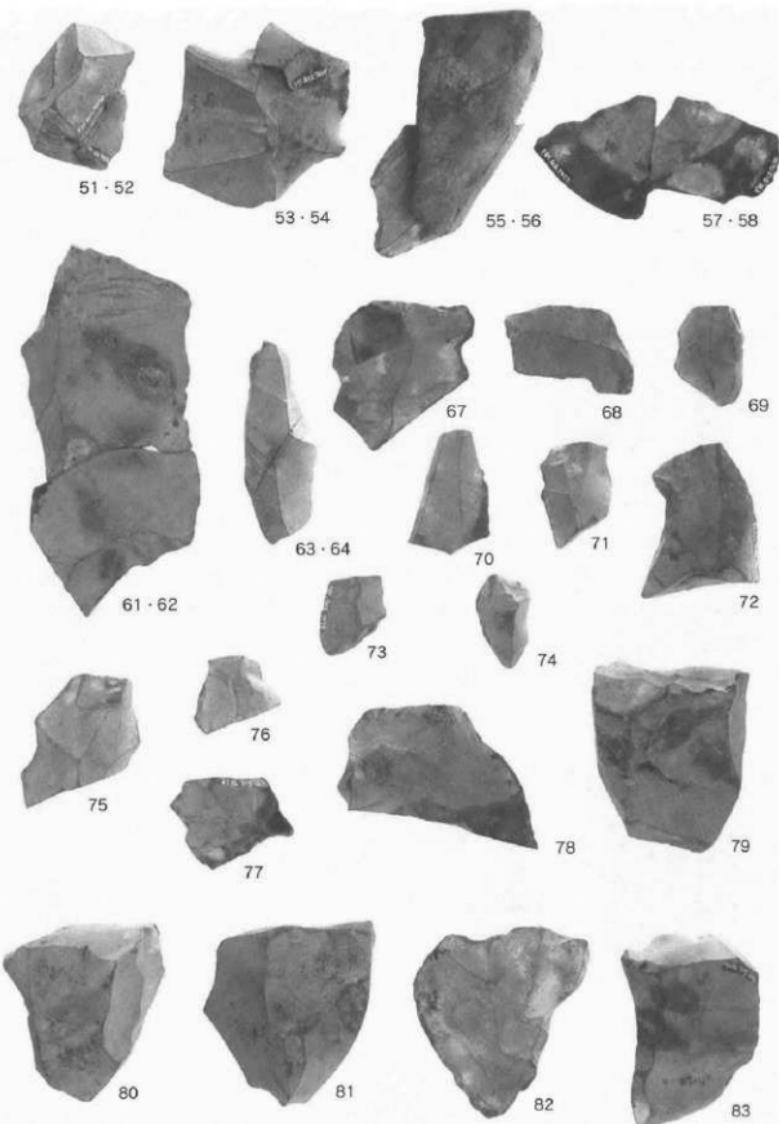
図版2 A・G区出土旧石器及び細石器



図版3 G区出土接合資料⑤



图版4 G区出土旧石器（流纹岩·砂岩·页岩）



図版5 G区出土旧石器（ホルンフェルス）

## 第三章 繩文時代早期についての調査

### 第1節 焼碟の出土状況と遺構の検出状況

#### 1. 焼碟の出土状況

各区において5・6層の掘り下げ作業を行ったところ、計26,545個の焼碟が出土した。5層上位から中位にかけてはややまばらな出土で、出土のピークは5層下位から6層中位にかけてであった。6層下位は繩文時代草創期の遺物包含層ではないかと推測され、焼碟の出土もかなり疎らな状況であった。

#### 2. 遺構の検出状況

集石遺構については、まず5層上位から中位にかけて4基検出されたが、掘り込みは無く焼碟が一面にやや密集しているタイプのものであった。その後5層・6層と掘り下げていくと、6層上位から中位にかけて散在する焼碟の間に黒いシミが見え始めたので、その黒い部分を調査すると集石遺構が検出されるという状況であった。この層位で検出された集石遺構は計71基であった。

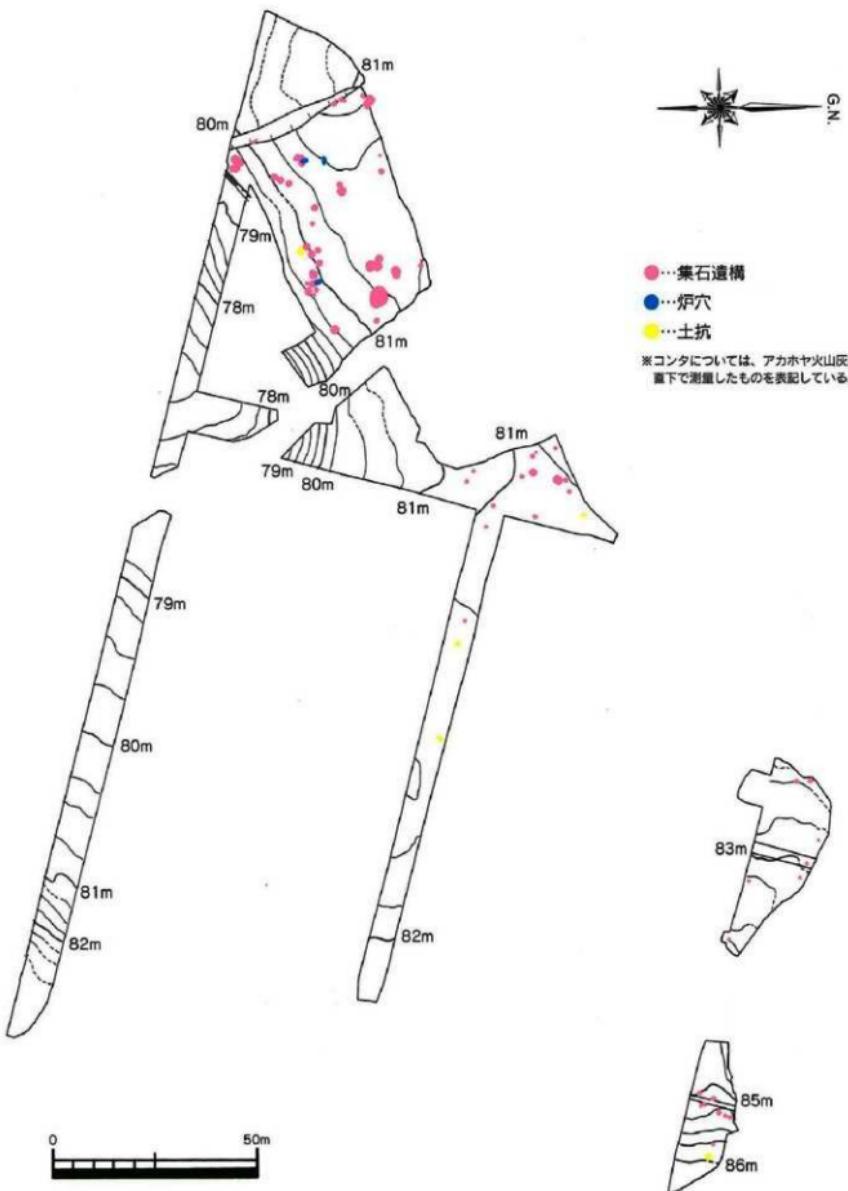
炉穴及び土坑については、焼碟が多数出土している際にはなかなか検出しにくかったため、焼碟の出土がやや疎らになる6層下位で検出するケースがほとんどであった。但し、プランが確認にくい場合には、8層上面まで検出面を下げ遺構の調査を行った。検出された炉穴は3基、土坑は5基であった。



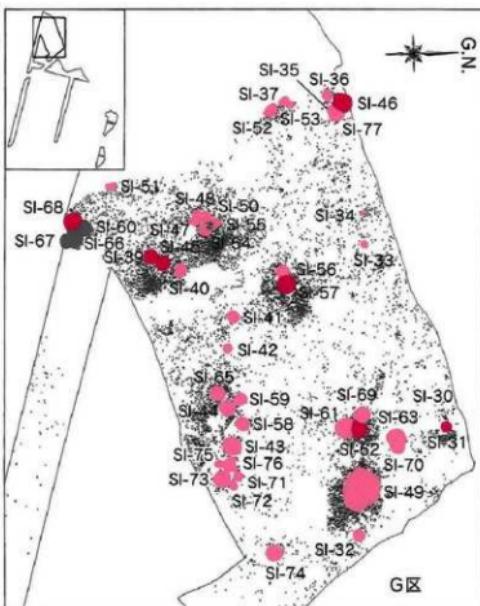
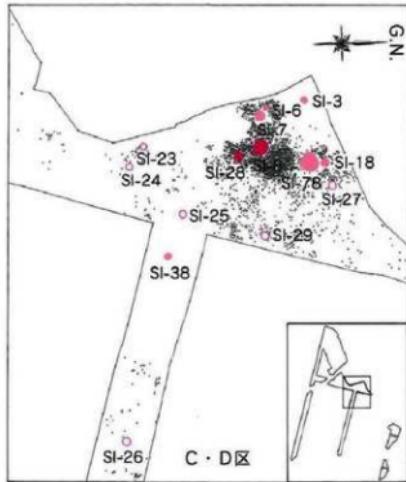
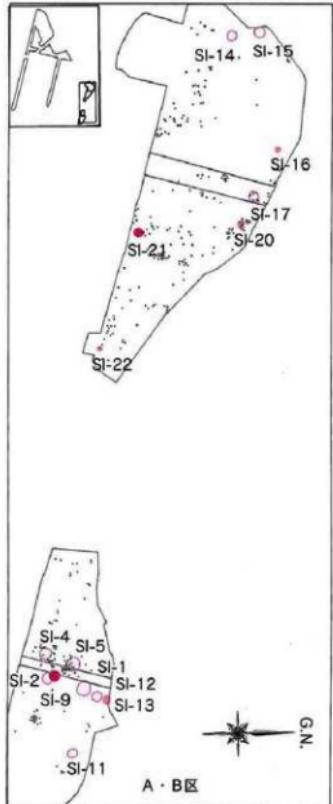
図版6 集石検出状況①(南から)



図版7 集石検出状況②(南西から)



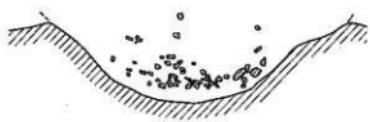
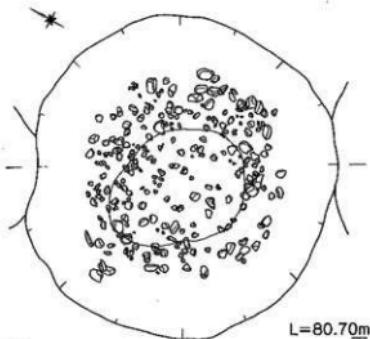
第17図 繩文時代早期遺構配置図及びコンタ図 (S=1/1,200)



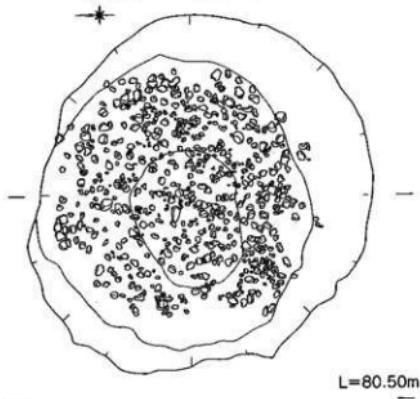
- …掘り込みを持ち  
底石が配置されている集石造構
- …掘り込みをもっている集石造構
- …掘り込みを持たない集石造構
- …砾



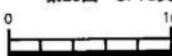
第18図 集石造構配置図及び砾分布図 (S=1/600)



第19図 SI-65実測図 (S=1/30)



第20図 SI-73実測図 (S=1/30)



## 第2節 遺構

### 1. 集石遺構

#### 1) SI-65・73・43・71・58・44・59・74・76

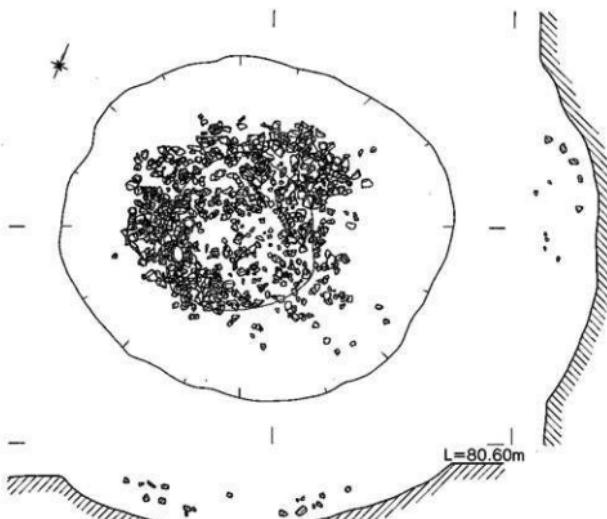
この9基については、検出状況、埋土の状況、使用されている碟、碟の密度、掘り込みのプラン等かなり似かよった特徴が見受けられる。

#### 検出状況

まず検出された調査区については、9基全てがE区で検出されている。又検出面については、6層上位から中位にかけてである。埋土が他の集石遺構よりもひときわ黒くややベタッ（やや粘性有り）とした質感であったため、検出の段階で他の集石遺構と区別できる状況であった。

#### 使用されている焼碟

最も多くの焼碟が使用されているのはSI-73で1236個、最も少いのはSI-76で231個である。又、総焼碟重量については、SI-65が75kgで最大でSI-76が8kgで最小である。焼碟1個あたりの平均質量を見てみると、80g (SI-59)、76g (SI-58)、67g (SI-65)、66g (SI-74)、50g (SI-73)、48g (SI-43)、45g (SI-44)、40g (SI-71)、33g (SI-76) で、9基全ての平均は56gとなる。当台地で検出される集石遺構の中では小ぶりな焼碟が使用されている集石遺構であるといえる。又、個々の焼碟に注目するとかなり磨耗しているため、この9基の集石遺構がかなりの回数使用されたのではないかと推測される。尚、焼碟はほぼ砂岩である。



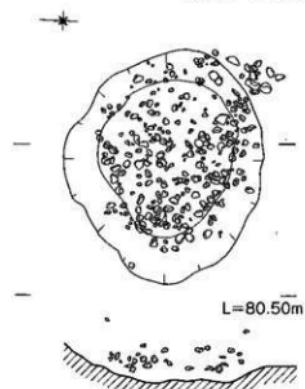
第21図 SI-43実測図 ( $S=1/30$ )

**礫の充填状況**

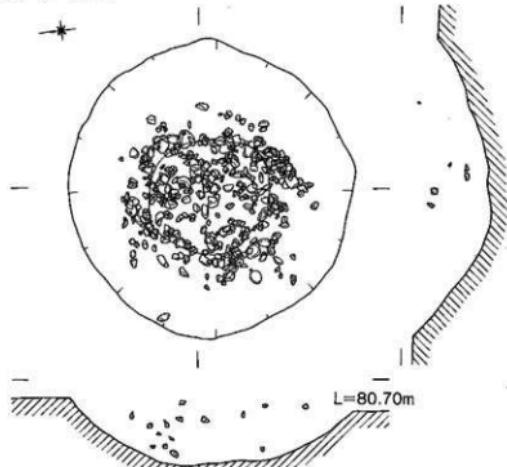
図版8・9 (P32) で確認できるように、掘り込みの中央部分に礫が集中する傾向がみられる。

**掘り込みの形状**

掘り込みの形状については、平面プランは9基全てが円形である（他の遺構と切り合っているものもあるが）。直径についてはSI-43が最大で2.5m、SI-

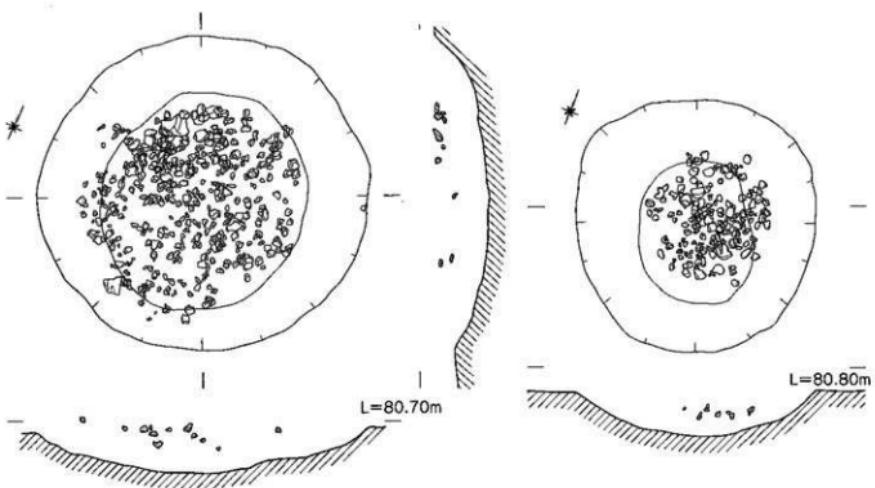
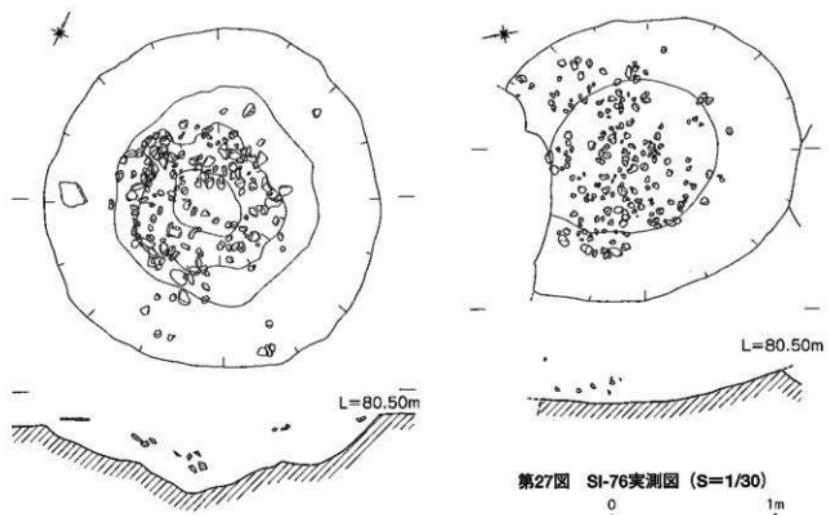


第22図 SI-71実測図 ( $S=1/30$ )



第23図 SI-58実測図 ( $S=1/30$ )

71・59が最小で1.5m、9基の平均は約1.9mである。断面形状については、SI-65・73・58・74がポウル状で、SI-43・71・44・59・76が浅皿状であるが、それぞれの遺構検出面が若干異なるため、9基の断面形状に大きな違いはないのではないかと推測される。又、検出面か

第24図 SI-44実測図 ( $S=1/30$ )第25図 SI-59実測図 ( $S=1/30$ )第26図 SI-74実測図 ( $S=1/30$ )第27図 SI-76実測図 ( $S=1/30$ )

らの深さについては、最も深いSI-65が0.6mで、最も浅いSI-76が0.2mであるが、先述のとおり検出面が一様ではないので、この数値で形状判断するのは適切ではないと思われる。

### 放射性炭素年代測定

9基のうち比較的良好な状態で炭化材が採取できた3基について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、SI-65が $9520 \pm 40$ 年BP、SI-73が $9580 \pm 40$ 年BP、SI-71が $9520 \pm 50$ 年BPという推定使用時期が明らかになった。

### 樹種同定

放射性炭素年代測定同様3基の集石遺構で樹種同定を実施した。その結果、SI-65で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-73で採取された炭化材もブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-71で採取された炭化材はコナラ属コナラ節であることが判明した。

### 共伴遺物

9基のうち埋土中より遺物が出土したものは3基であった。形式不明な土器が5点と塞ノ神式土器が6点出土したが、いずれも後世の入り込みだと推測される。

### 坂元遺跡との比較

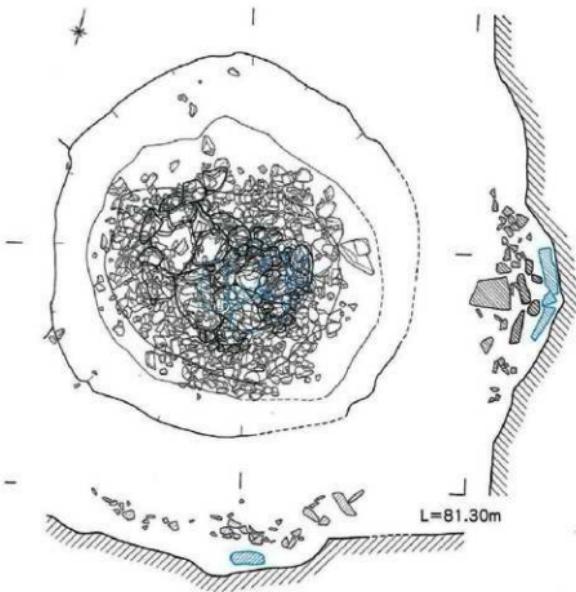
小さな礫が掘り込みの中央に集中し、埋土はやや粘性のある黒色土、又掘り込みのプランは平面が円形（直径約2m）で断面がボウル状。このような特徴を持つ集石遺構は隣接する坂元遺跡でも1基確認されている。その集石遺構（坂元遺跡 E区 SI-62）についても、放射性炭素年代測定を実施しており、 $9650 \pm 40$ 年BPという推定使用時期が明らかになっている。



図版8 SI-65（東から）



図版9 SI-73断面（西から）



第28図 SI-57実測図 (S=1/30)

2) SI-57-39・8・45・21・

28・62・46・31・19・68

\*掘り込み底部に底石を配置している集石遺構

#### 底石

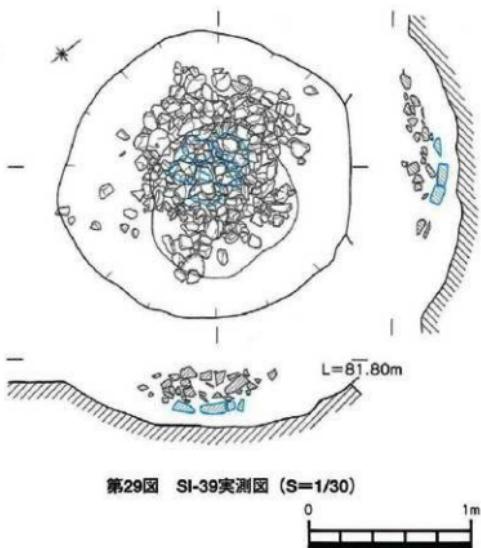
当遺跡で検出された集石遺構75基のうち、掘り込み底部に人頭大の平らな石を、1個ないし数個配置している集石遺構が11基確認されている（可能性が高いものも含めて）。

#### 検出面及び調査区

11基はいずれも6層上位から中位にかけて検出され、調査区ごとにみてみるとG区が7基、C・D区が2基、A・B区が2基である。

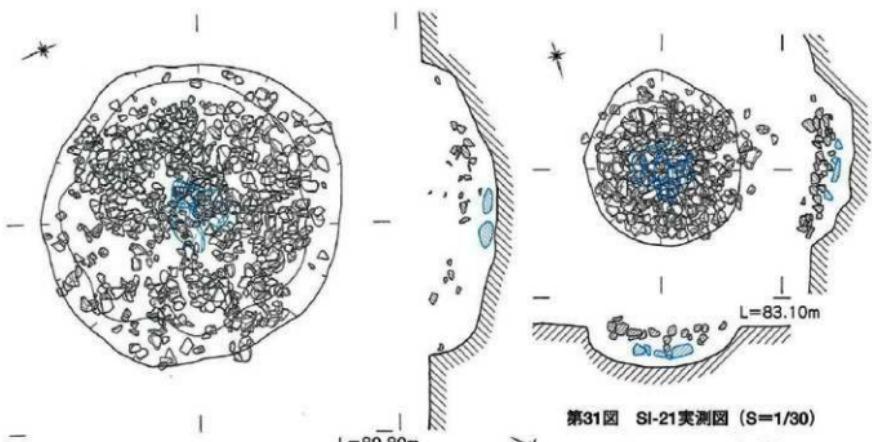
#### 使用されている焼碟

300個以上の焼碟が使用されている集石遺構は当遺跡で検出された75基中15基で、うち7基は底石を配している集石遺構である。又、使用碟の総重量についても、50kgを超えるものが75基中11基、うち8基が底石を配している集石遺構であるため、底石を配置していない集石遺構と比較すると多くの碟が使用され

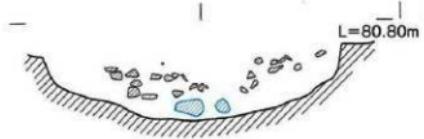


第29図 SI-39実測図 (S=1/30)

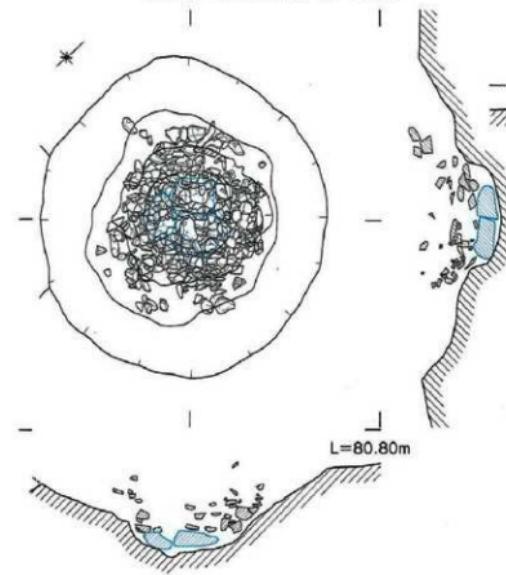




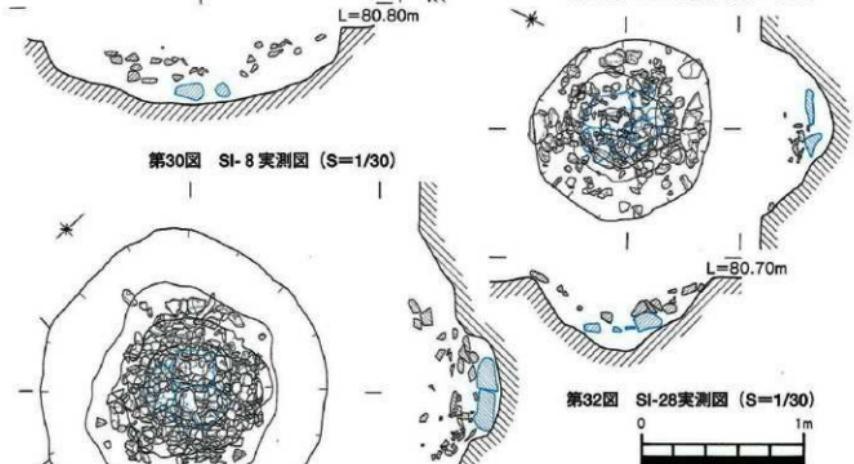
第31図 SI-21実測図 ( $S=1/30$ )



第30図 SI-8実測図 ( $S=1/30$ )

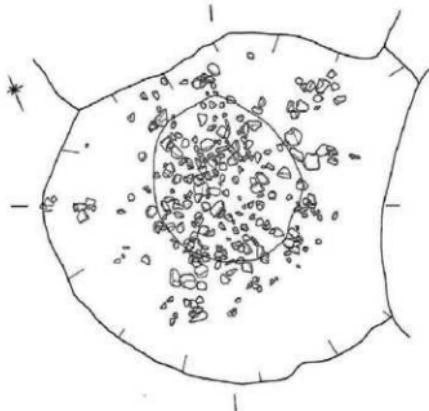


第33図 SI-45実測図 ( $S=1/30$ )



第32図 SI-28実測図 ( $S=1/30$ )

ているということになる。又、焼砾1個あたりの平均質量を見てみると、  
300 g (SI-39)、280 g (SI-28)、  
250 g (SI-57)、200 g (SI-46)、  
190 g (SI-45)、170 g (SI-31)、  
140 g (SI-62)、130 g (SI-21)、  
120 g (SI-8) で、平均では約180 g  
となる。尚、焼砾はほぼ砂岩である。



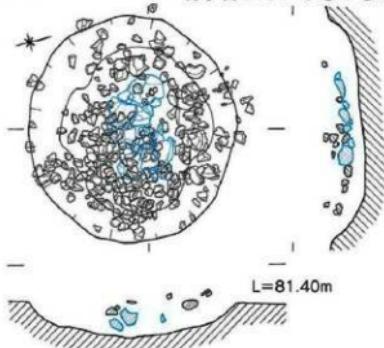
### 砾の充填状況

底石を配置していない  
集石造構と比較すると、  
密に詰まっているものが  
多い。\*図版13参照 (P  
37)



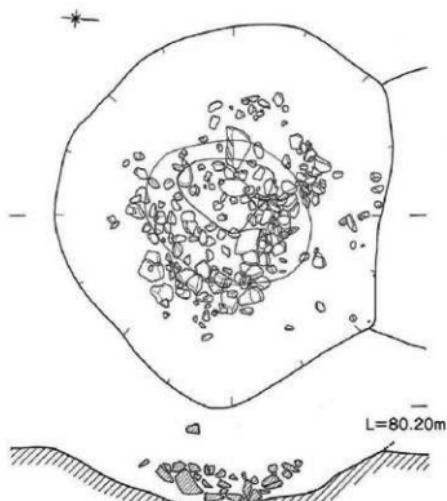
第34図 SI-62実測図 ( $S=1/30$ )

$L=81.15m$



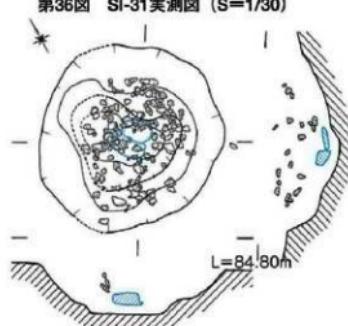
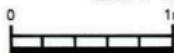
第36図 SI-31実測図 ( $S=1/30$ )

$L=81.40m$



$L=80.20m$

第35図 SI-68実測図 ( $S=1/30$ )



$L=84.80m$

第37図 SI-19実測図 ( $S=1/30$ )

るが)。直径については、SI-46が最大で2.5m、SI-21・28が最小で1.1m、平均では約1.8mである。断面形状については、SI-8・21・19・28がボウル状で(SI-28はややV字形はあるが)、SI-39・62・68・31が浅皿状である。又、SI-57・45については、掘り込み上部と下部が2段掘りになっていて、その最下部に底石がはめ込まれているような状況が確認されている。尚、掘り込みの深さについては0.5m~0.3mであるが、検出面は1基ごとに多少異なっている。

#### 放射性炭素年代測定

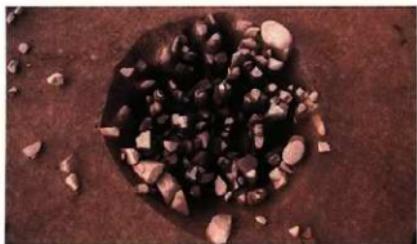
11基のうち比較的良好な状態で炭化材が採取できた7基について放射性炭素年代測定を行った。その結果、D区で検出されたSI-28が $8770 \pm 50$ 年BPで、C区で検出されたSI-8が $8700 \pm 40$ 年BP、又、G区で検出された5基については、SI-62が $8380 \pm 40$ 年BP、SI-57が $8340 \pm 40$ 年BP、SI-68が $8320 \pm 40$ 年BP、SI-45が $8300 \pm 40$ 年BP、SI-39が $8250 \pm 40$ 年BP、という結果が得られた。

#### 樹種同定

11基のうち比較的良好な状態で炭化材が採取できた5基について樹種同定を行った。その結果、SI-57で採取された炭化材はブナ科(クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか)、SI-39で採取された炭化材は広葉樹(可能性あり)、SI-8で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、SI-28で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、SI-62で採取された炭化材はブナ科(クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか)、という結果が得られた。

#### 共伴遺物

11基中8基で埋土中より遺物が出土したが、うち6基からは押型文土器が出土した。集石遺構という遺構の性格上、埋土中から出土する土器をそのまま推定使用時期の根拠にするのはかなり厳しいと思われるが、全75基中12基で押型文土器が出土し、その半数が底石を配置しているタイプの集石遺構から出土しているという状況は、集石遺構の形態変遷を考察するうえで興味深い資料となるのではないだろうか。



図版10 SI-28（東から）



図版11 SI-28底石（北から）



図版12 SI-8（南から）



図版13 SI-8断面（西から）



図版14 SI-57（東から）



図版15 SI-45（東から）



図版16 SI-39（東から）



図版17 SI-21（北から）

### 3) 6層上位から中位にかけて検出されたその他の集石遺構

9500年BP頃に使用された可能性の高い集石遺構 (SI-65・73・43・71・58・44・59・74・76) 及び掘り込み底部に平らな石を配置している集石遺構 (SI-57・39・8・45・21・28・62・46・31・19・68) 以外で、6層上位から中位にかけて検出された集石遺構は計51基であったが、1基ごとの諸データについては図面及び観察表で紹介することとし、ここでは幾つかのテーマごとに総括して紹介していくこととする。

#### 検出面及び調査区

検出面については先述のとおり6層上位から中位にかけてであったが、掘り込みを持つ集石遺構については「6層上位から見え始め、中位で確実にプラン等が確認できる。」というケースが多くあった。又、調査区ごとの検出数については、A・B区が9基、C・D区が10基、E・F区が2基、G区が30基という状況であったが、これは焼碟集中区域がG区に最も多く存在していることと何らかの関わりがあるのではないかと推測される（もちろん各区の調査面積も考慮すべきではあるが）。

#### 掘り込みの有・無

掘り込みの有・無については、51基のうち掘り込みを持つものが37基、持たないものが14基であった。掘り込みを持たない14基のうちSI-49・SI-13・SI-33などは、掘り込みの有無についての判断が極めて困難であったが、トレンチによる確認調査の結果掘り込みを持たない集石遺構として判断した。

#### 掘り込みの形状

掘り込みの形状については、37基全てが円形もしくは梢円形であった（他の遺構と切り合っているものもあるが）。直径については、2mを超えるものがSI-61 (2.7m)・SI-66 (2.3m)・SI-63 (2.3m)・SI-60 (2.0m) の4基で、1m未満のものが多く、平均では約1.4mであった。断面形状については、浅皿状のものとボウル状のものがあり、検出面からの深さについては0.5m～0.1mであった。但し、検出面については1基ごとで多少違っているので、実際の掘り込みの深さは把握しにくい状況であった。

#### 使用されている礫

SI-49については、2,656個、412kgの礫が使用されていたが、この集石遺構については検出時より掘り込みの有無等の確認が非常に難しい集石遺構であった。礫の記録作業終了後、トレンチによる確認調査を実施した結果、掘り込みを持たない1基の集石遺構と判断したが、他の集石遺構と比較すると礫分布範囲の規模などがあまりに違うので、今回他の集石遺構のデータとは切り離して考察することとする。その他の集石遺構については、データを収集することの出来た

43基のうち、最も多くの焼碟が使用されていたのはSI-18の320個で、200個を超える焼碟が使用されていたのは43基中わずか3基であった（43基の平均使用個数は66個）。使用焼碟の総重量については、最も重いものがSI-36の33kgで、20kg以上が2基、20kg～10kgが11基、10kg未満が28基であった（平均質量は約9kg）。又、碟1個の平均質量では、SI-23（458g）・SI-13（261g）・SI-24（250g）・SI-27（218g）の4基が200g以上で、200g～100gが21基、100g未満が17基であった。（焼碟1個あたりの平均質量は122g）。尚、使用されている焼碟についてはほとんどが砂岩である。

#### 碟の充填状況

（掘り込みを持つタイプの集石遺構の場合）

「掘り込みの規模に対しての碟の量」いわゆる焼碟の密度については、底石を配置しているタイプの集石遺構と比較するとかなり疎らな状況であった。SI-60やSI-18、SI-7等についてはやや密な充填状況が確認できたが、その他は掘り込み全体からかなり疎らに碟が出土するという状況であった。

#### 放射性炭素年代測定

比較的良好な状態で炭化材が採取できた7基について放射性炭素年代測定を行った。その結果、A区で検出されたSI-15が $8730 \pm 40$ 年BP、C区で検出された2基についてはSI-18が $8730 \pm 40$ 年BPでSI-7が $8720 \pm 50$ 年BP、又G区で検出された4基については、SI-67が $8630 \pm 40$ 年BP、SI-54が $8420 \pm 40$ 年BP、SI-61が $8360 \pm 50$ 年BP、SI-47が $8290 \pm 40$ 年BP、という結果が得られた。

#### 樹種同定

比較的良好な状態で炭化材が採取できた5基について樹種同定を行った。その結果、SI-18で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、SI-7で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-67で採取された炭化材はコナラ属クヌギ節、SI-54で採取された炭化材はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）、SI-61で採取された炭化材はコナラ属コナラ節、という結果が得られた。

#### 共伴土器

51基のうち18基で埋土中から遺物が出土したが、そのうち土器形式が判別可能な土器が出土したものは9基であった。その内訳は、貝殻円筒系土器が出土したものが3基、押型文土器が出土したものが6基であったが、これは底石を配置するタイプの集石遺構と似かよった傾向といえる。

#### 4) 5層上位から中位で検出された集石遺構

5層上位から中位にかけて、4基の集石遺構が検出された(SI-5・4・1・2)。いずれもB区で検出されていて、掘り込みを持たない集石遺構であった。

検出状況については、アカホヤ火山灰除去後縄文時代早期の包含層である5層を掘り下げたところ、パラバラと礫が出土し始め、その中にやや礫の密集する範囲が4ヶ所確認されたという状況であった。

又、使用されている礫については、4基の集石遺構いずれも1個あたり40gほどのかなり破碎した礫で、かなりの回数被熱したことが推測される。

#### 5) 小括

本報告書では、75基の集石遺構を以下の4つのグループに分けて考察を進めてきたが、最後に再度整理してまとめていきたい。

- 1) 9500年BP頃に使用された可能性の高い集石遺構。以後1)のタイプとする。
- 2) 掘り込み底部に平らな石を配置している集石遺構。以後2)のタイプとする。
- 3) 6層上位から中位で検出された集石遺構のなかで1)・2)以外のもの。以後3)のタイプとする。
- 4) 5層上位から中位で検出された集石遺構。以後4)のタイプとする。

#### 検出面と使用面

1)～3)のタイプの集石遺構71基については、6層上位から6層中位で検出されているが、放射性炭素年代測定の結果などからみると、使用面については更に細分化できるものと思われる。但し、6層上位で集石遺構が存在することは確認できるものの、掘り込みの有無又はプラン等が不明瞭なため、やむを得ず6層中位まで検出面を下げて調査するが多く、異なる使用時期の集石遺構を20cm～30cmの幅(厚み)のなかで検出せざるを得ない状況であった。

又、4)のタイプの集石遺構については、掘り込みも無く平面的に礫が集積しているタイプの集石遺構であったため、検出面と使用面はほぼ一致するのではないかと推測される。

#### 調査区ごとの使用時期

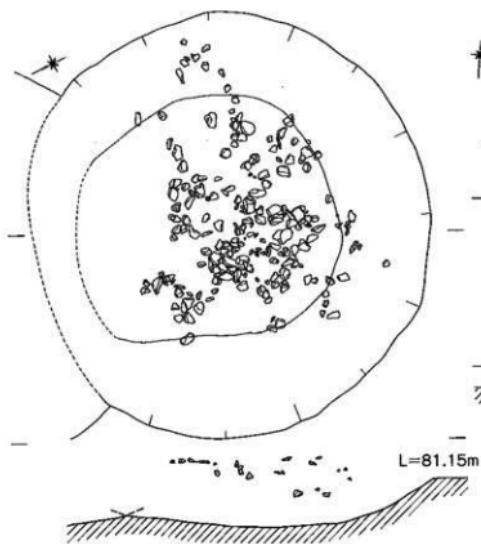
放射性炭素年代測定の結果を参考に各調査区での使用時期をみてみると、最も古い1)のタイプの集石遺構11基は全てG区で検出されている。又、2)のタイプについては、A・B区で2基、C・D区で2基、そしてG区で7基検出されているが、使用時期についてはA・B・C・D区が8700年BP頃でG区が8300年BP頃という分析結果が得られている。これは底石を配置するタイプの集石遺構が営まれる時期にある程度の幅があり、なおかつ使用空間も多少移動していること物語っているのではないかと推測される。3)のタイプについては、A・B区が9基、C・D区が10基、そしてG区が30基検出されているが、使用時期についてはA・B・C・D区が8700

年BP頃でG区が8700年BP～8300年BP頃という分析結果が得られており、これは2)のタイプの分析結果とはほぼ同じである。又、4)のタイプの集石遺構については、4基全てB区で検出され他の調査区では確認されていない。

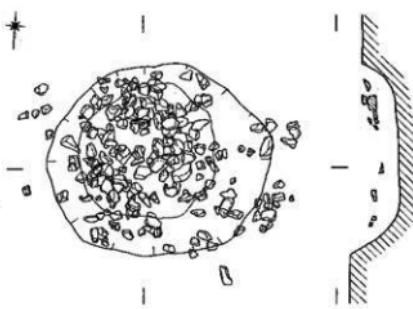
#### 集石遺構の変遷

当遺跡での縄文時代早期における集石遺構の変遷を考えてみる。まず9500年BP頃に集石遺構が営まれはじめ、その主な使用空間はG区であった。その後、しばらく当遺跡付近では集石遺構が積極的に営まれることはなく、8700年BP頃になると再びA・B区及びC・D区を中心にして集石遺構が営まれはじめる。その際、掘り込みの底部に平らな石を配置するタイプの集石遺構も現れはじめるが、主な使用空間は次第にA・B・C・D区からG区へと移動していく。この8700年BP頃から8300年BP頃が当遺跡で集石遺構が営まれるピークであり、その後当遺跡での集石遺構の使用はほとんど見られなくなる。そしてアカホヤ降下時頃になると、極小規模な集石遺構がわずかに営まれるだけとなつていった。

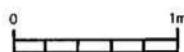
以上が諸要素を鑑みたうえでの当遺跡での集石遺構の変遷であるが、全ての集石遺構を対象に自然科学分析を実施したわけではなく、又、調査区も工事が実施される区域のみであったため、この変遷が推測の域を完全には脱しきれないことはどうしても否めない。

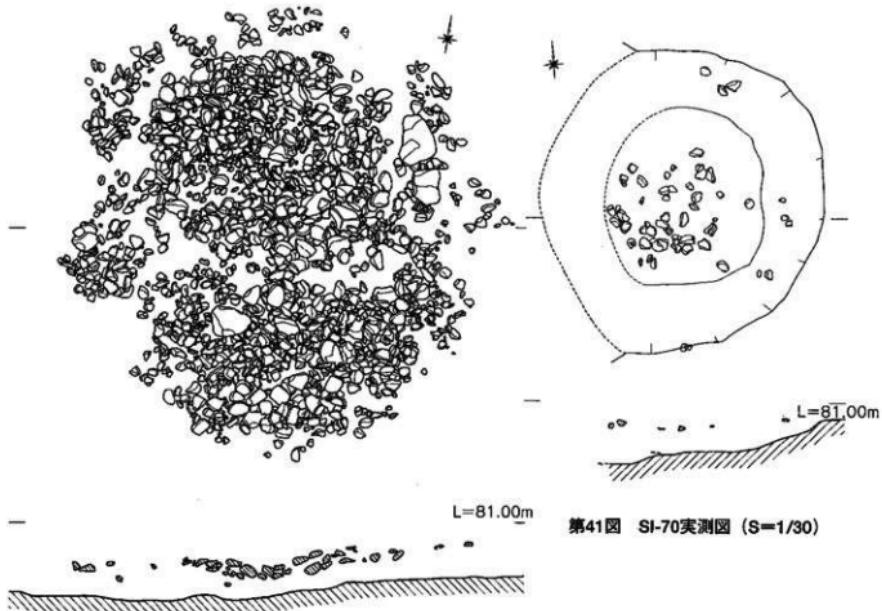


第38図 SI-61実測図 (S=1/30)



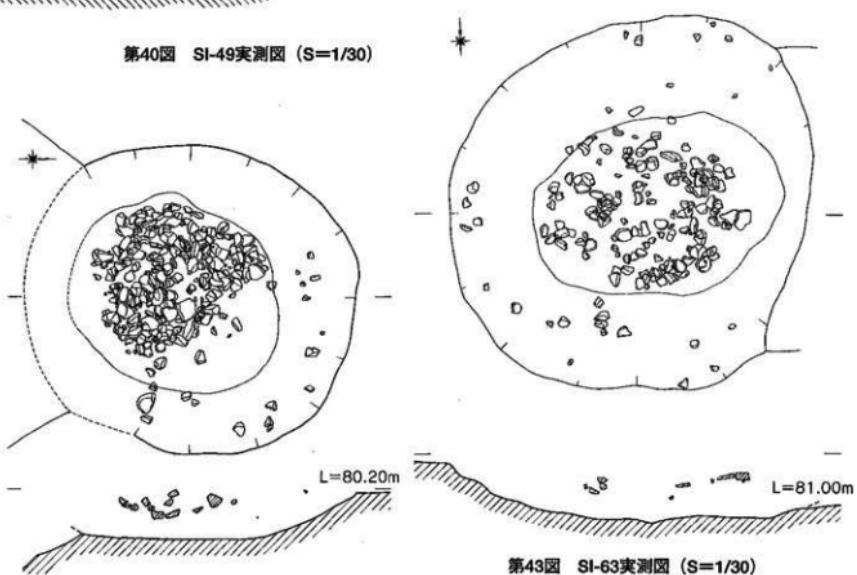
第39図 SI-36実測図 (S=1/30)





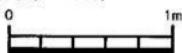
第41図 SI-70実測図 (S=1/30)

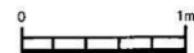
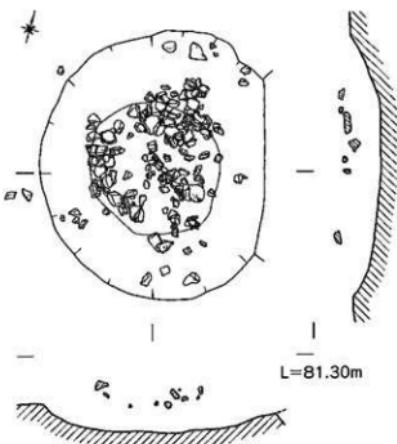
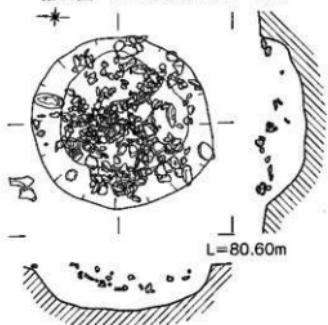
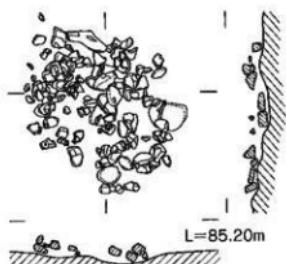
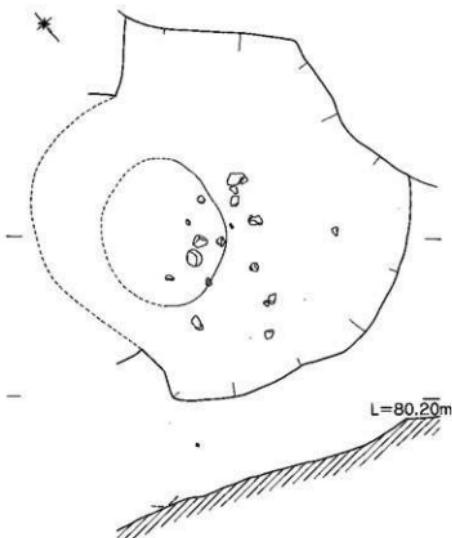
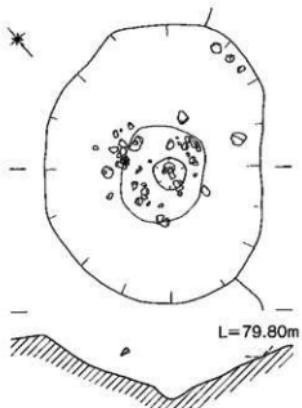
第40図 SI-49実測図 (S=1/30)



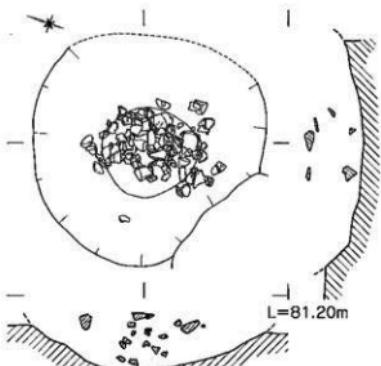
第42図 SI-60実測図 (S=1/30)

第43図 SI-63実測図 (S=1/30)

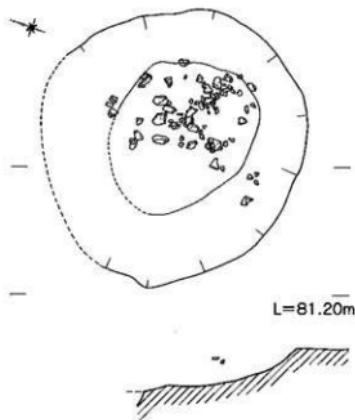




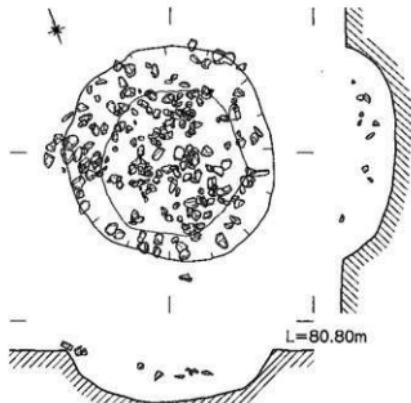
SI-18実測図 (S=1/30)



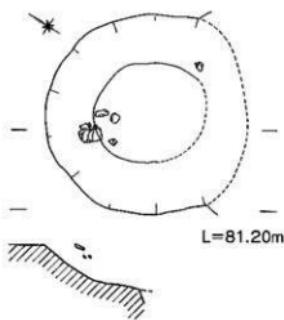
第49図 SI-50実測図 (S=1/30)



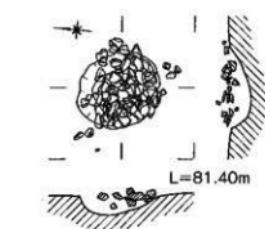
第50図 SI-54実測図 (S=1/30)



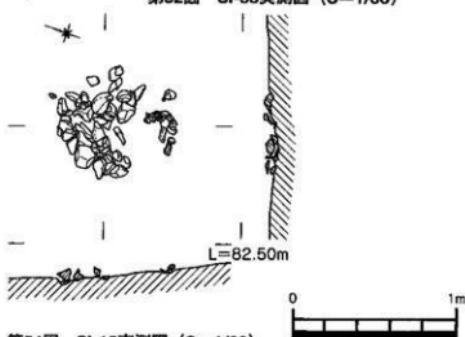
第51図 SI-7実測図 (S=1/30)

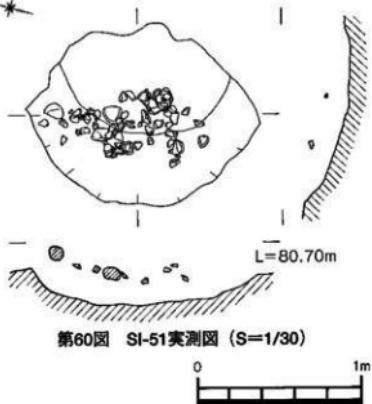
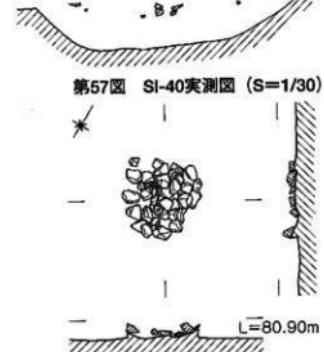
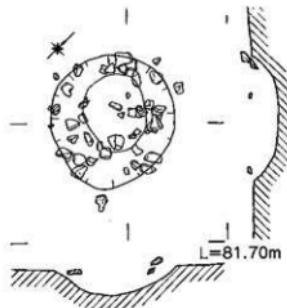
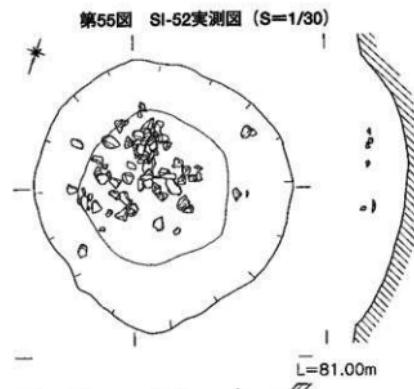
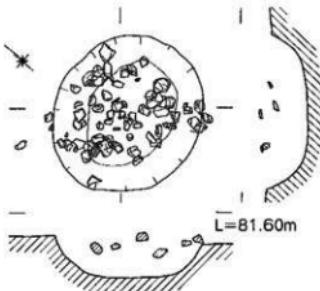
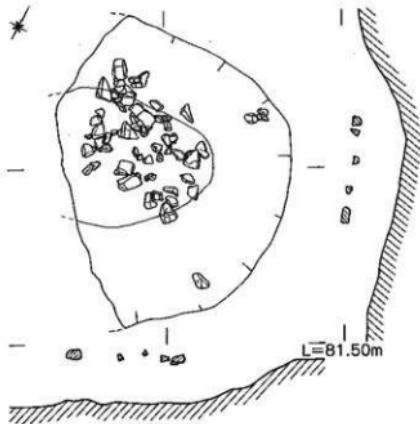


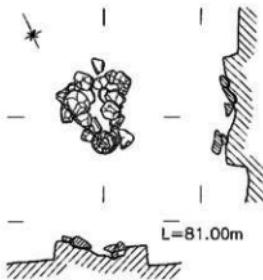
第52図 SI-55実測図 (S=1/30)



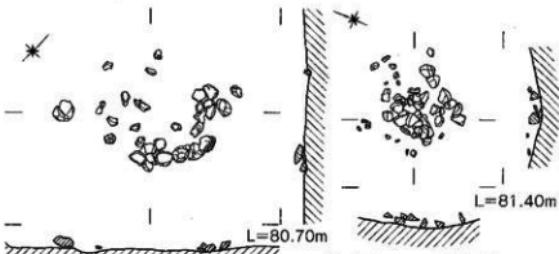
第53図 SI-34実測図 (S=1/30)



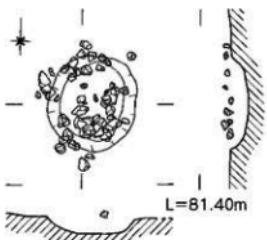




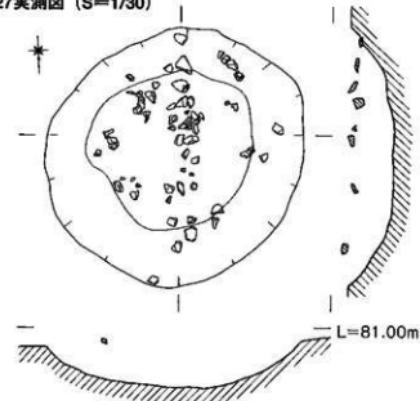
第61図 SI-23実測図 (S=1/30)



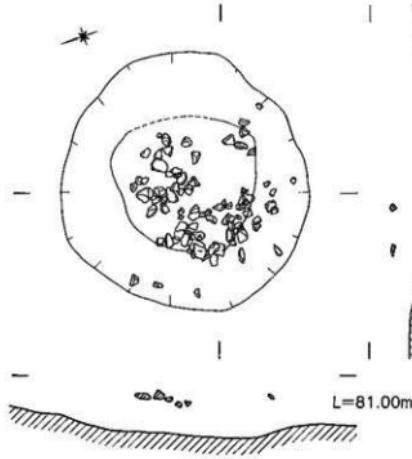
第62図 SI-27実測図 (S=1/30)



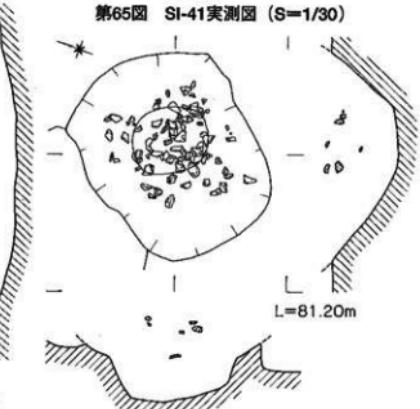
第64図 SI-30実測図 (S=1/30)



第65図 SI-41実測図 (S=1/30)

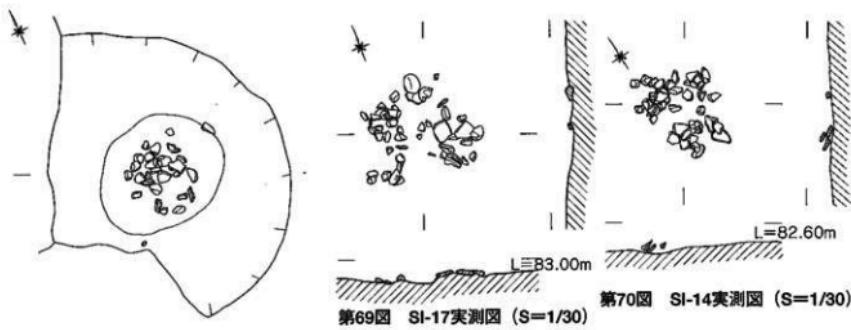


第66図 SI-32実測図 (S=1/30)

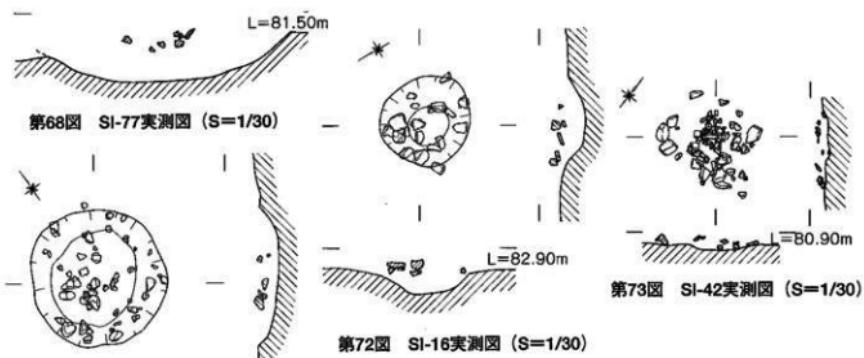


第67図 SI-47実測図 (S=1/30)

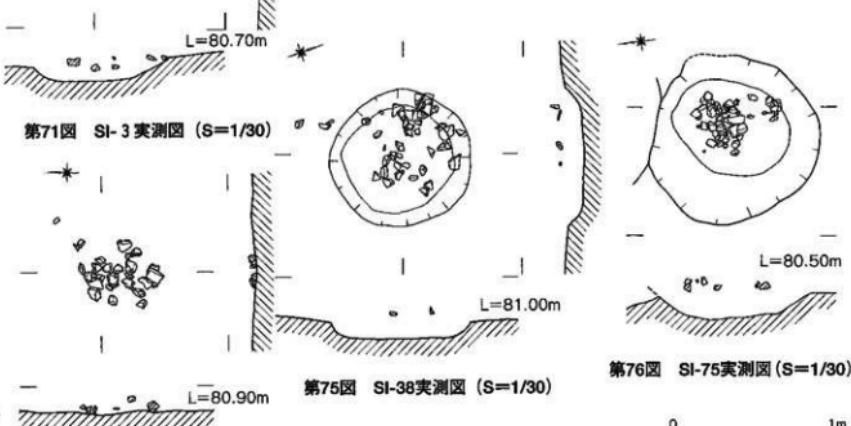




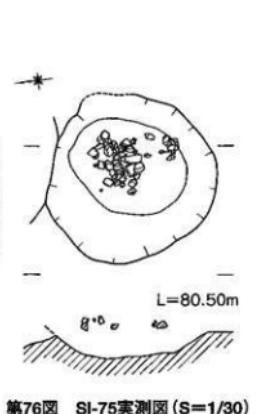
第70図 SI-14実測図 (S=1/30)



第73図 SI-42実測図 (S=1/30)

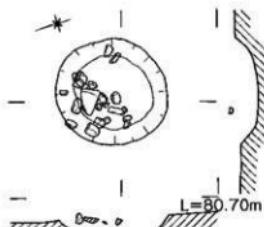


第75図 SI-38実測図 (S=1/30)

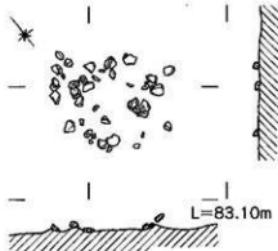


第74図 SI-25実測図 (S=1/30)

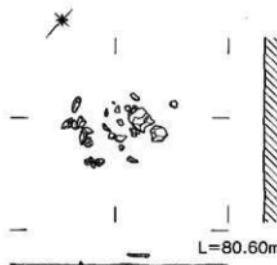




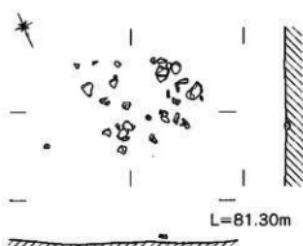
第77図 SI-6 実測図 (S=1/30)



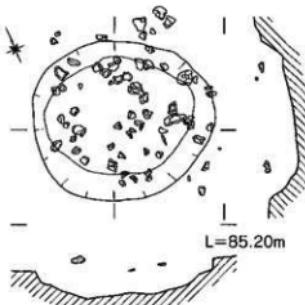
第78図 SI-20 実測図 (S=1/30)



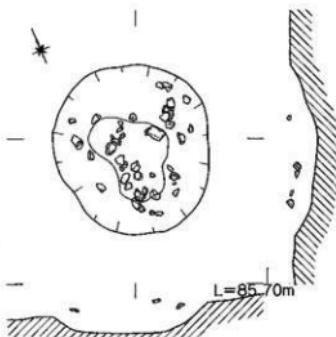
第79図 SI-29 実測図 (S=1/30)



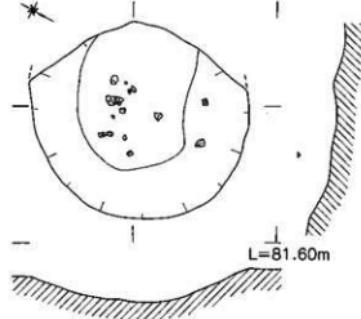
第80図 SI-26 実測図 (S=1/30)



第81図 SI-12 実測図 (S=1/30)

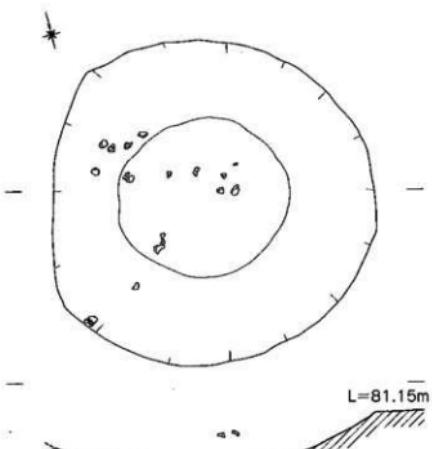


第82図 SI-11 実測図 (S=1/30)

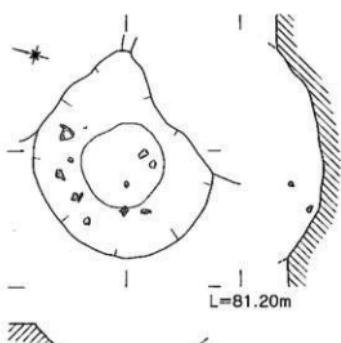


第83図 SI-53 実測図 (S=1/30)

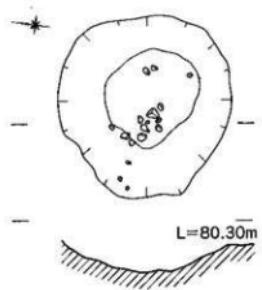




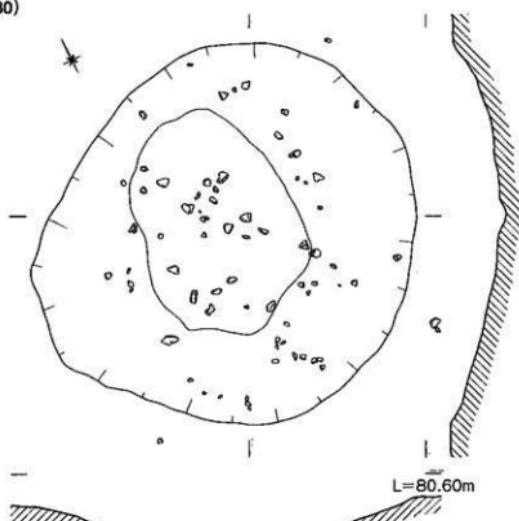
第84図 SI-69実測図 (S=1/30)



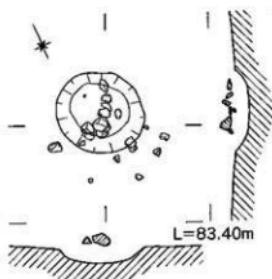
第85図 SI-48実測図 (S=1/30)



第86図 SI-72実測図 (S=1/30)



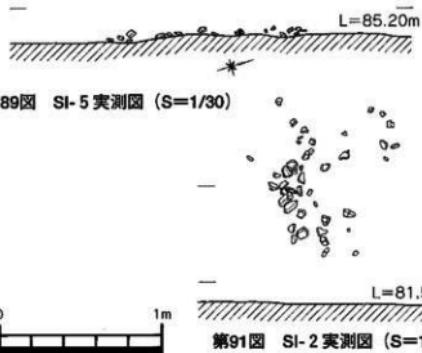
第88図 SI-78実測図 (S=1/30)



第87図 SI-22実測図 (S=1/30)



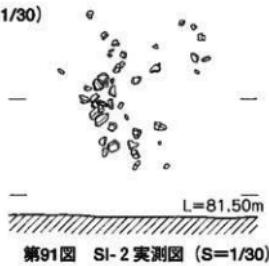
第89図 SI-5 実測図 (S=1/30)



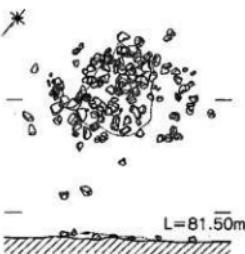
第90図 SI-1 実測図 (S=1/30)



第91図 SI-2 実測図 (S=1/30)



第92図 SI-4 実測図 (S=1/30)



第2表 集石遺構観察表

番号	検出層	グリッド	C <sup>14</sup> 年代 (年BP)	縦分布 (直径)	総標数 (個)	総重量 (kg)	掘込み (有・無)	掘込み上場の 直角距離 (m)	掘込みさ (m)	底石 (有・無)	炭化物 (有・無)	共伴土層 (有・無)	共伴石層 (有・無)
SI-65	VI	G	9520±40	1.3	1127	75	○	2.0	0.6	×	○	×	×
SI-73	VI	G	9580±40	1.6	1236	62	○	2.2	0.5	×	○	○	×
SI-43	VI	G		1.4	854	41	○	2.5	0.5	×	△	○	○
SI-71	VI	G	9520±50	1.3	645	26	○	1.5	0.4	×	○	○	×
SI-58	VI	G		1.2	315	24	○	1.8	0.5	×	△	×	×
SI-44	VI	G		1.3	413	19	○	2.0	0.4	×	△	×	×
SI-59	VI	G		0.8	208	17	○	1.5	0.3	×	△	×	×
SI-74	VI	G		1.2	228	15	○	2.1	0.5	×	△	×	×
SI-76	VI	G		1.3	231	8	○	2.0	0.2	×	△	×	×
SI-57	VI	G	8340±40	1.7	931	236	○	2.4	0.5	○	○	○	○
SI-39	VI	G	8250±40	1.2	365	108	○	1.8	0.3	○	○	○	×
SI-8	VI	C	8700±40	1.8	899	107	○	1.9	0.5	○	○	×	×
SI-45	VI	G	8300±40	1.0	504	96	○	2.0	0.5	○	○	○	×
SI-21	VI	A		1.0	514	68	○	1.1	0.3	○	△	×	×
SI-28	VI	D	8770±50	1.1	210	58	○	1.1	0.5	○	○	×	×
SI-62	VI	G	8380±40	2.4	381	53	○	2.4	0.4	○	○	○	×
SI-61	VI	G	8360±50	1.5	—	—	○	2.7	0.5	×	○	×	×
SI-46	VI	G		1.5	497	97	○	2.5	0.5	△	△	○	○
SI-31	VI	G		1.5	288	48	○	1.3	0.3	△	△	○	×
SI-19	VI	B		0.8	142	9	○	1.2	0.3	△	△	○	×
SI-68	VI	G	8320±40	1.3	—	—	○	2.2	0.5	△	○	○	○
SI-60	VI	G		1.0	—	—	○	2.0	0.3	×	△	○	×
SI-66	VI	G		1.0	—	—	○	2.3	0.5	×	△	×	×

番号	検出層	グリッド	C14年代	礫分布 (直徑)	総礫数 (個)	総重量 (kg)	掘込み 有・無	掘込み上端の 直徑(m)	掘込み深さ (m)	底石 (有・無)	炭化物 (有・無)	共伴土器 (有・無)	共伴石器 (有・無)
SI-67	VI	G	8630±40	0.8	—	—	○	1.7	0.5	×	○	○	×
SI-49	VI	G		2.7	2656	412	△	—	—	×	△	○	×
SI-36	VI	G		1.2	193	33	○	1.4	0.3	×	△	○	×
SI-63	VI	G		1.1	243	29	○	2.3	0.5	×	△	×	×
SI-70	VI	G		0.7	—	—	○	1.9	0.3	×	△	×	×
SI-13	VI	B		1.1	105	27	△	1.1	0.1	×	△	○	×
SI-50	VI	G		0.8	152	19	○	1.4	0.3	×	△	×	×
SI-18	VI	C	8730±40	1.1	320	19	○	1.1	0.3	×	○	○	×
SI-56	VI	G		1.0	168	19	○	1.6	0.3	×	△	×	×
SI-54	VI	G	8420±40	0.8	100	18	○	1.7	0.3	×	○	○	○
SI-7	VI	C	8720±50	1.4	232	17	○	1.3	0.3	×	○	×	×
SI-55	VI	G		—	—	—	○	1.3	0.3	×	△	×	×
SI-15	VI	A	8730±40	0.8	71	14	×	—	—	×	○	×	×
SI-34	VI	G		0.5	135	14	○	0.6	0.2	×	△	○	×
SI-52	VI	G		1.0	75	13	○	1.8	0.4	×	△	×	×
SI-35	VI	G		0.9	82	12	○	1.0	0.3	×	△	×	×
SI-23	VI	D		0.6	24	11	×	—	—	×	×	×	×
SI-24	VI	D		0.5	42	11	×	—	—	×	×	×	×
SI-40	VI	G		1.1	80	9	○	1.6	0.4	×	△	○	×
SI-37	VI	G		0.8	45	8	○	1.0	0.2	×	△	○	×
SI-51	VI	G		1.0	76	8	○	1.5	0.3	×	△	×	×
SI-27	VI	D		1.1	33	7	×	—	—	×	×	○	×
SI-30	VI	G		0.7	53	6	○	0.8	0.2	×	△	×	×
SI-32	VI	G		0.9	89	7	○	1.6	0.3	×	△	○	×
SI-33	VI	G		0.6	58	7	△	0.8	0.2	×	△	○	×
SI-47	VI	G	8290±40	0.8	87	6	○	1.3	0.5	×	○	×	×
SI-41	VI	G		1.4	66	6	○	1.6	0.3	×	△	×	×
SI-17	VI	A		0.8	49	5	×	—	—	×	×	×	×
SI-14	VI	A		0.6	41	5	×	—	—	×	×	×	×
SI-3	VI	C		0.8	54	5	○	0.9	0.1	×	△	×	×
SI-77	VI	G		0.5	31	4	○	1.5	0.4	×	△	×	×
SI-16	VI	A		0.5	24	4	○	0.6	0.1	×	△	×	×
SI-25	VI	D		0.5	31	4	×	—	—	×	×	×	×
SI-38	VI	E		0.7	42	4	○	0.9	0.1	×	△	×	×
SI-42	VI	G		0.7	79	4	×	0.7	0.2	×	△	○	×
SI-20	VI	A		0.7	42	4	×	—	—	×	×	○	×
SI-6	VI	C		0.6	27	3	○	0.7	0.1	×	△	×	×
SI-12	VI	B		1.1	53	3	○	1.1	0.2	×	△	×	×
SI-29	VI	D		0.7	30	3	×	—	—	×	×	×	×
SI-75	VI	G		0.6	51	3	○	1.1	0.2	×	△	×	×
SI-72	VI	G		0.6	—	—	○	1.1	0.2	×	△	×	×
SI-69	VI	G		0.9	53	2	○	2.0	0.3	×	△	×	×
SI-22	VI	A		0.5	18	2	○	0.5	0.1	×	△	○	×
SI-11	VI	B		0.8	46	2	○	1.1	0.2	×	△	○	×
SI-26	VI	E		0.8	37	2	×	—	—	×	×	×	×
SI-48	VI	G		0.6	11	1	○	1.3	0.3	×	△	×	×
SI-53	VI	G		0.5	14	1	○	1.4	0.3	×	△	○	○
SI-78	VI	D		2.3	76	—	○	2.4	0.3	×	△	×	×
SI-5	V	B		1.4	161	8	×	—	—	×	×	×	×
SI-4	V	B		0.9	158	7	×	—	—	×	×	×	×
SI-1	V	B		1.1	137	3	×	—	—	×	×	×	×
SI-2	V	B		1.0	51	3	×	—	—	×	×	×	×

## 2. 炉穴

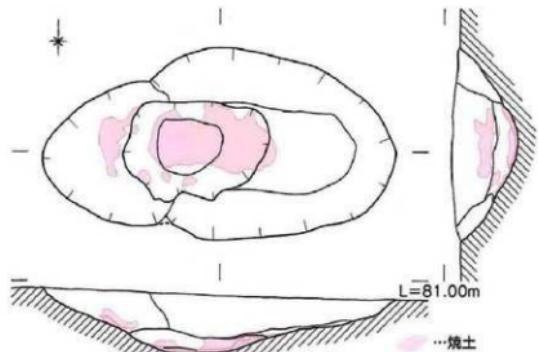
G区において3基の炉穴が検出されている。検出面はいずれも6層中位であったが、プランが不明瞭であったため6層下位まで検出面を下げ、遺構の記録作業を行った。

### SC-11

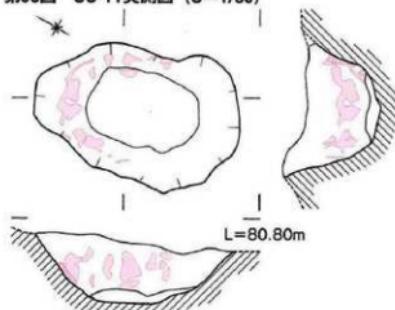
平面プランは長軸2.2m・短軸1.2mの舟形で、長軸にはブリッジが存在したと推測されるくびれ部が確認できた（検出面からの深さについては0.35m）。壁面の傾斜については、足場から燃焼部にかけて緩やかに下っていて、燃焼部から煙道部にかけては緩やかに立ち上がっていった。又、焼土については燃焼部床面から煙道部にかけて残存していたが、炭化材等は検出されなかつた（炭化粒は全体に含んでいたが）。尚、埋土については、暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム土に褐色（10YR4/4）シルト質ロームの小ブロック（5mm～1cm）及び霧島・小林火山灰の小ブロック（5mm～1cm）を10%程含んだかなり硬質なものであった。

### SC-14

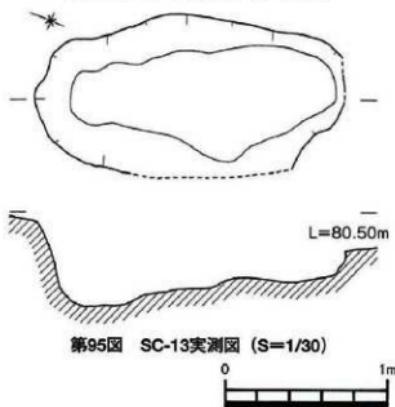
平面プランは長軸1.3m・短軸0.9mの橢円形であるが、4基の集石遺構と切り合った状態で検出されたためプランの全容は確認できなかつた（検出面からの深さについては0.4m）。壁面の傾斜については、足場から燃焼部にかけてやや緩やかに下っていて、燃焼部から煙道部にかけては足場に比べるとやや急に立ち上がつていた。又、焼土については、燃焼部床面から煙道部にかけて残存しており、炭化材について



第93図 SC-11実測図 (S=1/30)



第94図 SC-14実測図 (S=1/30)



第95図 SC-13実測図 (S=1/30)



も極小破片ながらわずかに検出された。尚、その炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ  $8270 \pm 40$  年 BP という結果が得られ、又、同炭化材について樹種同定を行ったところ、この炭化材はコナラ属コナラ節であることが判明した。

### SC-13

平面プランは長軸 1.9m・短軸 1.0m の橢円形で、足場が SI-76 によって一部削平されていた（検出面からの深さについては 0.55m）。又、長軸にはブリッジが存在したと推測されるくびれ部が確認され、壁面の傾斜については長軸方向・短軸方向共にほぼ垂直に立ち上がっていた。

尚、焼土については検出されなかつたが、炭化材については極小破片ながらわずかに検出されたため、その炭化材について放射性炭素年代測定を行つたところ  $9660 \pm 40$  年 BP という結果が得られた。

### 3. 土坑

6層下位において、5基の土坑が検出された。

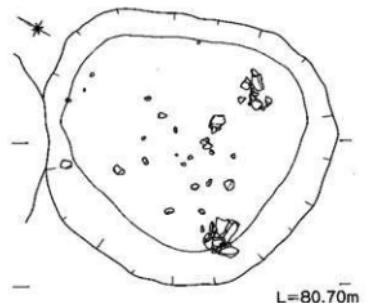
### SC-12

平面プランは直径 1.8m の円形で、検出面からの深さは 0.3m であった。

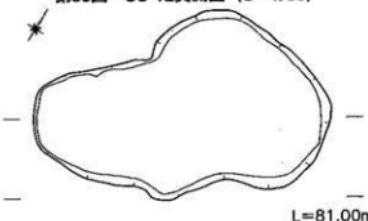
遺構の埋土からは燃糸文系の塞ノ神式土器及び同形式の壺等が出土した。（70 ページ第 103 図参照）又、炭化材もわずかに検出されたため、放射性炭素年代測定を行つたところ  $7830 \pm 40$  年 BP という結果が得られた。

### SC-3

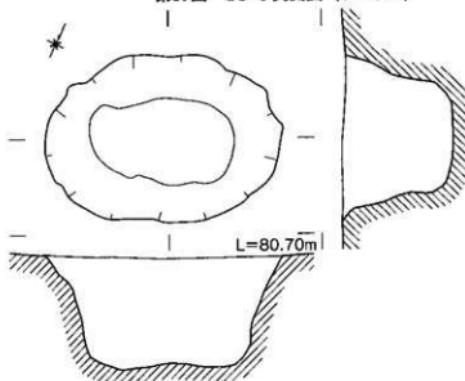
平面プランは長軸 1.85m・短軸 1.1m の不整形な長楕円形を呈する。又、検出面からの深さについては 0.1m であつ



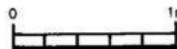
第96図 SC-12 実測図 (S=1/30)



第97図 SC-3 実測図 (S=1/30)



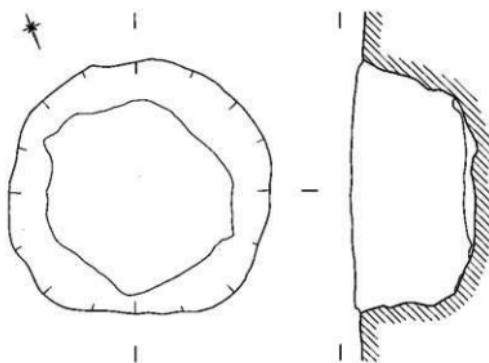
第98図 SC-4 実測図 (S=1/30)



た。用途等は不明である。

#### SC-4

平面プランは長軸1.5m・短軸1mの橢円形で、検出面からの深さについては0.8mであった。用途については、その形状から推測すると陥し穴ではないかとも思われるが、逆茂木痕が確認されていないので断定はできない。



#### SC-2

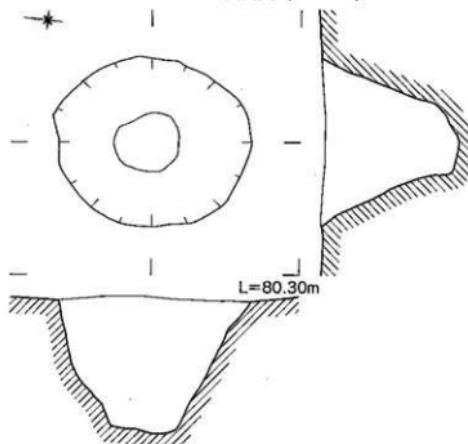
平面プランは直径1.6mの円形で、検出面からの深さについては0.7mであった。埋土中からは塞ノ神式土器の小破片が出土しているが、用途については不明である。



第99図 SC-2 実測図 (S=1/30)

#### SC-6

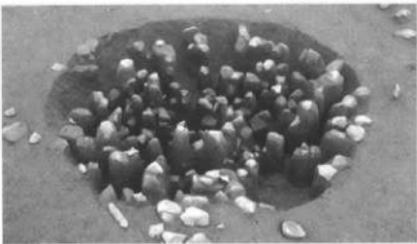
平面プランは長軸1.2m・短軸1.05mの橢円形で、検出面からの深さは0.9mであった。用途については、SC-4同様陥し穴ではないかと推測されるが、逆茂木痕が確認されていないので断定はできない。



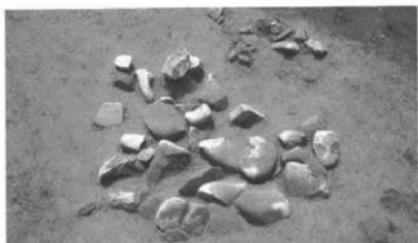
第100図 SC-6 実測図 (S=1/30)



図版18 SI-18（西から）



図版19 SI-7（西から）



図版20 SI-15（南から）



図版21 SI-30（東から）



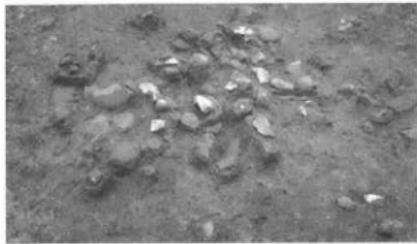
図版22 SI-36（北東から）



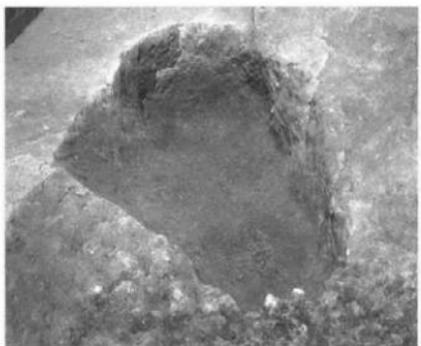
図版23 SI-49（南から）



図版24 SI-2（西から）



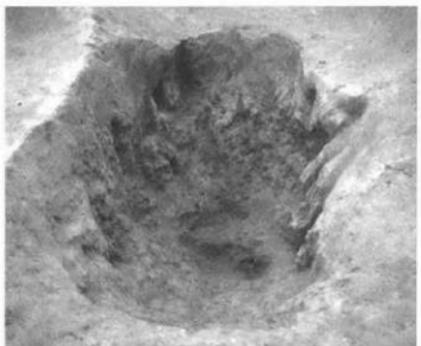
図版25 SI-4（北から）



図版26 SC-13（南から）



図版27 SC-11（東から）



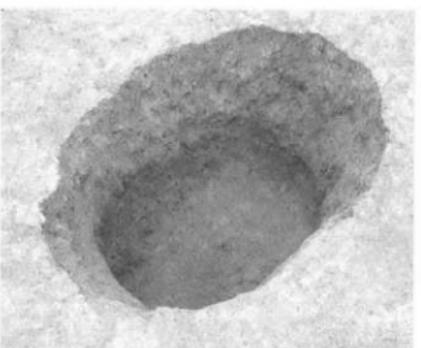
図版28 SC-14（南から）



図版29 SC-12（東から）



図版30 SC-2（北から）



図版31 SC-4（東から）

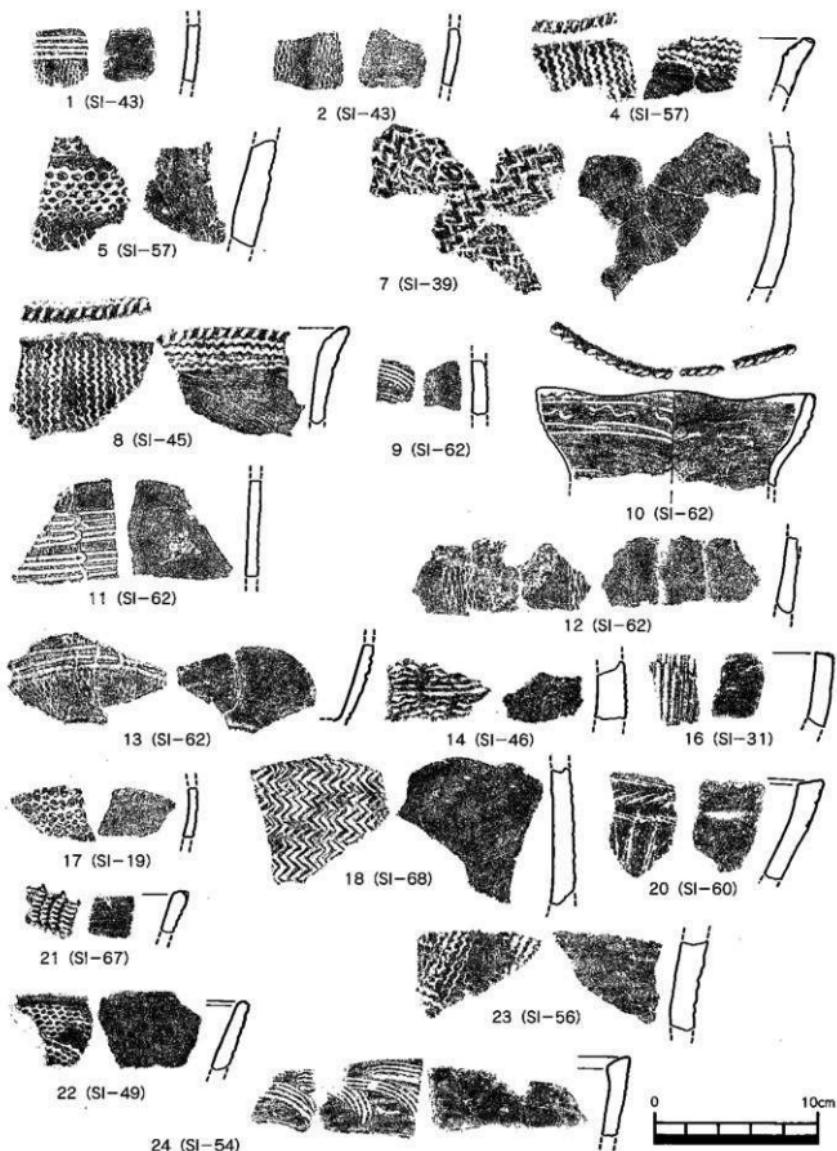
#### 4. 遺構内遺物

集石遺構（32基）から108点、炉穴（1基）から3点、土坑（3基）から13点、計124点の遺物が出土した。

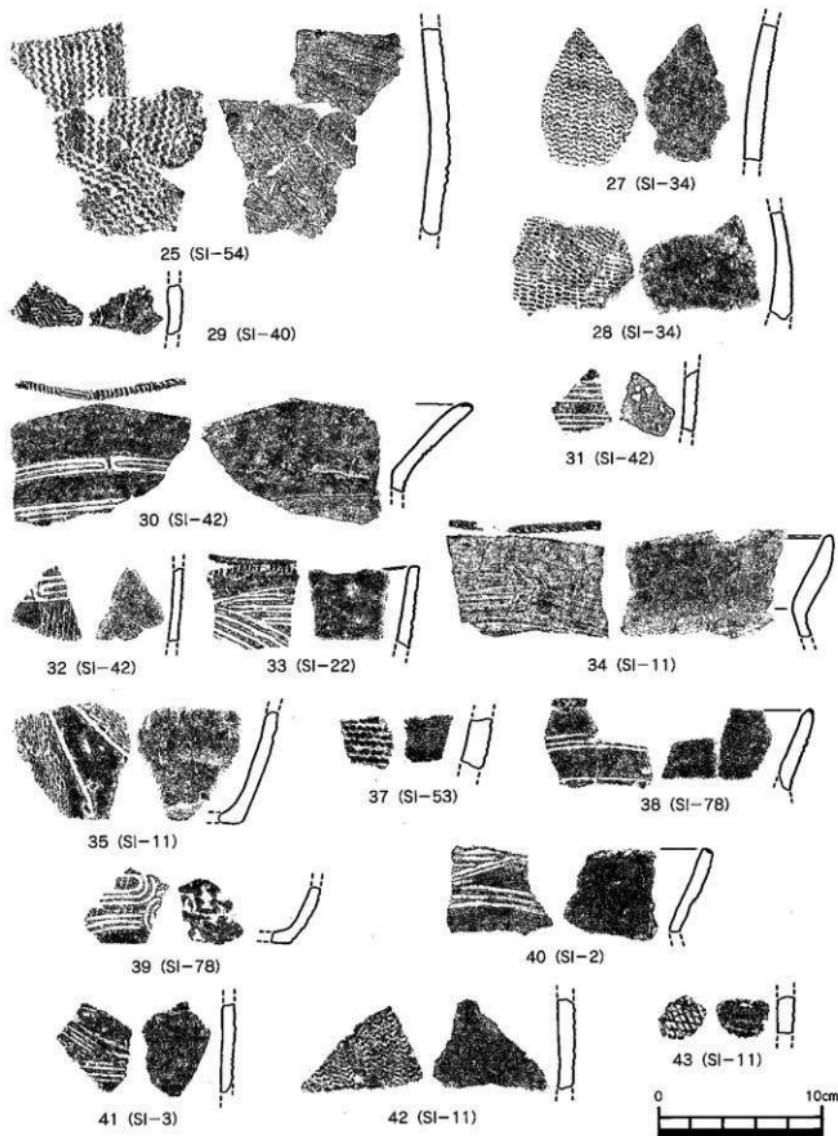
土器については、貝殻円筒系土器、押型文系土器、塞ノ神式系土器が出土しているが、遺構の使用時期を裏付けるようなものはほとんど出土していない。但し、SC-12については、撲糸文系の塞ノ神式土器片と同形式の壺が出土しており、埋土中より採取された炭化材の自然科学分析結果（ $7830 \pm 40$ 年BP）とあわせて考えると興味深い資料である。

第3表 遺構内出土遺物一覧表

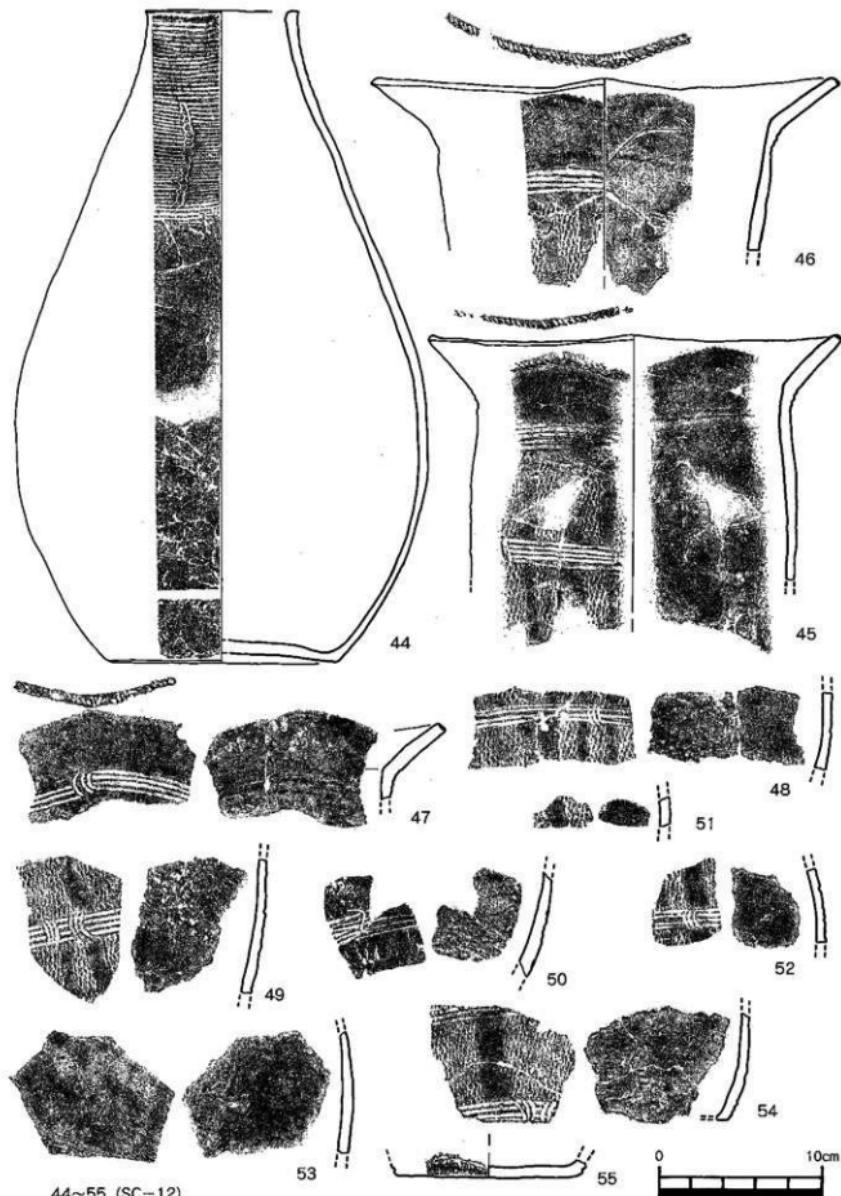
遺構番号	出土遺物 * ( ) 内は出土点数	遺物番号		備考	放射性炭素年代 (年BP)
		土器	石器		
SI-73	形式不明土器 (1)				9580±40
SI-43	塞ノ神式土器 (3)・形式不明土器 (3) 石鏃 (1)	1・2	3	石材は砂岩	
SI-71	塞ノ神式土器 (3)・形式不明土器 (1)				9520±50
SI-57	押型文土器 (3) 剥片 (1)	4・5	6	石材はチャート	8340±40
SI-39	押型文土器 (1)	7			
SI-45	押型文土器 (1)	8			8300±40
SI-62	貝殻円筒系土器 (1)・塞ノ神式土器 (5)・形式不明土器 (1)	9～13			8380±40
SI-46	押型文土器 (1) 石核 (1)・碎片 (1)	14	15	石核の石材は流紋岩	
SI-31	貝殻円筒系土器 (1)	16			
SI-19	押型文土器 (1)	17			
SI-68	押型文土器 (1)・塞ノ神式土器 (1)・形式不明土器 (1) 石鏃 (1)	18	19	石材は黒曜石 (慶岳産)	
SI-60	貝殻円筒系土器 (1)	20			
SI-67	貝殻円筒系土器 (1)・形式不明土器 (3)	21			
SI-49	押型文土器 (3)・形式不明土器 (2)	22			
SI-13	形式不明土器 (13)				
SI-50	碎片 (1)			石材は黒曜石 (島木津産)	
SI-18	形式不明土器 (1)				
SI-56	押型文土器 (1)	23			
SI-54	貝殻円筒系土器 (1)・押型文土器 (1) 剥片 (1)・碎片 (3)	24・25	26	剥片の石材は黒曜石 (島木津産)	
SI-34	押型文土器 (3)・形式不明土器 (1)	27・28			
SI-40	貝殻円筒系土器 (1)	29			
SI-37	形式不明土器 (7)				
SI-27	形式不明土器 (1)				
SI-32	形式不明土器 (2)				
SI-33	形式不明土器 (3)				
SI-42	塞ノ神式土器 (14)	30～32			
SI-20	形式不明土器 (1)				
SI-22	形式不明土器 (1)	33			
SI-11	塞ノ神式土器 (2)	34・35			
SI-48	石鏃 (1)		36	石材は流紋岩	
SI-53	押型文土器 (2) 碎片 (1)		37	石材はチャート	
SI-78	塞ノ神式土器 (2)	38・39			
SC-2	塞ノ神式土器 (1)	40			
SC-3	貝殻条痕文土器 (1)	41			
SC-11	押型文土器 (2) 碎片 (1)	42・43		石材はチャート	
SC-12	塞ノ神式土器 (撲糸文) (11)・☆塞ノ神式土器蚕	44～55			



第101図 遺構内遺物実測図① (S=1/3)

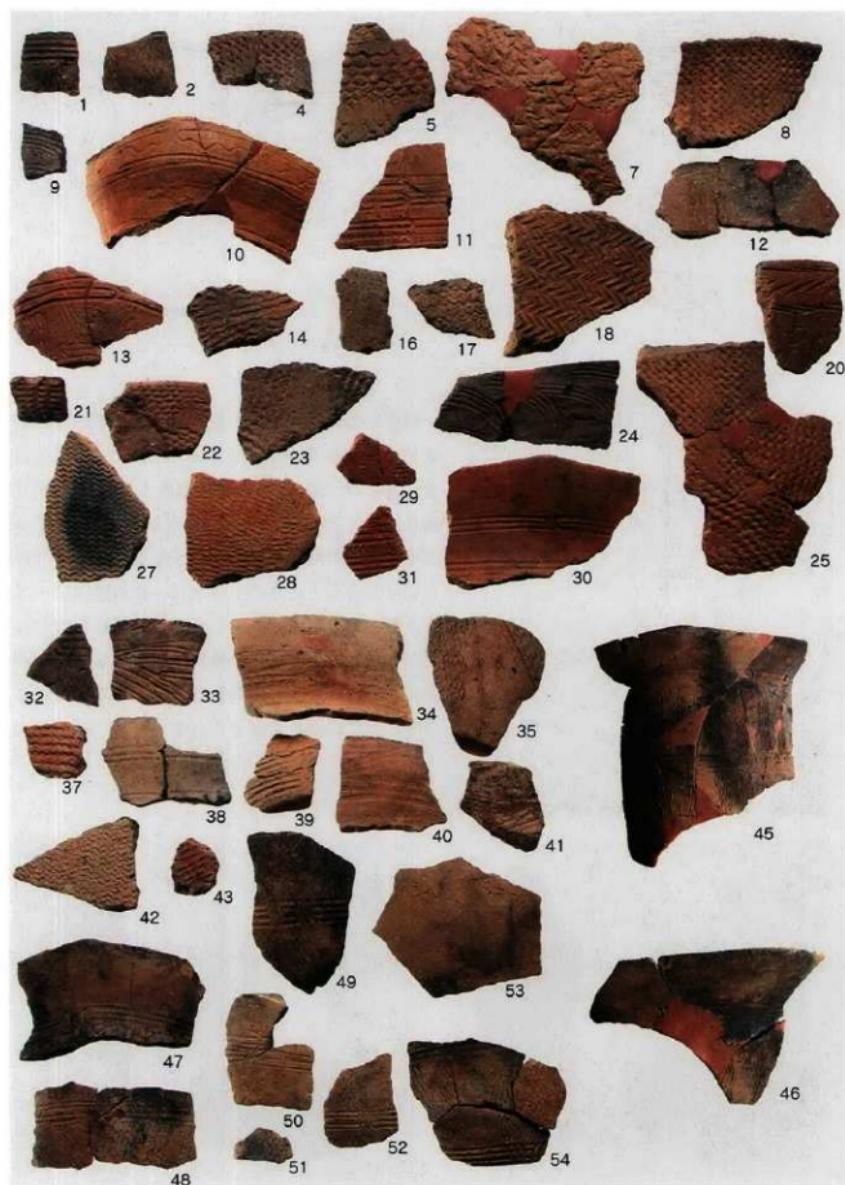


第102図 遺構内遺物実測図② (S=1/3)

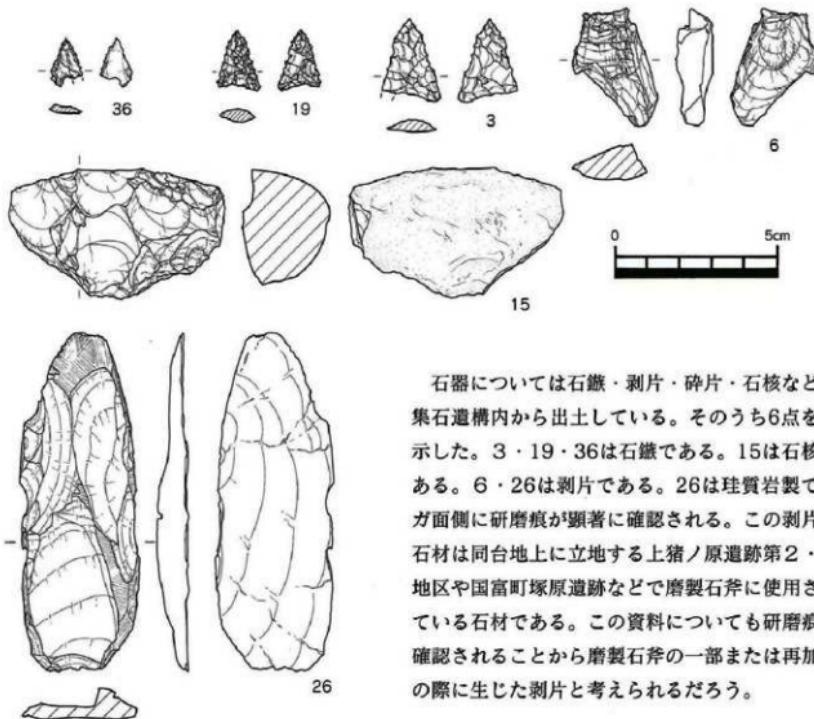


44~55 (SC-12)

第103図 遺構内遺物実測図③ (S=1/3)



図版32 遺構内出土土器



石器については石鏃・剥片・碎片・石核などが集石遺構内から出土している。そのうち6点を図示した。3・19・36は石鏃である。15は石核である。6・26は剥片である。26は珪質岩製でネガ面側に研磨痕が顕著に確認される。この剥片の石材は同台地上に立地する上猪ノ原遺跡第2・3地区や国富町塚原遺跡などで磨製石斧に使用されている石材である。この資料についても研磨痕が確認されることから磨製石斧の一部または再加工の際に生じた剥片と考えられるだろう。

第104図 遺構内遺物実測図④ (S=2/3)



図版33 遺構内出土石器（表面）



図版34 遺構内出土石器（裏面）

第4表 遺構内出土土器観察表

遺構	遺物	部位	文様及び調整		色調		胎土					胎土	遺物整理No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	シカモ	コウモ	角閃石	砂粒		
SI-43	1	肩部	撫糸文 沈縫文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	○		○		○	1mm以下		842
	2	肩部	撫糸文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/2 灰黄褐色	○	○				2mm以下		836
SI-57	4	口縁部	山形押型文	山形押型文	7.5YR5/3 灰オリーブ	10YR5/2 灰黄褐色	○	○				1mm以下	口唇部に連續キサミ	827
	5	肩部	横円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	5YR5/3 灰褐色	○	○				2mm以下		826
SI-39	7	肩部	山形押型文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐色	5YR5/2 灰褐色	○	○				2mm以下		820
SI-45	8	口縁部	山形押型文	ナデ[+墨タリ]	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○	○			2mm以下		823
SI-62	9	肩部	貞版押引	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	○	○	○			1mm以下		860
	10	口縁部	沈縫文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	○	○	○			1mm以下	口唇部に連續キサミ	858
SI-11	11	肩部	撫糸文 沈縫文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○			2mm以下		837
SI-12	12	肩部	撫糸文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○				3mm以下		844
SI-13	13	肩部～底部	撫糸文 沈縫文	ナデ	5YR5/3 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○	○			2mm以下		839
SI-46	14	肩部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR7/1 明褐灰	○	○	○			4mm以下		821
SI-31	16	口縁部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	○	○	○			1mm以下		840
SI-19	17	肩部	横円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○				3mm以下		841
SI-68	18	肩部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	○	○	○			5mm以下		818
SI-60	20	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○			2mm以下		824
SI-67	21	口縁部	貝殻押引文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○				3mm以下		829
SI-49	22	口縁部	横円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○			2mm以下		828
SI-56	23	肩部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○			3mm以下		819
SI-54	24	口縁部	貝殻押引文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○			2mm以下		843
SI-25	25	肩部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/2 灰黄褐色	○	○	○			2mm以下		845
SI-34	27	肩部	山形押型文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	3mm以下		838
SI-40	28	肩部	横円押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○				3mm以下		830
SI-40	29	肩部	山形押型文	ナデ	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	○	○				2mm以下		825
SI-42	30	口縁部	沈縫文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい黄褐色	○	○				2mm以下	波状口縁	268
SI-42	31	肩部	撫糸文 沈縫文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい黄褐色	○	○				2mm以下		834
SI-42	32	肩部	撫糸文 沈縫文	ナデ	2.5YR4/2 暗灰褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○			2mm以下		833
SI-22	33	口縁部	沈縫文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○	○			2mm以下		832
SI-11	34	口縁部	黒帯織(サザン) ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○	○			2mm以下		822
SI-35	35	肩部～底部	撫糸文 沈縫文	ナデ	7.5YR5/3 灰オリーブ	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○				2mm以下		831
SI-53	37	肩部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/2 灰褐色	○	○	○	○	○	2mm以下		835
SI-78	38	口縁部	沈縫文 ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○			2mm以下		856
SI-78	39	肩部～底部	沈縫文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○				2mm以下		846
SC-2	40	口縁部	沈縫文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○			1mm以下		855
SC-3	41	肩部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	2.5YR5/2 暗灰褐色	○	○				2mm以下		851
SC-3	42	肩部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	2.5YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	4mm以下		853
SC-11	43	肩部	格子目押型文	ナデ	SYR4/3 にぶい赤褐色	7.5YR4/3 にぶい赤褐色	○	○				2mm以下		862

遺構	遺物	部位	文様及び調整		色調		胎土					胎土	遺物整理No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	カリモ	カクモ	角閃石	砂粒		
SC-12	44	口縁部～底部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○				○ 2mm以下	1/2cm×2cm, 厚さ0.2cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	308
	45	口縁部～底部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○			○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	864
	46	口縁部～底部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/2 灰褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○				○ 4mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	863
	47	口縁部～底部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	○	○	○	○	○	○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	861
	48	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/2 灰褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○				○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	854
	49	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/2 灰褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○			○	○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	847
	50	肩部	沈線文 手付斜痕文	ケズリ	7.5YR6/3 オリーブ黃	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	848
	51	肩部	撫糸文	ナデ	2.5Y5/2 灰褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○				○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	849
	52	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR7/1 明褐色	2.5Y5/2 暗灰褐色	○	○				○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	857
	53	肩部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○		○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	850
	54	肩部～底部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YN5/3 にぶい褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○				○ 2mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	852
	55	底部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	○		○ 1mm以下	厚さ1.5cm, 長さ15cm 厚さ1.5cm, 長さ25cm	859

第5表 造構内出土遺物石器計測分類表

遺構番号	遺物No.	整理No.	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
SI-43	3	43	打製石器	砂岩	2.6	(1.8)	0.4	(1.3)	脚部欠損
SI-57	6	142	剥片	チャート	3.7	2.7	1.1	8.5	
SI-46	15	147	石核	流紋岩	4	6.7	2.7	73	
SI-68	19	45	打製石器	黒曜石(腰岳)	1.9	1.3	0.4	0.5	
SI-54	26	877	剥片	頁岩	10.55	3.65	0.9	29.4	
SI-48	36	44	打製石器	頁岩	1.5	(1.0)	0.3	(0.1)	脚部欠損

### 第3節 包含層出土遺物

#### 1. 土器

出土土器については、以下の5類に分類し述べていくこととする。

I類・貝殻文系土器 (a. 貝殻円筒系土器 b. 下剥峯式土器 c. 桑ノ丸式土器)

II類・押型文土器 (a. 山形文 b. 橋円文 c. 格子目文 d. 手向山式土器)

III類・平折式土器

IV類・塞ノ神式土器 (a. 壺 b. 撫糸文 c. 貝殻文 d. その他)

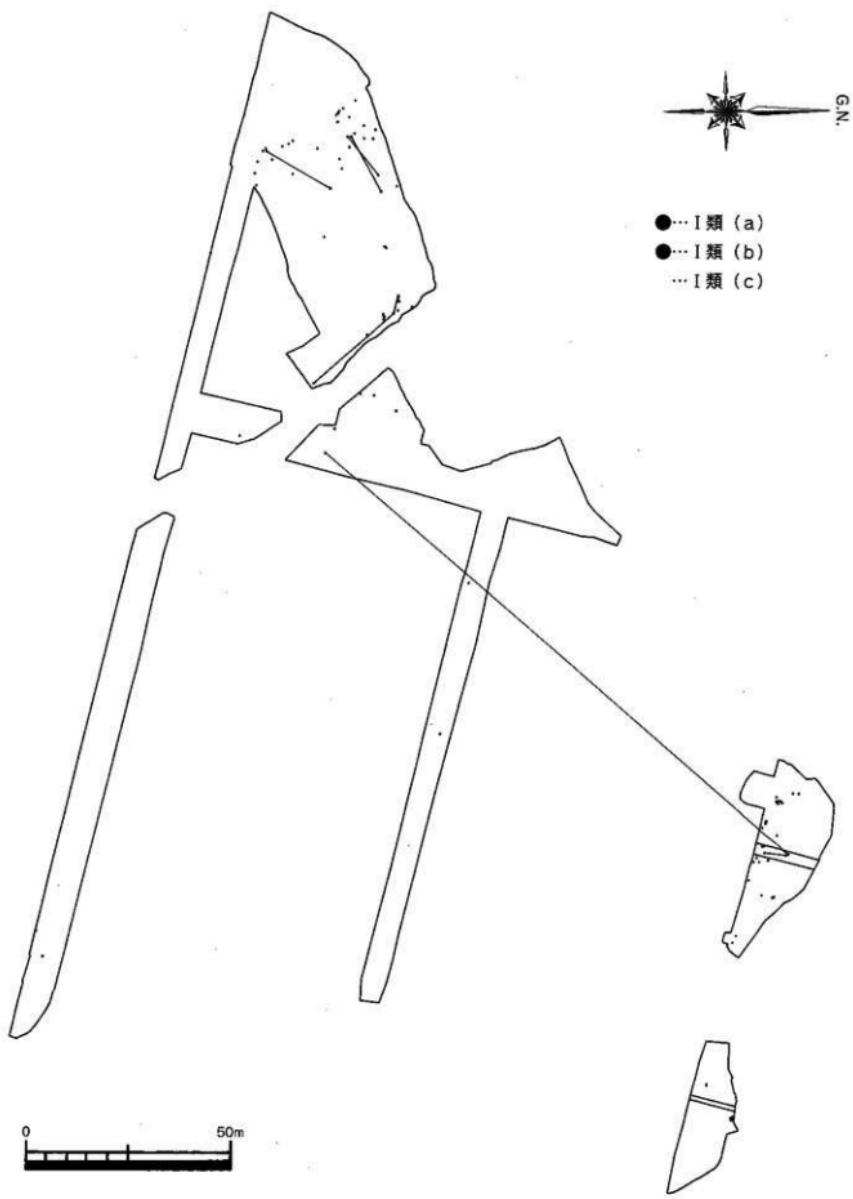
V類・貝殻条痕文土器

### I類（貝殻文系土器）

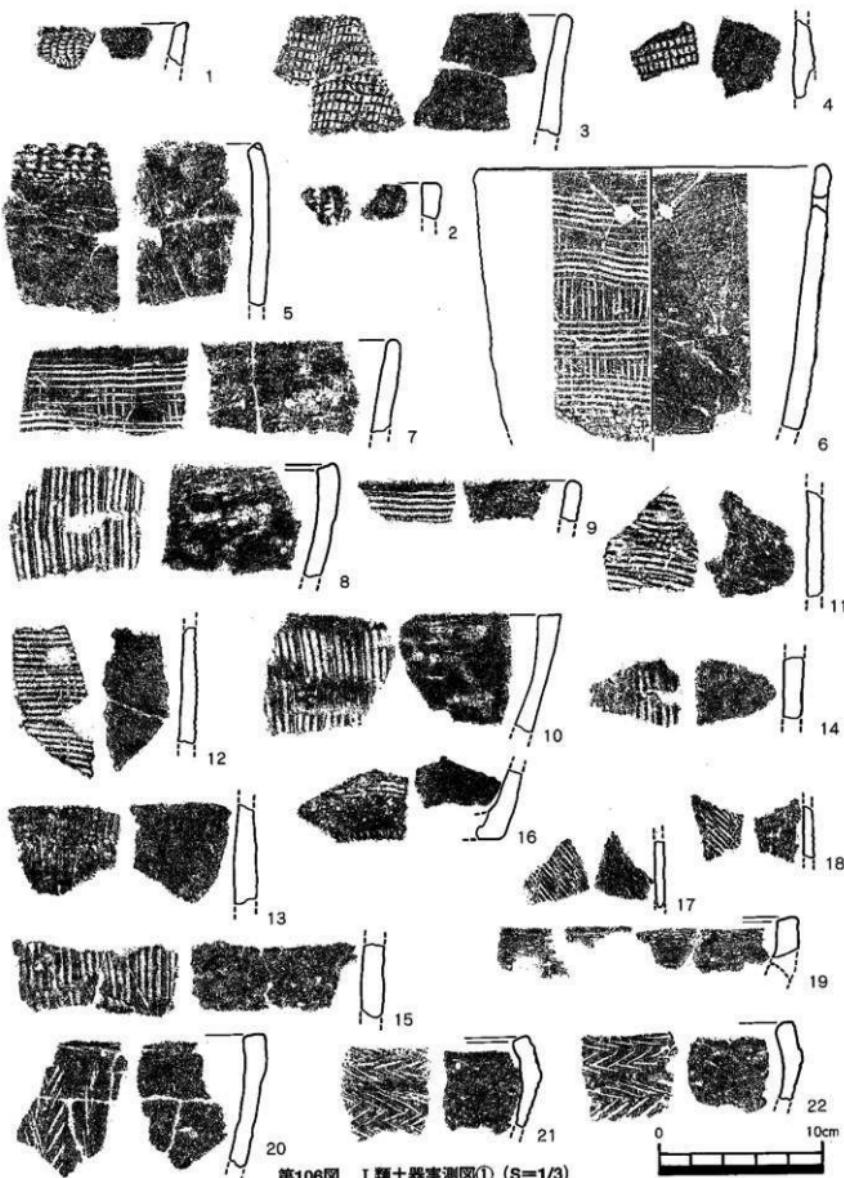
当遺跡では146点の貝殻文系土器が出土したが、今回はそのうち35点を資料化している。1は口唇部に平坦面を作りその外面に指圧によるキザミ目を施し、口縁部外面には貝殻押引文を施す。2は口唇部に平坦面を作りその外面にはキザミ目を施し、口縁部外面には貝殻腹縁押引文を施す。3・4はいずれも胴部の小破片で、胴部外面に横位の貝殻押引文を施す。5については口唇部に内面にやや斜行する平坦面を作り出し、その外面にはキザミ目を施す。又、やや内湾する口縁部外面には貝殻刺突文を施し、胴部外面については横位の貝殻条痕文を施した後ナデ調整によって仕上げている。6～16については、口縁部外面から胴部外面にかけて横位もしくは縦位又は両位の貝殻条痕文を施す土器群で、6～10は口縁部、11～15は胴部、16は底部である。口唇部についてはいずれも平坦面を作り出していく、器形については6以外は小破片のため断定はしにくいが、そのほとんどは底部からほぼ直立する円筒形であると思われる。17・18については、斜位に貝殻条痕文を施した後、縦位の貝殻刺突文を施した胴部の小破片で、器形については円筒形である。(以上をI類aとする。)

19～25については、貝殻刺突文をV字状に施した土器群である。19は口唇部にやや内面に斜行する平坦面をつくり、口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施している。20は口唇部に平坦面をつくり、口縁部外面には縦位の貝殻刺突文を施している。21・22については、いずれも口唇部に平坦面を作り、口縁部外面に貝殻刺突文を施しており、又、口縁部外面には三角形状の瘤状突起が貼り付けられている。23・24についてはいずれも胴部の小破片であるが、23は胴部外面に横位の貝殻刺突文、24は胴部外面に縦位の貝殻刺突文が施されている。25は胴部外面に横位の貝殻刺突文のほか、縦位のハの字状短沈線文が施されている。(以上をI類bとする。)

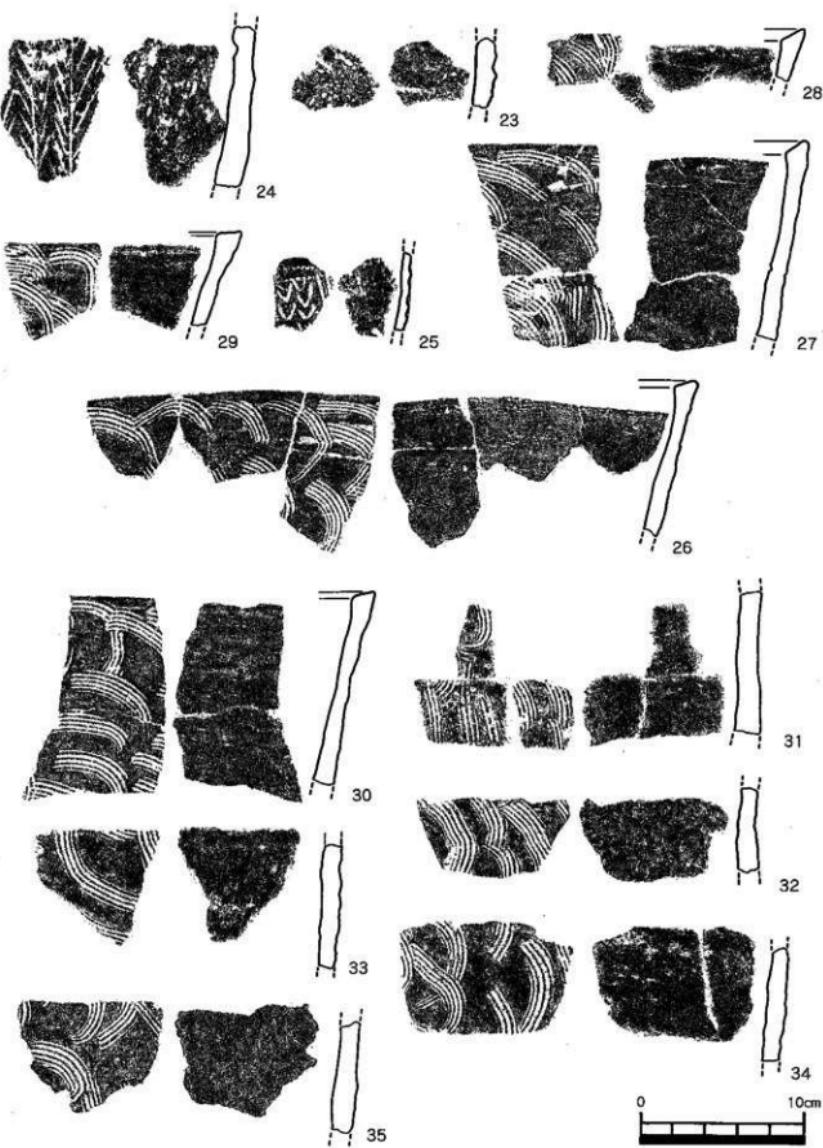
26～35については貝殻条痕による羽状文が施された土器群である。26～30についてはいずれも口唇部へ内面にやや斜行する平坦面を作りだしておき、口縁部外面には貝殻条痕による羽状文が施されている。31～35については胴部の小破片で、いずれも26～30同様貝殻条痕による羽状文が施されている。(以上をI類cとする。)



第105図 縄文時代早期遺物包含層出土土器（I類）分布図 ( $S=1/1,200$ )



第106図 I 類土器実測図① ( $S=1/3$ )



第107図 I 類土器実測図② (S=1/3)

第6表 I類土器觀察表

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺物 整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	カリシ	カオシ	砂粒		
1 VI層	口縁	貝殻押印文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○				○	1mm以下	口縁部に連続キザミ	593
2 VI層	口縁	貝殻押印文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○ ○				○	2.5mm以下		594
3 VI層	口縁	貝殻押印文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○ ○			○	○	5mm以下		655
4 VI層	脣部	貝殻押印文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○ ○			○	○	5mm以下		659
5 VI層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	2.5Y4/2 暗灰褐色	10YR5/2 灰黃褐色		○			○	2mm以下	口唇部に連続キザミ	601
6 VI層	口縁~脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/2 灰褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○ ○			○	○	4mm以下	穿孔あり	265
7 VI層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○ ○			○	○	5mm以下		602
8 VI層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		600
9 VI層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	○ ○			○	○	2mm以下		599
10 V層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2/灰 黃褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色			○	○	○	4mm以下		588
11 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○ ○				○	2mm以下		590
12 V-VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○			○	○	3mm以下		589
13 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		597
14 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	2.5Y5/3 黄褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		596
15 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	2.5Y5/3 黄褐色	○ ○ ○				○	2mm以下		595
16 VI層	脣部~底部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○ ○				○	2mm以下		598
17 VI層	脣部	貝殻条痕文 貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○				○	1mm以下		592
18 VI層	脣部	貝殻条痕文 貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	○ ○				○	1mm以下		591
19 VI層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○				○	3mm以下	穿孔あり	378
20 VI層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色					○	3mm以下		380
21 V層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	7.5YR4/6 褐色	○ ○			○	○	2mm以下		375
22 VI層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	○ ○				○	6mm以下		262
23 VI層	脣部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		377
24 VI層	脣部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		381
25 VI層	脣部	貝殻刺突文 短枕底文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		379
26 VI層	口縁~脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○ ○			○	○	6mm以下		374
27 VI層	口縁~脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR7/2 明褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○				○	3mm以下		367
28 VI層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○				○	3mm以下		365
29 VI層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○				○	2mm以下		370
30 VI層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○ ○				○	1cm以下		264
31 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色					○	2mm以下		366
32 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○ ○				○	2mm以下		368
33 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		369
34 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○ ○ ○				○	3mm以下		372
35 VI層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○ ○ ○				○	2mm以下		373

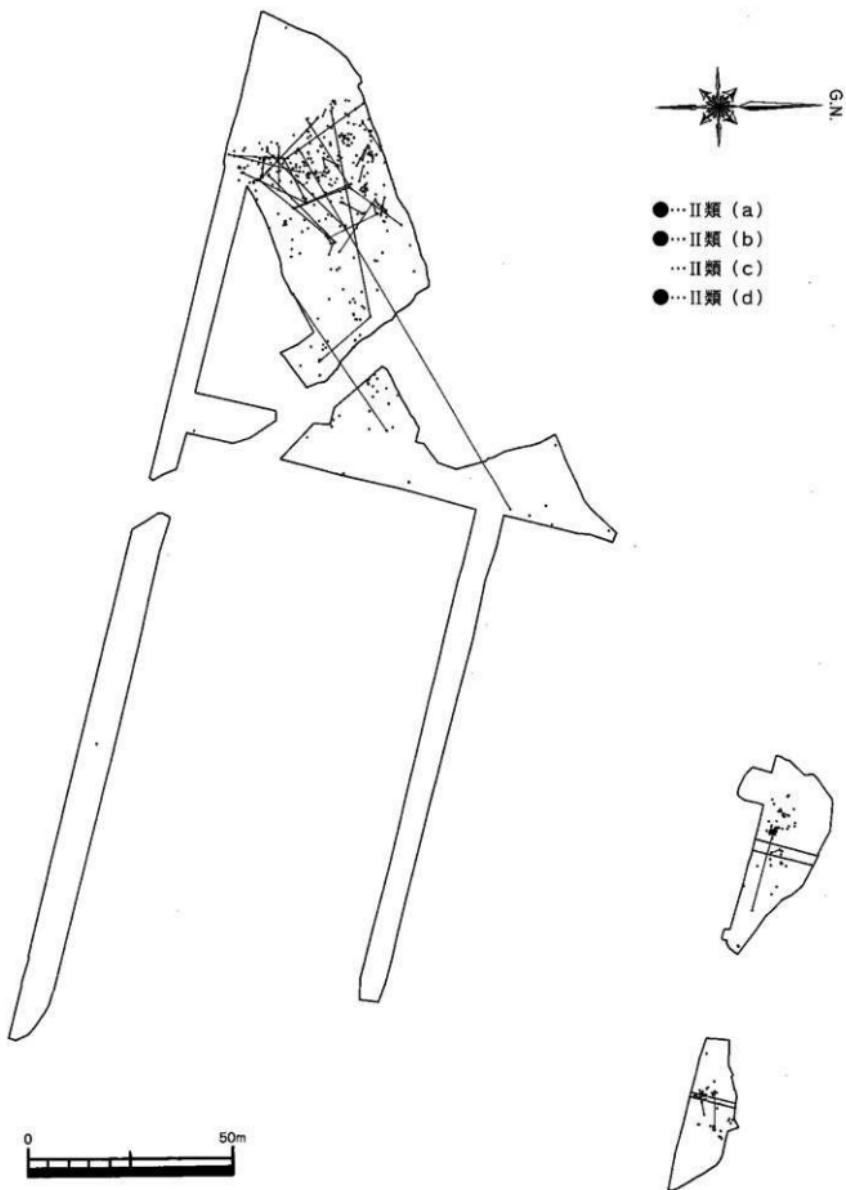
## II類（押型文土器）

当遺跡では607点の押型文土器が出土したが、今回はそのうち65点を資料化している。36～57については山形押型文土器である。36～45については施文に類似した傾向がみられ、36～42が口縁部で43～45が胴部である。36～38については口唇部を丸くおさめ、口縁部外面に横位の山形押型文を施している。39～41は口唇部に内面へやや斜行する平坦面を作り出し、その平坦面に山形押型文を施し、又、口縁部外面には縦位の山形押型文を施している。42は口唇部を丸めにおさめ、口縁部外面に斜位の山形押型文を施している。43は胴部外面に横位、44・45は胴部外面に縦位の山形押型文を施している。46～48については、他の山形押型文土器と比較して大きめの施文が特徴である。いずれも口縁部がラッパ状に開き、ラッパ状に開いた口縁部内面には横位の山形押型文を施している。又、口唇部は丸くおさめており、口縁部外面は46・47が縦位、48が横位の山形押型文を施している。49・50は口唇部に平坦面を作り出し、口縁部外面には横位の山形押型文を施している。51・52は口縁部がやや外反し、その外反した部分の口縁部内面に横位の山形押型文を施している。又、いずれも口唇部に平坦面を作り出した後、その平坦面にキザミ目を施している。口縁部外面についてはいずれも縦位の山形押型文を施しているが、施文はやや丸みを帯びている。53は胴部外面に斜位の山形押型文を施している。54～57はやや外反する口縁部内面に横位の山形押型文が施してあり、54・55は平らに作り出された口唇部に横位の山形押型文を施している。（以上をII類aとする。）

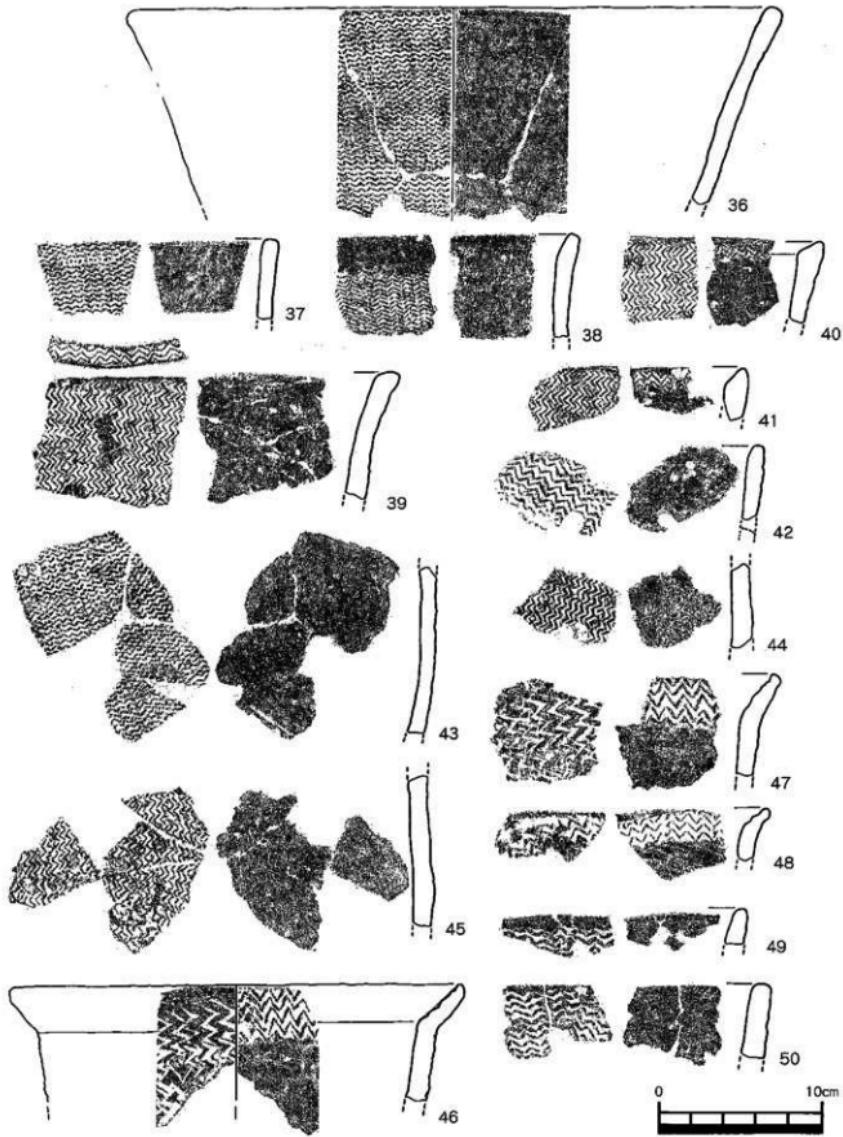
58～80については楕円押型文土器である。58～65は口縁部であるが、58のみがやや外反している。口唇部については、58～61は平坦面を作り出しており、62～65は丸くおさめている。尚、58・61については、口唇部平坦面にキザミ目を施している。施文については、口縁部外面及び内面いずれにも斜位と横位の施文がみられるが、62の口縁部内面については、横位の楕円押型文施文後、縦位の貝殻条痕文を施している。66～78は胴部であるが、胴部外面の施文については斜位・横位・縦位いずれもみられる。なかでも78については、口縁部に向けてやや外反しあじめる部位で、縦位と横位の楕円押型文がいずれも施文されている。尚、75については、内面に横位の楕円押型文が施してあるため、口縁部付近であることが推定される。79・80は底部で、80については平底である。又、79は外面に横位と縦位、80は横位の楕円押型文を施している。（以上をII類bとする。）

81～83については格子目押型文の胴部である。いずれも胴部外面に格子目押型文を施しているが、82・83については楕円押型文もあわせて施している。（以上をII類cとする。）

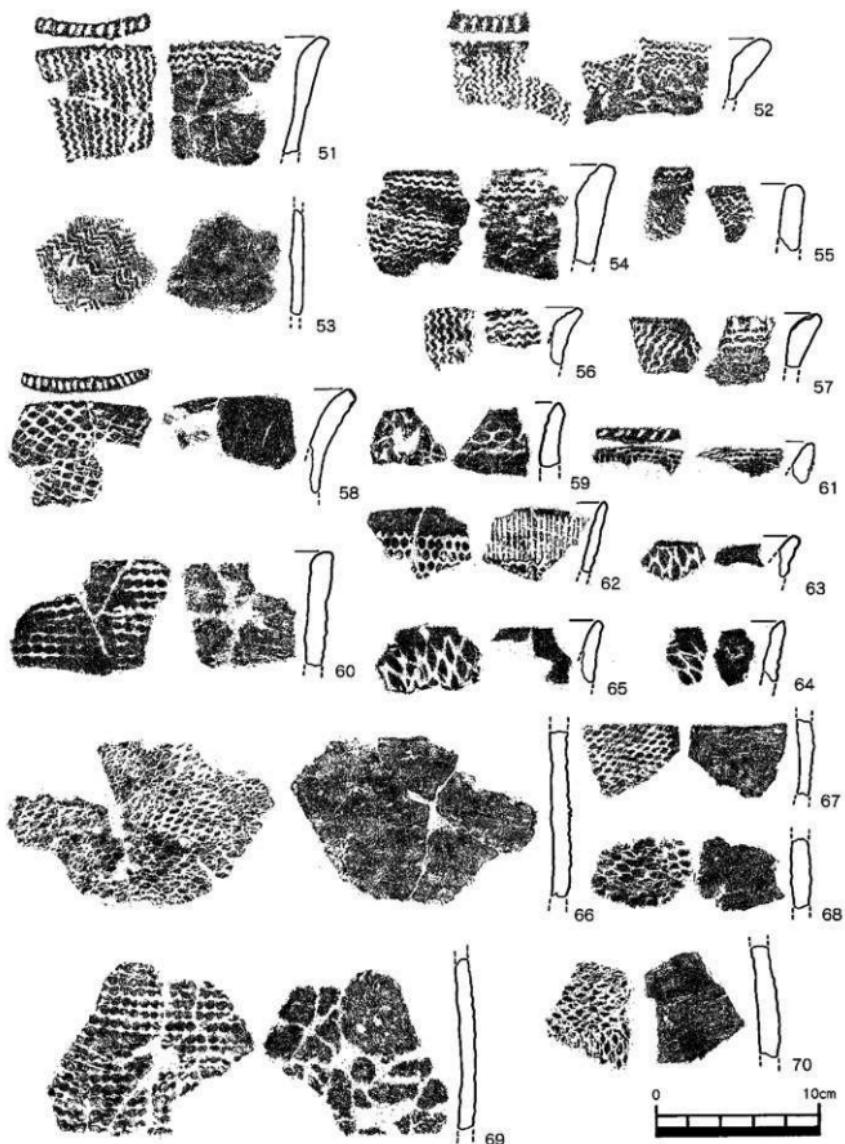
84～86については、胴部外面に菱形押型文を施している。又、87～100は山形押型文の地文の上に沈線文を施しているが、屈曲した胴部から推測すると、84～86同様手向山式土器であると考えられる。（以上をII類dとする。）



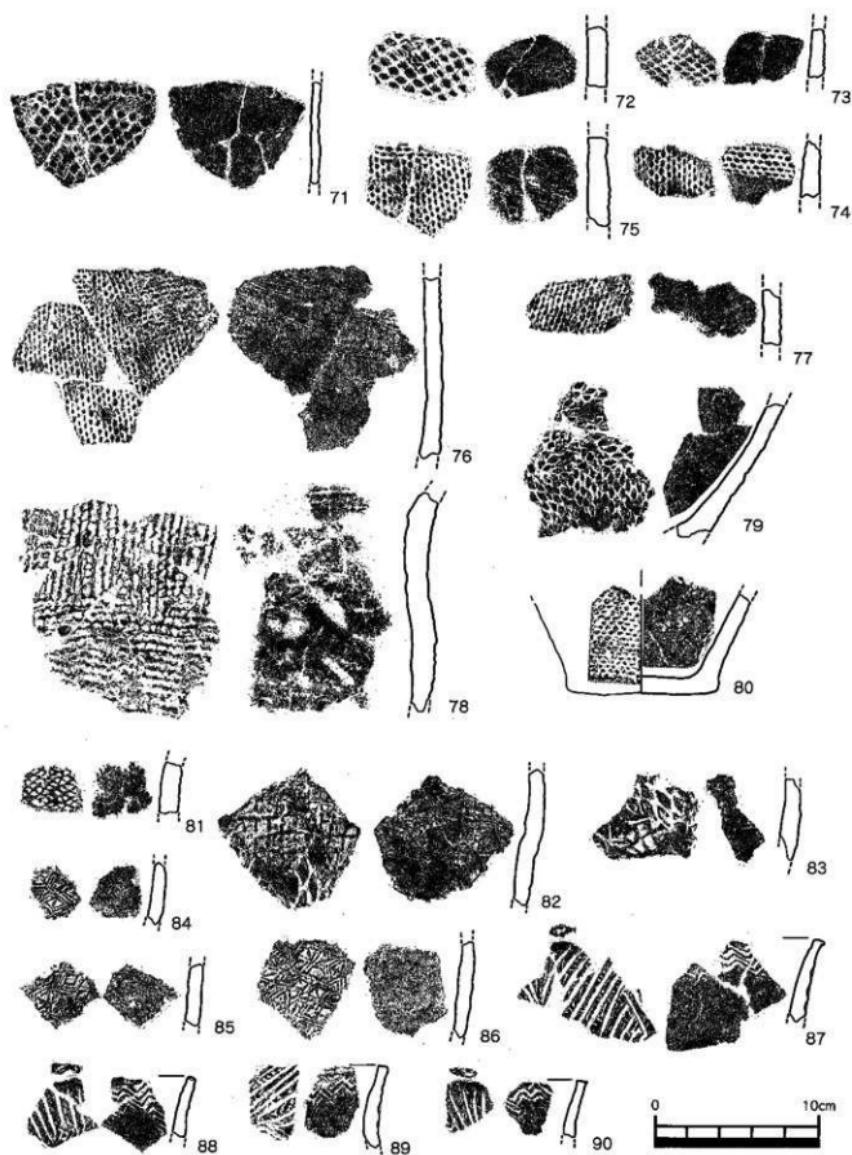
第108図 縄文時代早期遺物包含層出土土器（II類）分布図 (S=1/1,200)



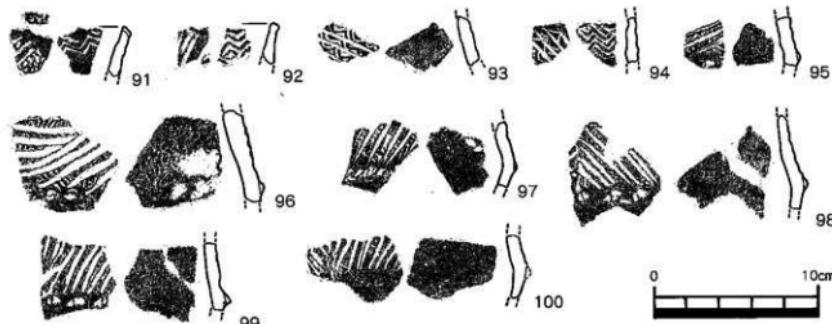
第109図 II類土器実測図① ( $S=1/3$ )



第110図 II類土器実測図② (S=1/3)



第111図 II類土器実測図③ ( $S=1/3$ )



第112図 II類土器実測図④ (S=1/3)

第7表 II類土器観察表

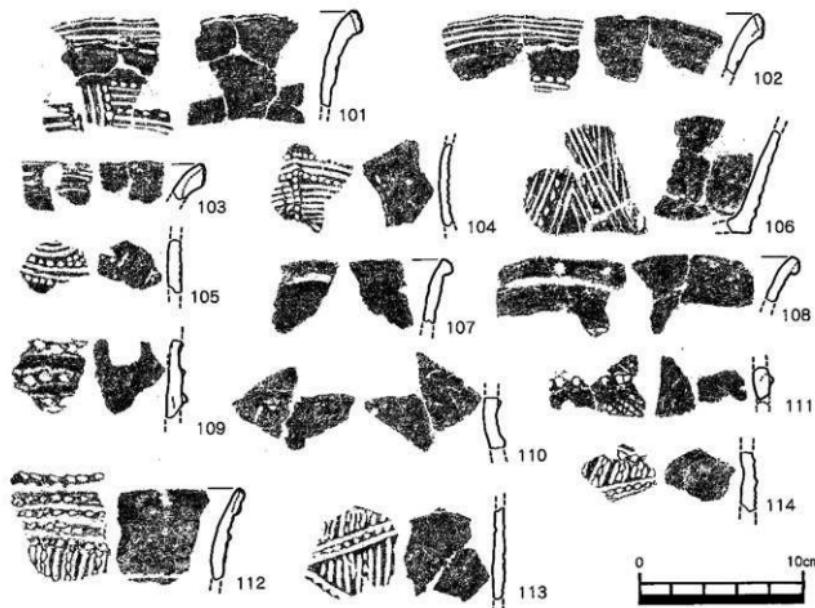
遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調査		色調		胎土				備考	遺物 整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	セラミ	角閃石	砂粒		
36	VI層	口縁	山形押壓文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○	○		○	5mm以下	759	
37	VI層	口縁	山形押壓文	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR6/4/ にぶい黄褐色				○	5mm以下	755	
38	VI層	口縁	山形押壓文	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○	○		○	3mm以下	754	
39	VI層	口縁	山形押壓文	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○			○	4mm以下	261	
40	VI層	口縁	山形押壓文	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	7.5YR4/3/ 褐色	○	○		○	3mm以下	748	
41	VI層	口縁	山形押壓文	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	7.5YR6/4/ にぶい黄褐色			○	○	4mm以下	口唇部に山形押壓文	747
42	VI層	口縁	山形押壓文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	10YR4/2/ 灰黃褐色	○	○	○	○	3mm以下	穿孔あり	742
43	V-VI層	脣部	山形押壓型	ナデ	10YR6/3/ にぶい黄褐色	2.5YR5/2/ 灰黃褐色	○			○	5mm以下	757	
44	VI層	脣部	山形押壓型	ナデ	7.5YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/2/ 灰黃褐色	○	○		○	3mm以下	753	
45	V-VI層	脣部	山形押壓型	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/2/ 灰黃褐色	○	○		○	3mm以下	756	
46	VI層	口器～頂部	山形押壓型	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○	○	○	○	3mm以下	口唇部に山形押壓文	758
47	VI層	口縁	山形押壓型	ナデ	7.5YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○	○	○	○	3mm以下	口唇部に山形押壓文	749
48	VI層	口縁	山形押壓型	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○	○		○	4mm以下	口唇部に山形押壓文	741
49	VI層	口縁	山形押壓型	ナデ	7.5YR6/2/ にぶい黄褐色	7.5YR6/4/ にぶい黄褐色	○		○	○	1mm以下	750	
50	VI層	口縁	山形押壓型	ナデ	7.5YR6/4/ にぶい黄褐色	10YR6/4/ にぶい黄褐色	○		○	○	3mm以下	751	
51	VI層	口縁	山形押壓型	山形押壓文 ナデ	10YR6/3/ にぶい黄褐色	10YR6/3/ にぶい黄褐色			○	○	口唇部にキザミ	739	
52	VI層	口縁	山形押壓型	山形押壓文 ナデ	10YR4/2/ 灰黃褐色	10YR4/3/ にぶい黄褐色		○		○	2mm以下	口唇部にキザミ	745
53	V層	脣部	山形押壓型	ナデ	10YR6/4/ にぶい黄褐色	2.5YR5/2/ 赤褐色	○	○		○	3mm以下	752	
54	VI層	口縁	山形押壓型	山形押壓文 ナデ	10YR4/2/ 灰黃褐色	7.5YR4/3/ 褐色			○	○	2mm以下	743	
55	VI層	口縁	山形押壓型	(脣円押壓文) ナデ	5YR5/3/ にぶい赤褐色	5YR4/3/ にぶい赤褐色		○		○	2mm以下	口唇部に山形押壓文	740
56	VI層	口縁	山形押壓型	ナデ	5YR4/3/ にぶい赤褐色	10YR4/2/ 灰黃褐色	○	○		○	2mm以下	746	
57	VI層	口縁	山形押壓型	ナデ	10YR5/3/ にぶい黄褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○	○	○	○	2mm以下	口唇部にキザミ	744
58	VI層	口器～頂部	橢円押壓型	ナデ	10YR6/4/ 灰黃褐色	10YR5/3/ にぶい黄褐色	○			○	3mm以下	口唇部にキザミ	346
59	VI層	口縁	橢円押壓型	橢円押壓文 ナデ	2.5YR4/1/ 灰黃褐色	10YR5/2/ 灰黃褐色	○			○	4mm以下	342	
60	V層	口縁	橢円押壓型	ナデ	10YR4/2/ 灰黃褐色	10YR4/2/ 灰黃褐色	○	○	○	○	5mm以下	357	

造構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物 整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	カオル	カオル	砂粒			
61	V層	口縁	楕円押型文	楕円厚壁文	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黃褐色	○	○	○	○	○	4mm以下	口唇部にキザミ	354
62	VI層	口縁	楕円押型文	楕円厚壁文 沈線文	10YR6/3 にぶい黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○	○			○	3mm以下		349
63	VI層	口縁	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	10YR5/3 にぶい黃褐色	○			○	○	4mm以下		344
64	V層	口縁	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	2.5Y4/1 灰黃褐色				○	○	4mm以下		345
65	V層	口縁	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR4/2 灰黃褐色				○	○	4mm以下		355
66	V-VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黃褐色	○	○	○	○	○	6mm以下		364
67	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○	○	○	○	○	2mm以下		352
68	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/3 褐色	○	○	○	○	○	4mm以下		351
69	V層	肩部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰黃褐色	○	○	○	○	○	4mm以下		359
70	V層	肩部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	○	○	○	○	○	5mm以下		348
71	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○				○	5mm以下		356
72	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黃褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○	○			○	2mm以下		358
73	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黃褐色	○			○	○	3mm以下		343
74	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○	○			○	3mm以下		350
75	VI層	肩部	楕円押型文	楕円厚壁文	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黃褐色	○	○	○	○	○	3mm以下		353
76	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐色	7.5YR7/1 明褐灰色	○	○	○	○	○	3mm以下		362
77	V層	肩部	楕円押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR4/3 褐色	○	○	○	○	○	4mm以下		347
78	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○	○			○	4mm以下		363
79	VI層	肩部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR6/3 にぶい黃褐色	○	○	○	○	○	3mm以下		361
80	VI層	底部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○	○	○	○	○	6mm以下		360
81	V層	肩部	格子目押型文	ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	○				○	5mm以下		657
82	V層	肩部	格子目押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○				○	5mm以下		656
83	V層	肩部	格子目押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○				○	3mm以下		658
84	VI層	肩部	菱形押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○	○	○	○	2mm以下		652
85	V層	肩部	菱形押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○	○	○	○	2mm以下		653
86	VI層	肩部	菱形押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○	○	○	○	3mm以下		654
87	V-VI層	口縁	山形押型文 沈線文	山形厚壁文	10YR6/3 にぶい黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○	○	○	○	○	2mm以下	口唇部に山形押型文	705
88	V層	口縁	山形押型文 沈線文	山形厚壁文	10YR5/2 灰黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○	○	○	○	○	2.5mm以下	口唇部に山形押型文	706
89	V層	口縁	山形押型文 沈線文	山形厚壁文	10YR5/3 にぶい黃褐色	10YR6/3 にぶい黃褐色	○				○	3mm以下		702
90	V層	口縁	山形押型文 沈線文	山形厚壁文	10YR6/3 にぶい黃褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○				○	2mm以下	口唇部に山形押型文	704
91	V層	口縁	山形押型文 沈線文	山形厚壁文	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	10YR6/3 にぶい黃褐色	○	○			○	3.5mm以下	口唇部に山形押型文	707
92	V層	口縁	山形押型文 沈線文	山形厚壁文	10YR5/3 にぶい黃褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○				○	2mm以下	口唇部に山形押型文	703
93	V層	肩部	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR6/4 にぶい黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○				○	5mm以下		713
94	VI層	肩部	山形押型文 沈線文	山形厚壁文	10YR6/4 にぶい黃褐色	10YR6/3 にぶい黃褐色					○	2mm以下		714
95	VI層	肩部屋金華	山形押型文 沈線文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○				○	2mm以下	貼付帯部に山形の押さえ	708
96	V層	肩部屋金華	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	10YR6/4 にぶい黃褐色	○	○			○	5mm以下	貼付帯部に山形の押さえ	709
97	V層	肩部屋金華	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	2.5Y4/2 暗灰黃褐色	○	○			○	1.5mm以下	貼付帯部に山形の押さえ	710
98	V層	肩部屋金華	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	10YR6/2 灰黃褐色	○	○			○	1mm以下	貼付帯部に山形の押さえ	711
99	V層	肩部屋金華	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐色	2.5Y5/2 暗灰黃褐色	○	○			○	1.5mm以下	貼付帯部に山形の押さえ	712
100	V層	肩部屋金華	山形押型文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黃褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○				○	2mm以下	貼付帯部(剥離者しい)	715

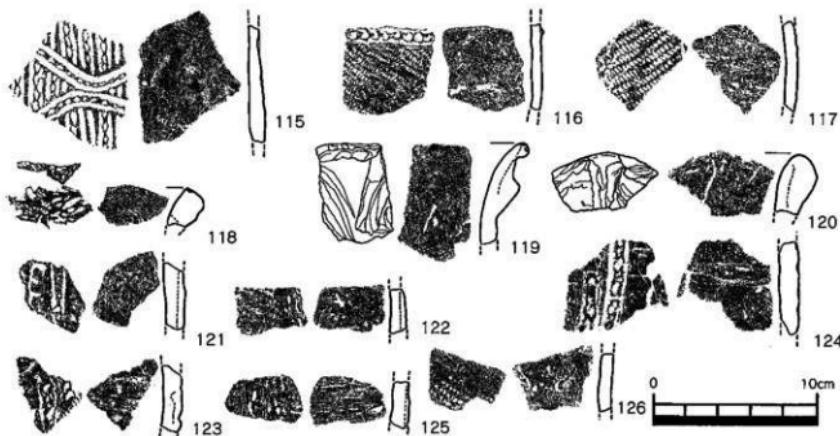
### III類（平桟式土器）

当遺跡では194点の平桟式土器が出土したが、今回はそのうち26点を資料化している。

101～103はいずれも口縁部で、口唇部付近に断面三角形状の突帯を貼り付けており、その突帯に横位の沈線文を施している。又、101～106については、口縁部及び胴部外面に棒状工具による沈線文と刺突文が施され、口縁部（101～103）はややラッパ状に開き、底部（106）は平底である。107・108は口唇部、109～111は胴部に、断面三角形状の突帯を貼り付けており、109～111についてはその突帯にキザミ目を施している。112～117については、口縁部及び胴部外面に棒状工具による沈線文・刺突文・縄文を施していく、112と116については断面三角形状の小型の突帯を貼り付けている（突帯にはキザミ目あり）。又、112は口唇部に平坦面を作り出し、その平坦面にキザミ目を施している。117～125については、瘤状突起及び断面三角形状の突帯を貼り付けている一群で、突帯にはキザミ目を施している。尚126については、117～125と胎土が酷似していたためこの一群として判断した。（以上をIII類とする。）



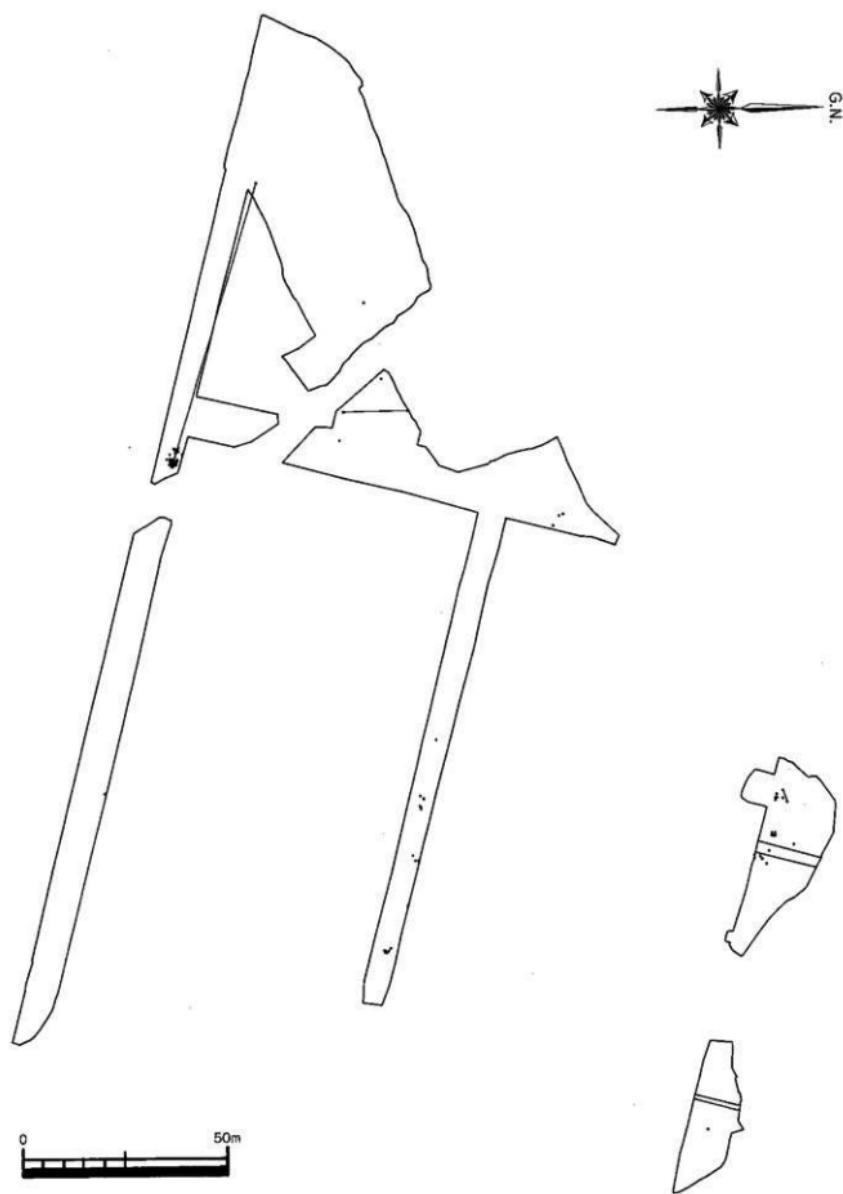
第113図 III類土器実測図① (S=1/3)



第114図 Ⅲ類土器実測図② (S=1/3)

第8表 Ⅲ類土器観察表

造構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺 物 管 理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	ケンキヤ	砂粒			
101	V層	口縁～胴部	沈縫文 蓮瓣文	ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○			4mm以下	口縁部に貼付突帯 (従前文)	521
102	V層	口縁	沈縫文 蓮瓣文	ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○			3mm以下	口縁部に貼付突帯 (従前文)	522
103	V層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○			2mm以下	口縁部に貼付突帯	541
104	VI層	胴部	沈縫文 蓮瓣文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○			3mm以下		529
105	VI層	胴部	沈縫文 蓮瓣文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○			4mm以下		524
106	V-VI層	胴部～底部	沈縫文 蓮瓣文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○			3mm以下		523
107	V層	口縁	ナデ	7.5YR4/3 にぶい赤褐色	2.5YR5/2 赤褐色	○	○			3mm以下	口縁部に貼付突帯	542	
108	V層	口縁	ナデ	7.5YR4/3 赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○			1mm以下	口縁部に貼付突帯	543	
109	VI層	胴部	貼付突帯 (従前文)	ナデ	7.5YR4/3 赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○			2mm以下		530
110	V層	胴部	貼付突帯 (従前文)	ナデ	5YR4/2 赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○			4mm以下		532
111	VI層	胴部	貼付突帯 (従前文)	ナデ	7.5YR4/3 赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○			3mm以下		536
112	V層	口縁	沈縫文 蓮瓣文	ナデ	7.5YR4/3 赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○		3mm以下	口唇部に連続キザミ	525
113	V-V層	胴部	蓮瓣文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			3mm以下		526
114	VI層	胴部	蓮瓣文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			5mm以下		527
115	VI層	胴部	蓮瓣文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			3mm以下		528
116	V層	胴部	萬字文	ナデ	2.5YR5/2 黄褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○			3mm以下		539
117	V層	胴部	刺突文 綻文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○		4mm以下		538
118	VI層	口縁	貼付突帯 (従前文)	ナデ	7.5YR4/3 にぶい赤褐色	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○			2mm以下	口唇部に連続キザミ	544
119	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			2mm以下	瘤状突起・貼付突帯 (従前文)	519
120	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	2.5YR5/2 赤褐色	10YR8/1 赤白	○	○			3mm以下	口縁部に貼付突帯	520
121	VI層	胴部	貼付突帯 (従前文)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			2mm以下		531
122	VI層	胴部	貼付突帯 (従前文)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			5mm以下		533
123	VI層	胴部	貼付突帯	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/6 にぶい黄褐色	○	○			2mm以下		534
124	VI層	胴部	貼付突帯 (従前文)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい赤褐色	○	○			3mm以下		535
125	VI層	胴部	貼付突帯 (従前文)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			4mm以下		546
126	VI層	胴部	綻文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○			2mm以下		540



第115図 縄文時代早期遺物包含層出土土器（Ⅲ類）分布図（S=1/1,200）

#### IV類（塞ノ神式土器）

当遺跡では2496点の塞ノ神式土器が出土したが、今回はそのうち213点を資料化している。127～165については壺の口縁部及び胴部上半部である。器形については小破片が多く有頸・無頸判断しにくいものが多いが、そのなかでは127・130・133・152が無頸、134・136・137が有頸ではないかと思われる。又、口唇部については、127・130・136・138・139・147・148・149は丸くおさめてあり、133・134・135・137・140・150・151・152は平坦部を作り出している。施文については、口縁部及び胴部上半部を一周する沈線文を施すもの（127・128・129・133・135・136・138）、その沈線文に加え弧状沈線文を施すもの（134・139・140・141・142・143・144・145・146・）、又、口縁部及び胴部上半部に微隆帯を巡らし（152～165）、その微隆帯にキザミ目を施しているもの（152～162）、等が見られる。（以上をIV類aとする。）

166～268については、撚糸文系の一群である。

166～185は口縁部（一屈曲部—胴部）である。いずれも塞ノ神式土器の特徴である胴部からラッパ状に開く口縁部であるが、屈曲部からきつく外反するもの（168・172・180・185等）や、胴部からゆるやかに外反するもの（170・175・177・181等）が見られる。口縁形態については、平口縁（167・169・173・184等）、ゆるやかな波状口縁（168・170・176等）、波状口縁（178・179・183）いずれも見られ、又、内面には胴部と口縁部に明瞭な稜線が確認できる。口唇部については、平らにおさめるものも平坦面を作り出すもののいずれも見られるが、そのほとんどにキザミ目が施されている。施文については、口縁部にも撚糸文を施し屈曲部から胴部にかけて沈線文や撚糸文を施すもの（166・167）や、口縁部は無文もしくは沈線文のみが施してあり、屈曲部を一周する沈線文から撚糸文が縦位に施されているもの（169・170等）が見られる。

186～198は屈曲部（一胴部）である。口縁部同様屈曲部から口縁部にかけてきつく外反するもの（194・198等）と、胴部からゆるやかに外反するもの（195）が見られる。又、内面の胴部と口縁部の稜線についても明瞭なものがほとんどである。

199～255は胴部である。残存状況が良好なものについて見てみると、やや胴部中央が外湾しているもの（199・200・204・205・207・212・223・225・226・239・240・244・251等）と、ほぼ直立するもの（201・202・203・206・208・211・210・213・218等）が見られる。施文については、主に撚糸文と沈線文の組み合わせで構成されている。

256～268は底部（一胴部）である。256・264はやや上げ底気味の平底で、その他も平底であると思われる。又、256などに見られるように、そのほとんどが胴部に向けてやや外に開きながら立ち上がっているのに対し、266や268は直立に近い角度で立ち上がっている。施文については、底部ぎりぎりまで撚糸文と沈線文が施されているが、底部内面には施文されていない。（以上をIV類bとする。）

269～311については、貝殻文系の一群である。

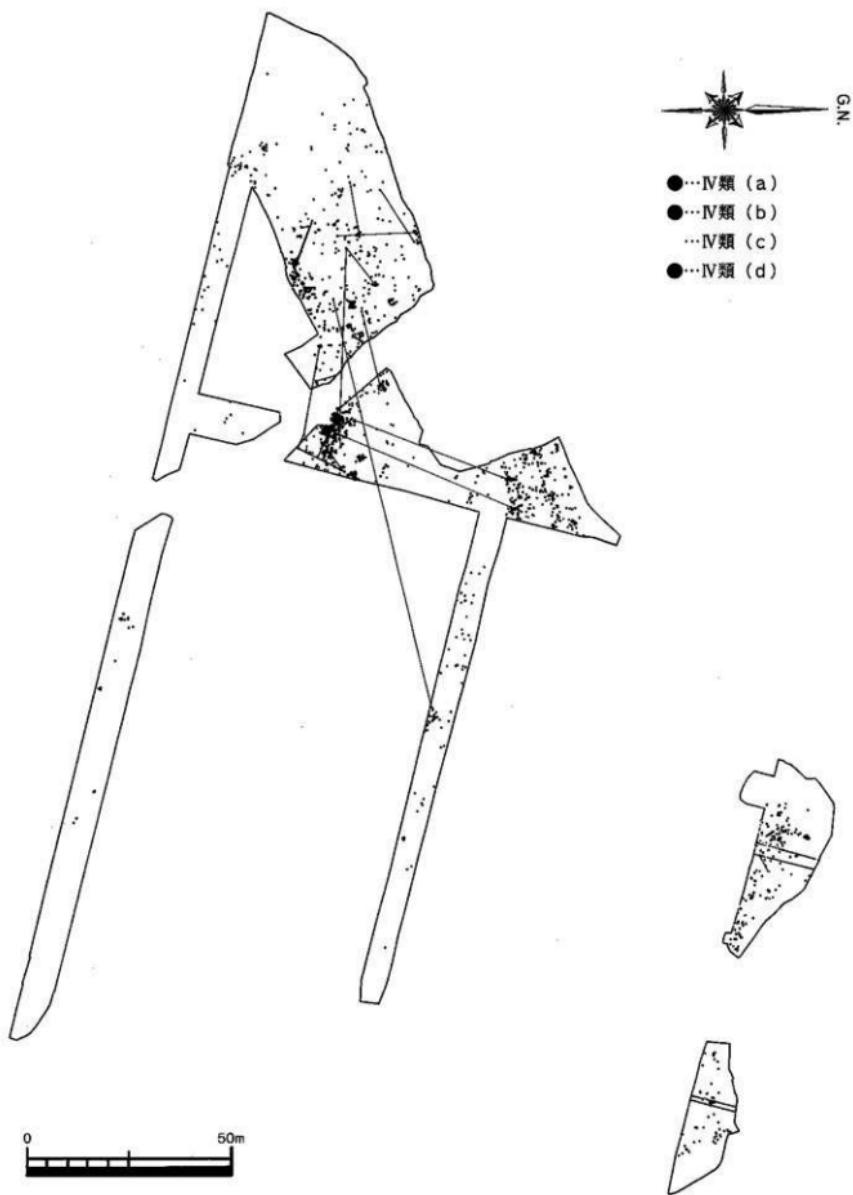
269～279は口縁部（一屈曲部～胴部）である。いずれも胴部からラッパ状に開いた口縁部で、269・270・271・273については屈曲部内面に胴部と口縁部の明瞭な稜線が確認できる。口縁形態についてはほとんどが平口縁で、口唇部については丸くおさめているものと狭い平坦面を作り出しているものいずれも見られる。狭い平坦面を作り出しているものについては、その平坦面に貝殻によるキザミ目を施しているもの（270・274・277等）がある。施文については、いずれも貝殻による刺突文が施されているが、270・279についてはそれに加え、細い棒状工具によって沈線文を描きその枠内に縄文を施している。

280～284は屈曲部（一胴部）である。いずれも胴部から口縁部にラッパ状に開く屈曲部であるが、280・282～284については屈曲部内面に胴部と口縁部の明瞭な稜線が確認できる。

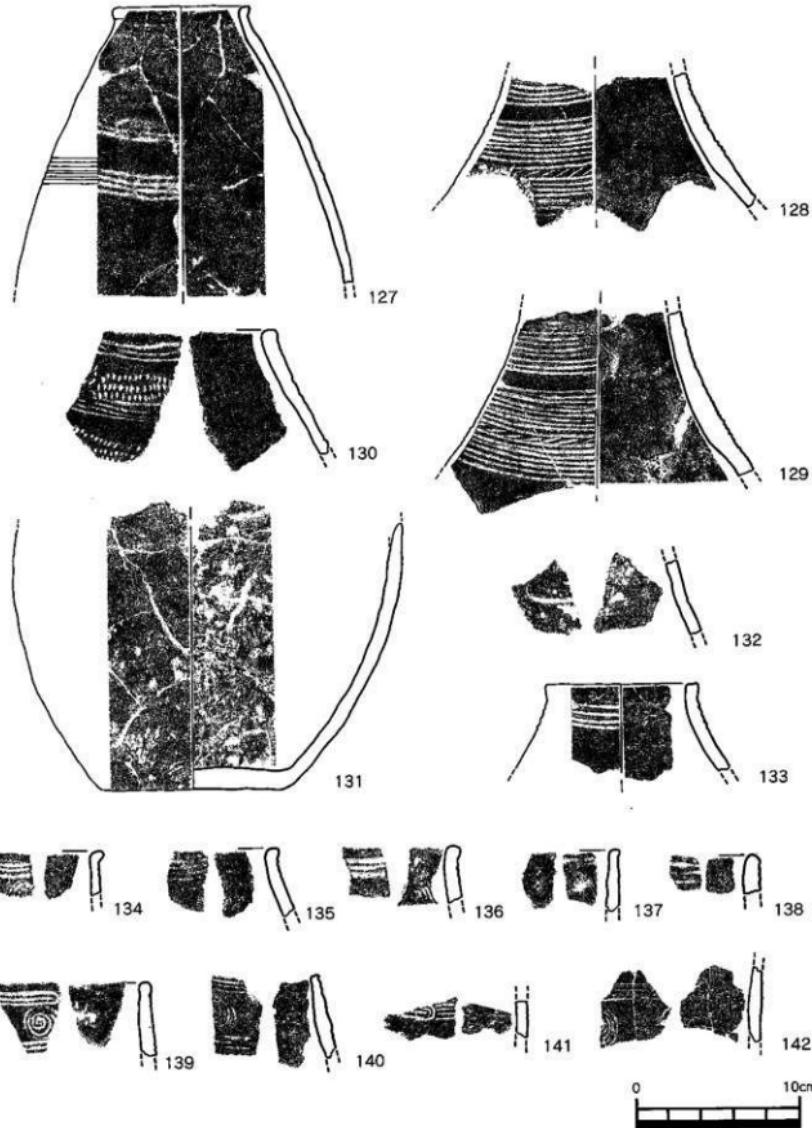
285～309は胴部である。器形については、胴部中央が外湾しているもの（285・288・291・294・296・297・300・303・304等）と、ほぼ直立するもの（286・289・290・295・298・299・302・307～309等）が見られる。施文については、285～306は貝殻刺突文と細い棒状工具によって沈線文を描きその枠内に施された縄文との組み合わせで、307～309は細い棒状工具によって斜位もしくは横位の条線を描いている。310・311は胴部最下部（底部から立ち上がりはじめる部位）であるが、底部からやや外に向けて立ち上がっている。尚、施文については胴部と同じ特徴を持っている。（以上をIV類cとする。）

312～339については、塞ノ神式土器であるが先述の3区分に入らないもの一群である。但し、なかにはIV類bに属するが撚糸文が施されていない部位であったり、同じようにIV類cに属するが貝殻文・縄文などが施されていない部位であったりする場合も十分に考えられるので、一つの区分というより先述の3区分に断定しにくいものとして取り扱っている。

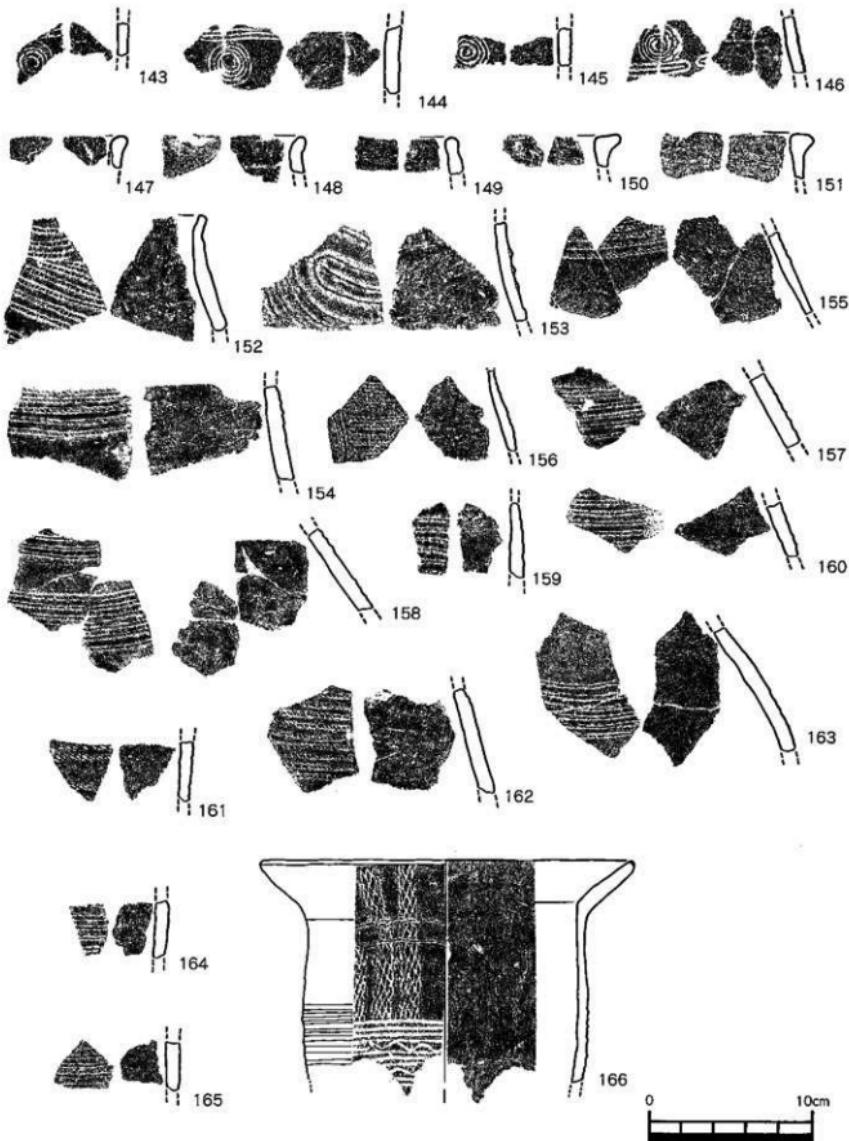
312～334は口縁部である。胴部からラッパ状に開いた口縁部であるが、屈曲部からほぼ直線的に開くもの（312・314・315・324・330・331～334等）や、やや内湾しながら開くもの（313・316～318・321～323・325・327・329等）が見られる。口縁部はほぼ平口縁であるが、323・324は波状口縁である。又、口唇部については、丸くおさめるものと狭い平坦面を作り出すものと見られるが、いずれの場合にも口唇部にキザミ目を施しているものが見られる。施文については、312～319は横位や斜位の沈線文と連点文に加え、微隆帯をめぐらしてそれにキザミ目が施され、320～334には沈線文が施されている（無文もあり）。施文の雰囲気や屈曲部から口縁部への開き具合から見ると、327・330・332等はIV類bの区分に入る可能性が高いと思われるが、先述のとおり撚糸文が施されていない部位であるため、今回はIV類bには含めていない。335～339は屈曲部である。屈曲部についても口縁部同様先述の2区分（IV類b、IV類c）のいずれかに属するものがあると推測されるが、今回はいずれにも含んでいない。尚、施文については、横位、斜位、山形の沈線文が施されている。（以上をIV類dとする。）



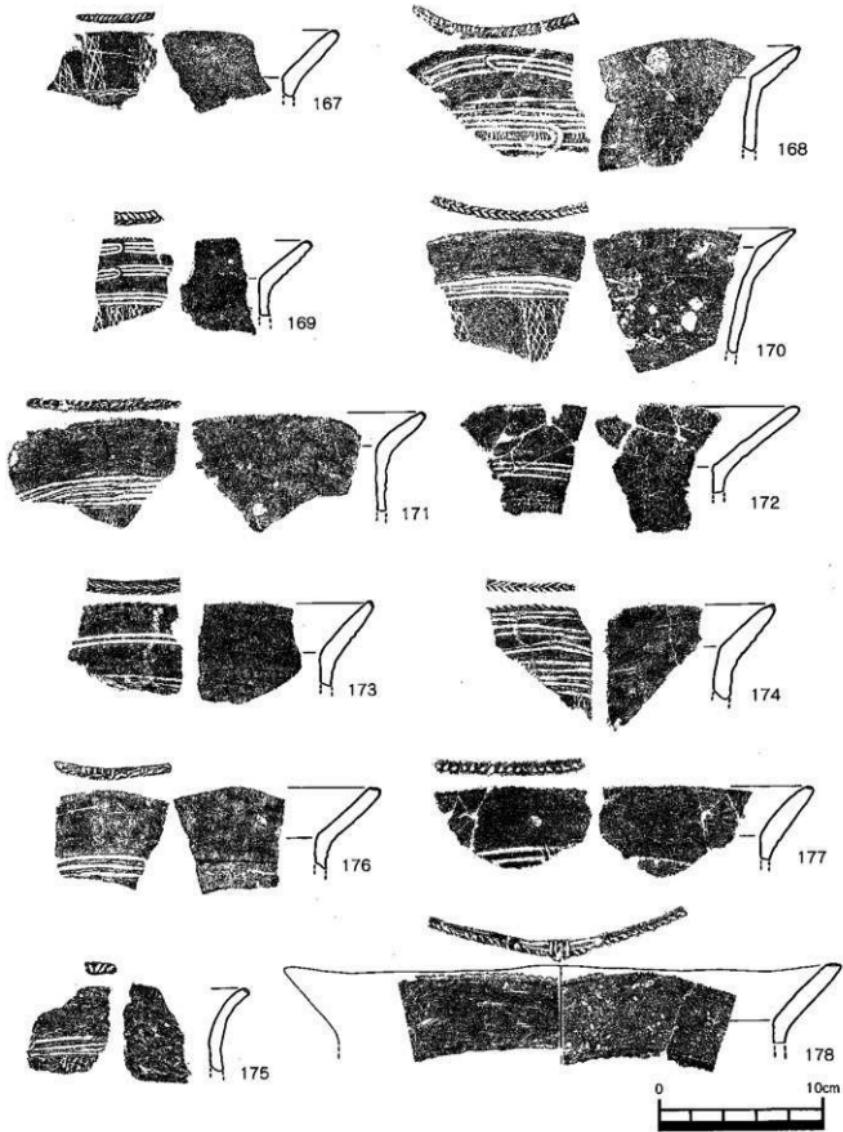
第116図 桶文時代早期遺物包含層出土土器（IV類）分布図 ( $S=1/1,200$ )



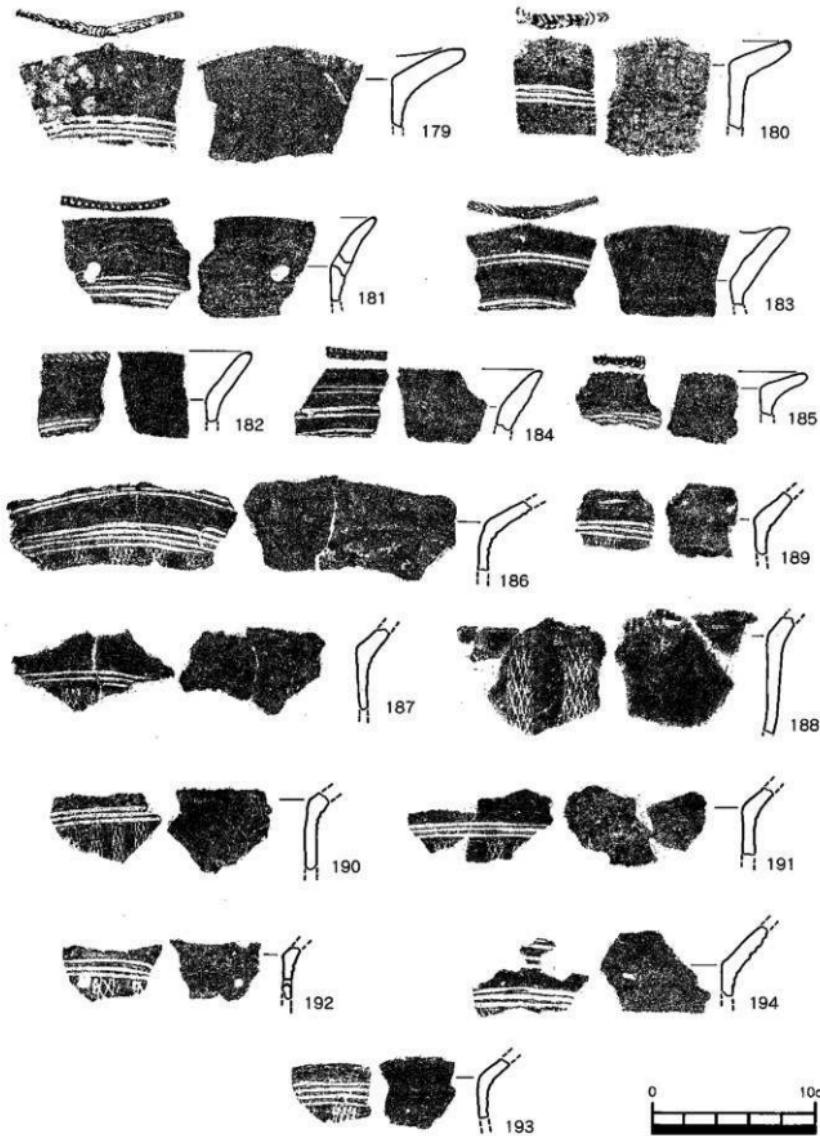
第117図 Iwaki類土器実測図① (S=1/3)



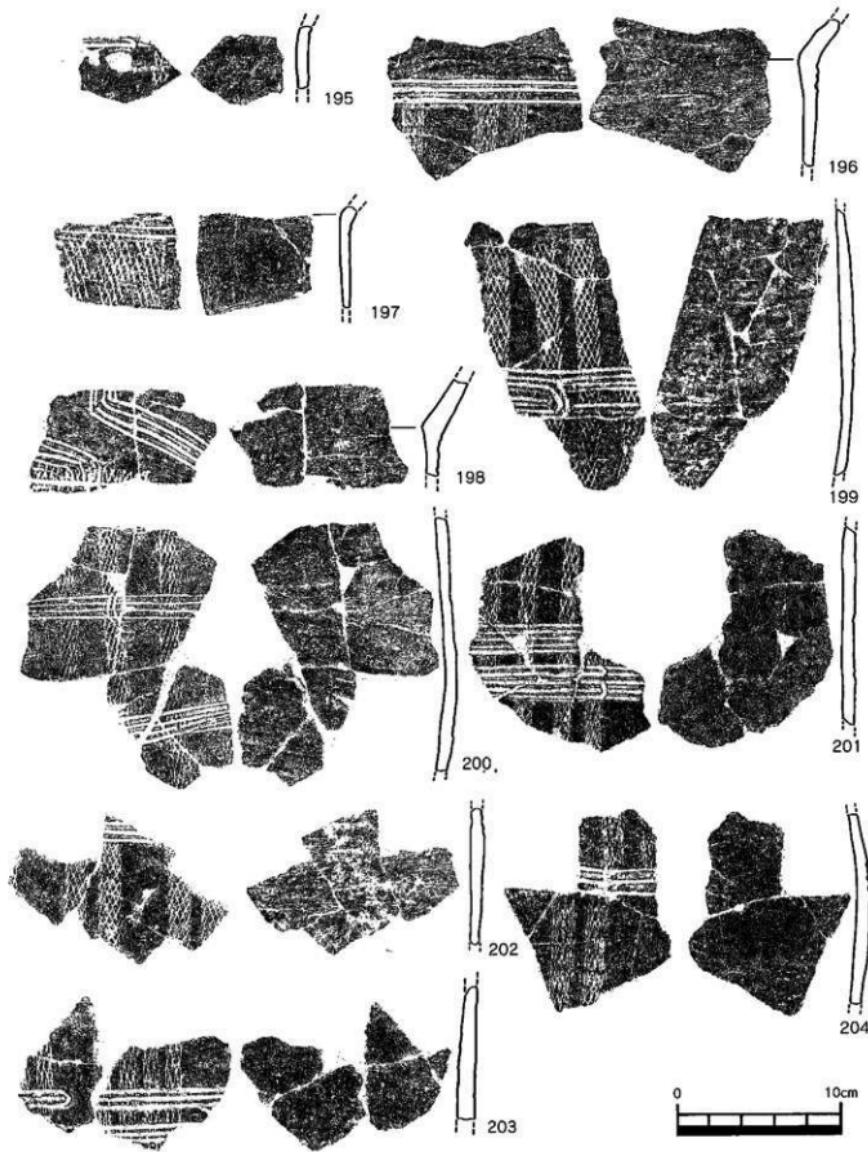
第118図 IV類土器実測図② (S=1/3)



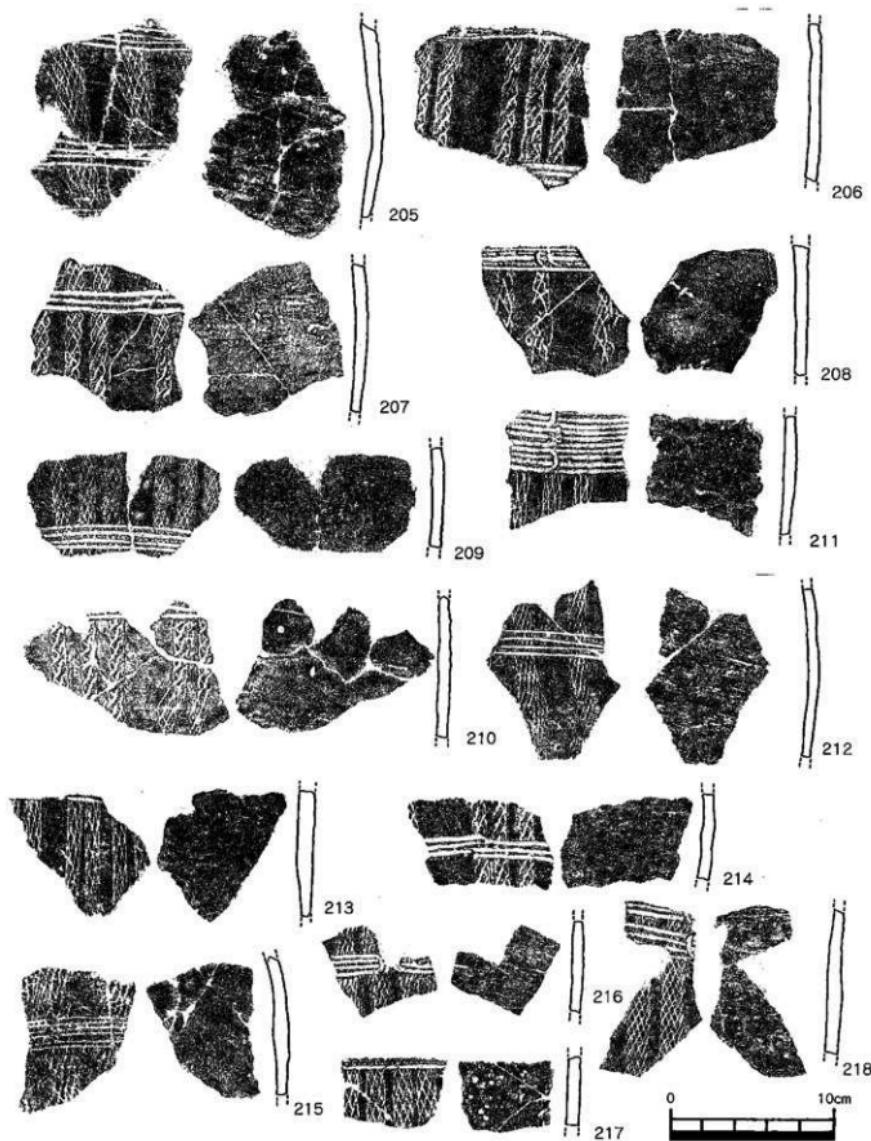
第119図 IV類土器実測図③ (S=1/3)



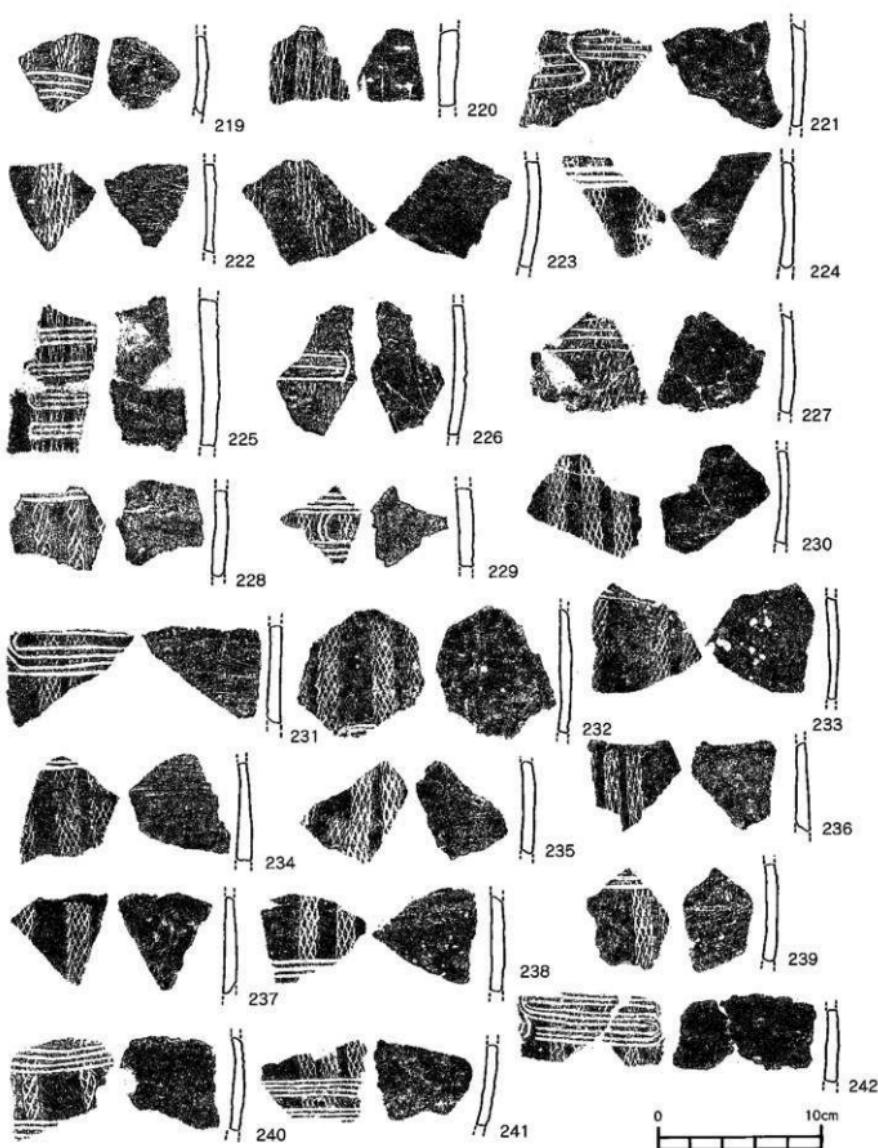
第120図 IV類土器実測図④ (S=1/3)



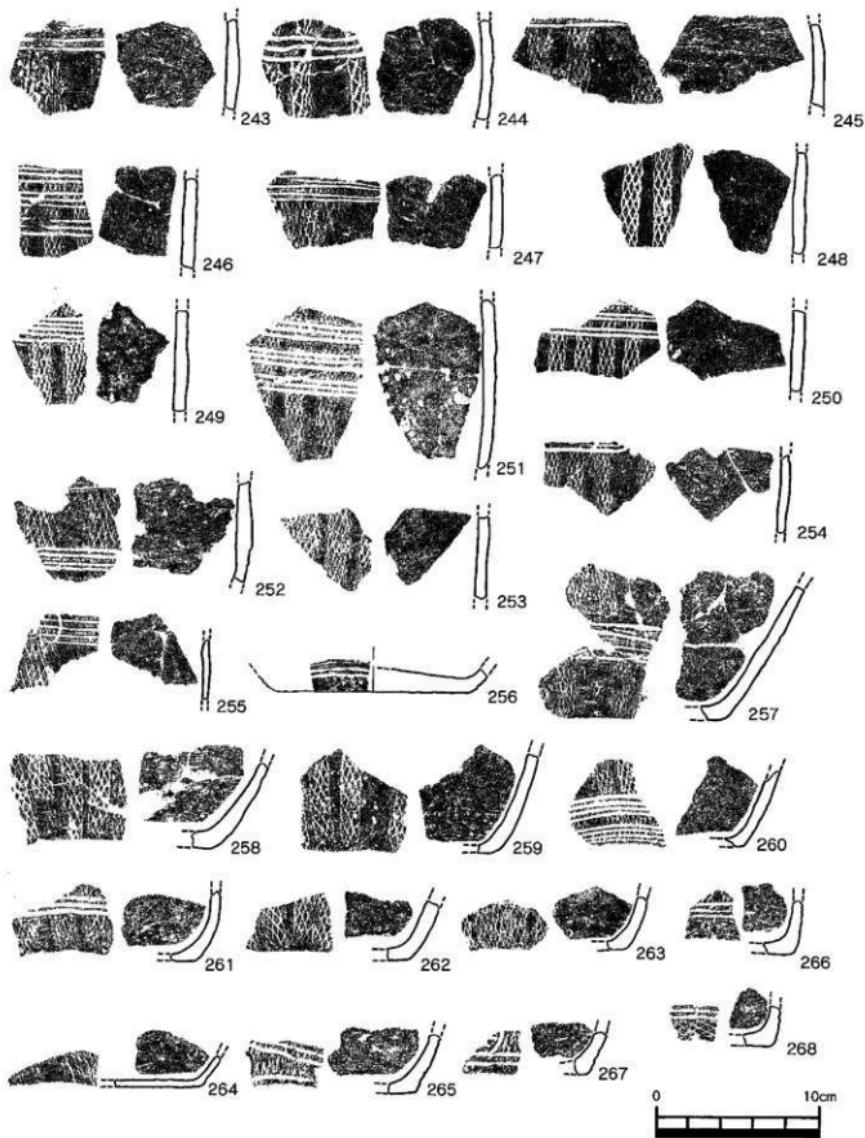
第121図 IV類土器実測図⑤ (S=1/3)



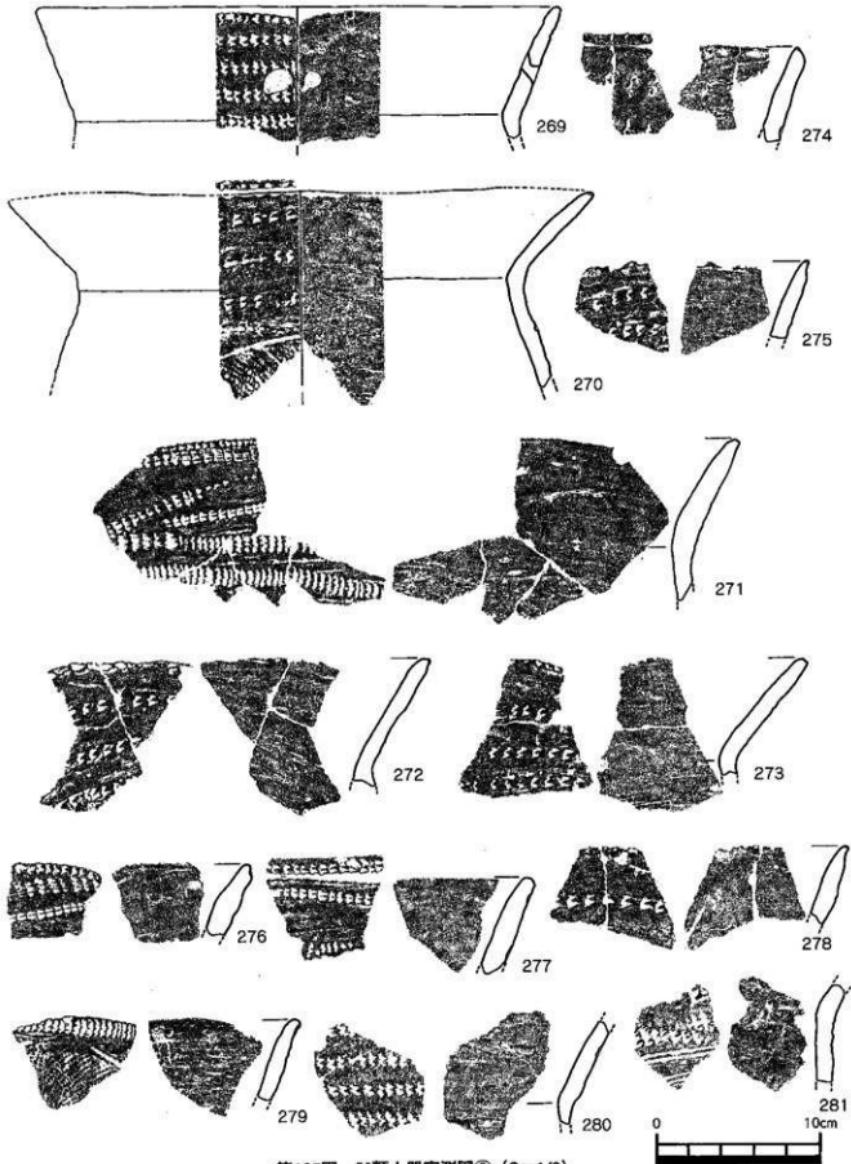
第122図 M類土器実測図⑥ (S=1/3)



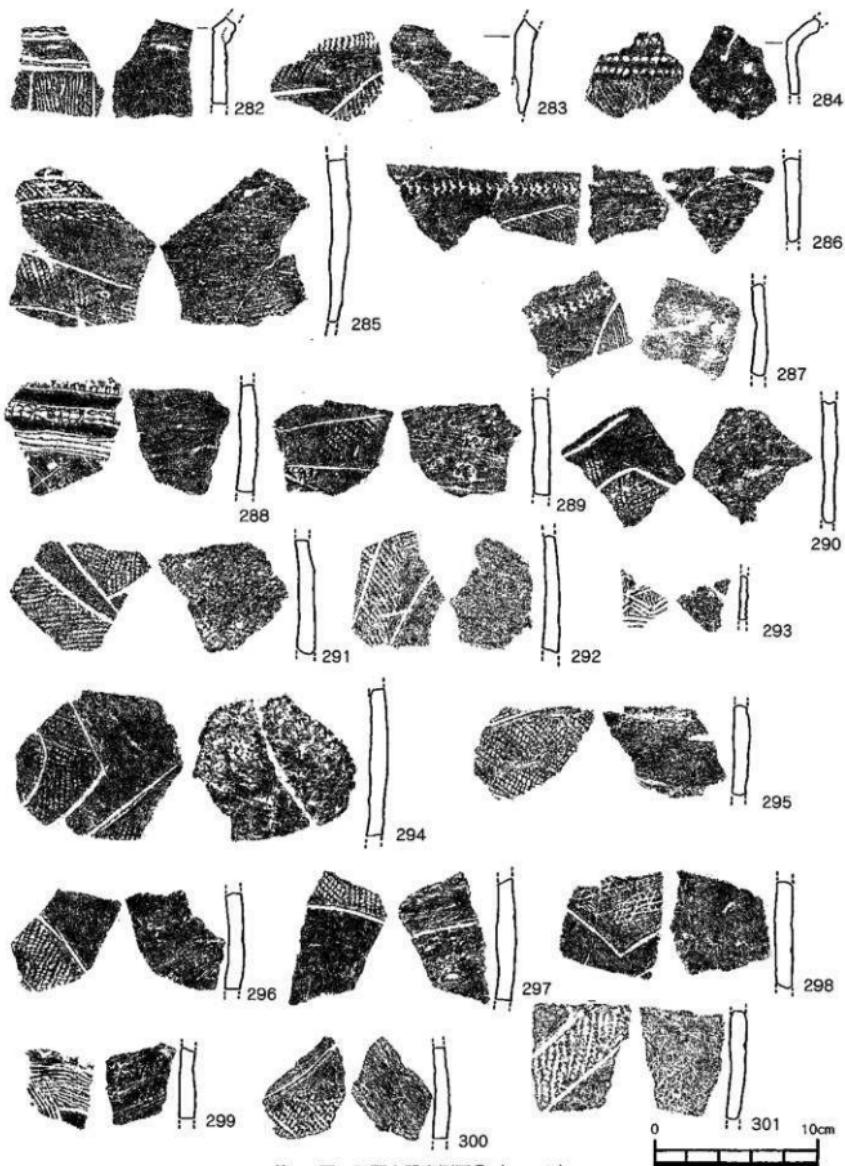
第123図 IV類土器実測図⑦ (S=1/3)



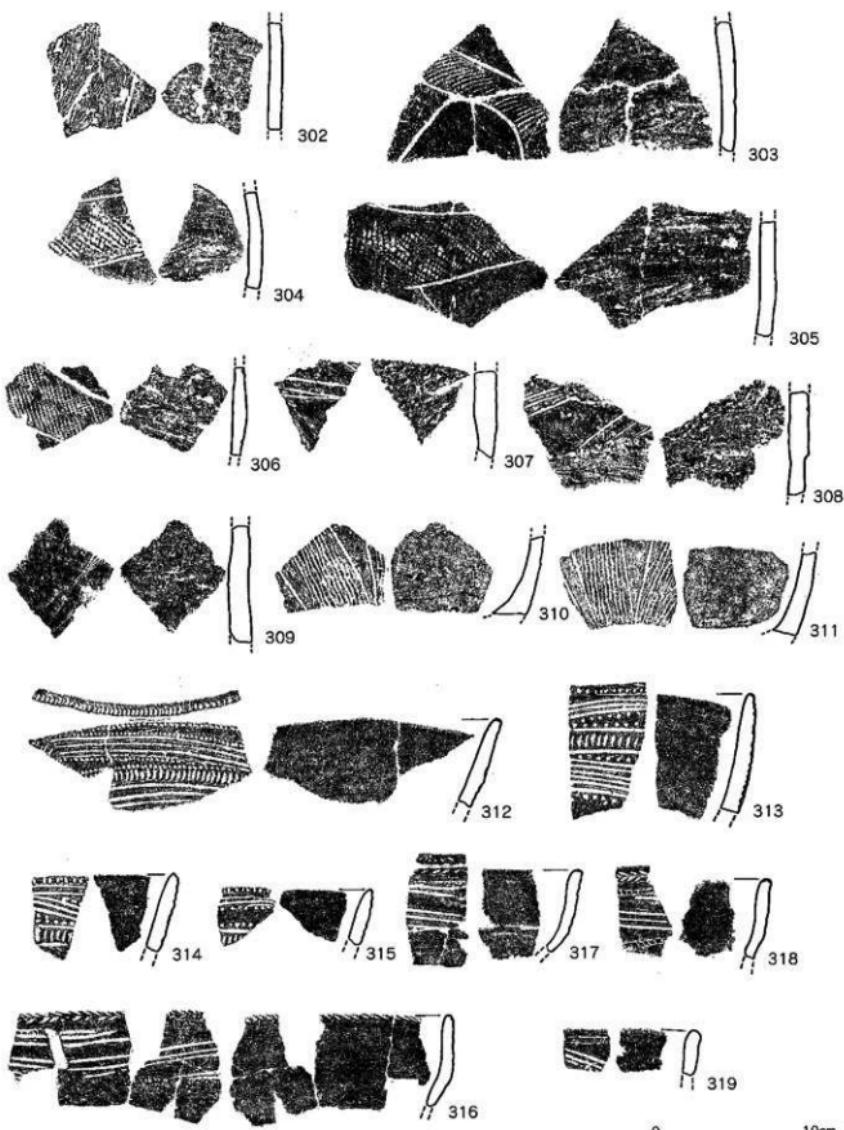
第124図 IV類土器実測図⑧ (S=1/3)



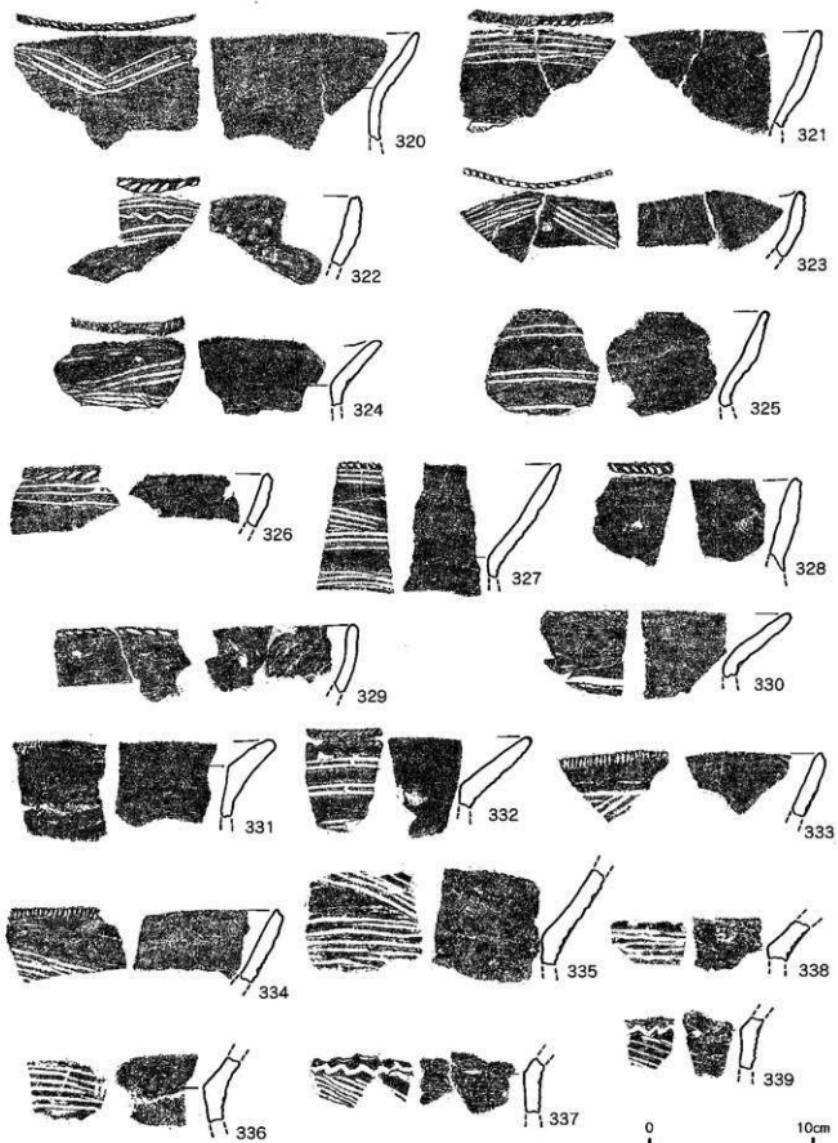
第125図 IV類土器実測図⑨ (S=1/3)



第126図 IV類土器実測図⑩ (S=1/3)



第127図 IV類土器実測図① (S=1/3)



第128図 N類土器実測図① (S=1/3)

第9表 IV類土器観察表

遺構	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺物 整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キクシモ	カオルム	砂粒		
127	V層	口縁~肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○	5mm以下	324
128	VI層	肩部~胴部	沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	7.5YR7/2 明褐灰	○	○			○	2mm以下	322
129	VI層	頭部~胴部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○			○	3mm以下	323
130	VI層	口縁	沈線文 網目文	ナテ	10YR6/4 にぶい・黄褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○			○	1mm以下	267
131	VI層	肩部~底部	ナテ	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○			○	2mm以下	325
132	VI層	肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○			○	3mm以下	326
133	VI層	口縁	沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○		○		○	1.5mm以下	321
134	VI層	口縁	沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	7.5YR5/3 にぶい・褐		○			○	2mm以下	338
135	V層	口縁	沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○			○	3mm以下	314
136	V層	口縁	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR6/4 にぶい・褐	○	○			○	2mm以下	336
137	V層	口縁	ナテ	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	7.5YR5/4 にぶい・褐	○		○		○	2mm以下	310
138	VI層	口縁	沈線文	ナテ	10YR6/4 にぶい・黄褐	10YR6/3 にぶい・黄褐	○	○			○	1mm以下	405
139	VI層	口縁	沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○			○	2.5mm以下	311
140	VI層	口縁	沈線文	ナテ	10YR5/4 にぶい・褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○	○		○	2mm以下	371
141	V層	肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/3 にぶい・褐	○		○		○	2mm以下	313
142	V層	肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	2.5YR4/1 黄褐	○	○	○		○	2mm以下	315
143	VI層	肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○			○	1.5mm以下	316
144	VI層	肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐		○			○	3mm以下	317
145	VI層	肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐		○			○	3mm以下	319
146	VI層	肩部	沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○	○		○	1.5mm以下	320
147	VI層	口縁	ナテ	ナテ	7.5YR6/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・褐	○	○			○	1.5mm以下	309
148	—	口縁	ナテ	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	10YR5/3 にぶい・黄褐			○		○	4mm以下	312
149	VI層	口縁	ナテ	ナテ	7.5YR5/3 にぶい・褐	5YR4/4 にぶい・赤褐	○	○			○	1.5mm以下	318
150	V層	口縁	ナテ	ナテ	7.5YR5/3 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○			○	1mm以下	339
151	VI層	口縁	ナテ	ナテ	7.5YR5/3 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○			○	1mm以下	341
152	VI層	口縁	微隆带 (キサミ)	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○			○	1mm以下	395
153	VI層	胴部	微隆带 (キサミ)	ナテ	10YR5/3 にぶい・黄褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○		○		○	3mm以下	406
154	VI層	肩部	微隆带 (キサミ)	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・黄褐	○	○		○	○	1mm以下	383
155	VI層	肩部	微隆带 (キサミ)	ナテ	7.5YR5/3 にぶい・褐	7.5YR5/3 にぶい・黄褐	○	○	○		○	1mm以下	385
156	VI層	肩部	微隆带 (キサミ)	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○	○		○	1mm以下	387
157	VI層	肩部	微隆带 (キサミ)	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・黄褐	○	○			○	1mm以下	388
158	VI層	肩部	微隆带 (キサミ)	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・黄褐	○		○		○	1mm以下	396
159	VI層	肩部	微隆带 (キサミ)	ナテ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・黄褐	○	○			○	1mm以下	386

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺物 整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	モンモ	カチモ	砂粒		
160	VI層	胴部	微陰帶 (キサミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	382	
161	V層	胴部	微陰帶 (キサミ)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下	384	
162	VI層	胴部	微陰帶 (キサミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下	393	
163	VI層	胴部	微陰帶 (キサミ)	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	392	
164	VI層	胴部	微陰帶 (キサミ)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下	390	
165	VI層	胴部	微陰帶 (キサミ)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	391	
166	V層	口縁~胴部	燃系文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○	○ 3mm以下	口唇部に連続キサミ	269	
167	VI層	口縁	燃系文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○	○ 4mm以下	口唇部に連続キサミ	426	
168	VI層	口縁	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 5mm以下	口唇部に連続キサミ	495
169	VI層	口縁	燃系文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○	○	○ 1.5mm以下	口唇部に連続キサミ	431	
170	V層	口縁	燃系文 沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YT5/4 にぶい褐	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	515	
171	—	口縁	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	464
172	V層	口縫~頭部	燃系文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	449	
173	VI層	口縫~頭部	燃系文 沈線文	ナデ	2.5YV5/2 灰赤	10YR5/3 にぶい黄	○	○			○ 1.5mm以下	口唇部に連続キサミ	448
174	VI層	口縁	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	436
175	VI層	口縁	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	422
176	VI層	口縁	燃系文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○	○ 2mm以下	或赤口縫 口唇部に連続キサミ	463	
177	V層	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	○	○	○	○ 1mm以下	口唇部に連続キサミ	427	
178	VI層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○	○ 3mm以下	或灰口縫 口唇部に連続キサミ・沈線文	517	
179	V層	口縫~頭部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄褐	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ・沈線文	491	
180	V層	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR4/2 褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	493	
181	VI層	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ・穿孔有り	577
182	VI層	口縁	沈線文 剥突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	561
183	V層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○	○ 2mm以下	或灰口縫 口唇部に連続キサミ	564	
184	V層	口縁	沈線文	ナデ	2.5YV6/2 暗灰黃	10YR5/2 灰黄褐	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	572	
185	V層	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	575
186	V層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○	○ 3mm以下	口唇部に連続キサミ	421	
187	V層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	445
188	VI層	頭部~胴部	燃系文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	455	
189	V層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○	○	○ 3mm以下	口唇部に連続キサミ	438	
190	VI層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	447
191	V層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	10YR4/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下	口唇部に連続キサミ	469
192	V層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	穿孔有り	503
193	VI層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	467
194	VI層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	口唇部に連続キサミ	468
195	V層	頭部	燃系文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	口唇部に連続キサミ	511

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺物 整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	セメント	カオリン	砂粒		
196	VI層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい・褐	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○		○	○	2mm以下	514
197	V層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・褐	○	○			○	1mm以下	499
198	VI層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・褐	10YR5/4 にぶい・黄褐色	○	○		○	○	2mm以下	482
199	VI層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○	○		○	3mm以下	458
200	VI層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	5YR4/2 灰褐色	5YR5/4 にぶい・赤褐色				○	○	2mm以下	516
201	VI層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○	2mm以下	454
202	VI層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい・褐	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○		○	○	1mm以下	501
203	V-VI層	頭部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○	○		○	2mm以下	432
204	VI層	腹部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	2mm以下	457
205	V層	腹部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・褐	7.5YR6/4 にぶい・褐	○	○		○	○	4mm以下	456
206	-	腹部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○	○		○	2mm以下	459
207	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○	○		○	3mm以下	466
208	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	7.5YR6/4 にぶい・褐	○	○		○	○	2mm以下	465
209	V-VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・褐	○	○	○		○	3mm以下	429
210	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・褐	7.5YR5/4 にぶい・褐	○	○	○		○	3mm以下	462
211	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○		○	○	4mm以下	446
212	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい・褐	5YR5/4 にぶい・赤褐色	○	○			○	3mm以下	435
213	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	3mm以下	451
214	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○	○	○		○	3mm以下	433
215	V層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR6/4 にぶい・黄褐色	2.5Y5/2 暗紅褐色	○	○			○	2mm以下	434
216	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	4mm以下	424
217	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	7.5YR5/4 にぶい・褐	○	○			○	2mm以下	425
218	V層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	7.5YR5/4 にぶい・褐	○	○	○		○	2mm以下	430
219	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい・赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○			○	2mm以下	437
220	V層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	5mm以下	440
221	V層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・褐	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	1.5mm以下	441
222	V層	肩部	撫糸文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	2mm以下	442
223	VI層	肩部	撫糸文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○	○			○	4mm以下	444
224	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい・褐	5YR5/4 にぶい・赤褐色	○	○			○	2mm以下	792
225	V-VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	3mm以下	450
226	V層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・褐	2.5Y5/3 暗紅褐色	○	○			○	1.5mm以下	452
227	V層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	2.5Y4/1 黄	2.5Y4/2 暗紅褐色	○	○			○	1.5mm以下	453
228	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	7.5YR5/3 にぶい・褐	○	○	○		○	3mm以下	460
229	VI層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	2.5Y4/2 暗紅褐色	2.5Y4/2 暗紅褐色	○	○			○	2mm以下	461
230	VI層	肩部	撫糸文	ナデ	5YR5/4 にぶい・赤褐色	2.5Y4/1 黄	○	○		○	○	1mm以下	470
231	V層	肩部	撫糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐色	10YR5/3 にぶい・黄褐色	○	○			○	2mm以下	471

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	遺物 整理 No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キカド	カクモ	砂粒		
232	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	2.5Y5/2 暗灰質	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○	2mm以下	472
233	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	2mm以下	473
234	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○	2mm以下	474
235	V層	胴部	撫糸文	ナテ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○				○	3mm以下	475
236	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○	3mm以下	476
237	VI層	胴部	撫糸文	ナテ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○	3mm以下	477
238	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○			○	○	3mm以下	478
239	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR4/3 褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○	○	○	○	1mm以下	479
240	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○	○	○	○	2mm以下	480
241	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○	○	○	2mm以下	481
242	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○	○	○	3mm以下	482
243	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○				○	1mm以下	483
244	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	○				○	2mm以下	484
245	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○	2mm以下	485
246	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	1mm以下	486
247	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○	2mm以下	487
248	VI層	胴部	撫糸文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○	○	○		○	1mm以下	488
249	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○	3mm以下	489
250	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	1mm以下	490
251	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	2mm以下	494
252	VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○	○		○	2.5mm以下	498
253	VI層	胴部	撫糸文	ナテ	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○	○	○		○	1mm以下	504
254	V-VI層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR4/3 褐	○	○	○		○	1mm以下	509
255	V層	胴部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○	○		○	1mm以下	513
256	VI層	底部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	2mm以下	428
257	V層	腰部～底部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○		○	1.5mm以下	500
258	VI層	底部	撫糸文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	1mm以下	502
259	VI層	腰部～底部	撫糸文	ナテ	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	2mm以下	423
260	VI層	腰部～底部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	2mm以下	443
261	VI層	底部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○	○	○		○	1mm以下	497
262	VI層	腰部～底部	撫糸文	ナテ	10YR5/4 にぶい黄褐	5Y3/1 オリーブ黒	○	○	○		○	2mm以下	439
263	VI層	底部	撫糸文	ナテ	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	1mm以下	507
264	VI層	底部	撫糸文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	○	○	○		○	2mm以下	512
265	V層	底部	撫糸文 沈線文	ナテ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○	2mm以下	506
266	VI層	底部	撫糸文 沈線文	ナテ	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○	2mm以下	508
267	V層	底部	撫糸文	ナテ	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○	○		○	1mm以下	505

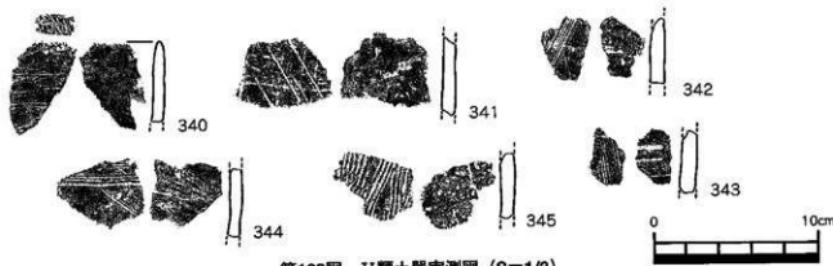
通構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺物整理 No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	シラカバ	カオル		
268	VI層	底部	櫛糸文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 2mm以下		518
269	V層	頭・頸・部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 4mm以下	穿孔有り	670
270	V-VI層	口縁～鬚部	貝殻刺突文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 6mm以下	口唇部に連続キザミ	327
271	V層	頭・頸・部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 4mm以下	口唇部に連続刺突文	671
272	V-VI層	頭・頸・部	貝殻刺突文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	669
273	V層	頭・頸・部	貝殻刺突文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	663
274	V層	口縁	貝殻刺突文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR5/2 灰黄褐	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続刺突文	664
275	V層	口縁	貝殻刺突文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	660
276	V層	口縁	貝殻刺突文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○			○ 3mm以下		661
277	V層	口縁	貝殻刺突文	ナア	7.5YR6/4 にぶい・橙	7.5YR6/4 にぶい・橙	○	○		○ 3mm以下		667
278	V層	口縁	貝殻刺突文	ナア	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	668
279	V層	口縁	貝殻刺突文 沈線文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 4mm以下		334
280	V層	鬚部～頸部	貝殻刺突文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 4mm以下		662
281	V層	頸部	貝殻刺突文 沈線文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄橙	10YR5/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 3mm以下		695
282	V層	頸部～肩部	沈線文 鏡文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい・橙	7.5YR5/4 にぶい・橙	○	○		○ 4mm以下	屈曲部に貼付突帯	329
283	V層	頸部～肩部	貝殻刺突文 鏡文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・橙	10YR5/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 2mm以下		330
284	VI層	頸部	貝殻刺突文 鏡文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄橙	10YR5/3 にぶい・黄橙	○			○ 2mm以下		328
285	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR6/4 にぶい・黄橙	2.5Y6/3 にぶい・黄	○	○		○ 2mm以下		694
286	V-VI層	脣部	貝殻刺突文 鏡文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○			○ 6mm以下		331
287	V層	脣部	貝殻刺突文 鏡文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 2mm以下		665
288	VI層	脣部	貝殻刺突文 沈線文	ナア	7.5YR5/4 にぶい・橙	10YR5/3 にぶい・黄	○	○		○ 3mm以下		678
289	VI層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	10YR6/3 にぶい・黄橙	○	○		○ 1.5mm以下		332
290	VI層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	7.5YR6/4 にぶい・橙	7.5YR5/4 にぶい・橙	○	○		○ 2mm以下		333
291	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○		○ 3mm以下		335
292	VI層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR6/4 にぶい・黄橙	7.5YR6/4 にぶい・黄	○			○ 1mm以下		666
293	—	脣部	沈線文 鏡文	ナア	7.5YR5/4 にぶい・橙	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○ 1.5mm以下		677
294	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	7.5YR5/4 にぶい・橙	7.5YR6/4 にぶい・橙	○	○		○ 2mm以下		682
295	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄橙	2.5Y6/3 にぶい・黄	○	○		○ 2mm以下		683
296	VI層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄橙	10YR5/3 にぶい・黄	○	○		○ 1.5mm以下		684
297	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	7.5YR6/4 にぶい・黄	10YR5/3 にぶい・黄	○	○		○ 2mm以下		685
298	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	7.5YR6/4 にぶい・黄	10YR5/3 にぶい・黄	○	○		○ 2mm以下		686
299	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄	7.5YR5/4 にぶい・黄	○	○		○ 2mm以下		687
300	VI層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR6/3 にぶい・黄	10YR6/3 にぶい・黄	○	○		○ 2mm以下		689
301	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	10YR5/3 にぶい・黄	10YR5/3 にぶい・黄	○	○		○ 1.5mm以下		691
302	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	7.5YR5/3 にぶい・橙	7.5YR5/4 にぶい・橙	○	○		○ 3mm以下		692
303	V層	脣部	沈線文 鏡文	ナア	7.5YR6/4 にぶい・橙	7.5YR5/4 にぶい・橙	○	○		○ 3mm以下		693

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調査		色調		胎土				備考	遺物 整理 No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	シラカバ クワハ	砂粒		
304	VI層	脣部	沈縫文 縄文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 1.5mm以下		696
305	V層	脣部	沈縫文 縄文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 2mm以下		697
306	V層	脣部	沈縫文 縄文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 3mm以下		698
307	V層	脣部	沈縫文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 3mm以下		679
308	VI層	脣部	沈縫文	ナデ	7.5YR5/2 灰褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○ 3mm以下		688
309	VI層	脣部	沈縫文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 2mm以下		690
310	V層	脣部～底部	沈縫文 縄文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○ 2mm以下		681
311	V層	脣部～底部	沈縫文 縄文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 1.5mm以下		680
312	V層	口縁	沈縫文 削突突起文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	○ 4mm以下	口唇部に連続キザミ	559
313	V層	口縁	沈縫文 削突突起文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○	○	○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	266
314	V層	口縁	沈縫文 削突突起文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	567
315	V層	口縁	沈縫文 削突突起文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	578
316	V層	口縁	沈縫文 (ギザギザ)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	389
317	V層	口縁	沈縫文 (ギザギザ)	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	398
318	V層	口縁	沈縫文 (ギザギザ)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	394
319	V層	口縁	沈縫文 (ギザギザ)	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	397
320	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	563
321	V層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	5YR6/6 褐色	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	581
322	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	569
323	V層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	560
324	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		○ 3mm以下	口唇部に連続キザミ	565
325	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○		○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	566
326	V層	口縁	沈縫文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○	○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	570
327	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色			○	○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	579
328	VI層	口縁	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色			○	○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	573
329	VI層	口縁	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	574
330	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰褐色	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	571
331	VI層	口縁	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		○ 5mm以下		576
332	VI層	口縁	沈縫文	ナデ	5YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○		○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ	580
333	V層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		○ 2mm以下	口唇部に連続キザミ	562
334	V層	口縁	沈縫文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○		○ 5mm以下	口唇部に連続キザミ	568
335	V層	頬部～頭部	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○	○	○ 2mm以下		717
336	V層	頬部	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○ 2mm以下		718
337	V層	頬部	沈縫文 (山形文?)	ナデ	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR5/2 灰褐色	○			○ 2mm以下		719
338	V層	頬部	沈縫文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○	○	○ 4mm以下		720
339	V層	頬部	沈縫文 (山形文?)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○ 2mm以下		721

### V類（貝殻条痕文系土器）

当遺跡では、41点の貝殻条痕文土器が出土したが、今回はそのうち6点を資料化している。

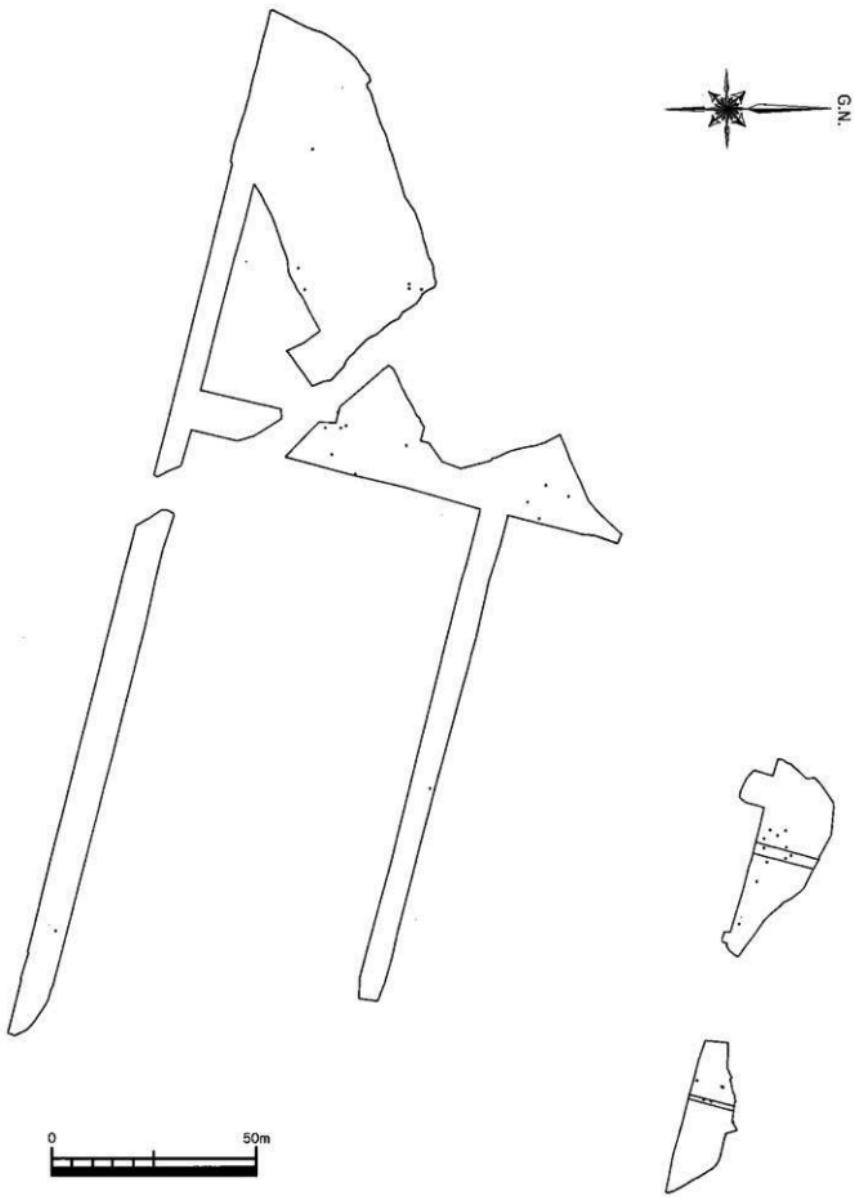
340は口縁部である。口唇部はやや尖り気味におさめ、その頂点にはキザミ目を施し、口縁部外面には横位の貝殻条痕文を施している。341～345は脣部である。いずれも脣部外面に横位・縦位・斜位の貝殻条痕文を施していて、器形については小破片のため不明である。以上が6点についての考察であるが、この分類の土器の出土層位については、他の縄文時代早期の土器よりも明らかに上位であった。(以上をV類とする。)



第129図 V類土器実測図 (S=1/3)

第10表 V類土器観察表

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺物 整理 No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンモ	コウモ		
340	VI層	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2 灰褐色	2.5Y5/2 暗灰黄		○			○ 1mm以下	口唇部に連続キザミ 413
341	V層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/4 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	414
342	V層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	415
343	V層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐					○ 2mm以下	416
344	V層	脣部	貝殻条痕文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 2mm以下	417
345	-	脣部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/3 褐	5YR4/2 灰褐	○	○			○ 2mm以下	418



第130図 縄文時代早期遺物包含層出土土器（V類）分布図（S=1/1,200）

## VI類（その他の土器）

当遺跡の縄文時代早期の包含層から出土した土器のなかで、先述のI類～V類の区分には入らないが、器形や施文などになんらかの特徴を持つ土器を、今回は12点資料化している。

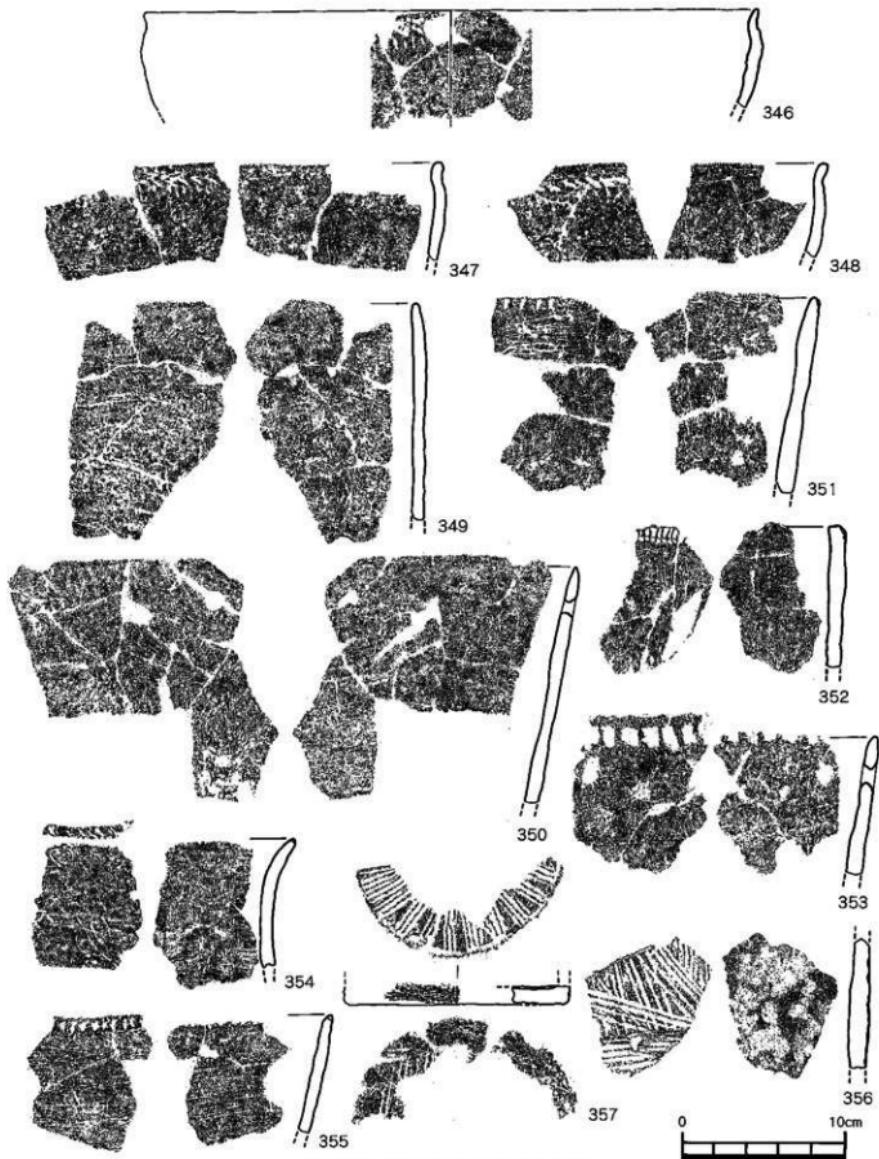
346～348は口縁部であるが、胴部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がり、口唇部下位1cm～1.5cmのところでの字状に外反している。その屈曲部外面には爪形の文様があるが、これは口縁部を外反させる際に施されたものだと推測される。

349～355については、胴部から口縁部にかけて直立するもの（349・352）、やや開きながら立ち上がるるもの（350・351・353・355）、口縁部が外反するもの（354）が見られる。口縁部については、丸くおさめているもの（349・351・355）、やや尖り気味におさめているもの（350・353）、そして平坦面を作り出しているもの（352・354）が見られるが、351～355については口唇部にキザミ目を施している。施文についてはほぼ無文であるが、355は口縁部外面に貝殻条痕文を施した後ナデ調整を行っているのではないかと推測される。

尚、356は外面に貝殻条痕文を施した胴部で、357は内面及び外面に貝殻条痕文を施した平底の底部である。（以上をVI類とする。）

第11表 VI類土器観察表

遺構 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	遺物 整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キウモ	カウモ	砂粒		
346	VI層	口縁部 刺突文	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○			○	4mm以下	738
347	VI層	口縁部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○		○	○	4mm以下	726
348	VI層	口縁部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○			○	4mm以下	729
349	V層	口縫～縁部 刺突文 ナデ	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○			○	5mm以下	736
350	VI層	口縫～縁部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	2.5Y5/2 暗灰褐色	○	○		○	○	4mm以下 穿孔有り	737
351	VI層	口縁部	ナデ	ナデ	10YR7/1 灰白	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	2mm以下	735
352	VI層	口縁部 刺突文	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	3mm以下	733
353	VI層	口縁部 刺突文 ナデ	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○		○	○	3mm以下 穿孔有り	727
354	VI層	口縁部	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○			○	5mm以下 口唇部に連続キザミ	728
355	VI層	口縁部	ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○			○	○	4mm以下	723
356	V層	縫部 貝殻条痕文	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○			○	5mm以下	732
357	V層	底部 沈線文	沈線文	沈線文	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○		○	○	4mm以下	734



第131図 VI類土器実測図 (S=1/3)

## 2. 土製品

当遺跡では、縄文時代早期の包含層から12点の土製品が出土した。

### 異形土製品

358は分銅形（涙滴形）の土製品である。重量は30.2gで、長軸方向には穿孔が施されている。用途は不明である。

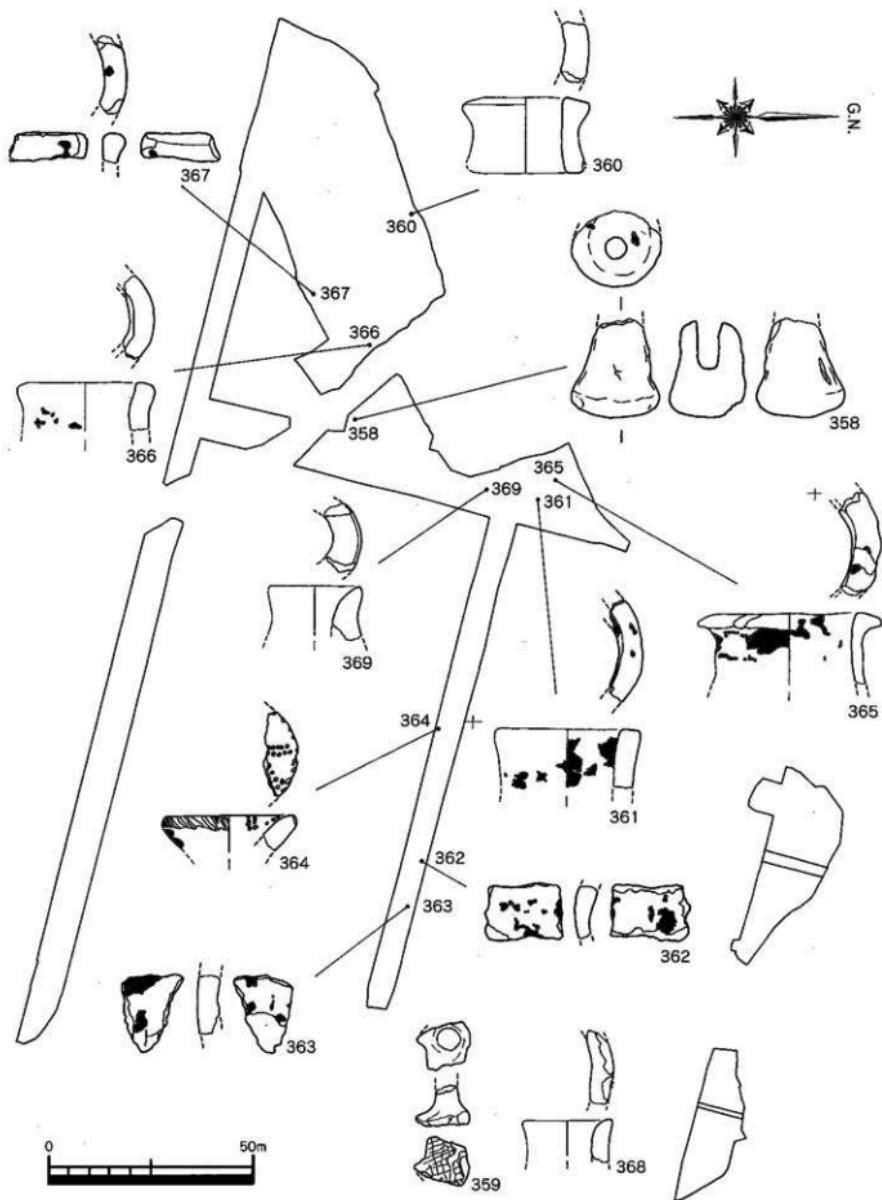
359は格子目文を施した土製品である。重量は3.6gで、その形状からは臼状耳栓の一部の可能性も考えられる。但し、今回は異形土製品として資料化している。

### 輪状耳栓

360～369は輪状耳栓である。360～368は外面に丹塗りと思われる赤色顔料が残っている。又、364には櫛状工具による連点文と連続キザミ目が施してあるが、その他はナテ調整が施されている。これら全ての輪状耳栓は完形で出土したものではないので、整理作業当初、壺の口縁部ではないかと判断を迷ったが、近隣遺跡からこれらとほぼ同じ胎土で似た形状の輪状耳栓が出土しているため、今回は輪状耳栓として資料化している。

第12表 土製品観察表

遺構 No.	出土 層位	遺物名	サイズ	色調	備考
358	VI層	異形土製品 (涙滴形土製品)	—	10YR6/4 (にぶい黄橙)	重量30.2g
359	VI層	異形土製品	—	10YR5/2 (オリーブ灰)	格子目有り。重量3.6g
360	VI層	輪状耳栓	上部径3.2cm×髙3.1cm	外面：10YR5/3 (にぶい黄褐) 内面：7.5YR5/4 (にぶい青)	赤色顔料有り (丹塗り)
361	VI層	輪状耳栓	上部径5.4cm	外面：7.5YR5/4 (にぶい褐) 内面：7.5YR4/3 (褐)	赤色顔料有り (丹塗り)
362	VI層	輪状耳栓	—	外面：5YR5/4 (にぶい赤褐) 内面：5YR5/4 (にぶい赤褐)	赤色顔料有り (丹塗り)
363	VI層	輪状耳栓	—	外面：10YR5/2 (灰抜褐) 内面：7.5YR4/2 (灰褐)	赤色顔料有り (丹塗り)
364	VI層	輪状耳栓	上部径5.3cm	外面：10YR6/4 (にぶい黄橙) 内面：10YR5/3 (にぶい黄褐)	連続キザミ目、櫛状工具による連点文、赤色顔料有り (丹塗り)
365	VI層	輪状耳栓	上部径5.8cm	外面：7.5YR5/3 (にぶい褐) 内面：10YR5/3 (にぶい黄褐)	赤色顔料有り (丹塗り)
366	VI層	輪状耳栓	上部径4.6cm	外面：10YR5/3 (にぶい黄褐) 内面：10YR5/3 (にぶい黄褐)	赤色顔料有り (丹塗り)
367	VI層	輪状耳栓	—	外面：2.5Y6/3 (にぶい黄) 内面：10YR5/3 (にぶい黄褐)	赤色顔料有り (丹塗り)
368	VI層	輪状耳栓	上部径3.7cm	外面：2.5Y6/3 (にぶい黄) 内面：10YR5/3 (にぶい黄褐)	赤色顔料有り (丹塗り)
369	VI層	輪状耳栓	上部径3.8cm	外面：7.5Y4/2 (灰褐) 内面：10YR4/2 (灰黄褐)	



第132図 縄文時代早期遺物包含層出土土製品分布図及び実測図 ( $S=1/1,200$ ) ※実測図については1/3

### 3. 石器

縄文時代早期の石器は5層～6層を中心に、総数3000点以上が出土した。

縄文早期の遺物包含層から出土した石器の整理作業にあたっては、従来分類に使用されている器種について分類基準を設定し、器種分類を行った。なお石器の器種分類については山田第一遺跡の整理作業にあたっての分類であり、すべての石器資料に用いられるものではない。以下にその器種ごとの分類基準と特徴を述べる。

#### 石鏃 (370～564)

剥片を素材として両面調整又は半両面調整により鋭い先端部を作り出し、平面形がおおむね三角形又は五角形を想定させるものを石鏃として分類した。

本遺跡において石鏃は未製品・欠損品を含め総数318点出土した。使用石材としてはチャート、黒曜石（複数の産地のものが確認されている）、流紋岩、頁岩、安山岩（サヌカイトを含む）、玉髓、砂岩、ホルンフェルスなど多様な石材が使用されているが特にチャート及び黒曜石の使用が目立つ。石鏃の平面形態や製作状況を検討し、下記のⅠ～IX類に分類した。

Ⅰ類：長さ・幅が1.5cm以下の小型のもので長幅比がほぼ1:1のもの。黒曜石がよく使用されているが、なかでも桑ノ木津留産のものが目立つ。(370～394)

Ⅱ類：平面形が変則的な五角形を呈し、胴下半部に最大幅をもつわゆる帖地型石鏃と呼ばれるもの。チャート、玉髓の使用が目立つ。(395～410)

Ⅲ類：加工が周縁部にのみとどまり、素材剥片の形状を大きく残すもの。さまざまな石材が使用されているが流紋岩、頁岩が目立つ。(411～430)

Ⅳ類：平面形はⅡ類に似ているが、抉りが深く、脚部の先端が尖るもの。すべてチャートが使用されている。(431～433)

Ⅴ類：抉りが深く、平面形は将棋の駒のような五角形を呈するもの。脚部の先端はおおむね尖っている。チャートの使用が目立つ。(434～440)

VI類：特徴的な抉り・脚部を呈するもの、いわゆる鉤形鏃と呼ばれるもの。さまざまの石材が使用されているが特にチャートの使用が目立つ。(441～466)

VII類：体部と脚部の間に屈曲が見られ、その境目が明瞭なもの。姫島産黒曜石の使用が目立つ。(467～470)

VIII類：研磨の痕跡が認められるもの。局部磨製石鏃。いずれも頁岩が使用されており、周縁部は鋸歯状を呈する。(471～472)

IX類：上記の分類に当てはまらないものである。Ⅰ～VII類の定義に該当するものかどうか判別の困難なものや欠損などの理由で判別できないものまですべてを含んでおり、数量的には一番多くなっている。いちおう抉りのないもの・浅いもの(473～507)と抉りの深いもの(508～564)とに細分できるが、さらに細分されることが予想される。

詳細は後述するが、縄文早期の土器の平面分布と上記の分類や使用石材による石鏃の分布状況

を重ねあわせた結果、早期中葉の土器の分布に重なるものや早期後葉の土器の分布に重なるものがあるという傾向が見受けられた。このような結果から大まかであるが、本遺跡における縄文早期の使用石材の傾向や石器の形態を把握できる可能性が伺えるだろう。

#### 石器未製品（565～586）

石器とほぼ同規模であり三角形や橢円形などを呈するもので、先端部が尖っていないものや加工が未熟なものを石器の未製品として分類した。一部には石錐も含まれている可能性もある。

#### 尖頭状石器（587～592）及びその未製品（593～605）

総数25点が出土している。剥片を素材として両面調整または半両面調整より鈍い尖端部を作り出し、基部は丸くおさめられているもので、石器に比べると調整が粗く、大ぶりなものを分類した。一部に石器の未製品が含まれている可能性が考えられる。使用石材は頁岩、流紋岩の使用が目立つが他に安山岩、ホルンフェルスも使用される。未製品については素材の周縁に粗い加工が及んでいるが、尖端部を作り出しておらず、製品よりも規模の大きいものを分類している。一部には石器の未製品や小型の石核などが含まれている可能性もある。

#### 尖頭器（606～610）及びその未製品（611）

総数6点が出土している。剥片を素材として両面調整または半両面調整より尖端部を作り出すもので、平面形が木葉形や柳葉形を想定させるものを尖頭器として分類した。素材剥片の形状を大きく残すものと残さないものがある。流紋岩、頁岩、チャート、ホルンフェルスを使用する。平面分布は早期中葉の土器の分布とおおむね重なりそうである。611は頁岩製で、加工も粗く、素材の形状を大きく残しているため尖頭器の未製品と考えられる。

#### 抉入石器？（612）

1点のみ出土している。黒色を呈するチャートを使用している。剥片を素材とし、その一部にのみ加工を施して抉りの部分を作り出す。二次加工は抉りの部分にのみ施される。石匙のつまみ部分の可能性もある。

#### 異形石器（613）

1点のみ出土している。黒色を呈する頁岩を使用している。素材の周縁に加工を施し、先端の丸くなった石器のように形状を整えている。先端部付近には研磨の痕跡が見られ、稜線がつぶれています。トロトロ石器に分類されるであろうか。

#### 石錐（614～623）

剥片を素材とし、その一部に両側縁からの調整を施し、尖端部を作り出したものを分類した。総数10点が出土している。一部には石器の未製品が含まれている可能性がある。石材は流紋岩、頁岩、チャート、安山岩、黒曜石、砂岩が使用されている。

#### 石匙（624～629）

剥片を素材とし、その一部に両側縁からの調整によりつまみ部を作り出し、また周縁に加工を施して刃部を作り出すものを石匙として分類した。総数6点が出土している。石材は安山岩、チャートが使用されている。

### スクレイバー（630～639）

剥片を素材とし、その縁辺に連続的な調整を施し、刃部を作り出したものを分類した。調整は周縁に限られている。総数14点が出土している。石材は頁岩・流紋岩を主体とし、他にチャート・砂岩が使用されている。

### 剥片（640～652）・碎片

総数2669点が出土している（主な内訳は流紋岩628点、チャート887点、頁岩179点、黒曜石624点、砂岩161点、その他190点）。チャート・黒曜石・玉髓・安山岩製のものは小型のものばかりで、砂岩・ホルンフェルス製は大型のものばかりである。頁岩・流紋岩については大型品も小型品も見受けられる。黒曜石については複数の産地（西北九州産・南九州産・姫島）のものが確認される。640・641は側縁や下縁に粗い二次加工が見られる。643・647・649・650は縁辺に微細剥離が確認される。651はP72の26と同じ珪質岩製の研磨痕が観察される剥片である。このような磨製石斧の再生剥片と考えられる剥片は包含層中から他に5点出土している。

### 礫器（652）

1点のみ出土している。砂岩の扁平な橢円形の礫を素材とする。円礫の一端に両面から数回の粗い加工を施し、刃部を作り出す。両側面の中央部付近には敲打痕が確認され、浅い抉りを意識している。

### 磨製石斧（653）

1点のみ出土している。砂岩の扁平な橢円形の礫を素材としている。一部に自然面を残し、両側縁には敲打の痕跡が確認される。全面に研磨を施しているようであるが、側縁部や基部についてはあまり入念に行っておらず、敲打の痕跡を残したままである。全体の形状は短冊形を呈する。刃部に見られる剥離面については研磨痕が確認されないことから、刃部再生のための加工である可能性が考えられる。

### 両面加工石器（654）

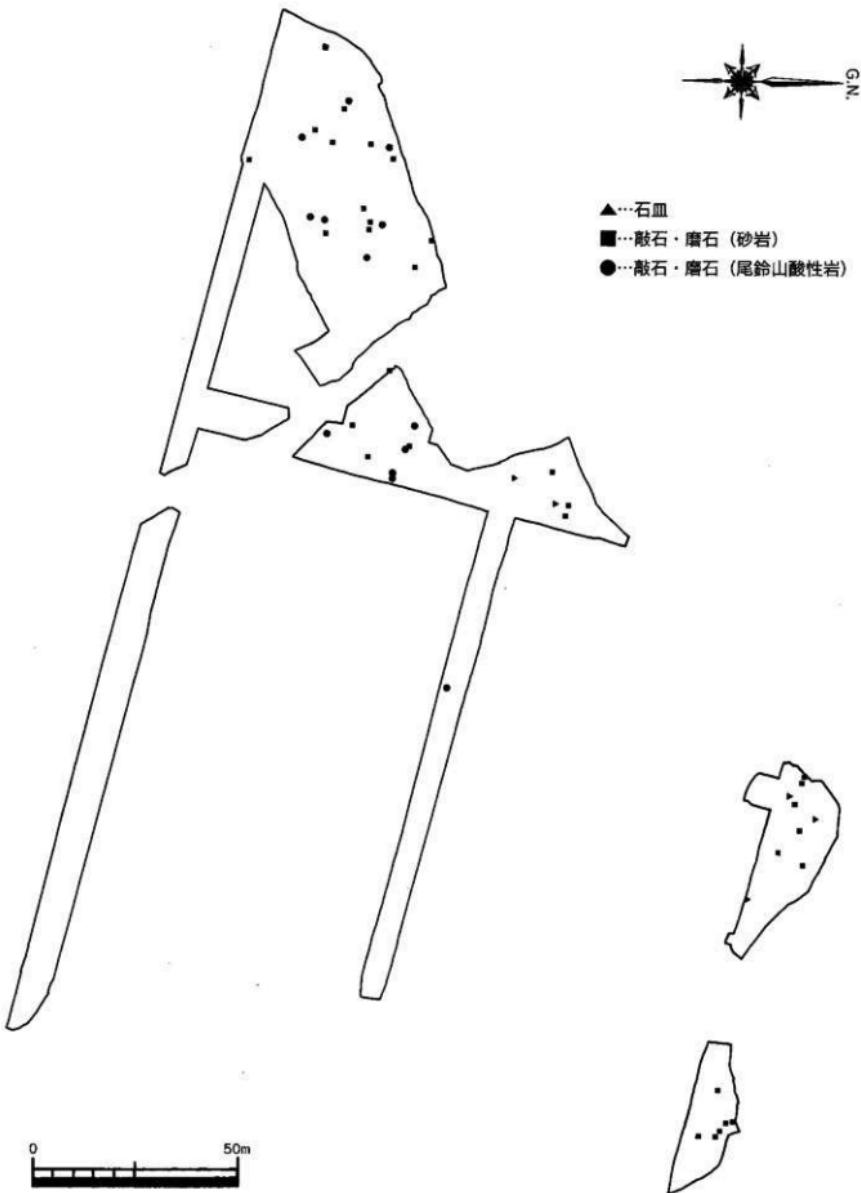
1点のみ出土している。黄褐色を呈するホルンフェルス製で両端部は鈍く尖る。厚手の剥片か礫を素材として、両面加工がおこなわれているものである。石核の可能性も考えられるが、この石材を使用する剥片は一点も出土していない。

### 石核（655～661）

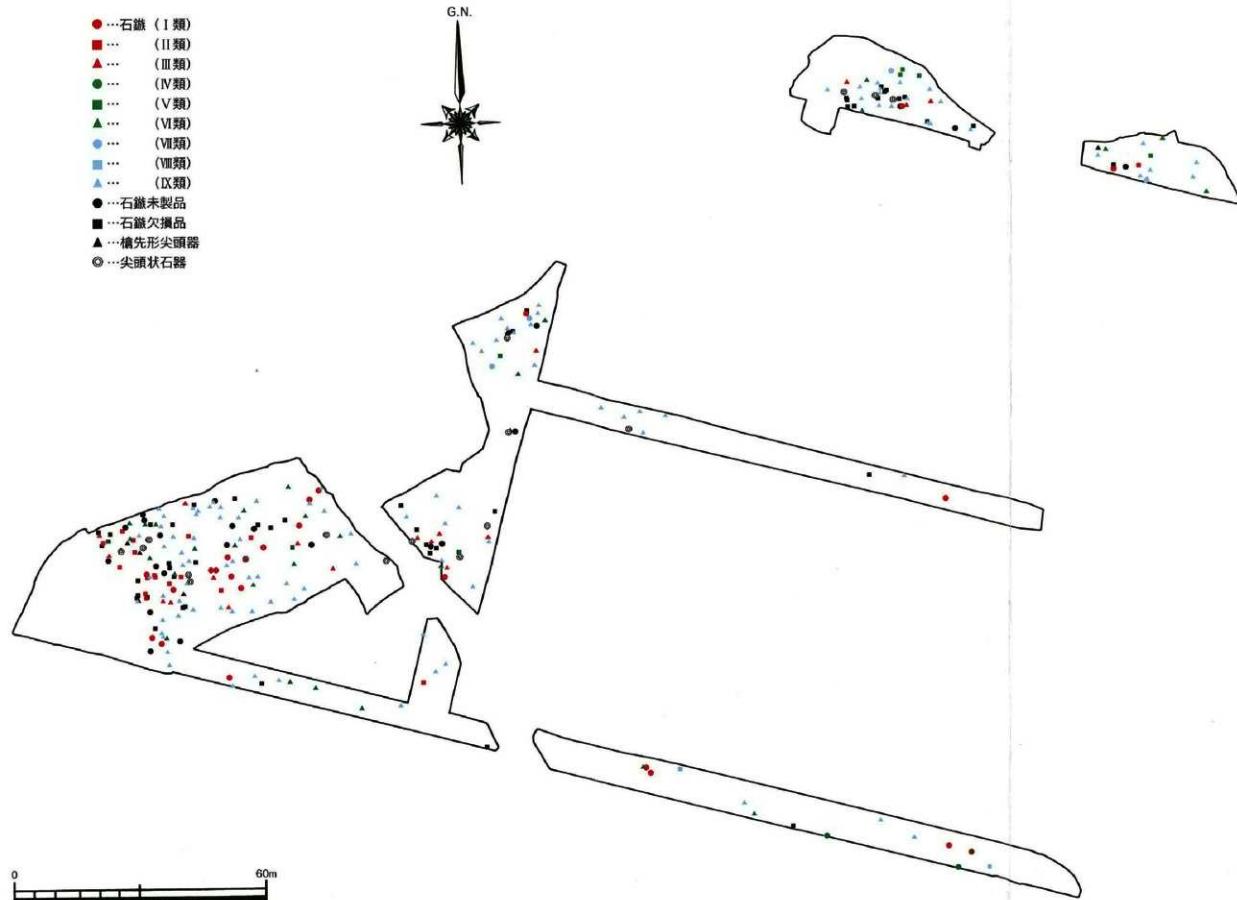
総数30点出土している（内訳は流紋岩12点、頁岩5点、黒曜石3点、砂岩10点）。石材ごとに規模を観察すると剥片と同様の状況が見受けられた。一部には楔形石器も含まれている可能性が考えられる。共通点としては打面調整をおこなうものがほとんどないということがあげられ、求心的に剥片剥離をおこなうもの（655・658・659・660）、自然面または大きな剥離面を打面とし、一方向からの剥片剥離をおこなうもの（657・661）、作業面を転回しながら剥片剥離をおこなうもの（656）、という主に3種類に分類が可能である。

### 有孔石製品（662）

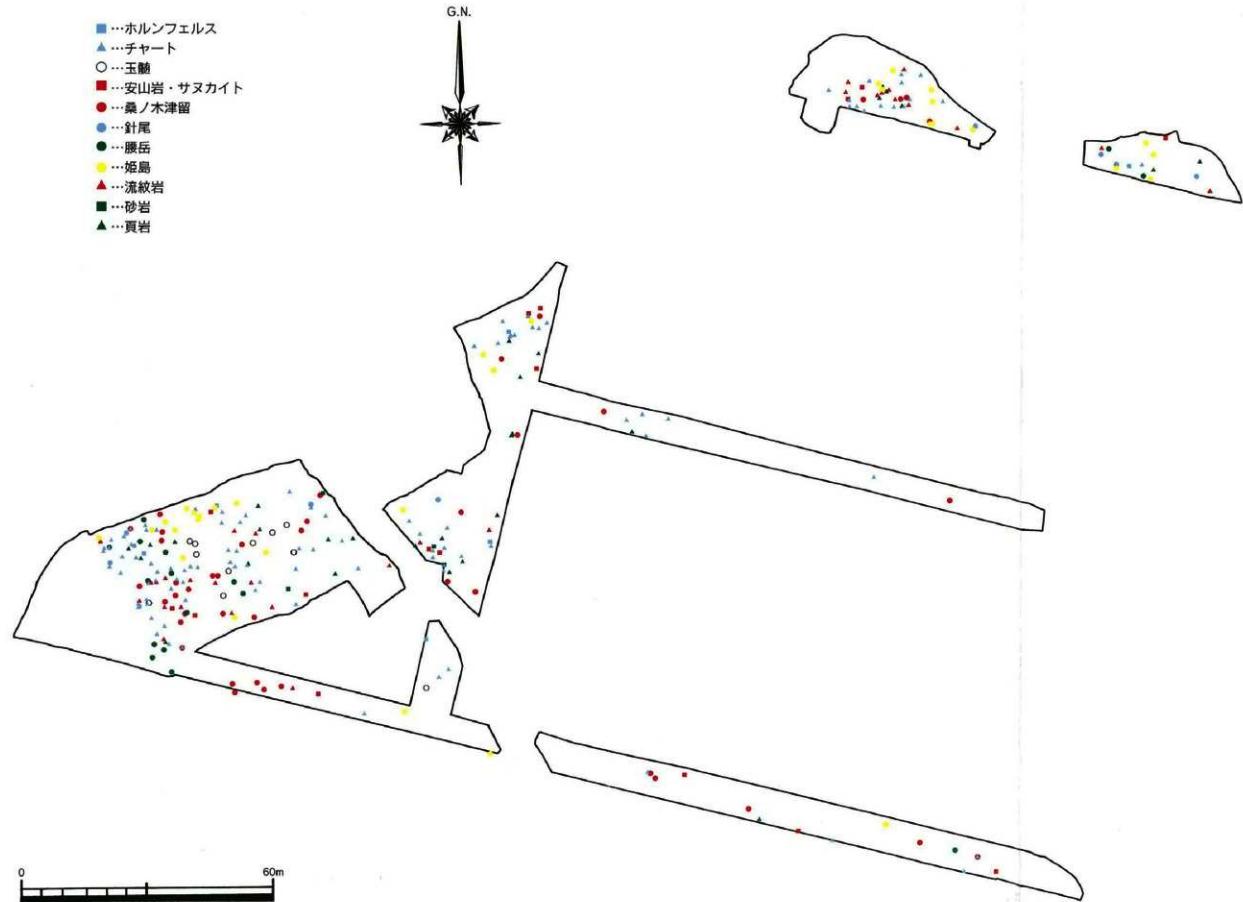
砂岩製で1点のみ出土している。中心に穴が開いており、その周辺部については表面も裏面も



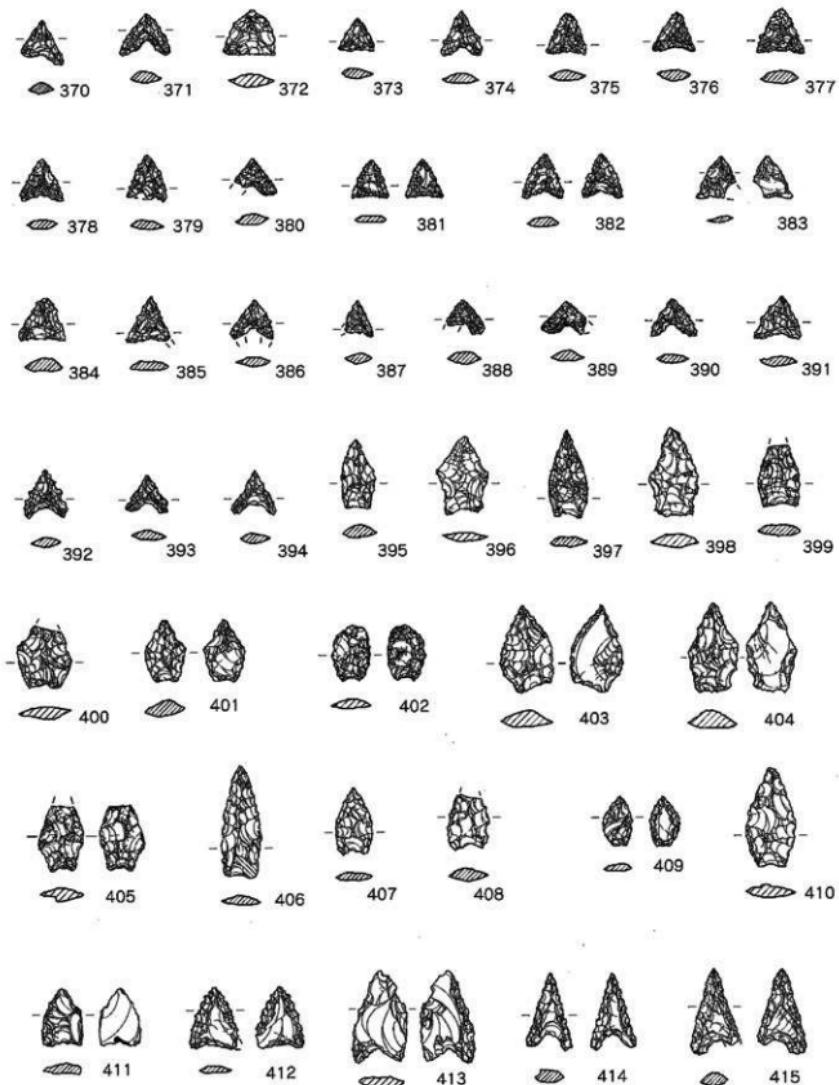
第133図 山田第1遺跡・縄文時代早期遺物包含層出土 敷石・磨石分布図 (S=1/1,200)



第134図 山田第1遺跡・縄文時代早期遺物包含層出土 石器・樟先形尖頭器・尖頭状石器（器類別）分布図（S=1/900）

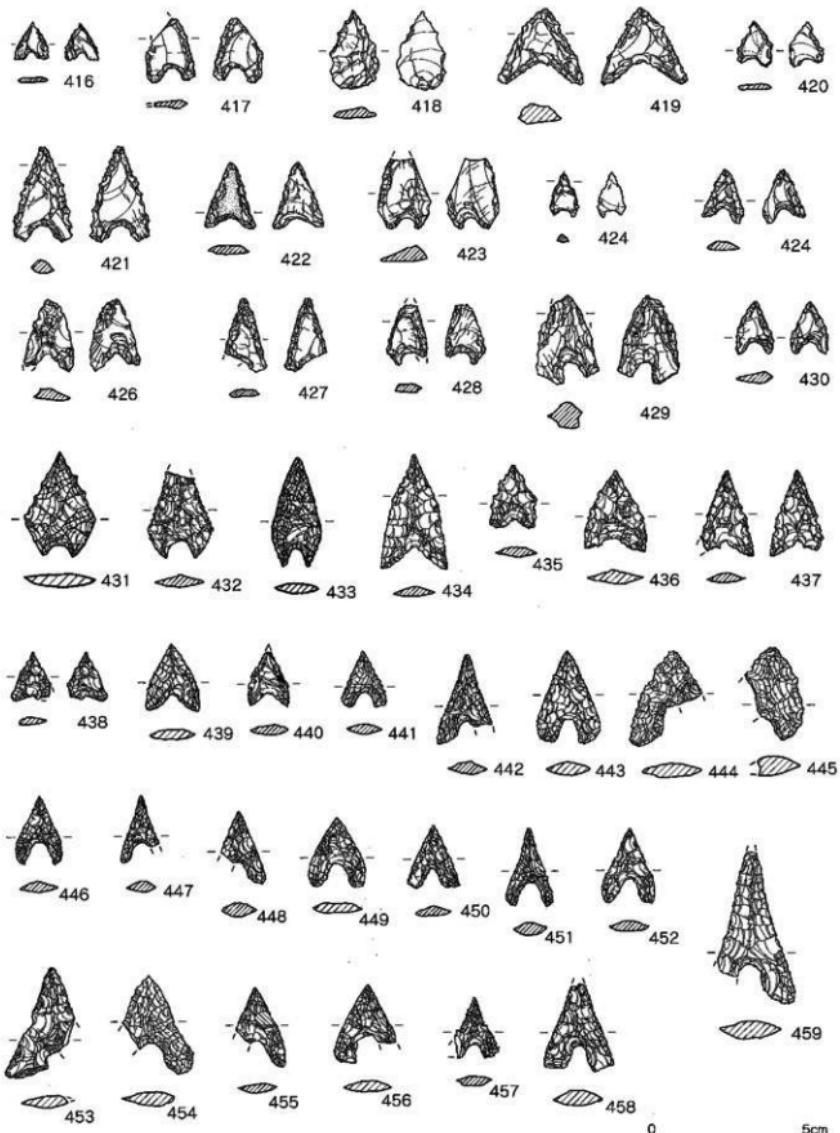


第135図 山田第1遺跡・縄文時代早期遺物包含層出土 石鎌・槍先形尖頭器・尖頭状石器（石材別）分布図（S=1/900）

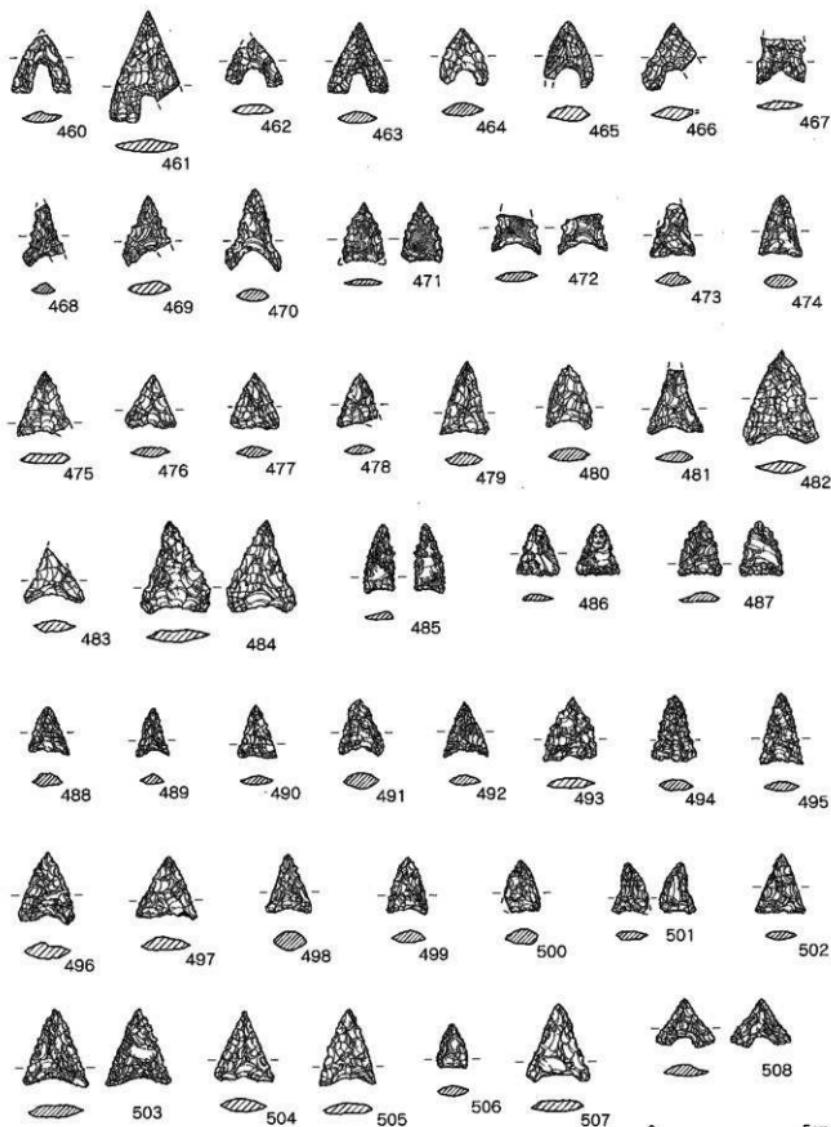


第136図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)

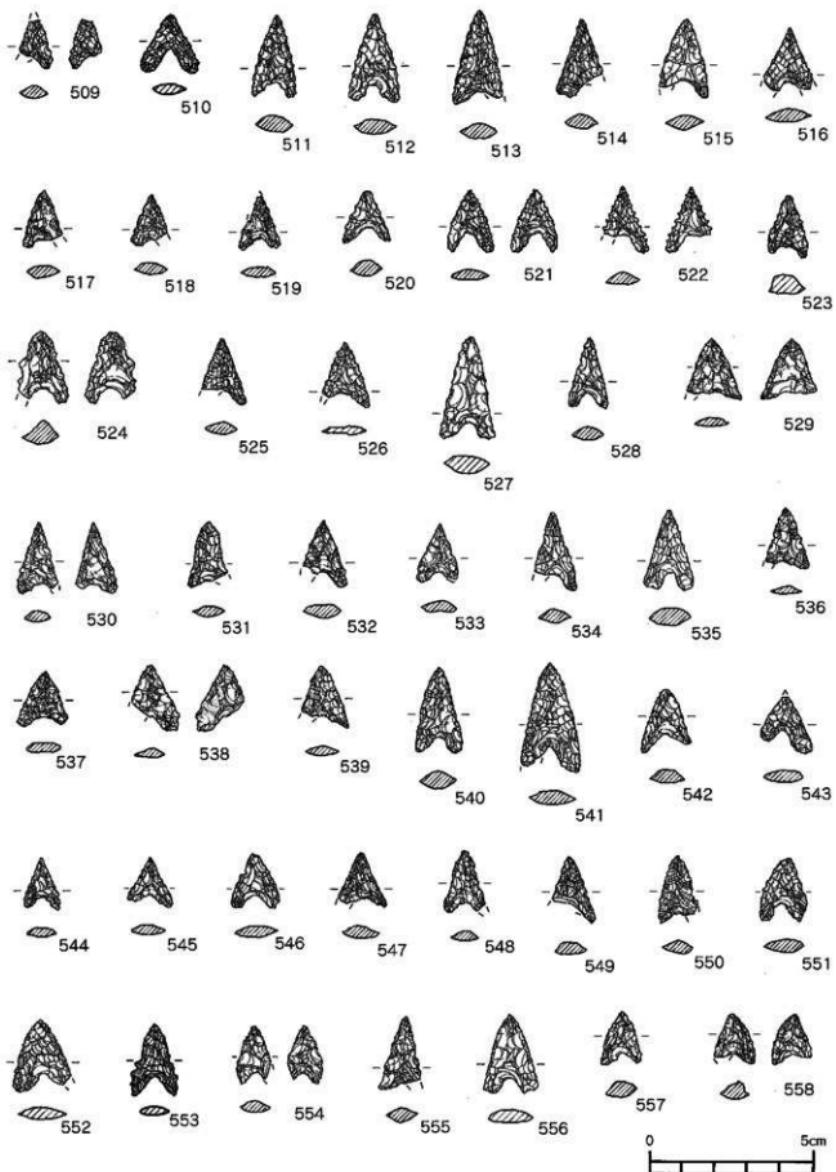




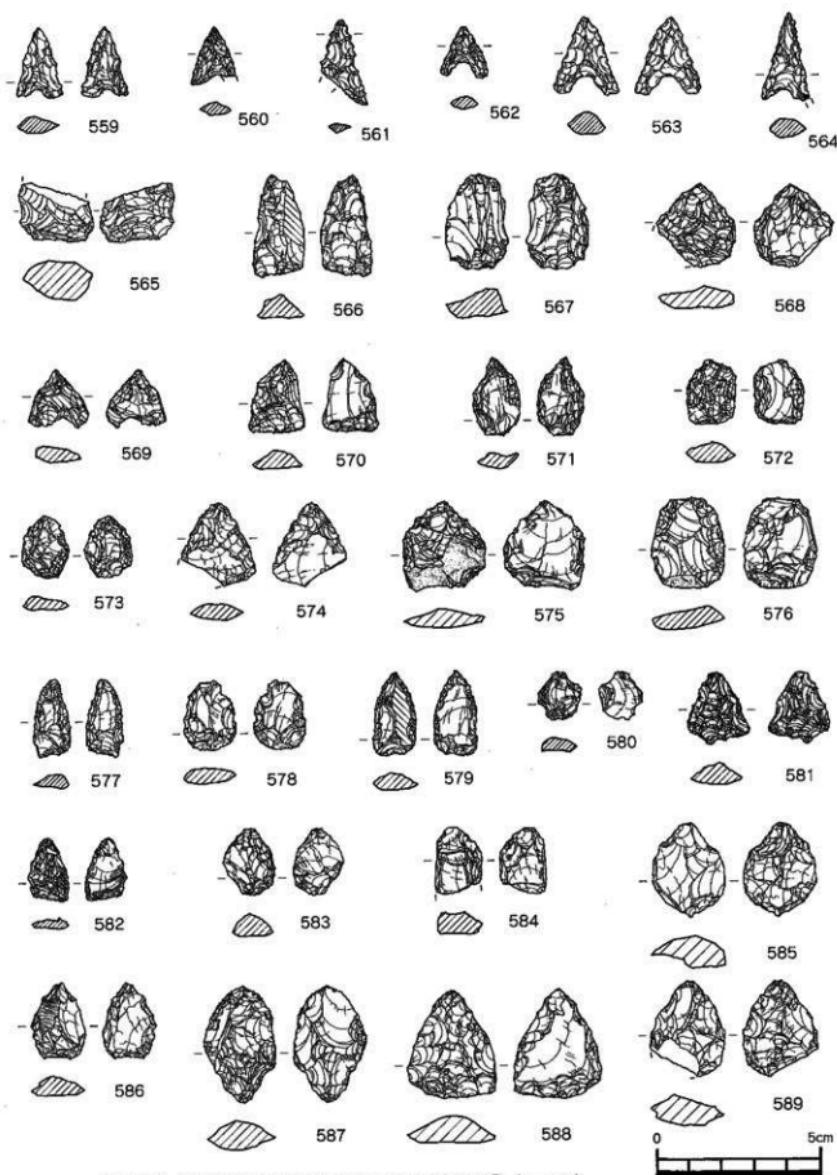
第137図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



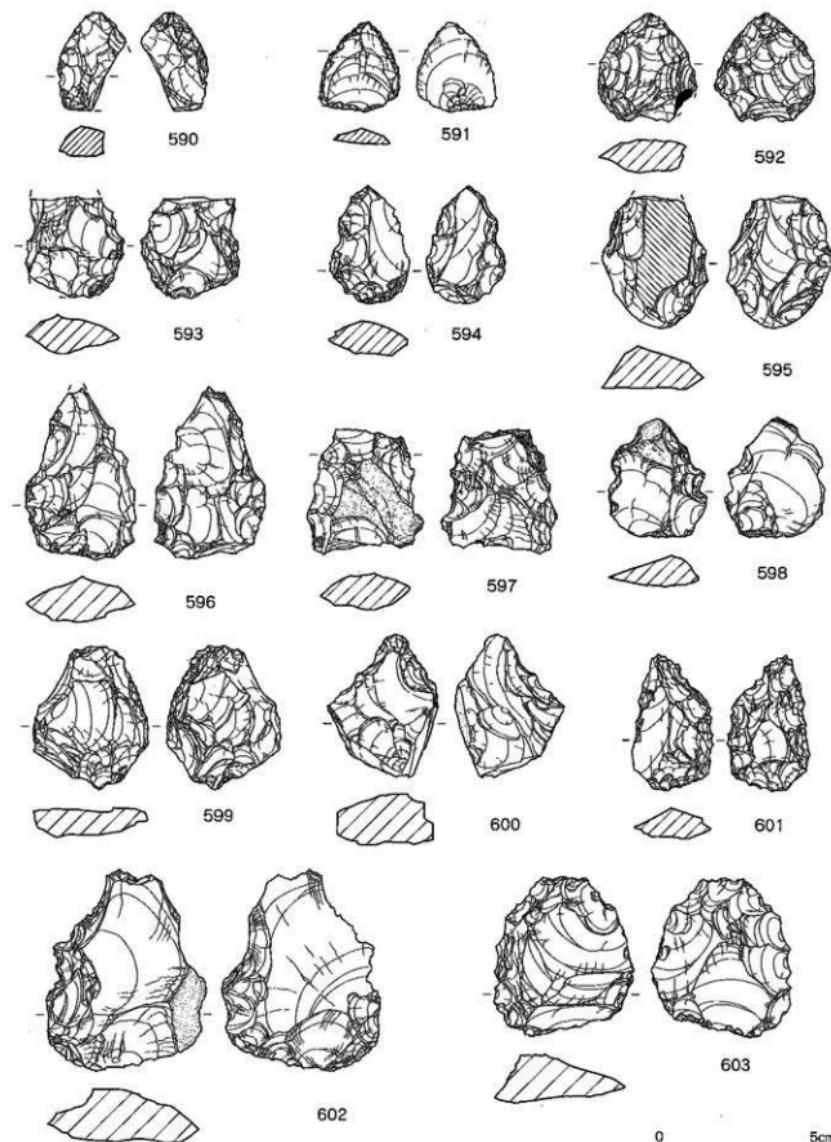
第138図 繩文時代早期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)



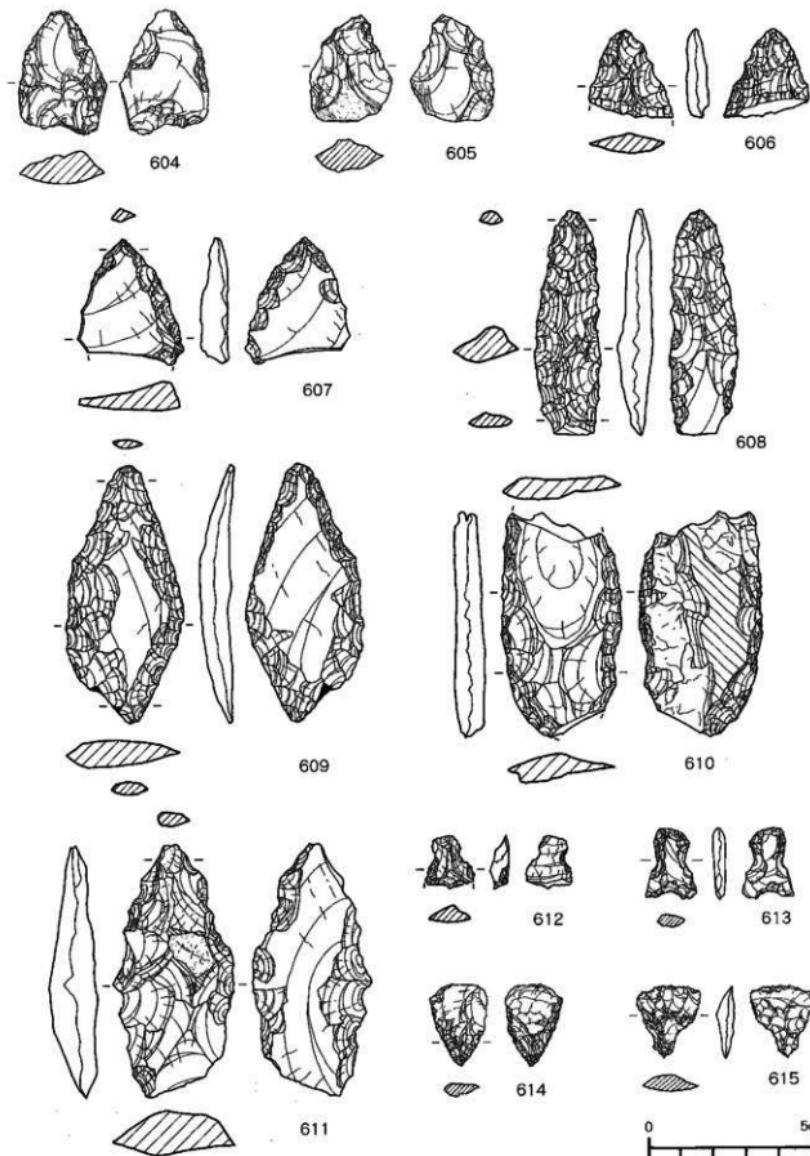
第139図 桐文時代早期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)



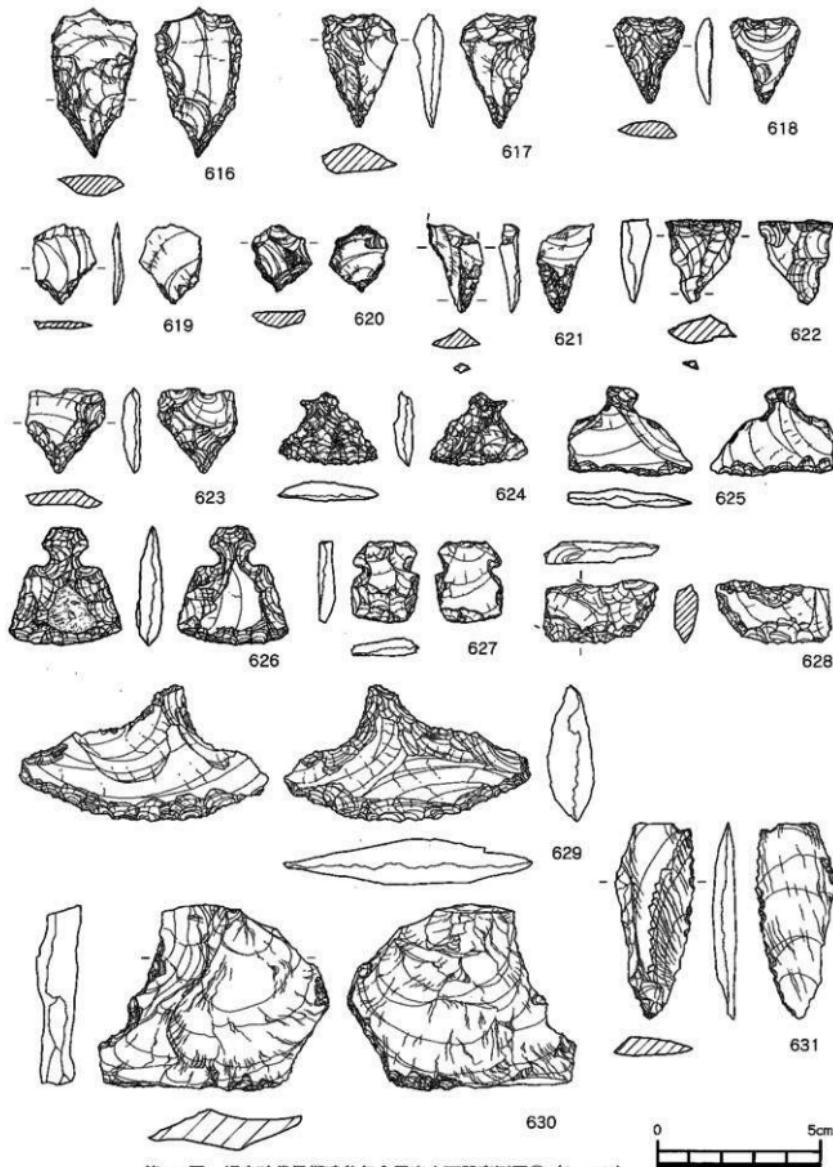
第140図 繩文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



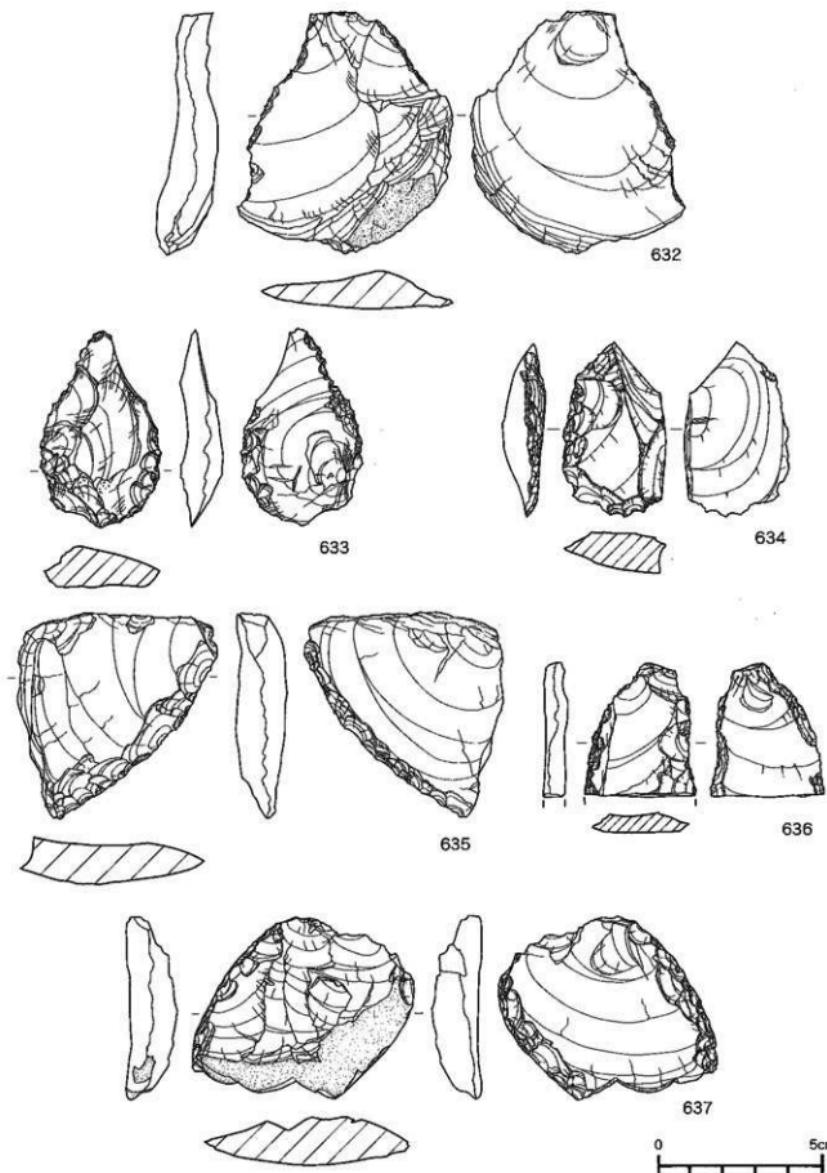
第141図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)



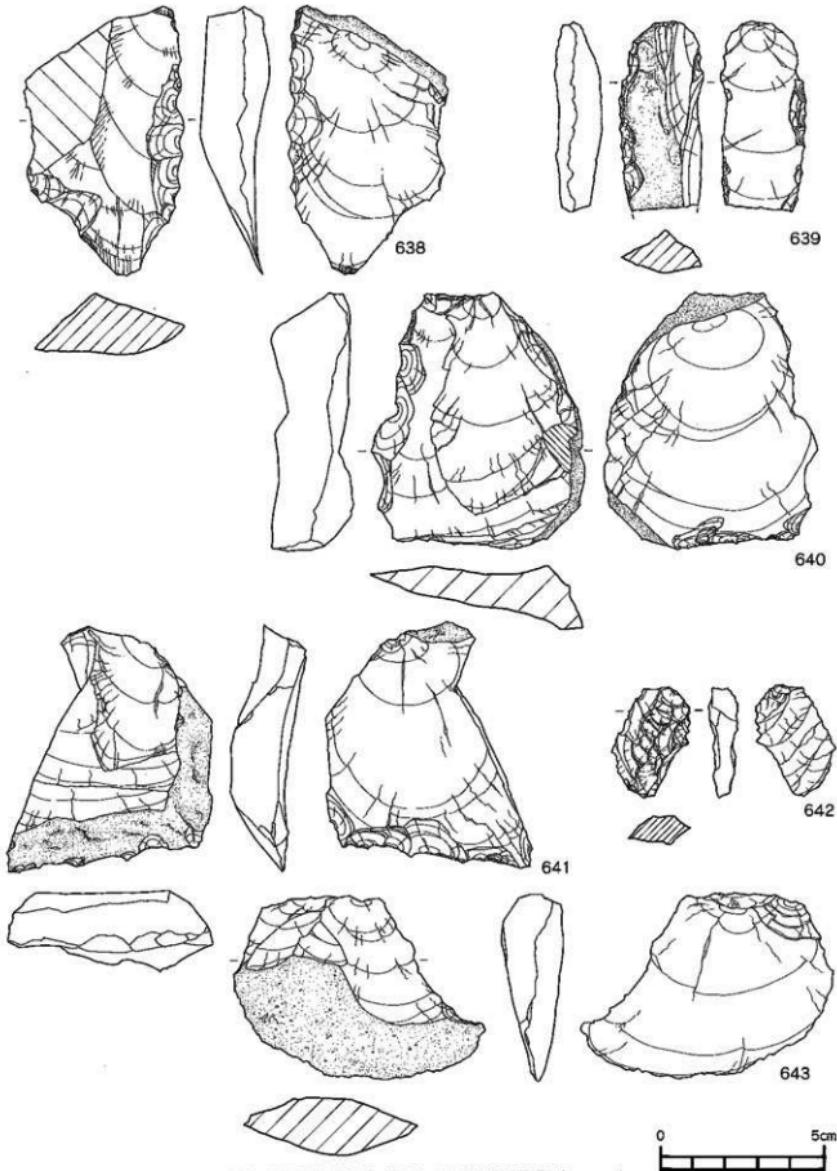
第142図 桶文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3)



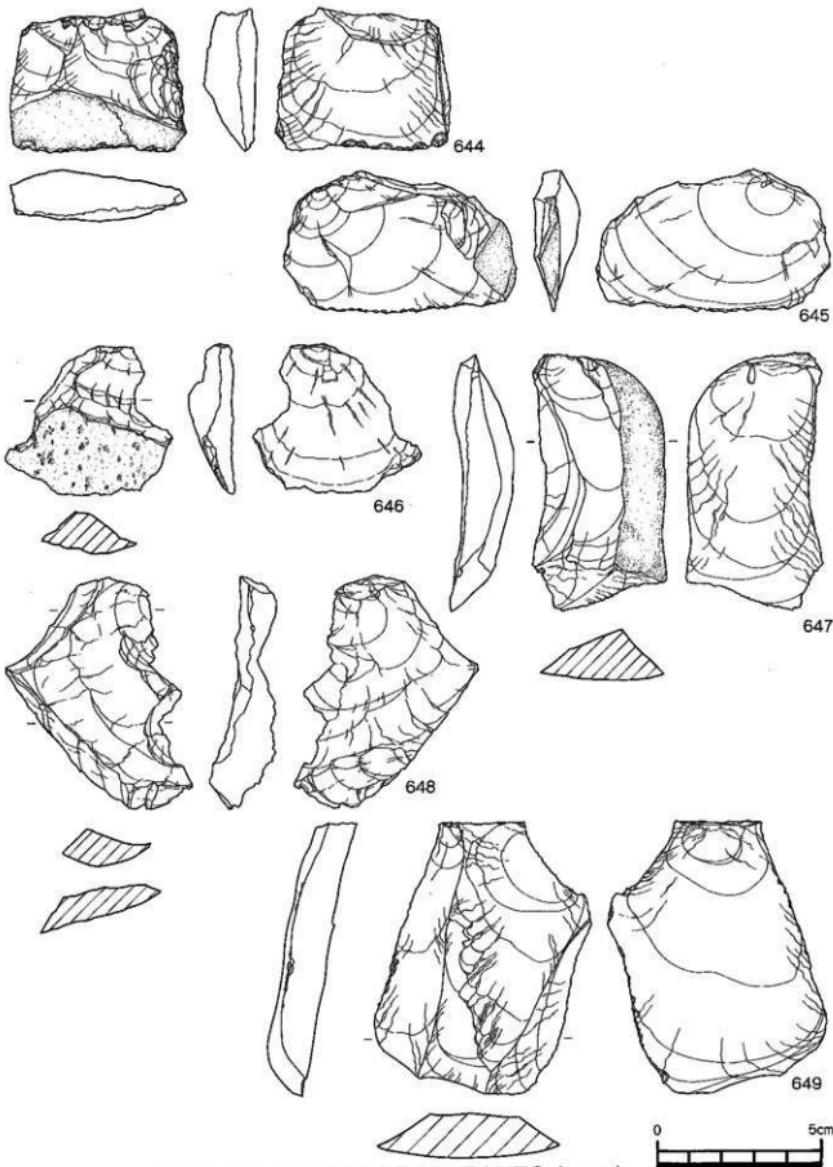
第143図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)



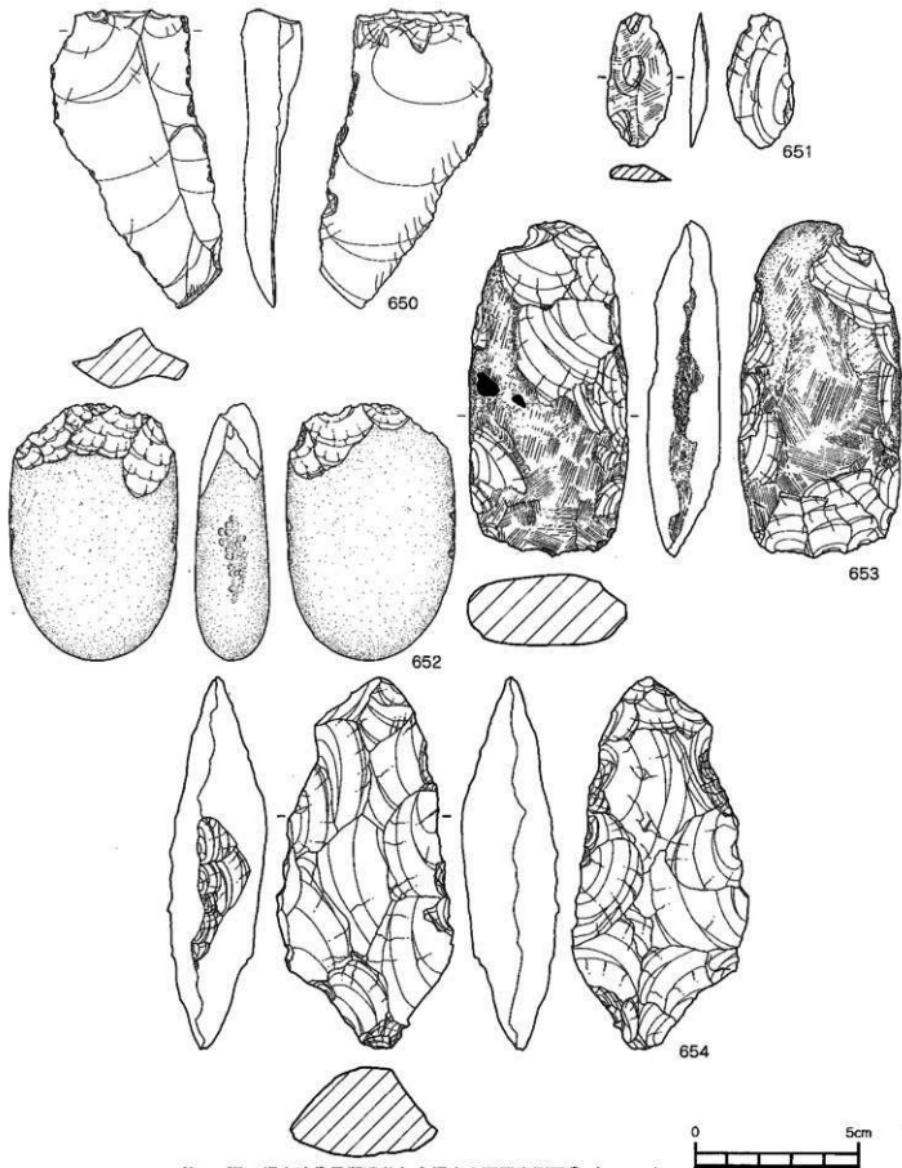
第144図 桶文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



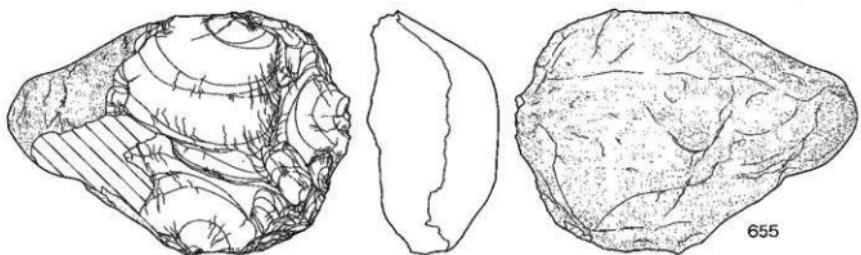
第145図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=2/3)



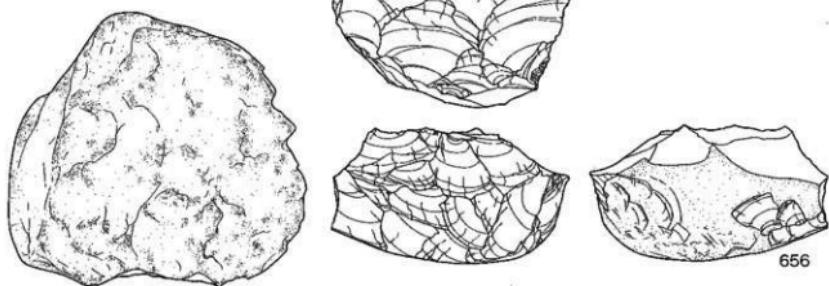
第146図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪ (S=2/3)



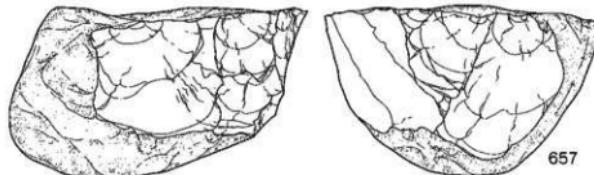
第147図 桜文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪ (S=2/3)



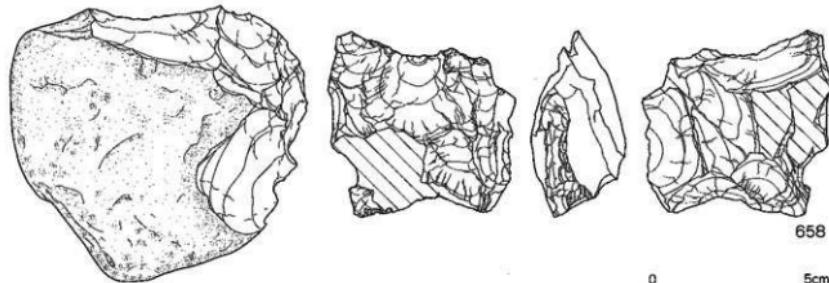
655



656



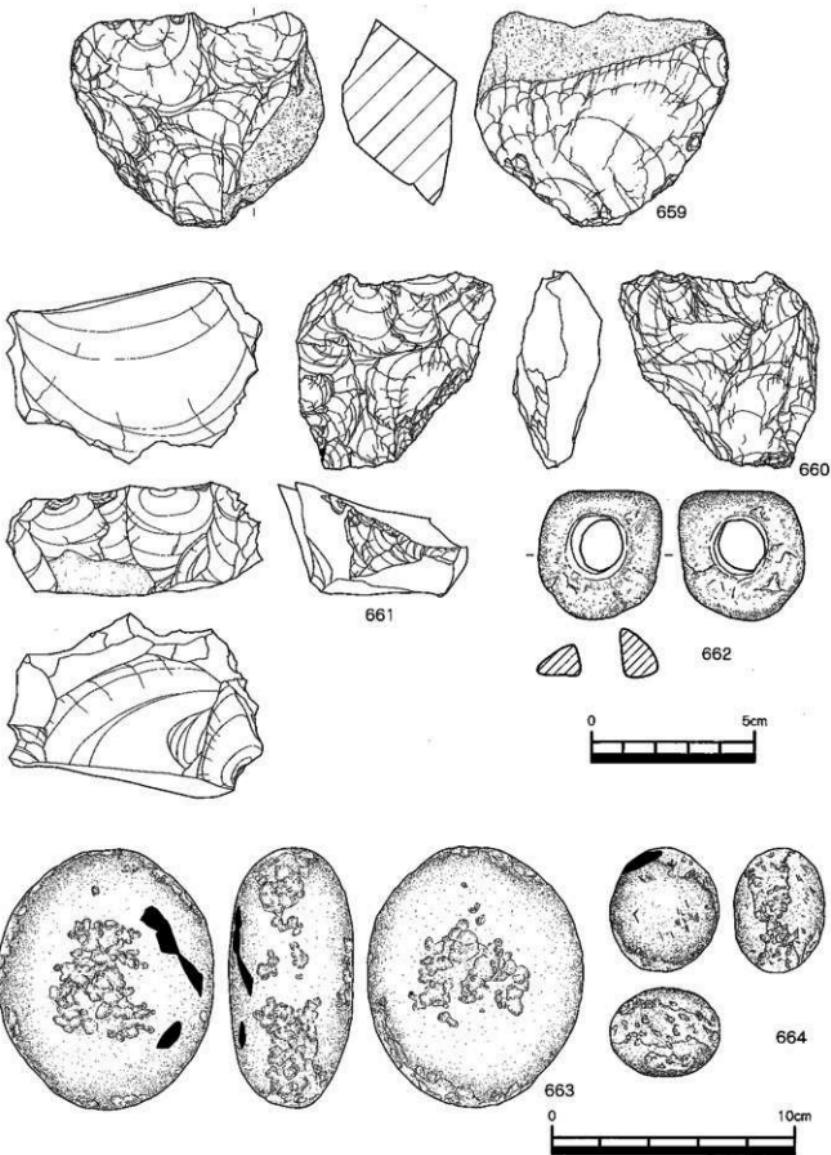
657



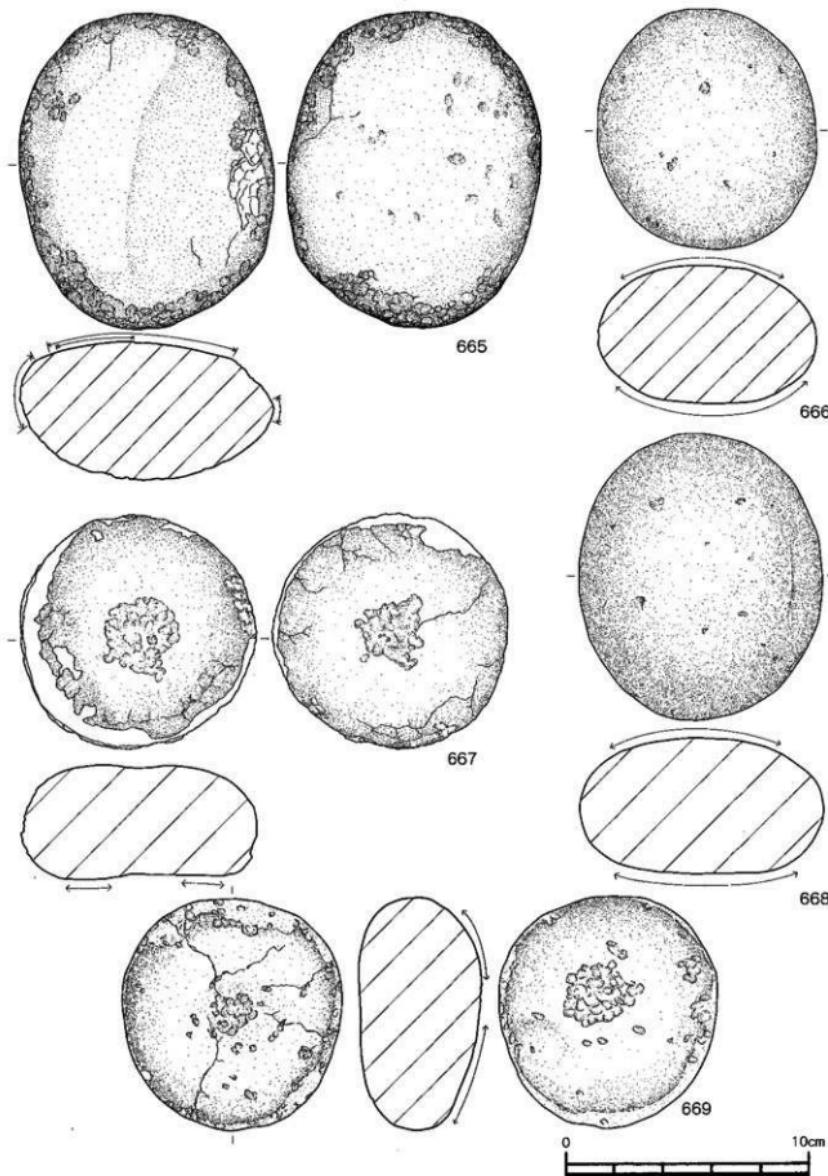
658



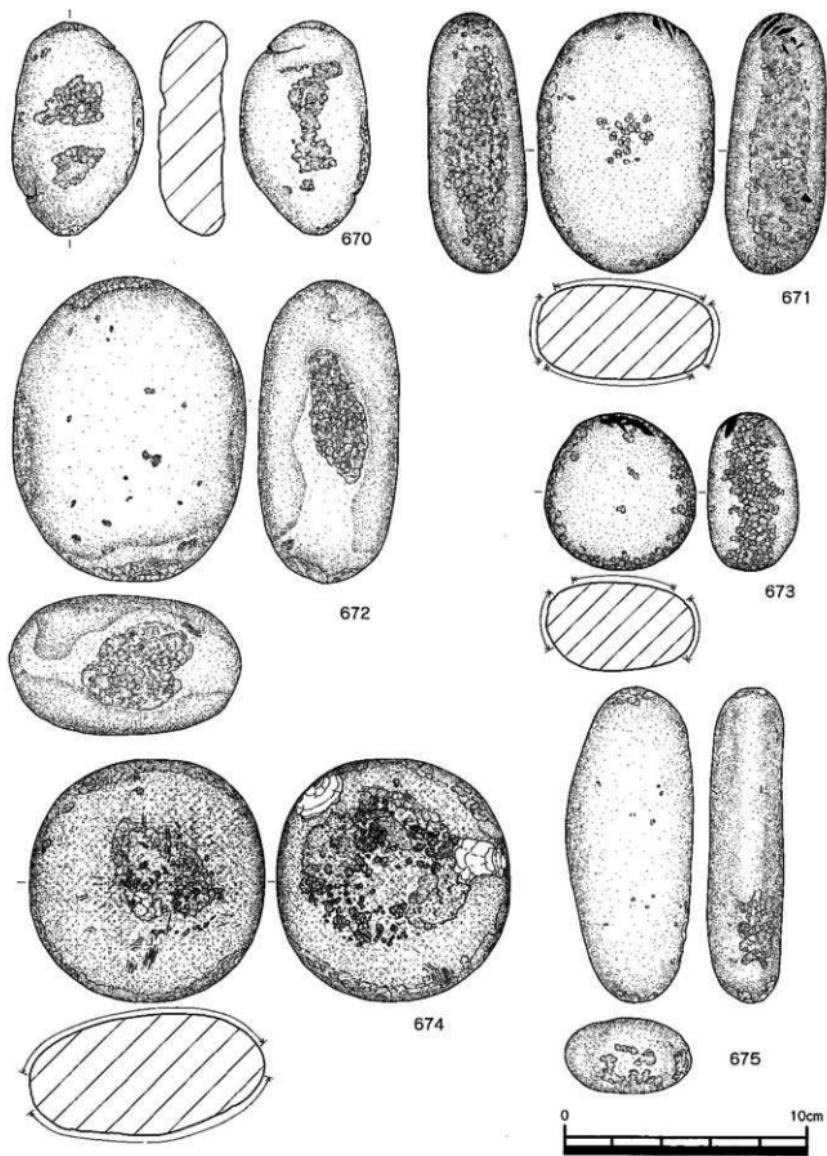
第148図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



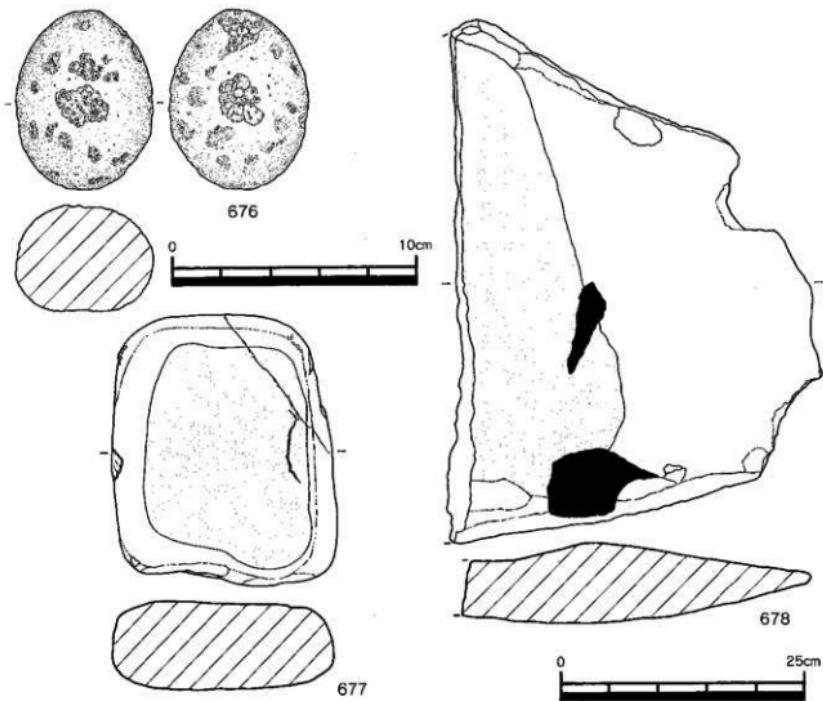
第149図 縄文時代時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=2/3、1/2)



第150図 桶文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑮ (S=1/2)



第151図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑯ (S=1/2)



第152図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=1/2、1/4)

滑らかで光沢が見られる。

#### 敲石（凹石）・磨石（663～676）

敲石は円礫・角礫の一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つもの。磨石は円礫の片面・両面に平滑な面をもつものを分類した。両方の特徴をもつものも見受けられ、総数57点が出土している（内訳は尾鈴山酸性岩14点、頁岩1点、流紋岩1点、砂岩41点）。しかしこれらの他にも砂岩の円礫は多数出土しており、使用頻度の低いものについては認定できていない資料も存在する可能性もある。調査区のほぼ全域に分布しており、使用石材ごとの分布傾向の偏りは見られなかった。

#### 石皿（677・678）

大ぶりな川原石が使用され、自然面ではない平滑面やくぼんだ滑らかな面をもつもので、総数7点が出土している。そのうちの1点（678）は町内で清武石と呼ばれる溶結凝灰岩製で、残りはすべて砂岩製である。

第13表 包含層出土石器計測分類表

遺物 No.	整理 No.	器 種	出土 グリッド	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
370	73	打製石鏟	D2	VI	チャート	1.4	1.3	0.3	0.4	I類
371	58	打製石鏟	A	V	チャート	1.3	1.5	0.3	0.4	I類
372	173	打製石鏟	G6	VI	チャート	1.4	1.6	0.4	0.8	I類
373	101	打製石鏟	G5	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1	1.1	0.3	0.2	I類
374	91	打製石鏟	F7	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.4	1.3	0.3	0.3	I類
375	85	打製石鏟	F3	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	1.2	0.3	0.4	I類
376	62	打製石鏟	A	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	1.3	0.3	0.3	I類
377	79	打製石鏟	D5	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.4	1.4	0.4	0.5	I類
378	172	打製石鏟	G6	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	1.3	0.3	0.4	I類
379	86	打製石鏟	F3	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1.2	0.3	0.4	I類
380	123	打製石鏟	G6	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	(1.2)	0.3	(0.3)	I類 脚部欠損
381	17	打製石鏟	F12	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	1.1	0.2	0.2	I類
382	32	打製石鏟	G11	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.4	1.3	0.3	0.4	I類
383	42	打製石劍	-	-	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	(1.2)	(0.2)	(0.2)	I類 脚部欠損
384	92	打製石鏟	F7	V	黒曜石(腰岳)	1.3	1.4	0.4	0.6	I類
385	189	打製石鏟	G11	VI	黒曜石(腰岳)	1.4	(1.4)	0.3	(0.4)	I類 部脚部欠損
386	193	打製石劍	G11	VI	黒曜石(腰岳)	(1.2)	1.3	0.3	(0.3)	I類 脚部欠損
387	221	打製石鏟	G6	VI	黒曜石(腰岳)	(1.1)	(1.0)	0.3	(0.2)	I類 脚部欠損
388	234	打製石鏟	G10	VI	黒曜石(腰岳)	(1.1)	(1.2)	0.4	(0.2)	I類 脚部欠損
389	239	打製石鏟	G11	VI	黒曜石(腰岳)	1	(1.1)	0.3	(0.2)	I類 脚部欠損
390	63	打製石劍	A	V	黒曜石(姫島産)	1.2	1.4	0.3	0.3	I類
391	64	打製石劍	A	-	黒曜石(姫島産)	1.3	1.4	0.3	0.4	I類
392	68	打製石鏟	B	V	黒曜石(姫島産)	1.5	1.4	0.3	0.4	I類
393	98	打製石鏟	G1	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	1.3	0.3	0.3	I類
394	171	打製石鏟	G6	V	黒曜石(姫島産)	1.4	1.4	0.3	0.3	I類
395	197	打製石鏟	G11	VI	チャート	2.1	1.1	0.4	0.8	II類
396	106	打製石鏟	G7	VI	チャート	2.4	1.6	0.3	1.1	II類
397	192	打製石鏟	G11	VI	チャート	2.7	1.2	0.3	1	II類
398	196	打製石鏟	G11	VI	チャート	2.8	1.5	0.4	1.6	II類
399	235	打製石劍	G11	VI	チャート	(1.9)	1.3	0.4	(0.9)	II類 先端部欠損
400	236	打製石鏟	G11	VI	チャート	(2.0)	1.7	4	(1.3)	II類 先端部欠損
401	26	打製石劍	G7	VI	チャート	1.9	1.2	0.5	1	II類
402	260	打製石鏟未製品	G11	VI	チャート	1.8	1.2	0.3	0.7	II類
403	27	打製石劍	G8	V	チャート	2.7	1.6	0.5	1.9	II類
404	33	打製石劍	G11	VI	流紋岩	2.8	1.5	0.5	1.8	II類
405	865	打製石鏟	G7	V	安山岩	(2.05)	1.4	0.45	(1.0)	II類 先端部欠損
406	83	打製石劍	D7	VI	玉髓	3.5	1.3	0.3	1.3	II類
407	184	打製石劍	G7	VI	玉髓	2.1	1.1	0.3	0.6	II類
408	222	打製石劍	G6	VI	玉髓	(1.7)	1.3	0.4	(0.8)	II類 先端部欠損
409	30	打製石劍	G10	VI	玉髓	1.6	0.9	0.2	0.3	II類
410	182	打製石劍	G7	VI	ホルンフェルス	3.1	1.5	0.4	1.9	II類
411	12	打製石劍	B	V	チャート	1.8	1.3	0.3	0.7	III類
412	24	打製石劍	G6	VI	チャート	1.9	1.5	0.2	0.7	III類
413	19	打製石劍	G5	VI	チャート	2.8	1.7	0.3	1.3	III類

( ) 内の数値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	岩 種	出土 グリッド	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
414	31	打製石器	G10	VI	流紋岩	2.4	1.4	0.4	0.9	III類
415	46	打製石器	A	V	流紋岩	2.7	(1.5)	0.4	(1.6)	III類 腳部欠損
416	37	打製石器	-	VI	流紋岩	1.2	1	0.2	0.2	III類
417	35	打製石器	H	VI	流紋岩	(2.0)	1.5	0.3	0.8	III類 先端部欠損
418	28	打製石器	G8	V	流紋岩	2.5	1.5	0.3	1.1	III類
419	22	打製石器	G6	VI	流紋岩	2.4	2.6	0.6	2.2	III類
420	13	打製石器	D2	V	頁岩	1.4	1	0.2	0.2	III類
421	34	打製石器	H	V	頁岩	3	1.8	0.4	1.6	III類
422	20	打製石器	G5	VI	頁岩	2.1	1.6	0.3	0.7	III類
423	53	打製石器	D5	VI	頁岩	(2.2)	1.6	0.5	(1.6)	III類 先端部欠損
424	41	打製石器	-	-	黒曜石(針尾)	1.4	0.9	0.2	0.2	III類
425	36	打製石器	-	V	黒曜石(姫島産)	1.7	1.3	0.3	0.3	III類
426	55	打製石器	G7	V	黒曜石(姫島産)	2.2	(1.5)	0.4	(0.9)	III類 腳部欠損
427	57	打製石器	H	VI	砂岩	2.3	(1.3)	0.3	(0.7)	III類 腳部欠損
428	49	打製石器	B	VI	砂岩	(1.9)	1.2	0.3	(0.7)	III類 先端部欠損
429	251	打製石器未製品	D5	V	砂岩	(2.8)	1.9	0.8	(2.8)	III類 先端部欠損
430	14	打製石器	D4	VI	ホルンフェルス	1.7	1.1	0.3	0.4	III類
431	1	打製石器	F5	V	チャート	3.3	2.2	0.4	1.8	IV類
432	208	打製石器	A	-	チャート	(2.7)	2	0.5	(1.8)	IV類 先端部欠損
433	280	打製石器	F7	V	チャート	3.4	1.6	0.3	1.5	IV類
434	78	打製石器	D5	V	チャート	3.6	2	0.3	1.6	V類
435	61	打製石器	A	VI	チャート	2	1.4	0.3	0.6	V類
436	59	打製石器	A	V	チャート	2.5	1.9	0.4	1.4	V類
437	39	打製石器	-	VI	流紋岩	2.7	(1.6)	0.3	(0.9)	V類 腳部欠損
438	52	打製石器	D2	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	(1.2)	0.3	(0.3)	V類 腳部欠損
439	66	打製石器	B	V	黒曜石(姫島産)	2.1	1.6	0.3	0.7	V類
440	102	打製石器	G5	VI	玉髓	(1.7)	1.3	0.3	0.4	V類 先端部欠損
441	204	打製石器	-	VI	チャート	1.75	1.4	0.35	0.4	VI類
442	226	打製石器	G7	VI	チャート	2.8	(1.6)	0.4	(0.9)	VI類 腳部欠損
443	105	打製石器	G6	VI	チャート	2.9	1.9	0.4	1.8	VI類
444	225	打製石器	G7	VI	チャート	2.9	(2.3)	0.4	(1.7)	VI類 腳部欠損
445	231	打製石器	G8	VI	チャート	2.9	(1.8)	0.6	(2.3)	VI類 腳部欠損
446	94	打製石器	F10	V	チャート	2.2	1.4	0.3	0.6	VI類
447	215	打製石器	D2	VI	チャート	2.1	(1.1)	0.4	(0.4)	VI類 腳部欠損
448	240	打製石器	G11	VI	チャート	2.3	(1.2)	0.4	(0.7)	VI類 腳部欠損
449	99	打製石器	G2	VI	チャート	2.2	1.8	0.3	1	VI類
450	195	打製石器	G11	VI	チャート	1.9	1.6	0.3	0.6	VI類
451	103	打製石器	G6	V	チャート	2.4	1.4	0.4	0.7	VI類
452	90	打製石器	F7	V	チャート	2.3	1.6	0.3	0.9	VI類
453	117	打製石器	F3	VI	チャート	3.4	(1.3)	0.4	(1.7)	VI類 腳部欠損
454	227	打製石器	G7	VI	チャート	(3.1)	(2.2)	(0.5)	(1.8)	VI類 腳部欠損
455	122	打製石器	G5	VI	チャート	(2.4)	(1.6)	0.3	(0.8)	VI類 腳部欠損
456	223	打製石器	G6	VI	チャート	(2.5)	(1.9)	0.3	(1.0)	VI類 腳部欠損
457	224	打製石器	G7	V	チャート	(1.9)	(1.4)	0.3	(0.5)	VI類 腳部欠損
458	242	打製石器	-	VI	流紋岩	(2.7)	2.2	0.5	(1.8)	VI類 先端部欠損

( ) 内の数値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
459	120	打製石鏟	F11	V	流紋岩	(4.7)	(2.4)	0.6	(3.8)	VI類 先端部・脚部欠損
460	87	打製石鏟	F5	V	頁岩	(1.8)	1.8	0.3	(0.6)	VI類 先端部欠損
461	216	打製石鏟	D2	VI	頁岩	3.5	(2.1)	0.4	(1.8)	VI類 脚部欠損
462	119	打製石鏟	G5	—	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.5)	1.8	0.3	(0.6)	VI類 先端部欠損
463	69	打製石鏟	B	VI	黒曜石(腰岳)	2.2	1.8	0.3	0.9	VI類
464	95	打製石鏟	F11	V	安山岩	1.8	1.5	0.4	0.7	VI類
465	243	打製石鏟	—	VI	サスカイト	2.1	1.5	0.5	(1.0)	VI類 脚部欠損
466	229	打製石鏟	G7	VI	玉髓	2.1	(1.7)	0.4	(0.9)	VI類 脚部欠損
467	209	打製石鏟	A	—	チャート	(1.5)	1.5	0.3	(0.5)	VI類 先端部欠損
468	213	打製石鏟	D2	V	黒曜石(姫島産)	(2.0)	(1.3)	0.3	(0.4)	VI類 先端部・脚部欠損
469	214	打製石鏟	D2	V	黒曜石(姫島産)	2.2	(1.5)	0.4	(0.6)	VI類 脚部欠損
470	201	打製石鏟	—	V	黒曜石(姫島産)	2.6	1.7	3.5	0.7	VI類
471	866	局部磨製石鏟	F4	VI	頁岩	1.9	(1.3)	0.15	(0.5)	VI類 脚部欠損
472	867	局部磨製石鏟	選別	VI	頁岩	(1.25)	(1.5)	(0.3)	(0.5)	VI類 先端部欠損
473	218	打製石鏟	D7	VI	チャート	(1.7)	1.4	0.4	(0.7)	IX類 先端部欠損
474	200	打製石鏟	H	VI	チャート	1.9	1.3	0.4	0.7	IX類
475	121	打製石鏟	G5	VI	チャート	2	(1.6)	0.3	(0.7)	IX類 脚部欠損
476	76	打製石鏟	D2	VI	チャート	1.7	1.6	0.3	0.6	IX類
477	174	打製石鏟	G6	VI	チャート	1.7	1.5	0.3	0.7	IX類
478	115	打製石鏟	E2	VI	チャート	1.6	(1.2)	0.3	(0.4)	IX類 脚部欠損
479	82	打製石鏟	D7	VI	チャート	2.3	1.5	0.4	0.9	IX類
480	187	打製石鏟	G10	VI	チャート	2	1.4	0.4	0.9	IX類
481	114	打製石鏟	E2	VI	チャート	(2.0)	1.7	0.3	(0.8)	IX類 先端部欠損
482	109	打製石鏟	—	VI	チャート	2.9	2.2	0.3	1.8	IX類
483	199	打製石鏟	G11	VI	流紋岩	(1.7)	1.8	0.3	(0.7)	IX類 先端部欠損
484	170	打製石鏟	B	VI	頁岩	2.9	2.1	0.4	2	IX類
485	23	打製石鏟	G6	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1	0.2	0.5	IX類
486	29	打製石鏟	G10	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	1.3	0.2	0.4	IX類
487	16	打製石鏟	F4	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.3	0.3	0.5	IX類
488	194	打製石鏟	G11	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1.2	0.4	0.5	IX類
489	180	打製石鏟	G7	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1	0.3	0.2	IX類
490	183	打製石鏟	G7	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	1.2	0.3	0.4	IX類
491	191	打製石鏟	G11	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.8	1.4	0.5	0.8	IX類
492	88	打製石鏟	F6	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.4	0.3	0.3	IX類
493	80	打製石鏟	D5	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2	1.6	0.3	0.8	IX類
494	178	打製石鏟	G7	V	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1.4	0.3	0.7	IX類
495	96	打製石鏟	F11	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.2	1.3	0.3	0.7	IX類
496	67	打製石鏟	B	V	黒曜石(針尾)	2.2	1.7	0.5	1.2	IX類
497	70	打製石鏟	B	VI	黒曜石(針尾)	1.9	1.8	0.4	0.9	IX類
498	202	打製石鏟	—	VI	黒曜石(姫島産)	1.85	1.4	0.6	0.9	IX類
499	97	打製石鏟	F12	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.8	1.3	0.4	0.6	IX類
500	210	打製石鏟	B	V	黒曜石(姫島産)	1.7	(1.2)	0.5	(0.6)	IX類 脚部欠損
501	47	打製石鏟	A	V	黒曜石(姫島産)	1.6	(1.1)	0.3	0.4	IX類 脚部欠損
502	110	打製石鏟	—	VI	黒曜石(腰岳)	1.6	1.95	2.5	0.5	IX類
503	25	打製石鏟	G7	V	黒曜石(腰岳)	2.4	2	0.4	1.2	IX類

( ) 内の数値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
504	71	打製石器	D1	VI	サスカイト	2.2	1.8	0.4	1.1	IX類
505	186	打製石器	G10	VI	サスカイト(多久)	2.4	1.7	0.3	1.1	IX類
506	185	打製石器	G7	VI	玉髓	1.4	1	0.3	0.4	IX類
507	81	打製石器	D7	VI	ホルンフェルス	2.4	1.9	0.3	1.3	IX類
508	18	打製石器	G1	VI	チャート	1.5	1.8	0.3	0.6	IX類
509	40	打製石器	-	-	チャート	(1.5)	(1.0)	0.4	(0.5)	IX類 先端部・肩部欠損
510	282	打製石器	G6	V	チャート	1.8	1.8	0.3	0.6	IX類
511	77	打製石器	D4	VI	チャート	2.6	1.3	0.5	1.3	IX類
512	74	打製石器	D2	VI	チャート	2.7	1.6	0.5	1.6	IX類
513	241	打製石器	H	VI	チャート	2.9	(1.5)	0.5	(1.7)	IX類 脚部欠損
514	207	打製石器	A	VI	チャート	2.5	(1.5)	0.4	(1.0)	IX類 脚部欠損
515	113	打製石器	C	V	チャート	2.4	(1.5)	0.5	(1.4)	IX類 脚部欠損
516	181	打製石器	G7	VI	チャート	(2)	(1.5)	0.4	(0.8)	IX類 脚部欠損
517	237	打製石器	G11	VI	チャート	1.8	(1.2)	0.4	(0.5)	IX類 脚部欠損
518	232	打製石器	G9	V	チャート	1.6	(1.1)	0.4	(0.5)	IX類 脚部欠損
519	217	打製石器	D5	V	チャート	(1.7)	1.3	0.3	0.6	IX類 先端部欠損
520	72	打製石器	D2	V	チャート	1.6	1.4	0.5	0.7	IX類
521	21	打製石器	G6	VI	チャート	1.9	1.4	0.3	0.6	IX類
522	169	打製石器	H	VI	チャート	2.1	(1.4)	0.4	(0.5)	IX類 脚部欠損
523	60	打製石器	A	V	チャート	1.9	1.2	0.6	1.2	IX類
524	11	打製石器	A	V	チャート	2.2	(1.5)	(0.7)	(1.6)	IX類 脚部欠損
525	212	打製石器	C	VI	チャート	2.1	(1.4)	0.4	(0.7)	IX類 脚部欠損
526	230	打製石器	G7	VI	チャート	2	(1.5)	0.3	(0.6)	IX類 脚部欠損
527	107	打製石器	G10	VI	流紋岩	3.2	1.7	0.6	2	IX類
528	198	打製石器	G11	VI	流紋岩	2.2	1.2	0.4	0.4	IX類
529	56	打製石器	G11	VI	流紋岩	1.9	(1.7)	0.3	(0.9)	IX類 脚部欠損
530	54	打製石器	G6	V	流紋岩	2.2	(1.3)	0.4	(0.9)	IX類 脚部欠損
531	238	打製石器	G11	VI	頁岩	2	(1.1)	0.3	(0.5)	IX類 脚部欠損
532	112	打製石器	B	VI	頁岩	2.1	(1.3)	0.4	(0.9)	IX類 脚部欠損
533	104	打製石器	G6	VI	頁岩	1.8	1.3	0.3	0.6	IX類 脚部欠損
534	124	打製石器	G7	VI	頁岩	2.4	(1.3)	0.4	(0.9)	IX類 脚部欠損
535	100	打製石器	G5	VI	頁岩	2.5	1.6	0.5	1.2	IX類
536	116	打製石器	E2	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.9	(1.3)	0.2	(0.5)	IX類 脚部欠損
537	190	打製石器	G11	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.6	0.3	0.6	IX類
538	50	打製石器	D2	V	黒曜石(桑ノ木津留)	2	(1.5)	0.3	(0.6)	IX類 脚部欠損
539	228	打製石器	G7	VI	黒曜石(懸垂)	1.9	(1.5)	0.3	(0.6)	IX類 脚部欠損
540	108	打製石器	H	VI	黒曜石(針尾)	2.7	1.5	0.6	1.4	IX類
541	177	打製石器	G7	V	黒曜石(姫島産)	3.4	(1.8)	0.4	(1.6)	IX類 脚部欠損
542	93	打製石器	F10	V	黒曜石(姫島産)	1.9	1.5	0.4	0.6	IX類
543	203	打製石器	-	VI	黒曜石(姫島産)	(1.8)	1.6	0.35	(0.5)	IX類 先端部欠損
544	65	打製石器	B	V	黒曜石(姫島産)	1.6	1.1	0.3	0.3	IX類
545	175	打製石器	G7	V	黒曜石(姫島産)	1.6	1.4	0.3	0.2	IX類
546	179	打製石器	G7	V	黒曜石(姫島産)	1.7	1.5	0.4	0.6	IX類
547	211	打製石器	C	V	黒曜石(姫島産)	1.7	(1.5)	0.4	(0.5)	IX類 脚部欠損
548	206	打製石器	A	V	黒曜石(姫島産)	1.9	(1.3)	0.3	(0.5)	IX類 脚部欠損

( ) 内の数値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器 種	出土 グリッド	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
549	205	打製石鏟	A	V	黒曜石(船島産)	2.1	(1.3)	0.4	(0.5)	IX類 脚部欠損
550	233	打製石鏟	G10	VI	黒曜石(船島産)	2.1	(1.2)	0.4	(0.7)	IX類 脚部欠損
551	176	打製石鏟	G7	V	黒曜石(船島産)	1.9	1.4	0.4	0.7	IX類
552	89	打製石鏟	F6	VI	黒曜石(船島産)	2.2	(1.8)	0.4	(0.9)	IX類 脚部欠損
553	281	打製石鏟	-	VI	黒曜石(船島産)	1.7	1.5	0.3	0.5	IX類
554	48	打製石鏟	B	V	黒曜石(船島産)	1.8	(1.1)	0.4	(0.5)	IX類 脚部欠損
555	118	打製石鏟	G5	VI	安山岩	2.3	(1.3)	0.5	(1.1)	IX類 脚部欠損
556	84	打製石鏟	E5	V	安山岩	2.4	1.7	0.4	1.3	IX類
557	188	打製石鏟	G11	V	安山岩	1.7	1.3	0.5	0.8	IX類
558	51	打製石鏟	D2	VI	安山岩	1.5	(1.2)	0.6	(0.8)	IX類 脚部欠損
559	38	打製石鏟	-	VI	サヌカイト	2.2	1.4	0.5	1	IX類
560	219	打製石鏟	G6	VI	サヌカイト	1.8	(1.4)	0.4	(0.6)	IX類 脚部欠損
561	220	打製石鏟	G6	VI	玉髓	2.6	(1.4)	0.3	(0.8)	IX類 脚部欠損
562	111	打製石鏟	-	V	砂岩	1.6	1.4	0.4	0.6	IX類
563	15	打製石鏟	D5	V	砂岩	2.4	2	0.7	2.2	IX類
564	75	打製石鏟	D2	VI	ホルンフェルス	2.7	1.4	0.6	1.4	IX類 脚部欠損
565	168	打製石鏟未製品	-	-	チャート	(2.6)	1.9	1.1	(4.9)	上半部欠損
566	285	打製石鏟未製品	G11	VI	チャート	3.2	1.6	0.7	3.5	
567	254	打製石鏟未製品	G7	V	チャート	3	1.9	0.9	6	
568	253	打製石鏟未製品	G6	VI	チャート	2.6	(2.4)	0.7	(4.5)	基部欠損
569	289	打製石鏟未製品	H	V	チャート	1.8	1.9	0.6	1.4	
570	259	打製石鏟未製品	G11	VI	チャート	2.3	1.7	0.6	2	石錐の可能性有
571	287	打製石鏟未製品	G12	V	チャート	2.4	1.5	0.6	2	
572	283	打製石鏟未製品	G11	VI	チャート	2	1.5	0.7	2.5	
573	286	打製石鏟未製品	G11	VI	チャート	1.9	1.5	0.5	1.2	
574	248	打製石鏟未製品	B	VI	流紋岩	(2.6)	(2.4)	0.5	(2.7)	基部欠損
575	252	打製石鏟未製品	G6	V	流紋岩	2.8	2.5	0.6	4.7	
576	284	打製石鏟未製品	G11	VI	流紋岩	2.2	2.8	0.7	5.7	
577	244	打製石鏟未製品	A	V	流紋岩	2.4	1.2	0.4	1.3	
578	125	打製石鏟未製品	G4	VI	流紋岩	2.2	1.6	0.5	(1.9)	先端部欠損
579	245	打製石鏟未製品	A	VI	頁岩	2.6	1.3	0.6	1.8	
580	250	打製石鏟未製品	D3	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1.3	0.5	0.8	
581	256	打製石鏟未製品	G7	V	黒曜石(桑ノ木津留)	2.3	1.9	0.7	1.9	
582	257	打製石鏟未製品	G7	VI	黒曜石(巖岳)	2	1.3	0.4	0.7	
583	255	打製石鏟未製品	G7	V	黒曜石(針尾)	2.1	1.6	0.7	1.7	
584	247	打製石鏟未製品	B	V	サヌカイト	(2.1)	1.4	0.7	(2.2)	下半部欠損
585	258	打製石鏟未製品	G7	VI	ホルンフェルス	2.9	2.2	1	5.9	
586	246	打製石鏟未製品	B	V	ホルンフェルス	2.4	1.7	0.6	2.5	
587	293	尖頭状石器	G7	V	チャート	3.6	2.2	0.9	5.9	
588	166	尖頭状石器	D4	VI	流紋岩	3.3	2.8	0.8	6.7	
589	296	尖頭状石器	G11	VI	流紋岩	3	(2.2)	1	(5.6)	基部欠損
590	869	尖頭状石器	G6	V	安山岩	3.05	(2.05)	0.95	(5.5)	基部欠損
591	868	尖頭状石器	G11	VI	安山岩	2.8	2.5	0.5	3.2	
592	297	尖頭状石器	G11	VI	流紋岩	3.4	(3.0)	1	(11.3)	基部欠損
593	163	尖頭状石器	A	VI	流紋岩	(3.2)	3	1.2	(12.8)	先端部・基部欠損

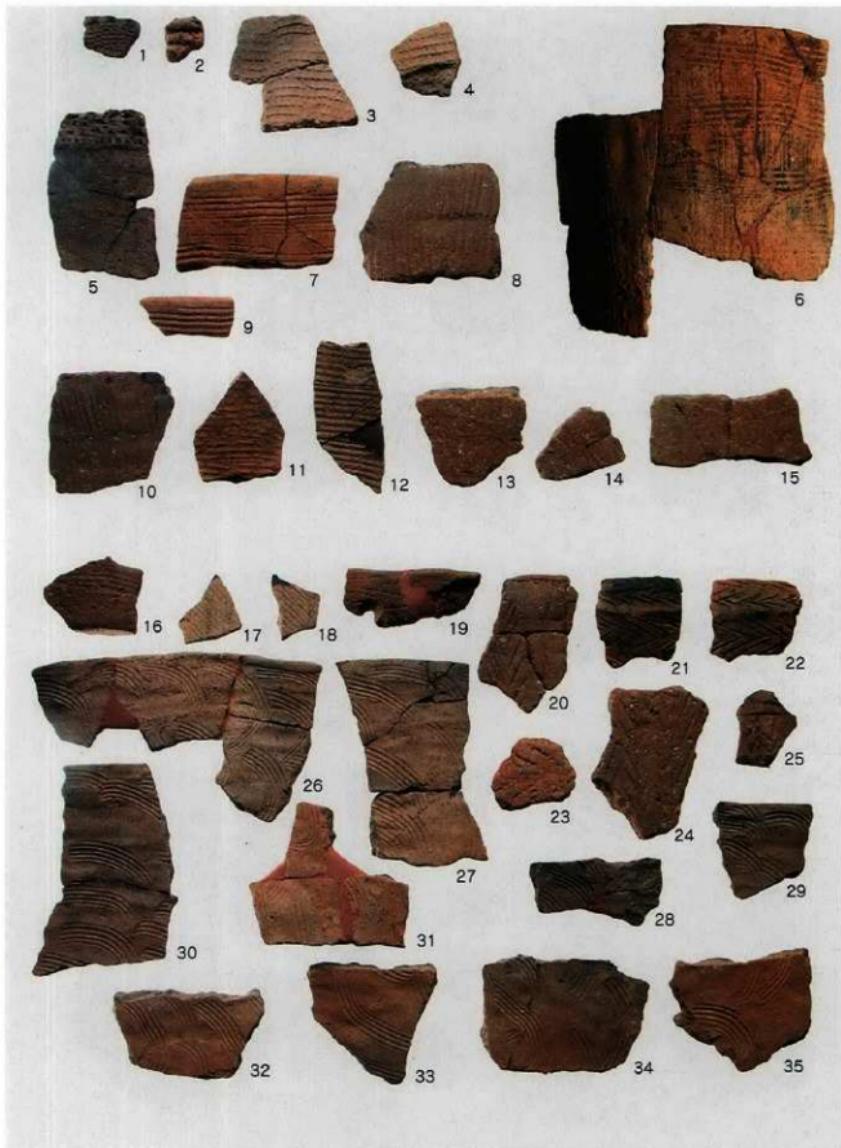
( ) 内の数値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
594	162	尖頭状石器	A	VI	流紋岩	3.6	2.4	1	7.7	
595	290	尖頭状石器	G4	VI	流紋岩	(4.1)	3.2	1.3	(18.6)	尖頭部欠損 未製品か?
596	161	尖頭状石器	A	V	流紋岩	(5.3)	3.4	1.4	(18.4)	先端部欠損
597	298	尖頭状石器	H	V	頁岩	3.9	3.6	1.1	16	
598	294	尖頭状石器	G7	VI	頁岩	3.7	3	0.9	8.9	
599	291	尖頭状石器	G5	V	頁岩	4.5	3.5	0.9	15.7	
600	870	尖頭状石器	D5	VI	頁岩	4.5	3.4	1.6	18.4	
601	164	尖頭状石器	D2	VI	頁岩	4.2	2.5	9	9.8	
602	167	尖頭状石器	D5	VI	頁岩	6.3	4.9	1.6	40	
603	292	尖頭状石器	G6	VI	頁岩	5	4.3	1.5	33.6	
604	165	尖頭状石器	D3	V	頁岩	3.8	2.7	1	8.4	
605	295	尖頭状石器	G7	VI	ホルンフェルス	3.3	2.5	1	7.3	
606	553	槍先形尖頭器	G11	VI	チャート	(2.75)	(3.1)	(6.5)	(3.5)	下半部欠損
607	554	槍先形尖頭器	B	V	流紋岩	(3.9)	(3.25)	(0.9)	(7.9)	下半部欠損
608	277	槍先形尖頭器	D3	V	頁岩	6.95	2.1	1.1	13.1	
609	552	槍先形尖頭器	G11	VI	ホルンフェルス	8.05	4.1	1	24.2	基部の一部にガジリ有
610	555	槍先形尖頭器	G7	VI	堆積岩(頁岩)	(7.0)	3.8	9	(22.7)	先端部・基部欠損
611	551	槍先形尖頭器	G7	VI	頁岩	7.8	3.7	1.55	36.1	
612	762	挿入石器?	G6	VI	チャート	(1.6)	(1.5)	0.55	(0.9)	下半部欠損
613	871	異形石器	D2	VI	頁岩	2.2	1.6	0.4	1.34	表面・裏面と上部に磨り有
614	249	石錐	D2	V	チャート	2.5	1.8	0.4	1.8	
615	303	石錐	G11	VI	流紋岩	2.2	2	0.5	1.6	石錐木製品の可能性有
616	676	石錐	E2	VI	頁岩	4.6	2.6	0.6	7.9	先端部に研磨の痕跡有
617	299	石錐	D2	VI	頁岩	3.5	2.3	0.9	5.2	
618	302	石錐	H	VI	頁岩	2.7	2.1	0.5	2.5	石錐未製品の可能性有
619	300	石錐	D2	VI	頁岩	2.5	1.9	0.2	1.2	
620	288	石錐	G14	VI	黒曜石(縞岳)	2.1	1.8	0.6	1.9	
621	875	石錐	A	V	黒曜石	(2.8)	1.75	(0.7)	(1.5)	上半部欠損
622	761	石錐	G7	V	安山岩	2.6	2.3	0.9	4.1	
623	301	石錐	D5	VI	砂岩	2.6	2.4	5.5	3.5	
624	304	石匙	B	V	チャート	2.3	3	0.6	2.9	
625	814	石匙	-	VI	安山岩	2.75	3.8	0.55	3.8	
626	279	石匙	G6	V	安山岩	3.7	3.4	0.8	7.6	
627	874	石匙	E5	VI	安山岩	2.5	2.1	0.5	2.79	
628	305	石匙	B	V	安山岩	(3.6)	(1.9)	0.7	(5.4)	左半部欠損
629	3	石匙	-	VI	サスカイト	4.2	7.7	1.4	27.6	
630	130	スクレイパー	E2	VI	チャート	5.8	7.1	1.3	44.2	
631	127	スクレイパー	A	-	流紋岩	6.6	2.5	0.6	9.5	
632	140	スクレイパー	G7	VI	流紋岩	7.5	6.8	1.9	63.5	
633	126	スクレイパー	A	VI	流紋岩	6.1	3.7	1.1	20.7	
634	872	スクレイパー	B	VI	頁岩	5.4	3.2	1.2	20.7	
635	128	スクレイパー	D5	VI	頁岩	6.4	6.2	1.35	61.1	
636	873	スクレイパー	H	VI	頁岩	(4.2)	(3.5)	0.7	12.6	下半部欠損
637	306	スクレイパー	D3	V	頁岩	5.6	6.8	1.6	58.4	
638	131	スクレイパー	-	-	頁岩	8.3	4.7	2.1	65.9	

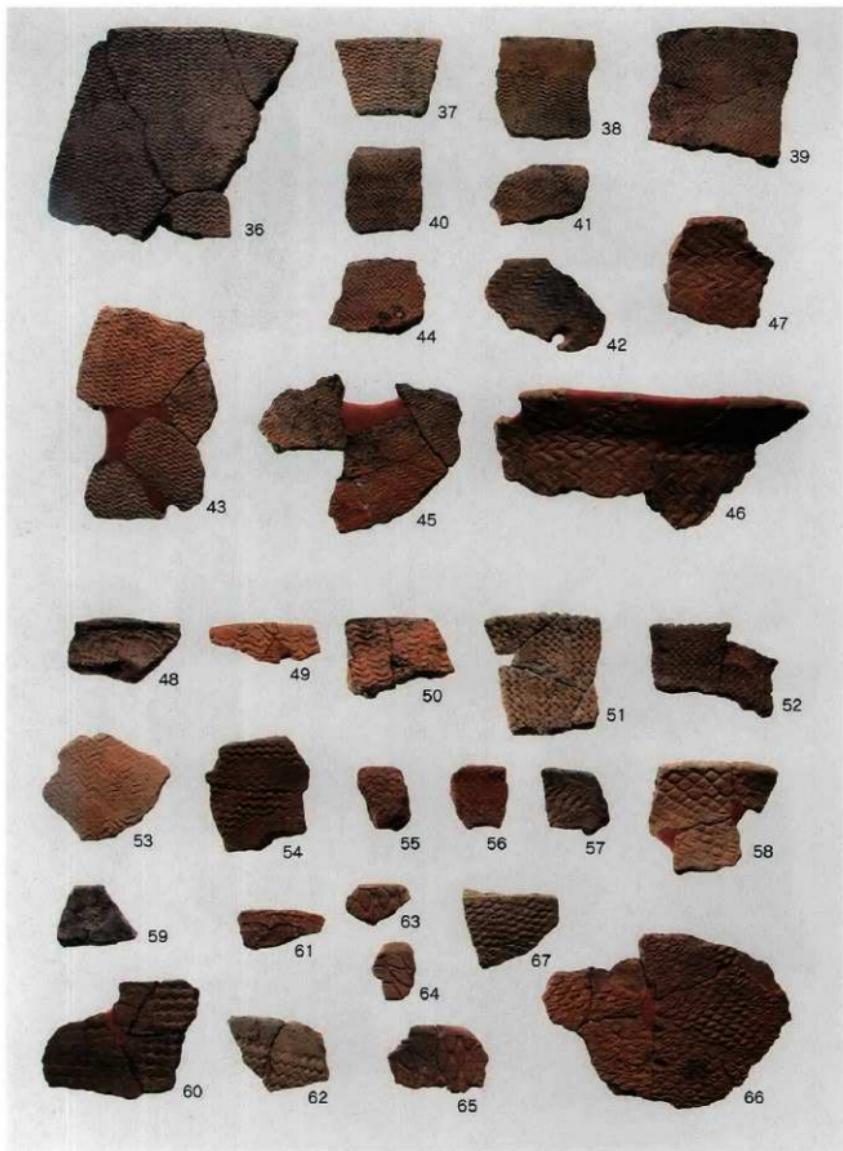
( ) 内の数値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
639	129	スクレイバー	D5	VI	砂岩	5.9	2.6	1.4	22.4	基部欠損
640	141	2次加工ある剥片	H	VI	砂岩	8	6.6	2.6	125.1	
641	139	2次加工ある剥片	G2	VI	砂岩	7.7	6.4	2.4	90.7	
642	307	剥片	-	-	流紋岩	3.4	2.4	0.9	5.4	
643	138	剥片	F9	V	砂岩	5.8	7.8	1.9	58.8	
644	137	2次加工ある剥片	D5	V	砂岩	4.4	5.4	1.6	41	
645	133	剥片	A	VI	頁岩	4.4	7.1	1.4	36.7	微細剥離有
646	876	剥片	B	V下	尾鈴山酸性岩	4.65	5.2	1.4	21.6	
647	136	剥片	D2	VI	砂岩	8	4.2	1.6	52.1	
648	134	剥片	A	VI	玉髓	7.2	5.8	2	40.5	
649	135	剥片	A	VI	頁岩	8.4	6.8	1.4	83.4	微細剥離有
650	132	剥片	A	VI	頁岩	9.3	5.3	1.6	51.7	
651	886	剥片	G6	VI	頁岩	4.2	2.05	0.55	4.7	磨製石斧の調整剥片か?
652	878	縫接	E2	VI	砂岩	7.9	5.25	2.3	140.1	
653	2	磨製石斧	E6	VI	砂岩	10.45	5	2.3	145.9	
654	278	両面加工石器	D2	VI	ホルンフェルス	11.5	5.45	3	160.5	石核の可能性有
655	144	石核	G6	VI	流紋岩	7.6	10.5	4.1	323.4	
656	148	石核	D2	VI	砂岩	4.2	7.3	5.5	206.2	
657	149	石核	G2	VI	流紋岩	5.3	9.2	8.5	489.8	
658	145	石核	G11	VI	流紋岩	5.8	5.8	3	82.8	
659	143	石核	G5	VI	砂岩	6.7	7.8	3.5	164.3	
660	146	石核	H	VI	流紋岩	6.1	5.7	2.8	101.1	
661	150	石核	G6	VI	頁岩	3.4	7.9	6	141.5	
662	797	有孔石製品	G6	VI	砂岩	4	3.8	1.5	22.7	装身具の可能性有
663	159	礫石	G14	VI	砂岩	10.7	9.4	5.1	659.6	
664	157	礫石	G7	VI	流紋岩	5.1	3.5	3.6	109.3	摩滅有
665	880	磨石	-	-	砂岩	13.1	10.45	5.75	1055.8	漬痕有
666	151	磨石	D4	VI	尾鈴山酸性岩	9.9	8.9	5.7	748.3	
667	155	礫石	G6	VI	砂岩	9.7	9.6	4.7	558.2	
668	154	磨石	D5	VI	尾鈴山酸性岩	11.9	9.9	5.6	995	
669	153	礫石	D4	VI	砂岩	9.8	9	5.2	584.1	
670	156	礫石	G6	VI	砂岩	8.8	5.3	2.8	168.6	
671	881	礫石	D3	V	砂岩	10.75	7.2	4.05	460.57	摩滅有
672	160	礫石	-	-	尾鈴山酸性岩	12.5	9.5	5.7	1058	
673	882	礫石	D4	VI	砂岩	6.5	6.1	3.65	194.7	
674	879	磨石	E2	VI	頁岩	10.05	9.6	5.05	716.2	漬痕有
675	152	礫石	D2	VI	砂岩	13	5.2	3.1	281.4	
676	158	礫石	G11	VI	玄武岩	7.4	5.7	4.3	229.5	摩滅有
677	816	石皿	A	VI	砂岩	22.15	18.2	7.3	5500	
678	817	石皿	-	-	帶結晶灰石(横武石)	43.1	(30.4)	7.1	7800	

( ) 内の数値は残存値を示す



図版35 繩文時代早期遺物包含層出土土器①



図版36 縄文時代早期遺物包含層出土土器②



図版37 楽文時代早期遺物包含層出土土器③



図版38 縄文時代早期遺物包含層出土土器④



図版39 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤



図版40 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥